

(6) 第6区画(区画V)

第6区画は、中央部の遺構密度が低く、日光道中側(オモテ側)の調査区際に大型の土壌が集中する。利根川側(ウラ側)には第2号井戸跡や、大型の土壌(第216号土壌)がある。

区画内の北東側に寄って、第9号建物跡が所在するが、建物跡全体の構造がはっきりせず、土壌

との関連も不明である。

『絵図』の「青物屋 庄次郎」、『営業便覧』の「乾物五十集商 田中熊二郎」にあたる区画と思われる。

第6区画では、区画西側の大型土壌である第101・102号土壌について個別に取り上げ、他の土壌についてはまとめて遺構・出土遺物を示す。

第207表 第6区画土壌一覧表 単位:m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
101	6	E7-14	隅丸長方形	6.05	1.45	0.65	N-76°-E		477
102	6	E7-H4,14	長楕円形	4.65	2.20	0.60	N-55°-E	SK286より新	483
109	6	E7-H4/5	隅丸長方形	0.85	0.70	0.10	N-20°-W	SK281重複	490
203	6	E7-15	隅丸長方形	1.10	0.70	0.15	N-70°-E		490
204	6	E7-H5	不整形	1.70	1.55	0.20	N-90°	SB9重複	490
205	6	E7-H5	不整形	1.30	1.20	0.20	N-90°		490
206	6	E7-15	楕円形	1.30	1.00	0.25	N-90°	SD19重複	490
207	6	E7-H5	楕円形	0.90	0.80	0.05	N-90°		490
211	6	E7-14/5	隅丸長方形	2.20	0.55	0.25	N-71°-E		490
213	6	E7-H5,15	楕円形	0.65	0.45	0.03	N-79°-E	SD19重複	490
214	6	E7-H5,15	隅丸長方形	1.30	0.80	0.25	N-78°-E	SD19重複	490
216	6	E7-H6	隅丸長方形か	3.00	(2.20)	0.15	N-20°-W		491
219	6	E7-15	楕円形	0.70	0.40	0.25	N-10°-W	SD19重複	491
220	6	E7-15	不整形	0.60	0.50	0.15	N-9°-W	SD19重複	491
222	6	E7-H5	隅丸長方形	0.60	0.55	0.10	N-68°-E		491
223	6	E7-H5	不整形	1.40	1.15	0.20	N-12°-W	SK267重複	491
251	6	E7-H5	隅丸長方形	0.75	0.75	0.25	N-72°-E	SK270より新	491
267	6	E7-H5	長楕円形か	(0.90)	0.50	0.20	N-73°-E	SK223重複	491
270	6	E7-H5	隅丸長方形	1.70	0.80	0.30	N-80°-E	SK251より古 SK271より新	491
271	6	E7-H5	不整形	0.65	(0.55)	0.07	N-90°	SK270より古	491
281	6	E7-H4	隅丸長方形	0.80	0.65	0.10	N-72°-E	SK109重複	491
286	6	E7-H4,14	不整形	(1.80)	2.00	0.60	N-90°	SK102より古	491
304	6	E7-H5	円形	0.45	-	0.35	-	SK338より新	492
318	6	E7-14	不整形	(0.55)	0.50	0.40	N-55°-E	SK323より古	492
323	6	E7-14	不整形円形	0.65	(0.65)	0.27	N-60°-E	SK318より新	492
325	6	E7-H5	円形	0.50	-	0.35	-	SK338より新	492
326	6	E7-H5	不整形	0.65	0.55	0.20	N-86°-E	SK338より新 SB9重複	492
331	6	E7-H5	隅丸長方形	1.85	0.65	0.45	N-22°-W	SK338より新 SB9重複	492
335	6	E7-H4/5	長方形か	2.85	(0.55)	0.25	N-72°-E	SD20より古	492
338	6	E7-H5	隅丸長方形	4.20	1.00	0.15	N-72°-E	SK304/325/326/331・E7-H5 P1より古 SB9・SD20・SK689重複	492
689	6	E7-H5	不明	2.00	(0.15)	0.10	N-83°-E	SK338重複	492

第101号土壌(第477~482図)

E7-14グリッド、区画の南西側に位置する。東西に長い、平面形隅丸長方形の土壌で、長軸6.05m、短軸1.45mである。覆土は焼土を多量に含むものであり、火災処理に伴う廃棄土壌と考えられる。

第478・479図には出土した陶磁器を示す。

1は肥前系磁器の碗蓋で、外面は微塵唐草文、内面は四方禪文と圏線、崩れた環状松竹梅文を染付する。弱く被熱して煤が付着する。つまみ部が完全に欠けている。2は肥前系磁器碗で、1と同じ染付の構成であり、その身と思われる。被熱痕は見られず、ごく僅かに煤が付着する。3は肥前系磁器の碗蓋で、細線で染付を施す。被熱してい

る。4は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、明確に被熱する。5は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、坏に近い形態のものである。僅かに被熱して煤が付着する。

6は肥前系磁器の鉢で、内面口縁部に四方樺文、外面に葡萄の木を描く。弱く被熱している。7～10は肥前系磁器の坏である。いずれも被熱している。7は外面に笹文を染付する。8は口縁部が端反になり、内面には上絵付けが施されるが、被熱により上絵付け部分は黒化してしまっている。

12は瀬戸美濃系陶器の坏で貫入の多い灰軸が施される。灰軸はやや白っぽく光沢が強い。被熱して露胎部を中心に煤が顕著に付着する。13は堺明石系陶器の播鉢で、播目は一単位16条である。被熱痕は認められない。14は瀬戸美濃系陶器のべこかん徳利である。外面に柿軸を施軸するが、被熱により全体に黒っぽく変色している。頸部の突帯は痕跡的である。底面は菊花状のヘラケズリ痕が残る。

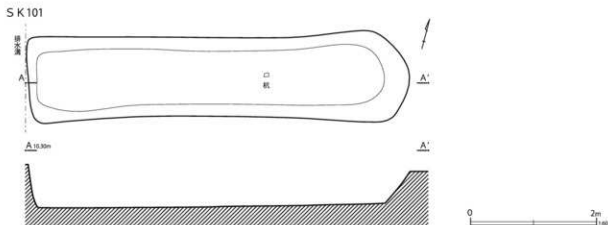
15は信楽系陶器の壺で、胎土に長石が多く浮き出ている。底部はナデで丁寧に調整されるが、先行して静止糸切と思われる痕跡が僅かにみられる。底面の一部が焦げているが、被熱痕跡は判然としない。16は大型の陶器土瓶で、外面は鉄軸で、上位に黄土色の灰軸が流し掛けされる。内面

は鉄化粧状である。体部下位～底面の露胎部は回転ケズリが施される。被熱して軸葉が少し荒れている。17は鉄軸を施した陶器の鍋である。被熱して黒化しているので、軸葉は柿軸であった可能性もある。18も陶器鍋で、内面と耳の周囲に赤紫色がかった鉄軸を施す。外面には長石軸とみられる白色の軸が横方向に流し掛けされる。被熱している。胎土は硬質・緻密に焼成されて、長石粒なども目立たない。

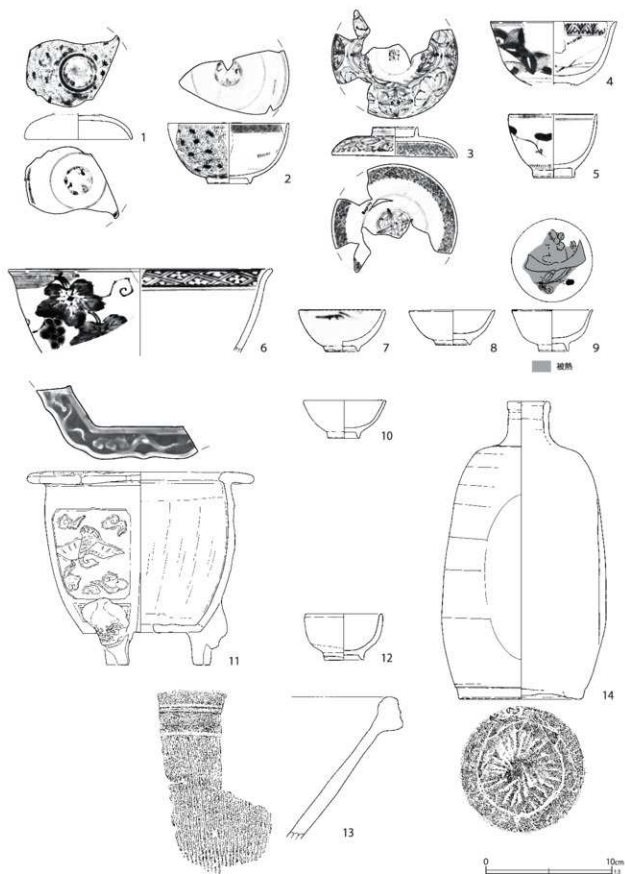
20は常滑焼の甕で、全体が施軸されているようにみえるが、鉄泥の上に自然軸が掛かっている可能性もある。外面の口縁部と体部に施文がみられる。内面下位には横に連続する指頭瓦痕がみられる。

22は瓦質土器の十能で、把手部分のみ残る。上面はナデ調整、側面～下面は把手の基部付近にシワ状痕跡があり、他の部分はヘラナデとナデで調整される。胎土はやや多孔質で角閃石を多く含む。23は土師質土器の焙烙で、明確に被熱している。体部は華奢で、口縁部は丸みが強く玉縁状に膨らむ。胎土に角閃石を多く含む。体部下位はケズリが二段、底部内面は遺存範囲は全て強い回転ナデが施される。外面は粒子の粗い砂目痕である。

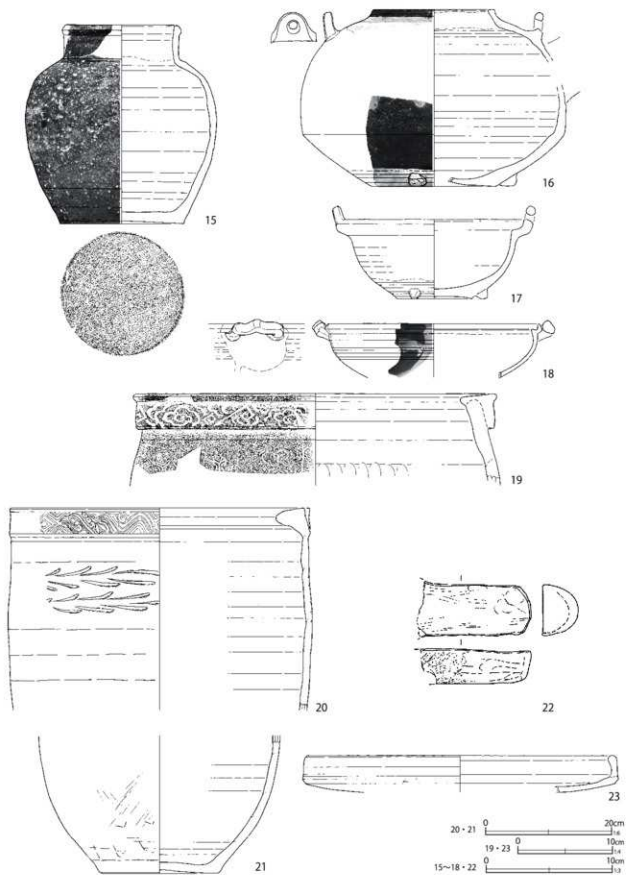
被熱している遺物を確認すると、瀬戸美濃系磁器の端反碗に強い火を受けたものがあり、一方



第477図 第101号土壌



第 478 图 第 101 号土坑出土遗物 (1)



第 479 图 第 101 号土坑出土遗物 (2)

第208表 第101号土壙出土遺物観察表(1)(第478・479図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	-	[2.0]	(8.3)	-	40	良好	白	SK101	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱 煤付着	
2	磁器	碗	(9.4)	4.7	3.3	-	30	良好	白	SK101	肥前系 内外面施釉・染付	
3	磁器	蓋	3.4	2.4	9.8	-	50	良好	白	SK101	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
4	磁器	碗	(9.8)	[5.1]	-	-	30	良好	白	SK101	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱 (端反碗)	
5	磁器	碗	6.9	5.0	3.1	-	40	良好	白	SK101	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 弱く被熱・少量の煤付着 (湯呑形碗)	
6	磁器	鉢	(20.8)	[6.6]	-	-	10	良好	灰白	SK101	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱	
7	磁器	坏	6.7	3.3	2.5	-	50	良好	灰白	SK101	肥前系 内外面施釉 外面染付 弱く被熱	
8	磁器	坏	6.6	2.7	2.7	-	70	良好	白	SK101	肥前系 内外面施釉 被熱	
9	磁器	坏	6.2	3.2	(2.2)	-	70	良好	白	SK101	肥前系 内外面施釉 内面上絵付 被熱 一部黄色	
10	磁器	坏	(6.4)	3.0	2.3	-	40	良好	白	SK101	肥前系 内外面施釉 被熱	
11	磁器	植木鉢	(15.2)	15.3	9.2	-	55	良好	白	SK101	三田系 板作成形 内面上位～外面青磁釉 外面型押施文	109-6
12	陶器	坏	6.0	3.6	2.9	I	100	良好	灰白	SK101	瀬戸美濃系 内外面施釉 被熱・煤付着	
13	陶器	摺鉢	-	[11.2]	-	DEIK	20	普通	櫻	SK101	堺明石系 内面摺目	
14	陶器	德利	3.0	23.5	9.5	IK	100	良好	楊灰	SK101	瀬戸美濃系 外面施釉・底部抜き取り 体部窪まず 被熱して少し黒化 (へこかん徳利)	110-1
15	陶器	壺	8.8	15.7	9.8	DEIK	60	良好	灰白	SK101	信楽系 外面施釉 胎土に長石湧出顕著	110-2
16	陶器	土瓶	9.5	14.0	(9.9)	IK	35	良好	灰白	SK101	外面施釉に灰釉流掛 内面鉄化脱状 被熱	110-3
17	陶器	鍋	14.6	7.3	5.9	K	50	良好	灰白	SK101	内外面鉄釉 被熱・黒化	
18	陶器	鉢	(16.7)	[4.5]	-	K	15	良好	にぶい黄橙	SK101	内面と外面の耳周辺に鉄釉 外面長石釉流掛 被熱・一部黒化	
19	陶器	甕	(38.0)	[9.7]	-	DH1	10	良好	灰褐	SK101	常滑 外面施文・施釉	110-4
20	陶器	甕	(47.0)	[32.5]	-	DEIK	25	良好	灰赤	SK101	常滑 外面鉄肌・施文 口縁部に歪み	
21	陶器	甕	-	[22.0]	19.2	DEIK	35	良好	暗赤灰	SK101	SK102・107に同一個体の破片 常滑 内面自然釉 砂目底	
22	瓦質土器	十徳	-	[2.9]	-	CIK	30	普通	にぶい黄橙	SK101	下面シワ状底 焼す	
23	土師質土器	培塔	(32.5)	[3.9]	(33.0)	CEHK	10	普通	にぶい黄橙	SK101	砂目底 被熱・黒化	

で、湯呑形碗には弱い被熱痕が認められるに留まる。三田産の青磁や、瀬戸美濃系磁器の爛徳利なども出土しているが、それらは被熱していないので後世の混在と思われる。

総体的にみれば被熱遺物の時期は栗橋7期頃で、後述する第102号土壙や、第7区画の第105・121号土壙と同時期の火災に伴う土壙と考えられる。

第480・481図は瓦類である。1・2は鬼瓦の一部、3は軒丸瓦で12珠文に、左廻りの三つ巴文を持つ。4～8までは軒棧瓦である。このうち4～7は同文である。軒平部の中心飾りは片側4弁で細く、唐草の巻きは弱い。掲載した以外にも軒棧瓦の破片が9点見出されたが、これらと同じ瓦当文様の瓦であった。9・10は丸瓦、11～13

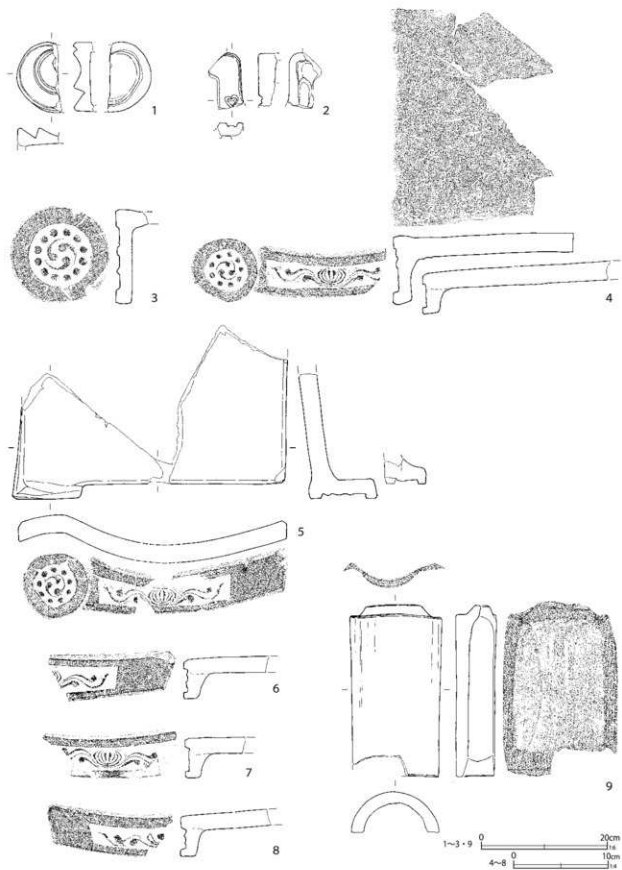
は棧瓦の隅部破片である。

第482図1・2は鉄製品の釘である。3は天保通寶である。この天保通寶が被熱遺物とともに廃棄されたものであれば、火災の時期も天保6年(1835年)の初鋳以降ということになる。一見、明確な被熱痕は認められないが、表面の荒れた部分に炭や焼土の小粒子が付着している。従って、この天保通寶は後世の混在では無く、火災廃棄物とともに遺棄された可能性が高い。

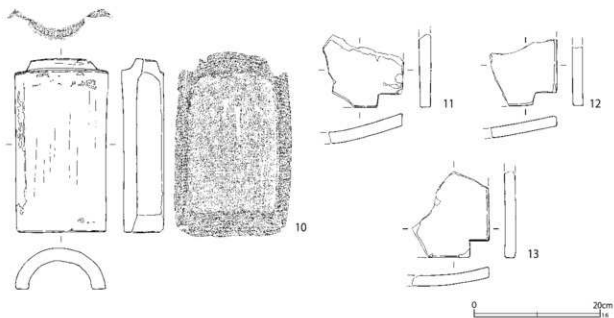
以上のように、本跡は天保6年以降の火災に伴う廃棄土壙であると考えられる。位置や遺物の様相から、第102・105・121号土壙と一連の遺構であると考えられる。

第102号土壙(第483～489図)

E7-H4、I4グリッドに位置する。第101



第 480 图 第 101 号土坑出土遗物 (3)



第 481 図 第 101 号土壌出土遺物 (4)

第 209 表 第 101 号土壌出土遺物観察表 (2) (第 480・481 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	鬼瓦	[11.3]	[7.1]	-	AIK	良好	灰白	SK101		251-1
2	瓦	鬼瓦	[9.1]	[5.7]	-	AIK	良好	灰白	SK101	被熱・変色	251-2
3	瓦	軒丸瓦	[5.3]	-	15.0	AIK	普通	灰白	SK101	左巻き巴文 12 珠文	
4	瓦	軒棧瓦	[20.6]	[22.7]	7.6	AIK	良好	灰白	SK101	右巻き巴文 9 珠文 被熱・赤変 面にヘラ記号状の刻み	251-3
5	瓦	軒棧瓦	[18.5]	29.2	6.9	AHK	普通	灰黄	SK101	右巻き・9 珠文 被熱・赤変	251-4
6	瓦	軒棧瓦	[11.7]	[15.6]	-	AIK	良好	灰白	SK101	胎土硬質	
7	瓦	軒棧瓦	[8.6]	[17.3]	-	ACEIK	良好	灰白	SK101	胎土硬質	
8	瓦	軒平瓦	[9.7]	[13.2]	-	ACEIK	普通	灰	SK101		251-5
9	瓦	丸瓦	27.6	14.7	-	AIK	普通	黄灰	SK101	凸面丁寧なヘラナゲ 凹面一部に内叩き、ゴザメ	
10	瓦	丸瓦	[26.8]	[15.1]	-	AIK	普通	黄灰	SK101	凸面漆喰付着・丁寧なヘラナゲ 凹面一部に右圧痕、内叩き、僅かにゴザメ	
11	瓦	棧瓦	[11.6]	[13.0]	-	ACHK	普通	灰白	SK101	胎土軟質	
12	瓦	棧瓦	[10.5]	[10.8]	-	AIK	良好	灰白	SK101	強く被熱・赤変	
13	瓦	棧瓦	[13.8]	[12.4]	-	AHK	普通	にぶい黄橙	SK101	被熱・変色	



第 482 図 第 101 号土壌出土遺物 (5)

第 210 表 第 101 号土壇出土遺物観察表 (3) (第 482 図)

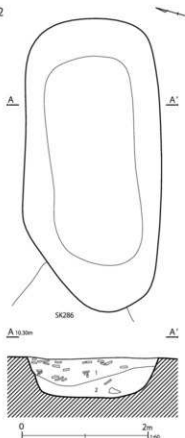
番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ7.1 幅0.5 厚さ0.5 重さ4.3	SK101		
2	鉄製品	釘	長さ9.5 幅0.5 厚さ0.4 重さ4.6	SK101		
3	銅製品	鉄貨	縦49.3 横32.6 厚さ2.7 重さ20.8	SK101	天保通寶	279-8

号土壇の北側に隣接して検出された。長軸4.65m、短軸2.20mの長楕円形を呈する。覆土は焼土の小ブロックを多量に含むもので、第101号土壇同様に、火災処理に伴う土壇と考えられる。上層は瓦がやや多く、下層は炭化物がより多い傾向にある。

第484・485図は出土した陶磁器類である。

1・2は肥前系磁器の薄手半球碗と蓋である。弱い被熱により僅かな色変がみられ、煤が付着する。蓋とセットで複数の破片がある

SK102



第 102 号土壇

- 1 赤褐色土 赤褐色焼土小ブロック多量 炭化物含む 互比較的多い
2 暗褐色土 赤褐色焼土小ブロック・炭化物多量 互比較的少なく炭化材多い

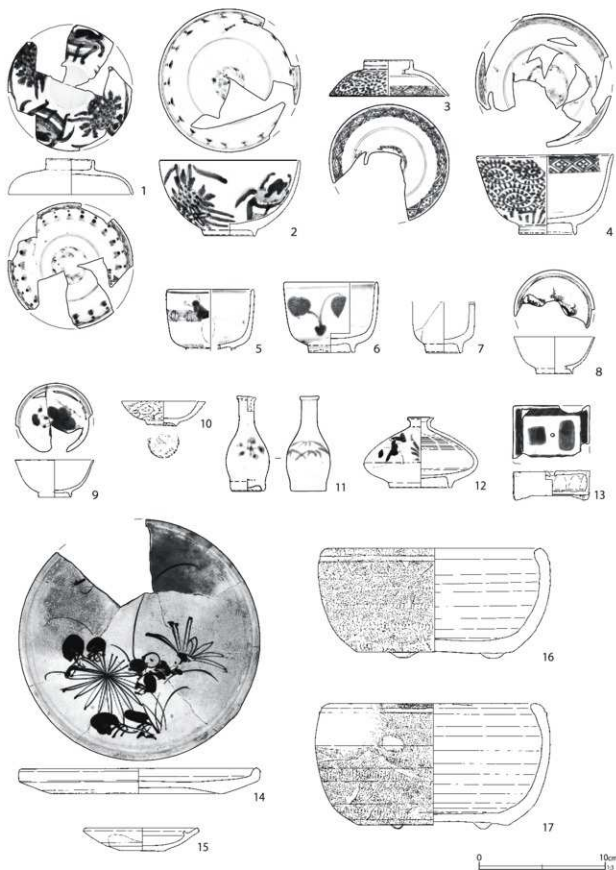
第 483 図 第 102 号土壇

が、個体数の推定はできなかった。3は肥前系磁器の蓋で、4の蓋とみられる。外面は蛸唐草文、被熱して薄く煤が付着する。第45・65号土壇に同文の蓋がみられる。4は肥前系磁器の端反碗である。外面は蛸唐草文、内面には崩れた松竹梅環状文がみられる。5・6は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、5は弱く被熱し、6も僅かな色変がみられるので、被熱している可能性がある。6の外面に木型打込による施文後染付を施す。

7は外面に酸化クロム青磁軸を施す坏で、長筒形のものである。被熱は見られず、混入の可能性はある。8・9は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯である。8は内面に江戸絵付けが施され、9は内面に染付が施される。いずれも被熱がみられる。

10は磁器の紅皿で、釉薬は僅かに緑色味を帯びる。被熱して底部に別の磁器破片と思われる付着物がみられるが、窯内焼成時の付着物の可能性もある。外面の型押施文は陽刻状の蛸唐草文で、胎土から肥前系とみられる。11は瀬戸美濃系磁器の小型の御神酒徳利で、外面に薄く染付が施される。明確な被熱痕はみられないが、僅かに煤が付着する。12は瀬戸美濃系磁器の油壺で、外面に染付が施される。強く被熱して細かく割れている。上下で接合しない数破片から図上復元して示した。13は瀬戸美濃系磁器の水滴で、弱く被熱して器面全体が荒れている。上面のみ染付が施されるが、染付前に木型打込によって施文されているようである。

14は瀬戸美濃系陶器の皿で、白色味が強く貫入の多い灰釉に鉄絵が施される。一部被熱して黒化している。15は陶器の灯明皿で、被熱して器面の剥落が多い。一見、瀬戸美濃系の柿釉灯明皿



第 484 图 第 102 号土坑出土遗物 (1)



18



19



第485図 第102号土壙出土遺物(2)

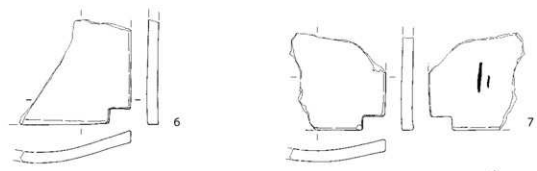
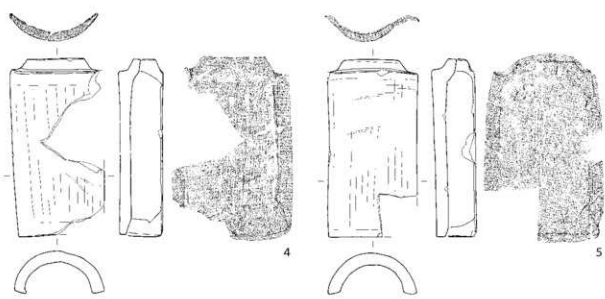
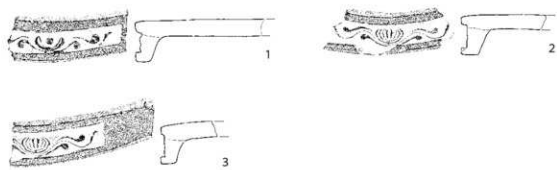
第211表 第102号土壙出土遺物観察表(1)(第484・485図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	3.7	2.9	9.8	-	70	良好	白	SK102	肥前系 内外面施軸・染付	110-5
2	磁器	碗	11.0	5.9	3.9	-	85	良好	白	SK102	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (半球形碗)	111-1
3	磁器	蓋	(3.7)	2.8	9.3	-	70	良好	白	SK102	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (塩反碗の蓋)	110-6
4	磁器	碗	10.6	6.3	4.4	-	60	良好	灰白	SK102	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (塩反碗)	111-2
5	磁器	碗	(6.7)	[4.8]	-	-	40	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (湯呑形碗)	
6	磁器	碗	7.2	5.5	3.2	-	60	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 外面木型打込 (湯呑形碗)	
7	磁器	坏	-	[4.0]	(2.7)	-	20	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化クロム青磁軸・絵付(黒)	
8	磁器	坏	(6.2)	2.9	(2.8)	-	55	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面土絵付(青) 被熱 (伊殿手酒杯)	110-7
9	磁器	坏	(6.1)	2.9	2.6	-	55	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面染付 被熱	
10	磁器	紅皿	6.6	1.9	2.2	-	70	良好	白	SK102	肥前系 内外面施軸 外面型押施文 被熱・底部付着物	110-8
11	磁器	御神酒徳利	1.3	7.5	2.4	-	100	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 外面へ口縁部施軸 外面染付	111-3
12	磁器	油壺	(1.9)	5.5	(4.9)	-	35	良好	灰白	SK102	瀬戸美濃系 外面へ口縁部施軸 外面染付 強く被熱 上下接点ない破片から図上復元	
13	磁器	水滴	-	2.3	-	-	70	良好	白	SK102	瀬戸美濃系 板作成形 外面施軸 上面染付 弱く被熱	111-4
14	陶器	皿	18.5	2.0	13.1	IK	80	良好	灰白	SK102	SK101接合 瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面鉄絵 被熱	111-5
15	陶器	灯明皿	8.9	1.8	3.6	I	55	良好	黄灰	SK102	内外面鉄軸, 外面下位へ底面拭き取り 底面に直直な焼き痕 被熱	
16	瓦質土器	火鉢	16.7	8.7	12.3	CEHK	70	普通	灰白	SK102	外面トビガンナ状施文 強く被熱・変色	111-6
17	瓦質土器	火鉢	(16.4)	9.9	11.9	CI	55	普通	灰白・褐灰	SK102	外面トビガンナ状施文 口縁部ミガキ 擦す 被熱	111-7
18	瓦質土器	香炉か	-	[4.9]	(9.3)	EGIK	20	不良	灰黄	SK102	底部一方向ナデ 被熱	111-8
19	土師質土器	焙烙	(32.3)	5.3	(33.8)	CFPHK	30	普通	明褐色	SK102	砂目底 強く被熱して歪む	

に類似する。釉薬が黒みがかかるのは被熱の影響ともみられるが、胎土に白色粒子(長石か)の包含が多く、底部下端に径3.3cmほどと小型の環状重ね焼き痕があるなど、通常の瀬戸美濃系陶器と異なる特徴があるため産地不詳とした。体部下位から底面の釉薬は粗く拭き取られている。

16・17は瓦質土器の丸火鉢である。16は強く被熱している。体部には五段に渡ってトビガンナ状の施文がみられる。底面は一方のケズリで処理された後、脚部周囲に回転ナデが施される。そ

の後、外周部に幅狭いナデを一周して施す。胎土には角閃石も少量含まれるが、石英粒が目立つ。17も被熱して一部は黒化しているが、当初より硬質・瓦質に焼きされているものらしい。断面はサンドウィッチ状に中心が黒く、周囲は灰白色である。胎土に角閃石を含む。体部はトビガンナ状の施文がみられ、上位1/2程の位置までは、これをナデ消す。脚は極めて貧弱で、全体的に華奢な印象の丸火鉢である。18は瓦質土器の香炉としたが、胎土・調整ともに粗雑で、別の器種の

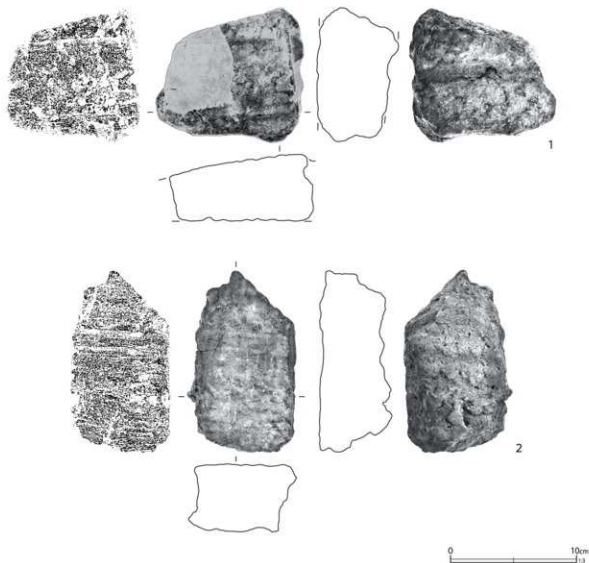


第 486 图 第 102 号土坑出土遗物 (3)

第 212 表 第 102 号土坑出土遗物观察表 (2) (第 486 图)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	烧成	色调	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[13.7]	[14.6]	-	AH1K	普通	灰白	SK102	被熟・一部変色	251-6
2	瓦	軒棧瓦	[9.1]	[14.0]	-	AH1K	良好	灰白	SK102	弱く被熟・一部変色	251-7
3	瓦	軒棧瓦	[6.0]	[16.2]	-	AIK	普通	灰白	SK102		251-8

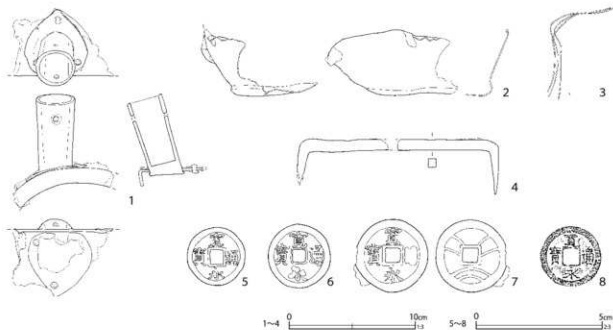
番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構	備考	図版
4	瓦	丸瓦	28.6	15.1	-	AH1K	普通	灰白	SK102	凸面ヘラナゲ 凹面ゴザメ、一部内叩き・布圧痕	
5	瓦	丸瓦	28.4	14.5	-	AH1K	普通	灰白	SK102	凸面ヘラナゲ後ナゲ 凹面ゴザメ、一部内叩き	
6	瓦	棧瓦	[16.9]	[17.9]	-	ACH1K	良好	灰白	SK102	煤付き	
7	瓦	棧瓦	[15.6]	[15.4]	-	ACEH1K	良好	灰白	SK102	凸面墨痕「二」カ 被熱・変色 硬質	



第 487 図 第 102 号土壇出土遺物 (4)

第 213 表 第 102 号土壇出土遺物観察表 (3) (第 487 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚み	胎土	遺構	備考	図版
1	建築材	壁土	10.6	11.5	6.2	CE1	SK102	材圧痕 被熱・一部黒化	
2	建築材	壁土	14.6	8.7	5.5	E1	SK102	材圧痕 被熱・赤変	



第488図 第102号土壌出土遺物(5)

第214表 第102号土壌出土遺物観察表(4)(第488図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	火のし	長さ[9.0] 幅[8.0] 柄厚さ0.3 重さ173.0	SK102	取れた柄を猪の目形の補強板を介して本体に装着している	
2	銅製品	火のし	高さ[5.5] 幅[9.2] 厚さ0.1 重さ54.4	SK102	底部 被熱し変形	
3	銅製品	針金	縦7.3 横5.6 厚さ0.08 重さ1.4	SK102		
4	鉄製品	鍬	長さ[16.0] 幅0.6 厚さ0.7 重さ52.9	SK102		
5	銅製品	銭貨	径23.2 厚さ1.4 重さ2.5	SK102	寛永通寶(新)	
6	銅製品	銭貨	径24.9 厚さ1.4 重さ2.7	SK102	寛永通寶(新)	
7	銅製品	銭貨	径28.8 厚さ1.6 重さ5.0	SK102	寛永通寶(新)11波	
8	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.4 重さ3.8	SK102	寛永通寶(新)	

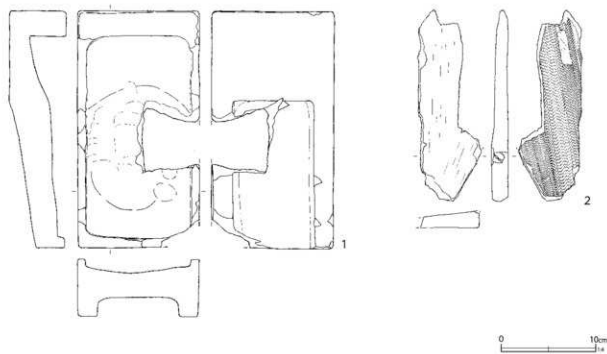
可能性も高い。外面は下位のみケズリを入れ、その後、全体をヨコナデして調整する。底面は一方からのナデ調整である。内底面にはヘラによる工具痕が弱く残っていて、粗雑な印象をより強くしている。胎土は軟質で砂っぽく、石英粒子等を含む。19は土師質土器の焙烙で、被熱して変色し、底部には歪みが生じている。胎土に軽石と思われる白色粒子が多く含まれる。内底面は周囲幅3cm弱を回転ナデで調整、底面中央にかけての広い範囲は平滑にナデ調整する。

出土した陶磁器には、瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯に被熱がみられ、栗橋7期以降の火災に伴う廃棄物と考えられる。湯呑形碗にも僅かに被熱が

みられる。

第486図には瓦を示した。1～3は軒椀瓦と考えられるもので、瓦当部である。1は中心飾りが簡略である。非掲載資料に同じ文様のものが1片認められる。2・3は中心飾りの弁が細く数も多いもので、第101号土壌の軒椀瓦で多く認められた文様である。非掲載資料に同じ文様のものが5片認められる。4・5は丸瓦、6・7は椀瓦の隅部破片である。第487図は被熱して硬化した壁土材を図示した。

第488図は金属製品である。1・2は銅製のひのし(火熨斗)である。1は柄の装着部分である。一度本体から抜け落ちたものを、猪の目形の



第489図 第102号土壙出土遺物(6)

第215表 第102号土壙出土遺物観察表(5)(第489図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	硯	25.0	13.0	-	994.7	凝灰岩か	SK102	器高6.0cm 内面削痕 被熱(赤化・煤付着)	281-1
2	石製品	砥石	[20.3]	[6.9]	1.8	245.8	ホルンフェルス	SK102	ノコギリ痕 底面1被熱(黒化)	280-15

補強金具を介して固定している。2は底に近い本体部分であるが、被熱して大きく変形する。

5～8は全て寛永通寶の新寛永で、7のみ四文銭である。

第489図1・2は石製品である。1は大型の硯で、強く被熱して赤く変色する。石材は凝灰岩のようだが、熱変によって観察が難しい。砂岩の可能性もある。2はホルンフェルス製の砥石で、やはり被熱して全体に焦げている。第4区画の鍛冶関連土壙から出土するホルンフェルス製砥石とサイズ・石質が類似している。背面にノコギリ状工具痕が顕著に残る。

遺構の位置・出土遺物の内容から、本跡も第101・105・121号土壙と同時期の火災処理に関わる土壙とみられる。

第6区画のその他の土壙

第109号土壙は、区画西側に位置する。長軸0.85mの隅丸長方形を呈する。第493図1・2には出土した陶磁器を示す。1は京都信楽系陶器の大振りの坏で、体部は面取りされ、腰部に鏟状の陰刻がある。高台部上端に陰刻した際のヘラのあたりが「×」状に残る。高台は高く、内側面は露胎とする。軸は緑色味を帯びて光沢が強い。2は瓦質土器の甕で、口縁部は弱く肥厚する。胎土には角閃石が多く含まれる。非掲載の遺物に型紙摺絵磁器の鉢や土製品の土管が含まれる。栗橋9期の帰属である。

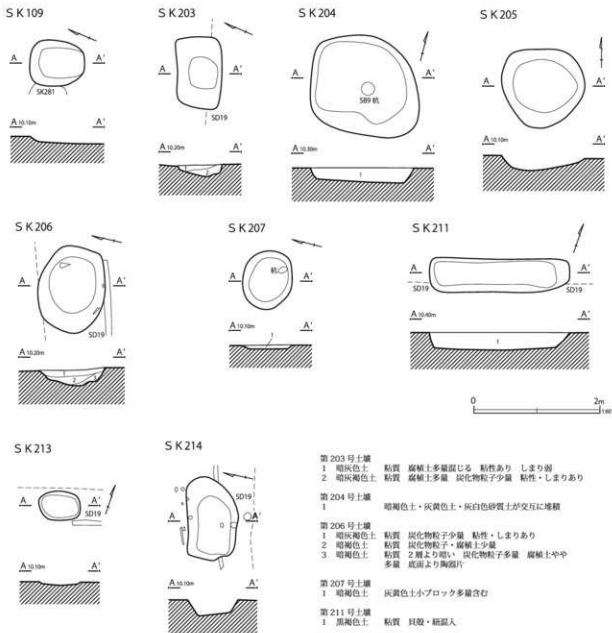
第203号土壙は区画の南部に位置し、長軸1.10mの隅丸長方形を呈する。下層は腐植土主体の土層である。第493図3は瀬戸美濃系磁器の平碗で、外面に青色・緑色の銅版転写染付が認められ

る。4は土師質土器の焼塩壺で、歪みが激しい。被熱により赤く変色する。栗橋9期に帰属する。

第204号土壌は、区画中央部の少し北東に位置する。長軸1.70mの不整形を呈する。第493・494図5～22に出土した陶磁器を示す。

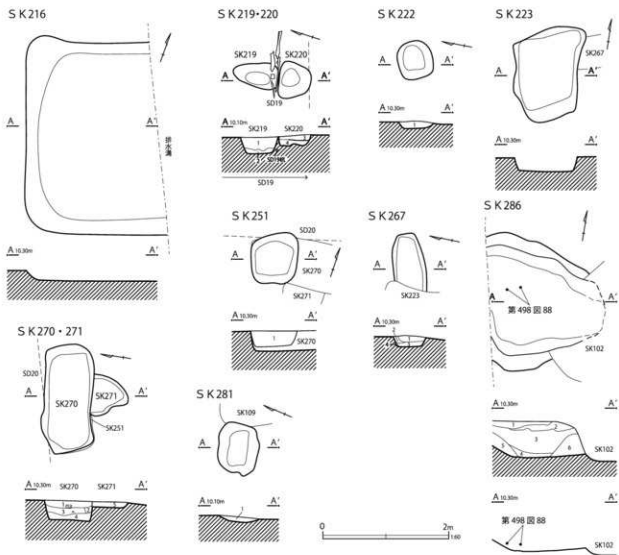
5・6は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、小型の物である。7は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。

8は瀬戸美濃系磁器の蓋で、丸碗に伴うものとみられる。10は京都信楽系陶器の端反碗で、内面には白化粧、外面には鉄化粧後に白盛や青・緑で絵付けがされる。11は藁灰軸を施した陶器の坏で、胎土は赤く、ザックリした土味である。12は備前系陶器の角形徳利である。板作り成形で、外面にヘラ彫りで竹文を表す。頭部の付け



- 第203号土壌
 1 暗灰色土 粘質 腐植土多量混入 粘性あり しまり弱
 2 暗灰色土 粘質 腐植土多量 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
- 第204号土壌
 1 暗褐色土・灰黄色土・灰白色砂質土が交互に堆積
- 第206号土壌
 1 暗灰色土 粘質 炭化物粒子少量 粘性・しまりあり
 2 暗褐色土 粘質 炭化物粒子・腐植土少量
 3 暗褐色土 粘質 2層より濃い、炭化物粒子多量 腐植土やや多量 底面より腐蝕片
- 第207号土壌
 1 暗褐色土 灰黄色土小ブロック多量含む
- 第211号土壌
 1 黒褐色土 粘質 貝殻・紙混入

第490図 第6区画の土壌(1)



- 第 219 号土層
 1 暗褐色土 白色粒子・炭化物粒子少量
 2 暗褐色土 白色粒子・炭化物粒子微量 粘性あり
 第 220 号土層
 3 灰褐色土 白色粒子 炭化物粒子(φ1cm大)少量
 4 暗褐色土 粘質土 炭化物(φ5cm大)少量

- 第 222 号土層
 1 暗褐色土 腐植土層 小木片を多量に含む 粘性・しまり腐

- 第 251 号土層
 1 黒褐色土 木片含む

- 第 267 号土層
 1 暗灰色土 炭化物含む 粘性ややあり しまりあり
 2 暗灰色土 炭化物含む 鉄分少量 粘性ややあり しまりあり
 3 暗灰褐色土 炭化物少量 鉄分微量 粘性ややあり しまりあり
 4 暗灰褐色土 砂質 炭化物微量 粘性弱 しまりなし

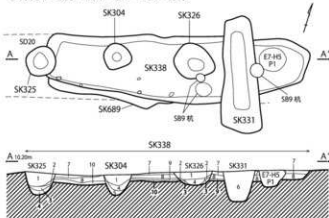
- 第 270・271 号土層
 1 灰色土 砂質 炭化物少量 粘性弱 しまりややあり (SK270)
 2 灰色土 砂質 暗灰褐色土少量 粘性弱 しまりややあり (SK270)
 3 暗灰褐色土 砂質 炭化物少量 粘性弱 しまりややあり (SK270)
 4 暗灰褐色土 砂質 灰色砂質土少量 粘性弱 しまりややあり (SK270)
 5 灰色土 砂質 炭化物少量 1層より黄色味おびる 粘性弱 しまりややあり (SK271)

- 第 281 号土層
 1 暗灰褐色土 焼土多く混ざる 互多く含む

- 第 286 号土層
 1 黒色土 シルト質 鉄分多く含む 粘性弱 しまりあり
 2 灰色土 シルト質 鉄分少量含む 粘性弱 しまりあり
 3 暗褐色土 シルト質 木質・暗灰砂質土少量含む 粘性・しまりややあり
 4 暗褐色土 シルト質 木質・暗灰褐色土少量 粘性・しまりややあり
 5 暗褐色土 シルト質 木質多く含む 3層より黒色味おびる 粘性・しまりややあり
 6 暗褐色土 シルト質 暗灰砂質土含む 黒色土少量 粘性あり しまりややあり

第 491 図 第 6 区画の土壌 (2)

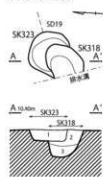
S K 304・325・326・331・338・689



第304・325・326・331・338号土壌

- 1 暗灰色砂質土 炭化材料(φ5～10mm)・円礫(砂利φ20～50mm)をまばらに含む 粘層(シジミ片)わずかに含む 粘性なし しまりあり(SK304・325・326)
- 2 砂 (SK325・326)
- 3 暗灰色砂質土 暗灰色シルト土(地山土)ブロック(φ5cm)を強土1層と3層の間に上層地山土の砂層が流れ込んでいる(SK325・326)
- 4 灰褐色土 3層と似るがシルトブロックの含有量多い(SK304・325・326)
- 5 4層とは異なったが、やや明るみを帯びる 3層と似ている(SK304)
- 6 粘土 焼土土層 破けている瓦片(一辺10cm未満)多く含む 焼けた土器片・炭化材料を含む(SK331)
- 7 淡灰色砂 長方形土層の層土 粘性・しまりなし(SK338)
- 8 灰褐色砂質土 部分的に水の影響で沈殿物あり フラツな堆積 粘性なし しまり強(SK338)
- 9 淡灰色砂 下10層上に堆積した風成砂が 粘性・しまりあり(SK338)
- 10 淡灰色砂質土 砂層ブロック(φ10mm)と8層土に似る灰褐色シルト土の互層 粘性なし しまりややあり(SK338)

S K 318・323

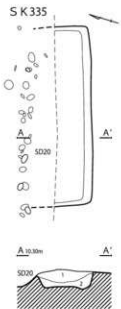


第318・323号土壌

- 1 暗灰色土 シルト質 木質多量に含む 粘性ややあり しまりなし(SK323)
- 2 暗褐色土 シルト質 炭化物多く含む 粘性ややあり しまり弱(SK318)
- 3 暗褐色土 シルト質 木質多く含む 粘性ややあり しまり弱(SK318)

第335号土壌

- 1 灰褐色土 シルト質 砂粒多量 鉄分沈着 しまり良好
- 2 暗灰色土 粘質 暗灰色粘土主体に明灰色粘土ブロック含む しまりやや欠



第492図 第6区画の土壌(3)

根に花卉様の文様を表す。15・16は陶器の土瓶で、胎土は炆器質である。18は陶器の三彩土瓶で、底部は白土で化粧掛けされる。

19・20は陶器鍋の蓋と身で、器壁が極めて薄い。19の蓋は、直接接点の無い外周部と上部破片からの図上復元で示した。非掲載の陶磁器には、酸化コバルト染付の磁器丸碗と急須蓋が含まれる。本跡は栗橋9期の帰属である。

第205号土壌は区画のほぼ中央に位置し、長軸1.30mの不整形を呈する。第494図23は肥前系磁器の猪口で、口縁部は輪花状になる。底部に「福」字の裏銘が染付られる。弱く被熱して表裏面がザラザラしている。同じタイプの猪口は、火災廃棄に関わる第7区画の第105・121号土壌から出土している(第521図62)。このほかに、瀬戸美濃系磁器端反碗と、銅版転写染付の磁器丸碗

が出土したのみであった。

第206号土壌は区画中央部に南侧に位置し、長軸1.30mの楕円形を呈する。第494図24は肥前系磁器の仏飯器と思われる。25は瀬戸美濃系陶器の徳利で、底部中心に糸切痕を残す。陶磁器はやや少なかった。銅版転写染付の磁器が数点含まれるが、酸化コバルト・型紙摺給染付の製品が認められず、混在の可能性がある。それ以外に木型打込施文の磁器鉢が出土しており、栗橋8期頃までの様相である。

第211号土壌は、区画南西側に位置する東西に長い土壌で、長軸2.20mの隅丸長方形を呈する。覆土は貝殻や有機物を混じえる黒褐色粘質土である。

第494・495図26～47は出土した陶磁器類である。26は肥前系磁器の小丸碗、27・28は瀬戸美

濃系陶器の端反碗、29・30は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。32は肥前系磁器の坏で、幅広高台を有す。33は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯で、青の上絵付けで、内面に梅鉢文などを、高台内には「命」の屋号文が表される。34・35は肥前系陶器の皿である。

42は陶器の鉢類で、小型のこね鉢や片口鉢の類であろう。内外面に黄色味の強い灰釉が施され、胎土は緻密だがやや軟質で、粉っぽい印象である。破断面の一部に二次的な研磨痕がみられる。45・46は陶器の土瓶である。45は鉄絵で駒絵が描かれ、胎土に鉄斑の粒子が多く含まれる。大堀相馬系陶器である。46は施釉後にイッチン、白盛で絵付けされるもので、体部は薄手である。47は土師質土器の把手付き鍋である。磁器類には酸化コバルト染付は認められず、湯呑形碗が多い。従って栗橋8期の帰属と思われる。

第213号土壌は、区画中央の南側に位置し、第19号溝跡と重複する。長軸0.65mの楕円形を呈する。第495図48は小型の陶器土瓶で、外面に明るい褐色の色調を呈する鉄釉が掛けられ、トビガンナ状文が見られる。胎土はクリーム色で緻密である。その特徴から大堀相馬系陶器の可能性が考えられる。遺物は少なく、時期の絞り込みは困難であるが、栗橋7～8期項の可能性が高い。

第214号土壌も第19号溝跡と重複し、長軸1.30mの隅丸長方形を呈する。

第495・496図49～56に出土した陶磁器を示す。49は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。50は肥前系磁器の油壺である。外面に崩れた梅樹文を染付する。51は肥前系磁器の花生で、外面は青磁釉である。52は肥前系磁器の植木鉢で、外面に山などの模様を染付する。53は瀬戸美濃系陶器の皿で、内面に鉄絵文様を描く。54は陶器の土瓶底部で、外面に墨書がある。55は瓦質土器の火鉢である。56は土師質土器の火消壺で、江戸在地系土器である。

陶磁器には少数、後世の混在があるようだが、栗橋7～8期に帰属するようである。

第216号土壌は、区画の東部に所在し調査区外に広がる。長軸3.0mの隅丸長方形を呈する。

第496・497図57～68に出土した陶磁器を示す。57は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗としたが、坏に近い形状のものである。内外面とも染付はみられず、口紅が施されるのみである。58は肥前系磁器の端反碗の蓋である。59は瀬戸美濃系磁器の植木鉢で、外面に山水文を染付するものらしい。口縁部上端には雲文がみられる。

62は陶器の把手部分で、器種は不明である。伊羅保軸のような軸が施される。63・64は白土染付を施す陶器の土瓶・蓋である。68は土師質土器の練炭おこしで、把手は欠失する。底部は砂目底で、胎土に細かい金雲母を多く含む。

第251号土壌は、区画中央の北側に位置し、長軸0.75mの隅丸方形を呈する小型の土壌である。覆土は木片を含む黒褐色土で、重複する第270号土壌より新しい。第497図70は肥前系磁器の八角鉢で内面に釘書きで「E」とある。71は肥前系磁器の香炉で、外面は青磁釉が施される。内面は露胎で墨書がある。

重複する270号土壌は、長軸1.7mの隅丸長方形を呈する土壌である。出土遺物のほぼ全てが被熱しているが、覆土の砂質土に焼土塊などの包含は認められない。陶磁器には、イッチン絵付けに鉄絵を描く陶器土瓶や鉄軸土瓶・京都信楽系陶器の爛徳利・脚付灯火具・瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗などが含まれる。栗橋7期後半までの組成であり、第101・102号土壌と同時期の火災処理に関わる土壌と考えられる。なお、第105号土壌等から出土した十錦手の磁器と同タイプの破片が出土しており、これについては第510図16に示す。

第286号土壌は、区画の東部、調査区際内に所在する。長軸1.8mの不整形を呈する大型の土壌である。覆土は下層を中心に木質を多く含むシルト

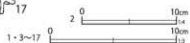
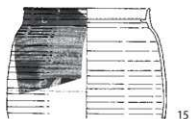
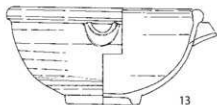
S K 109



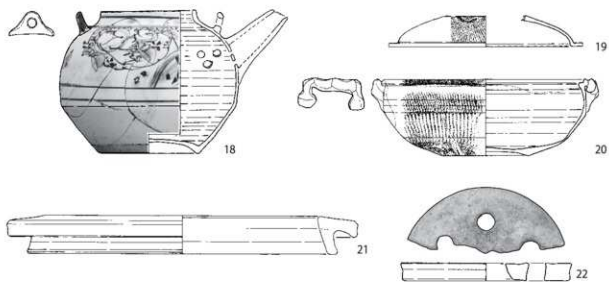
S K 203



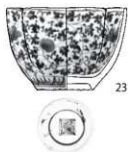
S K 204



第 493 図 第 6 区画の土坑出土遺物 (1)



S K 205



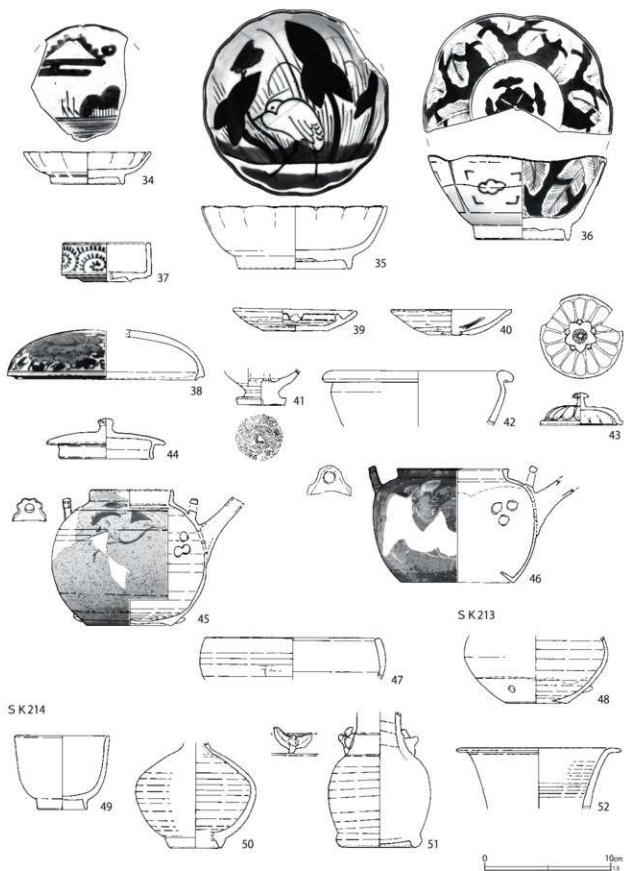
S K 206



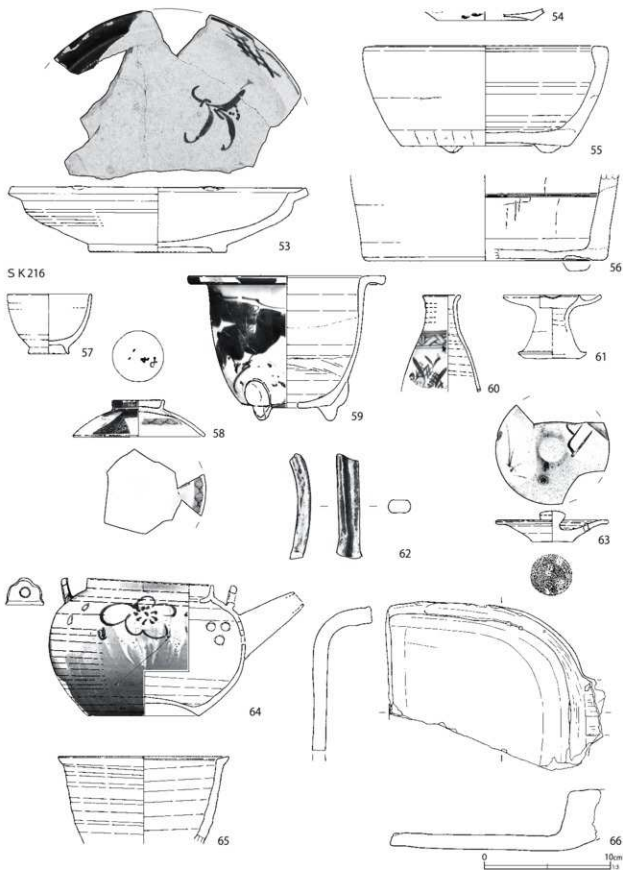
S K 211



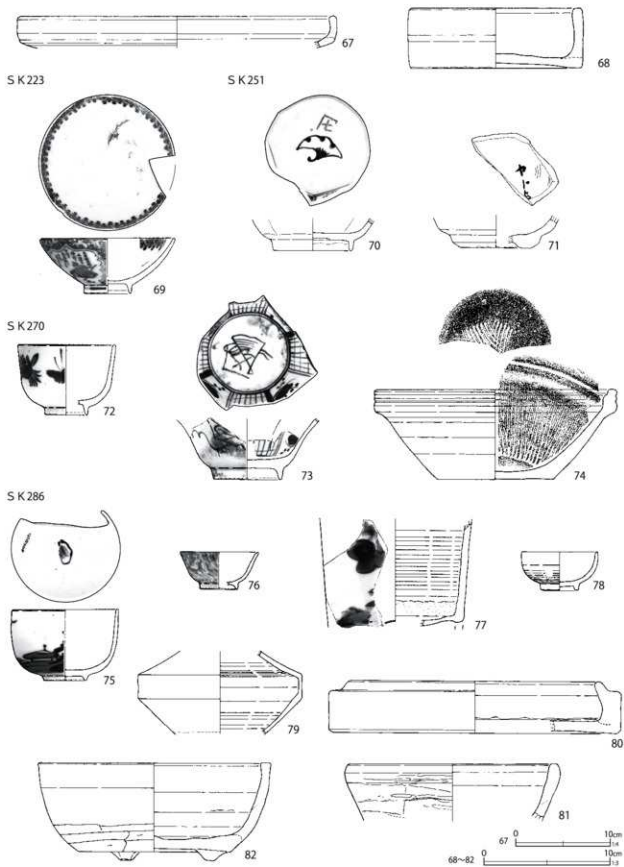
第 494 図 第 6 区画の土壇出土遺物 (2)



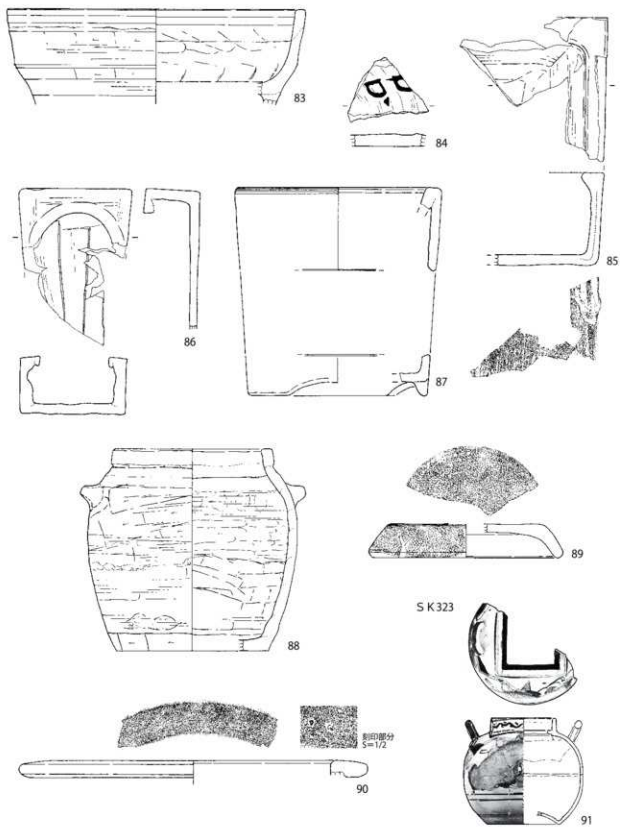
第495図 第6区画の土壙出土遺物(3)



第 496 図 第 6 区画の土壌出土遺物 (4)



第497図 第6区画の土壙出土遺物(5)



第 498 図 第 6 区画の土壌出土遺物 (6)

SK331



92



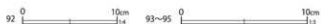
94



95



93



第499図 第6区画の土壌出土遺物(7)

第216表 第6区画の土壌出土遺物観察表(1)(第493~499図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考
1	陶器	坏	-	[3.7]	4.0	-	20	良好	白	SK109	京都信楽系 内外面透明釉 外面施文
2	瓦質土器	甕	(27.6)	[10.6]	-	CIK	5	普通	暗灰・灰褐	SK109	外面弱くヘラナゲ 雄十 内面煤付着
3	磁器	碗	(11.8)	5.0	(3.8)	-	35	良好	白	SK203	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅取転写染付
4	土師質土器	焼塩壺	6.2	[6.2]	-	AIK	50	普通	橙	SK203	被熱・赤変 歪みあり
5	磁器	碗	8.2	4.5	3.1	-	95	良好	白	SK204	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反釉)
6	磁器	碗	8.2	[3.5]	-	-	40	良好	白	SK204	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅(端反釉)
7	磁器	坏	7.0	4.8	2.9	-	95	良好	白	SK204	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(湯呑形碗)
8	磁器	蓋	3.3	2.4	(8.4)	-	60	良好	白	SK204	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付
9	磁器	水滴	-	1.5	-	-	-	良好	白	SK204	瀬戸美濃系 型成形 底部布目直 外面施釉 上面型押施文
10	陶器	碗	(8.4)	5.1	(3.5)	IK	25	良好	にぶい橙	SK204	京都信楽系 内面白化粧・施釉 外面鉄化粧・土絵付(白盛・呉苺・緑釉)
11	陶器	坏	5.6	3.5	2.7	IK	100	良好	にぶい橙	SK204	内外面黒鉄釉
12	陶器	徳利	2.7	10.8	6.5	K	95	良好	にぶい赤褐	SK204	備前系 板作成形 外面ヘラ彫り施文 底部黒底か
13	陶器	片口鉢	14.4	7.7	4.7	IK	100	良好	灰白	SK204	瀬戸美濃系か 内外面鉄釉
14	陶器	片口鉢	19.1	11.8	7.2	IK	70	良好	灰白	SK204	瀬戸美濃系か 内外面鉄釉 内面目跡5
15	陶器	土瓶	(10.0)	[8.8]	-	EK	10	良好	灰赤	SK204	外面鉄釉 胎土拓器質
16	陶器	土瓶	6.5	[2.3]	-	IK	10	良好	灰白	SK204	萬古系か 外面染線文 体部一部窪ます
17	陶器	蓋	-	3.9	6.9	K	95	良好	黄灰	SK204	上面白化粧・鉄絵・鉄絵・緑釉で絵付 最大径8.9cm
18	陶器	土瓶	7.5	11.3	7.6	IK	85	良好	にぶい黄橙	SK204	外面施釉・鉄絵・緑釉で絵付 底部白化粧
19	陶器	蓋	-	[2.4]	(15.3)	HIK	5	良好	灰白	SK204	内面鉄釉 外面トビガンナ状施文、一部鉄釉或掛 接点ない3破片から図上復元
20	陶器	鍋	15.9	6.0	6.9	HIK	75	良好	灰白	SK204	内面鉄釉 外面トビガンナ状施文、一部鉄釉 外面下位煤付着
21	瓦質土器	甕罍	(29.4)	4.0	(32.7)	CIK	20	普通	灰白	SK204	煤付着 最大径(37.4)cm
22	瓦質土器	目皿	(13.4)	1.4	(13.2)	CEHK	30	普通	にぶい黄橙	SK204	やや酸化劣化焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	
23	磁器	猪口	9.5	6.5	4.4	-	65	良好	白	SK205	肥前系 内外面施軸 外面染付 弱く被熱	200-2
24	磁器	仏飯器 (7.6)	[2.1]	-	-	-	20	良好	灰白	SK206	肥前系 内外面施軸 外面染付	
25	陶器	德利	-	[5.4]	(10.2)	IK	15	良好	灰白	SK206	瀬戸美濃系 底部糸切痕・外周ケズリ 外面灰軸・底部拭き取り	
26	磁器	碗 (8.1)	5.0	(3.5)	-	-	40	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸・染付 (小丸碗)	
27	磁器	碗 (8.9)	4.9	(3.6)	-	-	40	良好	白	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (端反碗)	
28	磁器	碗 -	[3.8]	(3.3)	-	-	10	良好	白	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (端反碗) 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (白)	
29	磁器	碗 (6.8)	6.2	3.8	-	-	65	良好	白	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 (湯呑形碗)	
30	磁器	碗 (7.2)	5.9	(3.4)	-	-	40	良好	白	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 (湯呑形碗)	
31	磁器	坏	6.1	3.7	2.7	-	55	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸・染付	
32	磁器	碗 -	[2.7]	3.2	-	-	15	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸 外面染付 (湯呑形碗)	
33	磁器	坏 -	[1.8]	2.7	-	-	30	良好	白	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸 上給付 (青) (脚轆手酒杯)	200-7
34	磁器	皿	9.9	2.5	5.5	-	40	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅	
35	磁器	皿	14.3	4.9	8.7	-	90	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台	200-8
36	磁器	鉢	14.3	6.6	7.2	-	55	良好	白	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台	
37	磁器	段重	(6.9)	3.1	(3.8)	-	40	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸 外面染付	
38	磁器	蓋 -	[3.9]	(14.2)	-	-	30	良好	白	SK211	肥前系 内外面施軸 外面染付	
39	陶器	灯明皿	9.6	1.8	5.0	IK	100	良好	明褐色	SK211	瀬戸美濃系 内外面施軸・外面下位拭き取り 直重ね焼き痕	201-1
40	陶器	灯明皿 (9.5)	2.0	(3.3)	-	K	25	良好	灰白	SK211	京都信楽系 内面→口縁部透明釉 内面欄目	
41	陶器	乗燭 -	[2.9]	3.8	IK	40	良好	灰白	SK211	瀬戸美濃系 底部糸切痕 (右) 内外面鉄軸		
42	陶器	鉢 (13.7)	[4.5]	-	IK	10	良好	灰白	SK211	内外面灰軸 断面の一部二次研磨		
43	陶器	蓋 -	2.5	6.0	IK	85	良好	灰白	SK211	上面施軸	201-2	
44	陶器	蓋 -	3.2	7.2	K	100	良好	灰白	SK211	上面網緑釉 最大径 9.4 cm		
45	陶器	土瓶 (6.3)	10.7	6.6	IK	70	良好	灰白	SK211	大塚相馬系 外面施軸・鉄絵	201-3	
46	陶器	土瓶	8.8	9.2	(9.0)	HI	40	良好	褐色	SK211	外面灰軸・白蓋・イッチン給付 磨胎部煤付着	
47	土師質土器	把手付鍋	(13.7)	[3.3]	-	BHK	5	普通	にぶい黄橙	SK211	外面煤付着	
48	陶器	土瓶 -	[5.3]	(4.6)	K	5	良好	灰白	SK213	大塚相馬系か、外面鉄軸・トビガンナ状施文 底部煤付着		
49	磁器	碗 (7.4)	5.8	(3.8)	-	-	60	良好	白	SK214	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
50	磁器	油壺 -	[8.3]	(4.0)	-	-	45	良好	灰白	SK214	肥前系 外面施軸・染付	
51	磁器	花生 -	[10.7]	5.8	-	-	70	良好	灰白	SK214	肥前系 外面青磁軸	
52	磁器	植木鉢 (12.2)	[4.8]	-	-	-	10	良好	白	SK214	肥前系 内外面施軸・染付	
53	陶器	皿 (23.2)	5.1	10.8	HK	40	良好	灰白	SK214	瀬戸美濃系 内外面灰軸・一部鉄軸掛け付け 内面鉄絵	201-6	
54	陶器	土瓶 -	[0.7]	(7.6)	K	5	良好	灰白	SK214	内外面施軸 外面墨書	201-7	
55	瓦質土器	火鉢 (17.3)	8.4	(13.4)	CHK	40	普通	外：橙 内：明褐色	SK214	底部ヘラナゲ やや酸化系焼成		
56	土師質土器	火消壺 -	[6.8]	(18.8)	AHK	10	普通	にぶい褐	SK214	江戸在地系 底部シワ状痕・砂目底 胎土粉質		
57	磁器	碗	6.5	4.7	3.0	-	70	良好	白	SK216	瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅	
58	磁器	蓋	3.9	2.9	(10.2)	-	35	良好	白	SK216	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 (赤) (端反碗の蓋)	
59	磁器	植木鉢 (15.4)	11.5	6.9	-	-	40	良好	白	SK216	瀬戸美濃系 内面上位→外面施軸・染付 底部穿孔	
60	磁器	燗德利	2.8	[7.6]	-	-	25	良好	白	SK216	肥前系 外面施軸・染付	
61	陶器	灯火具 (7.7)	5.0	4.4	IK	70	良好	灰白	SK216	京都信楽系 内外面透明釉 被熱・変色	201-8	
62	陶器	不明 -	-	-	-	K	5	良好	灰黄	SK216	施軸 把手部 長 [8.2] cm 幅 1.7 cm 厚 1.0 cm	201-9
63	陶器	蓋 -	2.4	3.3	IK	70	良好	灰白	SK216	上面施軸・白土染付 被熱		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考
64	陶器	土瓶	9.7	10.9	8.7	IK	90	良好	灰白	SK216	外面灰軸・白土染付
65	瓦質土器	楕木鉢	(13.4)	[6.9]	-	CIK	20	普通	灰白	SK216	燻す
66	瓦質土器	十徳	-	[4.9]	-	CIK	50	普通	灰白	SK216	下面シワ状痕 燻す
67	土師質土器	塔塔	(33.1)	[3.4]	(33.6)	CHIK	15	普通	灰白	SK216	底部シワ状痕 外面煤付着
68	土師質土器	純炭 おこし	(13.5)	4.7	(13.3)	AEIK	30	良好	にぶい橙	SK216	砂目底
69	磁器	碗	10.5	4.4	3.5	-	85	良好	白	SK223	瀬戸美濃系 内外面施軸・銅散転写染付
70	磁器	鉢	-	[2.6]	6.1	-	15	良好	白	SK251	肥前系 内外面施軸 内面染付・釘書き「E」蛇の目状高台
71	磁器	香炉	-	[2.6]	(5.4)	-	15	良好	灰白	SK251	肥前系 外面青緑軸 内面墨書
72	磁器	碗	7.5	5.6	3.3	-	30	普通	白	SK270	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付(湯呑形碗)
73	磁器	鉢	-	[4.8]	5.2	-	30	良好	白	SK270	肥前系 内外面施軸・染付 内面釘書き「金」煤付着
74	陶器	楕木鉢	(18.4)	7.1	9.2	DEIK	25	良好	にぶい赤褐	SK270	埴明石系 砂目底 内面楕目 少量煤付着 小形
75	磁器	碗	8.3	5.7	3.4	-	75	良好	白	SK286	肥前系 内外面施軸・染付(小丸碗)
76	磁器	坪	(6.1)	3.0	(2.8)	-	40	良好	白	SK286	肥前系 内外面施軸 外面染付
77	磁器	楕木鉢	-	[8.5]	-	-	5	良好	白	SK286	瀬戸美濃系 外面施軸・染付
78	陶器	坪	(5.8)	3.0	(2.4)	IK	45	良好	灰	SK286	瀬戸美濃系 内外面施軸
79	陶器	土瓶	-	[6.6]	-	IK	20	良好	灰白	SK286	外面青緑軸
80	土師質土器	瓦盤	(19.5)	4.1	(22.4)	AHIK	10	普通	にぶい黄橙・黄灰	SK286	江戸在地系 胎土粉質
81	瓦質土器	火鉢	(16.4)	[4.5]	-	CGHK	15	普通	明焼灰	SK286	燻す 小型
82	瓦質土器	火鉢	(18.2)	7.7	12.0	CHIK	55	普通	橙	SK286	やや酸化した焼成 底部一方向ケズリ
83	瓦質土器	火鉢	(31.4)	[10.1]	-	CFIK	20	普通	にぶい黄橙	SK286	内面少量煤付着 小破片からの反転復元
84	瓦質土器	火鉢	-	[1.0]	-	CHIK	5	普通	にぶい黄橙	SK286	砂目底 内面墨書
85	土師質土器	火鉢	-	[9.8]	-	AHIK	5	普通	にぶい黄橙	SK286	江戸在地系 板作成形 底部スノコ状圧痕 胎土粉質
86	土師質土器	風口	-	4.6	-	AHI	50	普通	にぶい橙	SK286	江戸在地系 板作成形 砂目底 胎土粉質 縦[12.3]cm 幅9.0cm
87	土師質土器	火鉢	(19.2)	-	(18.5)	ADEIK	5	普通	にぶい橙	SK286	三河系 外面全面ミガキ 円筒形 底部残存高[4.3]cm 口縁部残存高[8.8]cm
88	土師質土器	火消窓	(16.3)	21.4	(16.2)	CEHI	30	普通	灰白・灰	SK286	砂目底 燻す
89	瓦質土器	蓋	(12.0)	[2.6]	(14.8)	AHIK	25	普通	にぶい橙	SK286	江戸在地系 外面施文 胎土粉質 燻す(火消窓の蓋)
90	瓦質土器	甕	(30.2)	[1.8]	-	CHI	5	普通	にぶい黄橙・灰	SK286	上面刻印「〇〇〇」煤多く付着
91	陶器	土瓶	4.9	8.4	5.8	I	50	良好	にぶい橙	SK323	外面白化粧後、施軸・三彩絵付 口縁部は型成形で平面四角形
92	陶器	皿	(31.0)	7.0	(14.0)	DI	25	普通	灰白	SK331	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面目跡1 残存 高台内煤付着
93	陶器	土瓶	(5.2)	[8.2]	(7.2)	EI	40	良好	灰	SK331	型成形 外面型押施文、一部赤彩 内面下位鉄化粧
94	陶器	鉢か	-	[2.9]	-	DI	5	普通	黒褐	SK331	備前系か 胎土拓器質
95	陶器	鉢か	-	[3.3]	-	DI	5	普通	黒褐	SK331	備前系か 底部糸切痕 胎土拓器質

質土である。

第497・498図75～90に出土した陶磁器を示す。77は瀬戸美濃系磁器の楕木鉢、79は体部に二箇所の大きな屈曲を伴う青緑釉土瓶である。87は三河系土器と考えられる火鉢類である。

本跡は、栗橋7期の火災に関わる第102号土壇より古い遺構として調査されている。しかし、陶

磁器は栗橋8期の様相を示しており、遺構の新旧関係と齟齬が生じている。

第331号土壇は、区画北部に位置し、重複する第338号土壇より新しい。覆土は焼土で、被熱した瓦等を含む。南北に長く、長軸1.85mの隅丸長方形を呈する。第7区の土壇として報告する第121号土壇と主軸方向が一致しており、ともに火

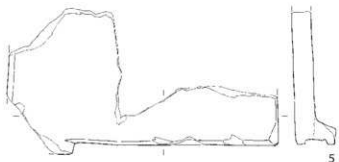
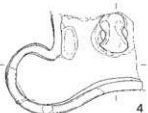
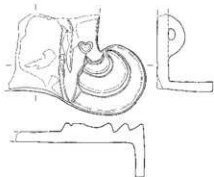
SK 205



SK 206



SK 331

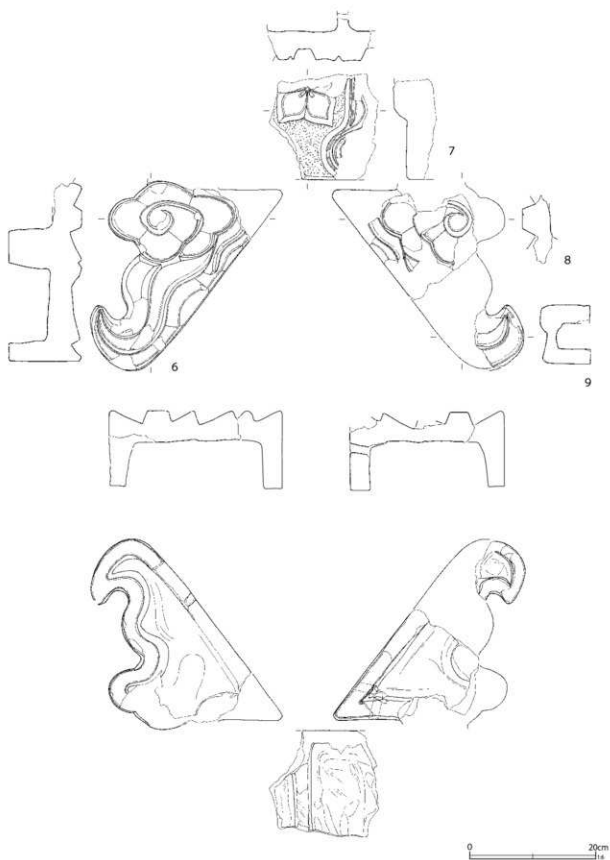


1~3 0 10cm 4 0 20cm
1/16

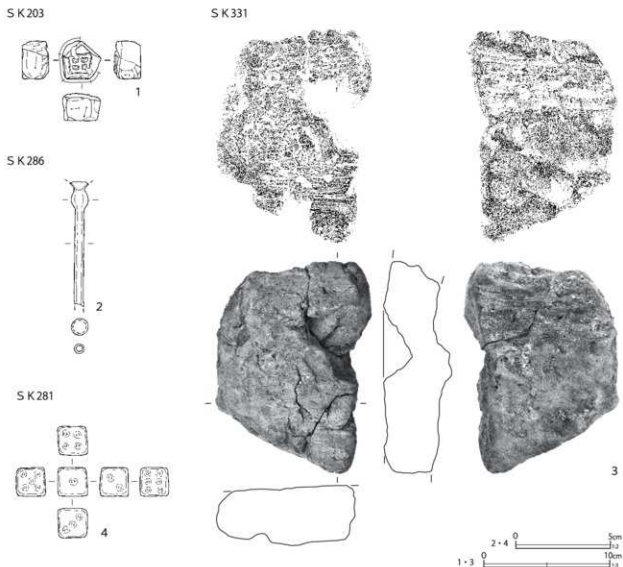
第 500 図 第 6 区画の土壇出土遺物 (8)

第 217 表 第 6 区画の土壇出土遺物観察表 (2) (第 500・501 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[3.5]	[16.2]	-	AETK	良好	灰白	SK205	胎土硬質	255-4
2	瓦	軒棧瓦	[6.3]	[16.1]	-	AIK	普通	灰白	SK205		255-5
3	瓦	軒棧瓦	[6.0]	[11.0]	-	ACTK	良好	灰白	SK206	胎土硬質	255-6
4	瓦	鬼瓦	[16.2]	[22.0]	-	AIK	良好	灰	SK331	側面に二次穿孔、淵線遺存	256-4
5	瓦	軒棧瓦	[15.3]	28.8	-	AHK	良好	灰白	SK331	被熱・一部変色 胎土硬質	256-5
6	瓦	鬼瓦	[30.4]	[22.8]	-	AIK	良好	灰白	SK331	胎土硬質 下面に孔 1 遺存	257-1
7	瓦	鬼瓦	[16.9]	[17.5]	-	AIK	良好	灰白	SK331	胎土硬質 裏面突起破損部を二次整形	257-1
8	瓦	鬼瓦	[19.0]	[23.2]	-	AHK	普通	明褐色	SK331	被熱・変色	257-1
9	瓦	鬼瓦	[10.1]	[7.8]	-	AIK	普通	灰白	SK331		257-1



第501図 第6区画の土壇出土遺物(9)



第502図 第6区画の土壌出土遺物 (10)

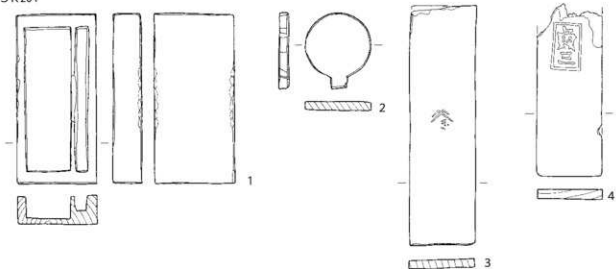
第218表 第6区画の土壌出土遺物観察表(3) (第502図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	瓦	転用品	3.0	3.0	-	AK	良好	灰白	SK203	横す 刻書「倉」	255-2	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	色調	備考			図版
2	硝子製品	筭	[6.7]	1.0	0.1	4.0	SK286	透明	中実		284-6	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	遺構	備考				図版
3	建築材	壁土	16.9	12.3	5.4	CGH	SK331	材圧痕	一部布圧痕	被熱・赤変		
番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
4	磁器	賽子	2.0	1.5	2.0	8.0	-	良好	白	SK281	瀬戸美濃系 型成形	245-12

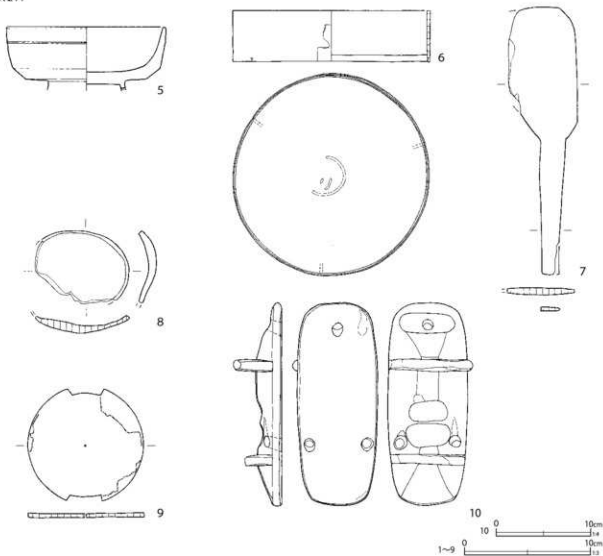
災処理に関わる土壌と認識される。第499図92は瀬戸美濃系陶器の大皿である。93は土瓶で、型押しで精緻な文様を表現する。94・95は同一個体と思われる。詳細な器形が不明だが、備前系陶

器の鉢類の可能性もある。陶磁器は少なく、これ以外には肥前系磁器の皿・御神酒徳利、土器の焙烙が出土したのみである。

SK204



SK211

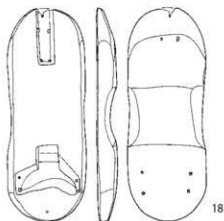
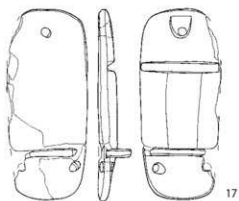
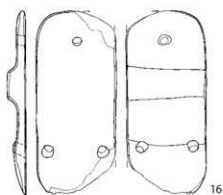
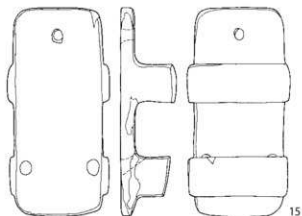
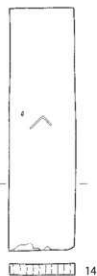
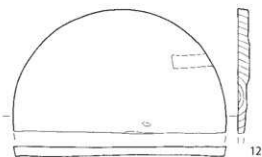


第503図 第6区画の土壌出土遺物(11)

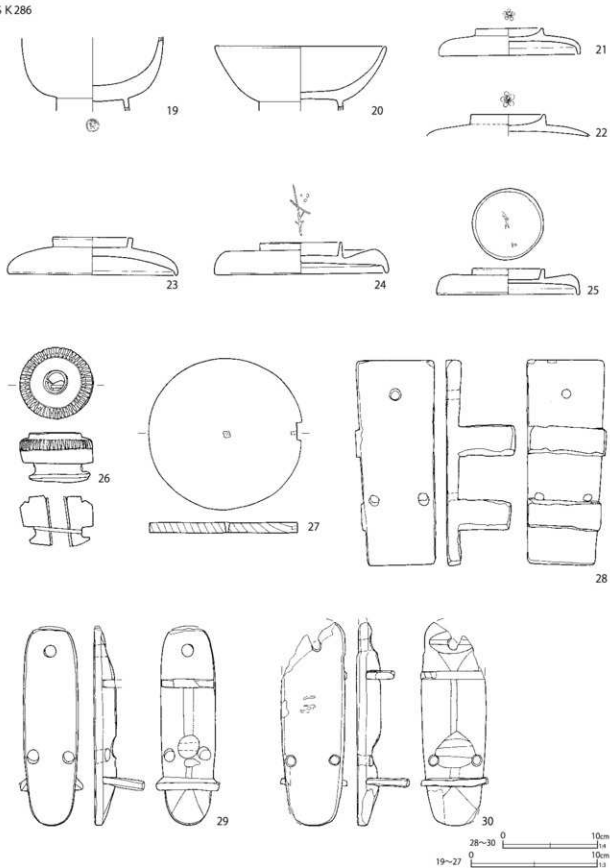
SK214



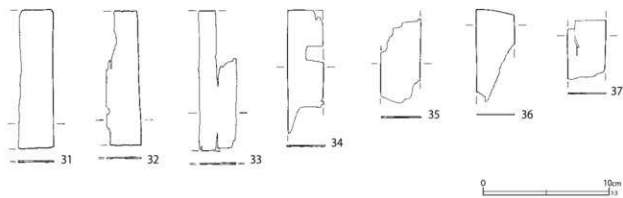
SK216



第504図 第6区画の土壌出土遺物(12)



第505図 第6区画の土壇出土遺物 (13)

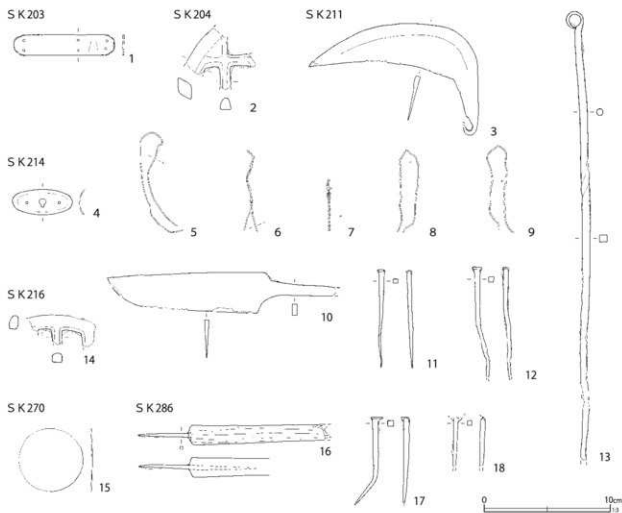


第506図 第6区画の土壌出土遺物(14)

第219表 第6区画の土壌出土遺物観察表(4)(第503~506図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	本取り	遺構	備考	図版
1	木製品	硯箱	13.3	6.3	2.3	-	-	-	板目	SK204		267-6
2	木製品	円板か	6.0	5.2	0.8	-	-	-	板目	SK204		268-1
3	木製品	木札	19.0	5.2	0.7	-	-	-	板目	SK204	片面焼印	
4	木製品	木札	[13.7]	5.1	0.8	-	-	-	板目	SK204	片面焼印「魚三」	
5	木製品	漆椀	-	-	-	12.4	5.0	-	板目	SK211	内面赤漆 外面黒漆	
6	木製品	曲物	側板厚み 0.1~0.25 底板厚み 0.5	-	-	15.6	4.0	-	側板:板目 底板:板目	SK211	孔3 木釘残2 底板表裏面黒漆 裏面焼印	268-2
7	木製品	杓子	21.0	[5.4]	0.5	-	-	-	板目	SK211		268-4
8	木製品	杓子	[5.6]	[7.5]	0.6	-	-	-	板目	SK211	柄欠	
9	木製品	容器	-	-	0.3	9.2	-	-	板目	SK211	表面黒漆 裏面赤漆 側面2箇所快り	268-3
10	木製品	下駄	21.4	9.0	-	-	5.1	-	板目	SK211	陰印下駄 孔3 表裏面黒漆	268-5
11	木製品	漆椀蓋	つまみ径 -	-	-	8.7	[2.6]	-	横木取り	SK214	内面赤漆 外面・口縁黒漆 つまみ内・外面3箇所赤漆で丸に桔梗の家紋	268-6
12	木製品	樽鏡	-	-	0.7	16.8	-	-	板目	SK216	表面墨書 第241表38	298-8
13	木製品	包丁の柄	10.6	2.7	2.1	-	-	-	板目	SK216	鉄製刃の一部残存	268-7
14	木製品	木札	19.2	5.2	0.9	-	-	-	板目	SK216	両面墨書 孔1 焼印「へ」 第241表39	298-9
15	木製品	下駄	22.0	11.0	-	-	5.9	-	板目	SK216	連雷下駄	
16	木製品	下駄	[19.5]	8.3	-	-	2.0	-	板目	SK216	朝り下駄	
17	木製品	下駄	20.3	8.5	-	-	3.5	-	板目	SK216	陰印下駄	
18	木製品	下駄	22.5	8.3	-	-	2.1	-	板目	SK216	無限下駄 孔2 孔穴1 木釘残8	268-8
19	木製品	漆椀	-	-	-	-	[5.8]	-	横木取り	SK286	内面赤漆 外面黒漆 高台内に赤漆で⑤	269-4
20	木製品	漆椀	-	-	-	13.4	[5.0]	-	横木取り	SK286	内面赤漆 外面黒漆	269-2
21	木製品	漆椀蓋	つまみ径 5.3	-	-	(10.9)	2.1	-	横木取り	SK286	内外面赤漆 つまみ縁・口縁黒漆 つまみ内黒漆で五弁の花	269-3
22	木製品	漆椀蓋	つまみ径 (5.6)	-	-	-	[1.7]	-	横木取り	SK286	内外面赤漆 つまみ縁黒漆 つまみ内(黒漆で五弁の花で文様)	
23	木製品	漆椀蓋	つまみ径 6.2	-	-	13.8	3.0	-	横木取り	SK286	内面赤漆 外面黒漆	269-6
24	木製品	漆椀蓋	つまみ径 6.3	-	-	13.6	2.5	-	横木取り	SK286	内外面赤漆 つまみ縁・口縁黒漆 つまみ内(黒漆で五弁の花)	270-1
25	木製品	漆椀蓋	つまみ径 5.5	-	-	11.2	2.0	-	横木取り	SK286	内外面赤漆 口径とつまみの縁に黒漆 つまみ内に黒漆で絵あり	270-2
26	木製品	車	-	厚さ 1.2~2.1	-	5.7	4.0	-	板目	SK286	柄とろくろ 横方向に木軸	270-3
27	木製品	不明品	-	-	0.8	12.0	-	-	板目	SK286	切り込み	
28	木製品	下駄	21.7	8.2	-	-	7.3	-	板目	SK286	連雷下駄	
29	木製品	下駄	[21.1]	5.8	-	-	5.3	-	板目	SK286	陰印下駄	
30	木製品	下駄	[20.6]	6.8	-	-	2.5	-	板目	SK286	陰印下駄 焼印	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
31	木製品	経木	11.0	[2.3]	0.06	-	-	-	楕円	SK323	両面黒書 第241表 47	299-6
32	木製品	経木	10.7	[2.7]	0.06	-	-	-	楕円	SK323	片面黒書 第241表 48	299-7
33	木製品	経木	11.1	[2.9]	0.06	-	-	-	楕円	SK323		
34	木製品	経木	[9.7]	2.9	0.06	-	-	-	楕円	SK323	両面黒書 第241表 49	299-8
35	木製品	経木	[6.7]	3.1	0.05	-	-	-	楕円	SK323	両面黒書 第241表 50	299-9
36	木製品	経木	[7.2]	3.0	0.06	-	-	-	楕円	SK323	両面黒書 第241表 51	299-10
37	木製品	経木	[4.7]	3.0	0.06	-	-	-	楕円	SK323	両面黒書 第241表 52	299-11



第507図 第6区画の土壌出土遺物(15)

第220表 第6区画の土壌出土遺物観察表(5)(第507図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	飾金具	縦1.6 横8.0 厚さ0.1 重さ6.8	SK203		
2	鉄製品	火格子	縦[4.3] 横[5.6] 厚さ1.1 重さ52.3	SK204		
3	鉄製品	鎌	刃長[13.1] 刃幅3.5 背幅0.4 重さ49.5	SK211		
4	銅製品	煙草入れの金具	縦2.0 横4.8 厚さ0.06 重さ3.8	SK214	前金具の裏金	
5	銅製品	針金	縦8.0 横3.5 厚さ0.1 重さ0.6	SK214		
6	銅製品	針金	縦6.5 横1.1 厚さ0.1 重さ0.7	SK214	2条を緩く振る	
7	銅製品	針金	縦4.2 横0.5 厚さ0.1 重さ0.5	SK214	2条を固く振る	
8	銅製品	針金	縦6.6 横1.8 厚さ0.1 重さ0.6	SK214		
9	銅製品	針金	縦6.9 横2.2 厚さ0.1 重さ0.7	SK214		

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
10	鉄製品	包丁	長さ [18.2] 刃長 11.9 刃幅 3.0 背幅 0.3 重さ 51.9	SK214		275-1
11	鉄製品	釘	長さ [7.8] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 2.7	SK214		
12	鉄製品	釘	長さ [8.7] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.6	SK214		
13	鉄製品	火箸	長さ [35.6] 厚さ 0.6 幅 0.6 重さ 51.1	SK214	箸頭環状 持ち代丸棒 振り以下角棒	
14	鉄製品	火格子	縦 [2.5] 横 [5.3] 厚さ 0.7 重さ 18.8	SK216		
15	銅製品	鐙引手	径 [5.1] × [5/0] 厚さ 0.04 重さ 5.9	SK270		
16	鉄製品	鎌	長さ [15.5] 鎌先長 4.1 厚さ 0.3 重さ 7.5	SK286	木柄付き	
17	鉄製品	釘	長さ [6.8] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 4.5	SK286		
18	鉄製品	釘	長さ [3.9] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 2.6	SK286		

S K214



S K286



S K270



S K331



第 508 図 第 6 区画の土壌出土遺物 (16)

第 221 表 第 6 区画の土壌出土遺物観察表 (6) (第 508 図)

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版	
1	銅製品	銭貨	径 28.2	厚さ 1.0	重さ 4.1	SK214	寛永通寶 (新) 11 波			
2	銅製品	銭貨	径 23.3	厚さ 0.8	重さ 1.9	SK214	寛永通寶 (新)			
3	銅製品	銭貨	径 22.9	厚さ 1.0	重さ 2.6	SK286	寛永通寶 (新)			
4	銅製品	銭貨	径 24.6	厚さ 1.0	重さ 2.7	SK286	寛永通寶 (新)			
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
5	石製品	砥石	[5.9]	[2.1]	1.6	33.2	凝灰岩	SK270	側縁部丸ノコギリ痕 砥面 4	
6	石製品	碁石	[6.9]	[12.8]	[9.1]	532.6	凝灰岩	SK331	八角形 榫状貫 接点ない破片 4 あり 被熱 (赤化)	

(6) 第7区画 (区画U)

第7区画は、敷地の大部分を樽地業建物である第6号建物跡・第8号建物跡が占めており、土壌の分布は建物の範囲および、第8号建物跡の西側に偏って検出されている。本区画の土壌では、第6区画の土壌同様に火災処理に関わる土壌が認められる。被熱した貿易陶磁器、特に清朝の十錦手の磁器皿が多く出土しており注目される。

『絵図』の「旅籠屋 七兵衛」、『営業便覧』の「飲食店 小沢宇吉」にあたる区画と思われる。

第7区画では、区画西側の大型土壌である第105号土壌と、第6区画に跨って検出された第121号土壌を個別に取り上げ、他の土壌についてはまとめて遺構・出土遺物を示す。

第222表 第7区画土壌一覧表 単位:m

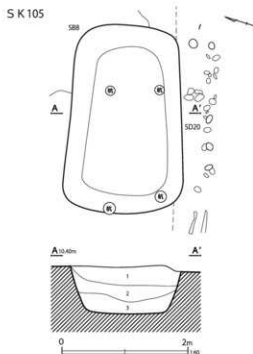
番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
105	7	E7-H4	隅丸長方形	2.99	1.77	0.75	N-73°-E	S88より新	509
106	7	E7-H4	隅丸長方形	2.42	1.92	0.60	N-15°-W	SK264より新	559
107	7	E7-H4	隅丸方形	3.10	(2.00)	0.58	N-6°-W		559
110	7	E7-G5, H4	隅丸長方形	2.38	1.49	0.80	N-71°-E	S88より新	559
111	7	E7-H4/5	隅丸方形	1.84	1.70	0.30	N-19°-W	S88・SK112より新	559
112	7	E7-H4/5	不整形	3.09	2.62	0.52	N-71°-E	SK111より古 S88より新	559
121	7	E7-H5	隅丸長方形	2.45	0.98	1.10	N-15°-W	SD20重複	556
264	7	E7-H4	隅丸長方形	1.15	(0.55)	0.40	N-22°-W	SK106より古	559

第105号土壌 (第509~555図)

E7-H4グリッド、区画の南西側に位置する。北東隅の一部が第8号建物跡と重複するが、比較的良好に遺存している。平面形隅丸長方形の土壌で、長軸2.99m、短軸1.77mである。覆土は焼土ブロックを多量に含むものであり、火災処理に伴う廃棄土壌である。

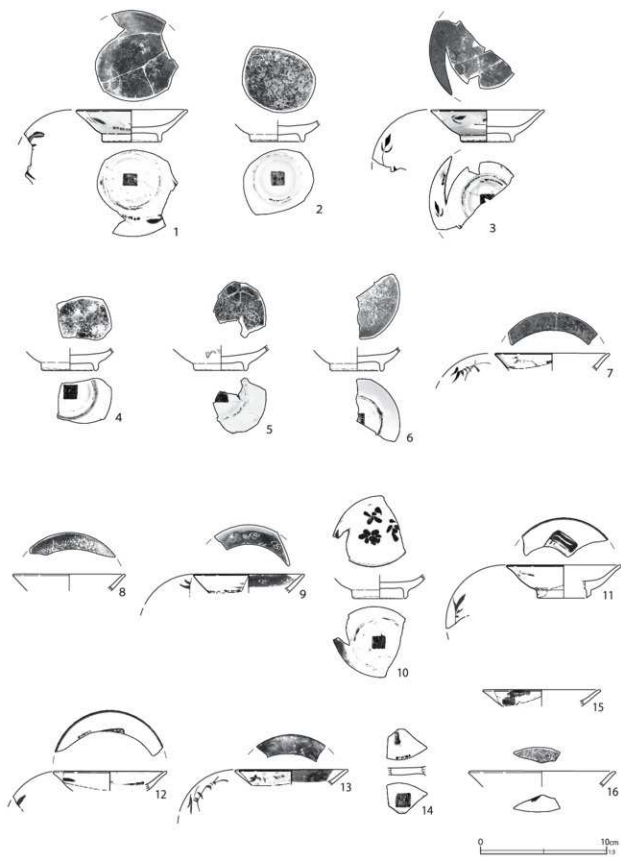
本跡の出土陶磁器は、後述する第121号土壌との接合が顕著であった。従って、陶磁器類に関しては、第105・121号土壌出土のものを一括して図示することにした(第510~549図)。また、第106・107・324号土壌の遺物とも接合関係が認められ、同時期の被災資料とみられる。接合の有無に関わらず、被災資料についてはできるだけ一括して図示・解説した。帰属遺構は観察表遺構欄、接合関係については観察表の備考欄に示す。

第510~516図には、主に舶載磁器を示した。本跡では中国・清朝の磁器皿類が多量に出土しており、基本的に、全ての破片を抽出・図示した。なお、同類の皿の破片が第9区画の第324・235号土壌をはじめ、複数の遺構・グリッドに跨って

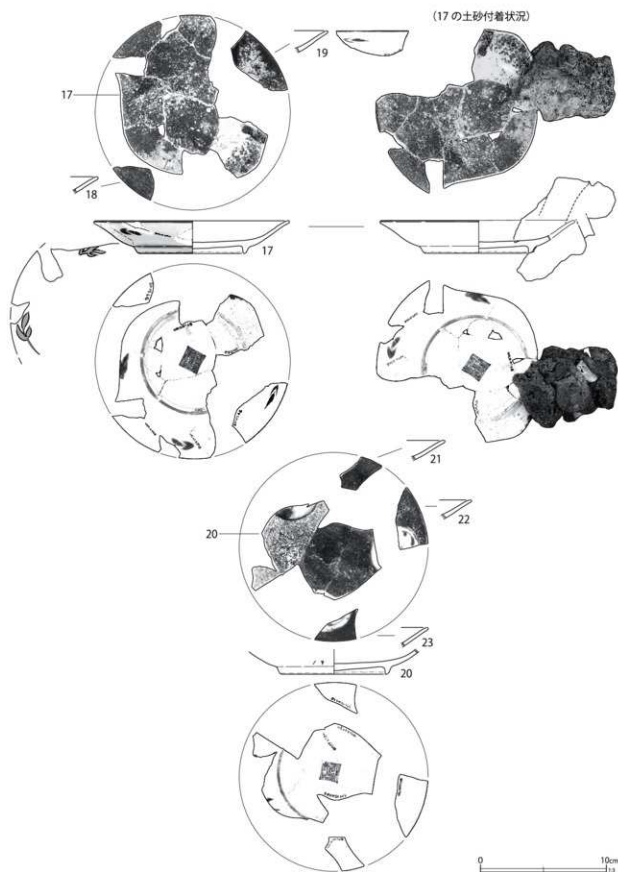


- 第105号土壌
- 1 暗褐色土 焼土ブロック極多量 炭化物多量 瓦出土 粘性弱 しまりあり
 - 2 暗褐色土 1層より強い 焼土ブロック多量 炭化物粒子多量 粘性弱 しまりあり
 - 3 暗褐色土 2層より強い 焼土ブロック・炭化物粒子極多量 粘性弱 しまりあり

第509図 第105号土壌



第510图 第105·121号土城出土遗物(1)



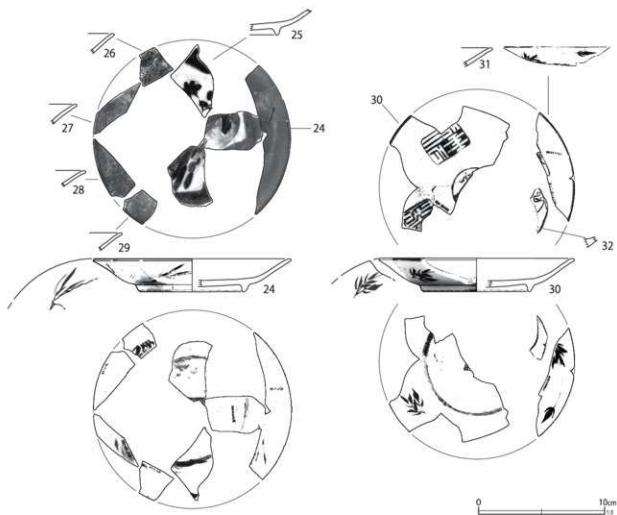
第 511 図 第 105・121 号土坑出土遺物 (2)

出土している。これらについても、この項で一括して図示し扱う。

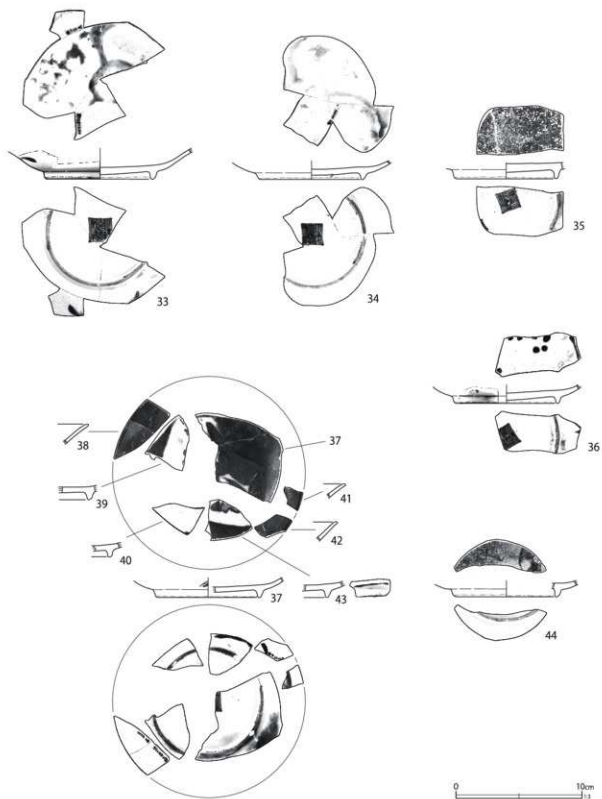
清朝磁器は、所謂「十錦手」と呼ばれるタイプのもので、法量差が認められる。第510図1～14は小型のもので、口径が8.7～9.0cm、高さ2.6cm程度のものである。1～9・13は内面を色釉の単彩とするものだが、ほとんどは被熱により黒化して本来の色を残さない。唯一、変色していない9は、内面に青の色釉を施し、金彩で雲文を絵付けする。口唇部は口紅を施す。外面には透明釉を施釉後に、黒っぽい絵付けで植物文を描く。被熱して変色したものも、おそらく内面に施釉したものであろう。9と同様に花文や唐草様の文を絵付けした痕跡が認められる。

10～12は内面に透明釉施釉後、赤等の粉彩技法による上絵付けを行う。口唇部の口紅や外面文様は、1～9のものに準ずる。16は、やはり火災処理関連の土壌とみられる第270号土壌から出土したものだが、本項で扱う。ほぼ同タイプの皿だが、口径が若干大きく9.3cm程と推定される。このサイズのもは他に認められない。強く被熱して内面は変色する。

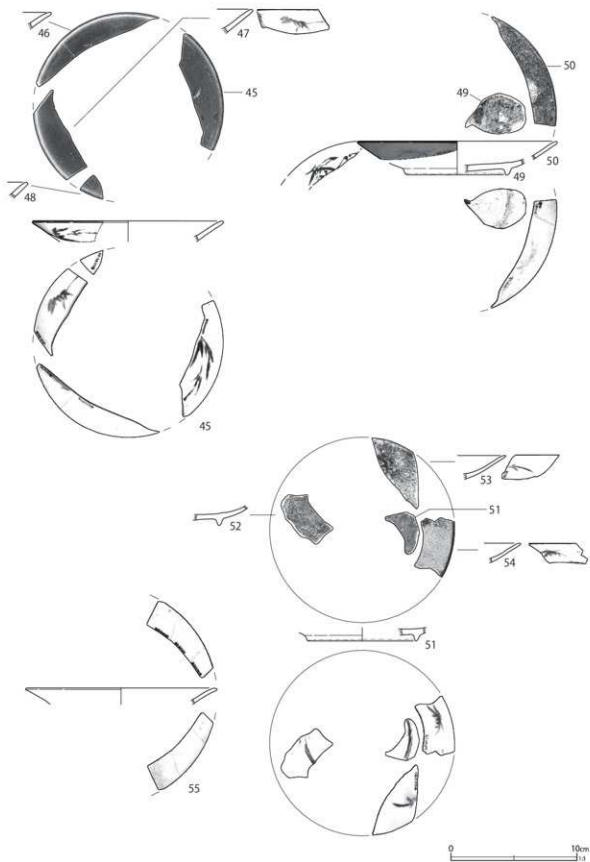
17以降はより大型の皿で、口径15cm台、器高は2.6cm程のものである。図示にあたっては文様が近いと思われるものを復元的に配置したが、必ずしも同一個体と認定して示したものは無い。基本的に口紅を施し、外面に植物文の上絵付、高台内に銘を有す点は小型の皿と同じである。



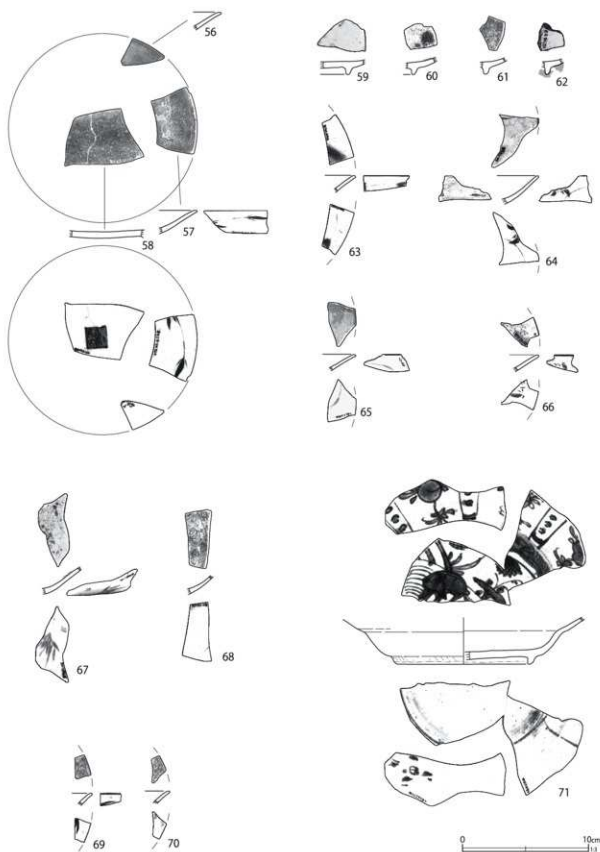
第512図 第105・121号土壌出土遺物(3)



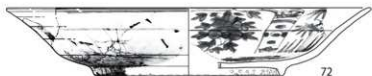
第 513 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (4)



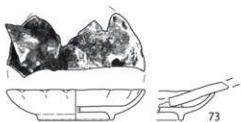
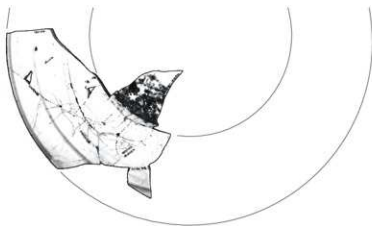
第514图 第105・121号土坑出土物(5)



第 515 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (6)



72



73



第516图 第105·121号土坑出土遗物(7)

第223表 第105・121号土壙出土遺物観察表(1)(第510~516区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使用	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	(8.7)	2.6	4.5	-	50	良好	白	SK105-324	SK105・324 接合 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	232-1
2	磁器	皿	-	[1.7]	3.9	-	20	良好	白	E764Gr	E764Gr一括 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	234-1
3	磁器	皿	(8.8)	2.6	(4.0)	-	30	良好	白	SK105-324	SK105・324 接合 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	232-2
4	磁器	皿	-	[1.8]	(4.1)	-	10	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	234-2
5	磁器	皿	-	[2.0]	(4.0)	-	20	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩 被熱	234-3
6	磁器	皿	-	[1.9]	(3.9)	-	15	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	234-4
7	磁器	皿	(9.0)	[1.4]	-	-	15	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	234-5
8	磁器	皿	(8.8)	[1.3]	-	-	10	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩・单彩・上給付	234-6
9	磁器	皿	(8.7)	[1.5]	-	-	10	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩・单彩 強く被熱・変色	234-7
10	磁器	皿	-	[1.9]	(4.0)	-	20	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸 内面上給付 強く被熱・変色	232-3
11	磁器	皿	(9.0)	2.6	(4.0)	-	15	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付	232-4
12	磁器	皿	(8.9)	[1.6]	-	-	15	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 弱く被熱・一部変色	234-8
13	磁器	皿	(8.8)	[1.3]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩 被熱・赤変	234-9
14	磁器	皿	-	[0.8]	-	-	10	良好	白	E7-H4 P2	E7-H4 P1t2 中国景德鎮系 内外面施軸 内面上給付	
15	磁器	皿	(9.1)	[1.3]	-	-	10	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 中国景德鎮系 内外面施軸 強く被熱・一部赤変 少量の付着物あり	
16	磁器	皿	(9.3)	[1.1]	-	-	5	良好	白	SK270	SK270 中国景德鎮系 内外面施軸 外面上給付 内面粉彩 被熱・変色	
17	磁器	皿	(15.3)	2.6	8.3	-	70	良好	白	SK121-324	SK121・324 接合 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩 強く被熱・変色 土砂付着	232-5
18	磁器	皿	-	[1.3]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩	234-10
19	磁器	皿	-	[1.7]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩	234-11
20	磁器	皿	-	[2.1]	(8.3)	-	20	良好	白	SK105-324	SK105・324 接合 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 内面粉彩 被熱・赤変	232-6
21	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩	234-12
22	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩	234-13
23	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩	234-14
24	磁器	皿	(15.4)	2.6	(8.2)	-	25	良好	白	SK112-235-324	SK112・235・324 接合 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 強く被熱・変色	232-7
25	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸	234-15
26	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸	234-16
27	磁器	皿	-	[1.3]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸	234-17
28	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸	234-18
29	磁器	皿	-	[2.1]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩	235-1
30	磁器	皿	(15.2)	2.6	(8.4)	-	35	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸・上給付 弱く被熱	232-8
31	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	10	良好	白	SK105-E764Gr	SK105・E764Gr 中国景德鎮系 内外面施軸	235-2
32	磁器	皿	-	[0.9]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
33	磁器	皿	-	[2.5]	(8.3)	-	35	良好	白	SK105-319・324	SK105 SK319・324 接合 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 内面粉彩 弱く被熱・変色	233-1
34	磁器	皿	-	[1.5]	(8.0)	-	30	良好	白	SK105-324	SK105 SK324 接合 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 内面粉彩 弱く被熱・変色	233-2
35	磁器	皿	-	[1.3]	(7.9)	-	10	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・除刻状施文 被熱・変色	233-3
36	磁器	皿	-	[1.5]	(8.0)	-	10	良好	白	E764 Gr	E764Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 内面粉彩 弱く被熱	235-3
37	磁器	皿	-	[1.6]	(8.1)	-	15	良好	白	E764 Gr	E764Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩 強く被熱・変色	235-4
38	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	235-5
39	磁器	皿	-	[1.1]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	235-6
40	磁器	皿	-	[1.1]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	235-7
41	磁器	皿	-	[1.1]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	
42	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	
43	磁器	皿	-	[1.3]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	235-8
44	磁器	皿	-	[1.4]	(8.0)	-	5	良好	白	E764 Gr	E764Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・上絵付 強く被熱・変色	235-9
45	磁器	皿	(15.1)	[1.7]	-	-	10	良好	白	SK235	SK235 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	233-4
46	磁器	皿	-	[1.4]	-	-	10	良好	白	E7F4 Gr	2次 E7F4Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	233-5
47	磁器	皿	-	[2.0]	-	-	5	良好	白	E764 Gr	E764Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	233-6
48	磁器	皿	-	[1.2]	-	-	5	良好	白	E764 Gr	E764Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・金彩	
49	磁器	皿	-	[1.3]	(7.9)	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 内面粉彩・单彩 強く被熱して器面荒れる。一部変色	235-10
50	磁器	皿	(15.7)	[1.5]	-	-	15	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 内面粉彩・单彩 強く被熱して器面荒れる。一部変色	233-7
51	磁器	皿	-	[1.0]	(8.6)	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・除刻状施文	235-11
52	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・除刻状施文	235-12
53	磁器	皿	-	[1.9]	-	-	5	良好	白	E764 Gr	2次 E764Gr 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・除刻状施文	235-13
54	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩・除刻状施文	235-14
55	磁器	皿	(14.9)	[1.3]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩 弱く被熱	
56	磁器	皿	-	[1.4]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	235-15
57	磁器	皿	-	[1.8]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩	235-16
58	磁器	皿	-	[0.6]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩 強く被熱・変色	235-17
59	磁器	皿	-	[1.2]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩 上絵付 被熱	
60	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 被熱・土砂付着	
61	磁器	皿	-	[1.3]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉 内面粉彩 被熱・変色	235-18
62	磁器	皿	-	[1.2]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉 被熱・土砂付着	
63	磁器	皿	-	[1.4]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 被熱・変色	
64	磁器	皿	-	[2.3]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施釉・上絵付 被熱・変色	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	境成	色調	遺構	備考	図版
65	磁器	皿	-	[1.3]	-	-	5	良好	白	E764 Gr	E764Gr 表土 中国景德鎮系 内外面施軸・上絵付 被熱・変色	
66	磁器	皿	-	[1.4]	-	-	5	良好	白	SK105	中国景德鎮系 内外面施軸 外面上絵付 被熱・一部変色	
67	磁器	皿	-	[2.3]	-	-	5	良好	白	SK105	中国景德鎮系 内外面施軸 (内面粉彩少) 外面上絵付 被熱・変色 少量土砂付着	
68	磁器	皿	-	[1.5]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 中国景德鎮系 内外面施軸 (内面粉彩少) 外面上絵付 被熱・変色	
69	磁器	皿	-	[1.0]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩 外面上絵付 被熱・変色	
70	磁器	皿	-	[1.0]	-	-	5	良好	白	SK324	SK324 中国景德鎮系 内外面施軸 内面粉彩・陰刻状施文 被熱・変色	
71	磁器	皿	-	[3.8]	(10.5)	-	30	良好	白	SK324・E764 Gr	SK324・E764Gr 表土接合 中国景德鎮系 内外面施軸・染付	233-8
72	磁器	皿	(38.3)	7.2	(19.7)	HK	20	普通	灰白	SK105・324 324・112	SK105・324 接合 SK112に同一個体 中国漳州窯系 内外面施軸・染付 被熱	236-1~3
73	磁器	皿	(10.9)	2.5	(5.8)	-	30	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸 内面染付口紅 強く被熱して一部赤変・土砂付着 漳州窯磁器付着	236-4

17～19は内面が被熱で黒・赤に変色する。僅かに残る色合いから、おそらく桃色の色軸の上に絵付けしたものだだろう。絵付けの痕跡が僅かに認められる。17には破片の一部に土砂の塊が付着する。発泡した土壁材と思われる。19は内面に白く色軸を抜く部分がある。20～23は内面が赤く発色する。内面を白く円形に抜いて、その中に絵付けを行う。20の内面の一部に、僅かに金彩の痕跡を認める。

24～29は、内面の一部が赤・黒に変色する。口縁部に沿って色軸（赤色系の色調）を施し、底部にも粉彩絵付けを施すものであろう。体部には金彩の痕跡がみられる。24は内底面に水辺を描くようで、山水文と思われる。25は内面底部に花文を上絵付けする。30～32は内外面とも透明軸を施軸し、内面に篆刻文字のような絵付けを行う。絵付けは赤く発色する。33・34は内面に縁取りがはっきりしない文様を描くものらしい。また、金彩による文字が一部に残り、短い漢詩を散らして文様としている可能性がある。

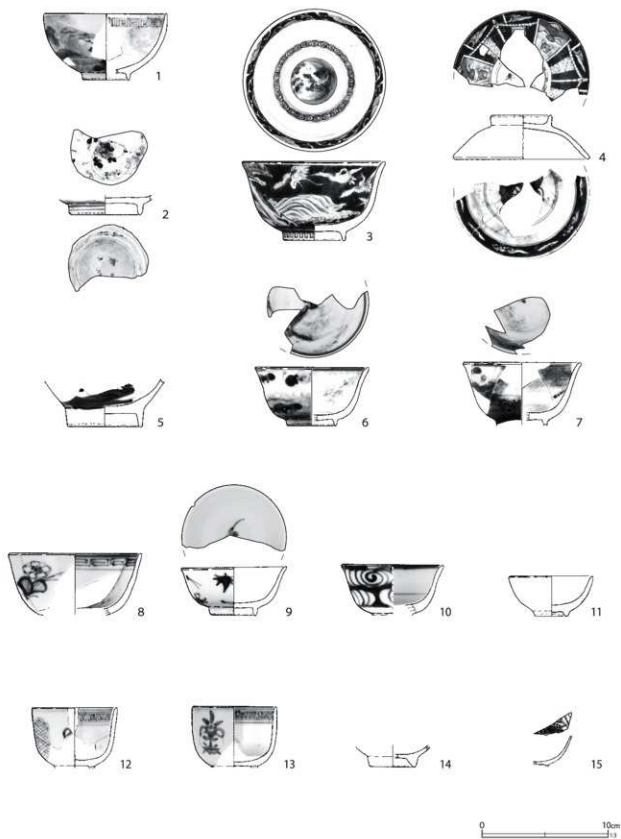
37～43は、24等と同じ構成の皿と考えられる。37の内面底部には山と思われる文様が、粉彩技法で上絵付けされている。37・38・41・42の内面体部には、黒く変色した色軸の地に、金彩

で蔓状の唐草文が描かれる。35は内面を色軸で単彩とするものらしいが、色調は被熱して銅色に変色する。陰刻状に唐草文を施文する。36は内面底部付近を透明軸とし、上絵付けを施す。体部側は広く色軸を施すものらしく、赤く発色している。44も内面に色軸を施し、黄色に発色する。上絵付けが施されるが、それも赤く変色して、当初の色調を窺い知れない。

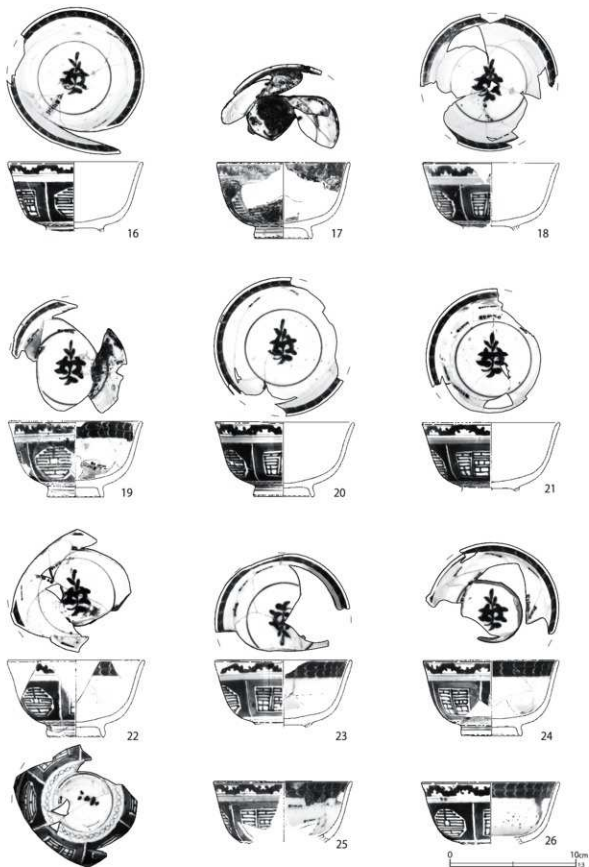
45～48は被熱の度合いが弱く、内面は青い色軸の単彩であることが確認できる。内面には口縁部に沿って金色の圓線を巡らし、以下には崩れた雲竜文を金彩する。49・50も内面に色軸の青色が遺存するが、熱による発泡で器面は荒れる。丸文を透明軸で白く抜いて文様とする。

51～54は、35と同様に、内面に陰刻状の唐草文を施文する。ただし、底部の厚みなどから、51・52と35は別個体である。54は色が抜けて本来の色軸を想定できないが、他は青色の色軸である。

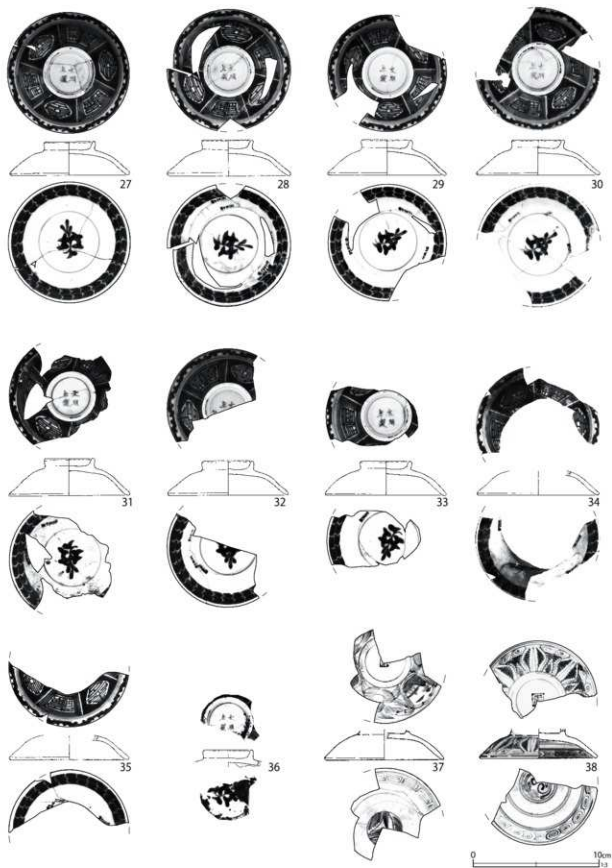
56～58は、内面全体が黒く変色し、色軸を単彩で施していたと考えられる。内面に僅かに残る金彩は口縁部直下に圓線を巡らすものである。57には唐草のような蔓状の金彩も認められる。口縁部直下の金彩による圓線は、45～48と類似



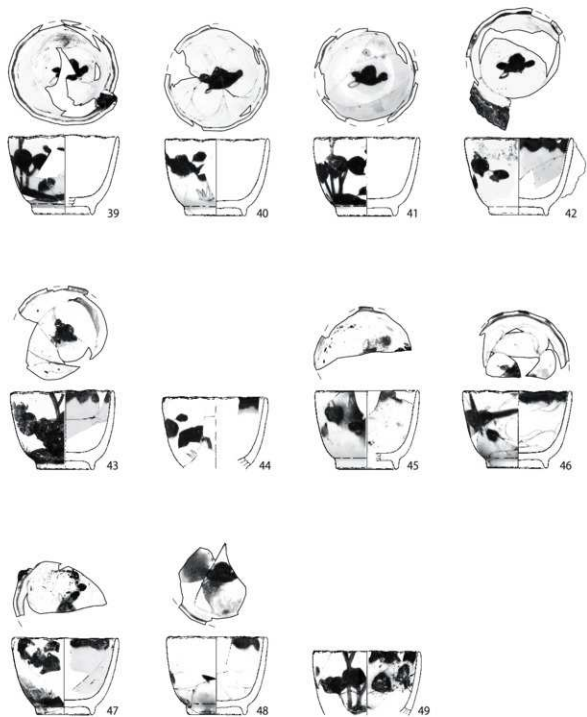
第 517 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (8)



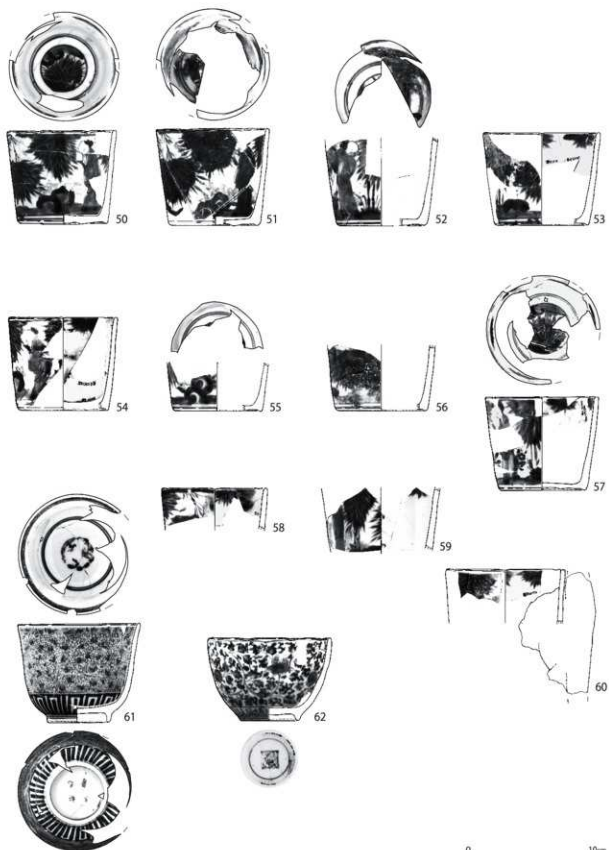
第 518 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (9)



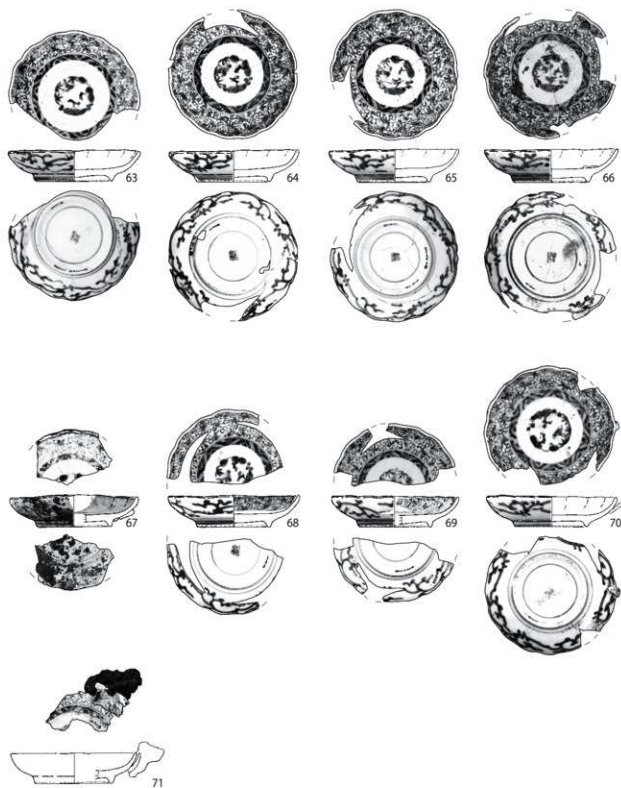
第 519 图 第 105·121 号土城出土遗物 (10)



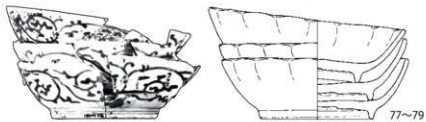
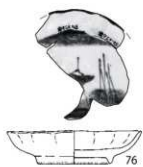
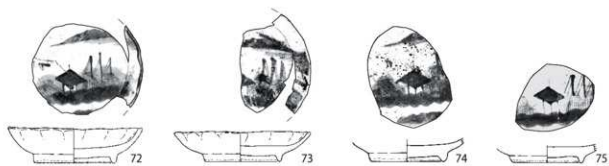
第 520 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (11)



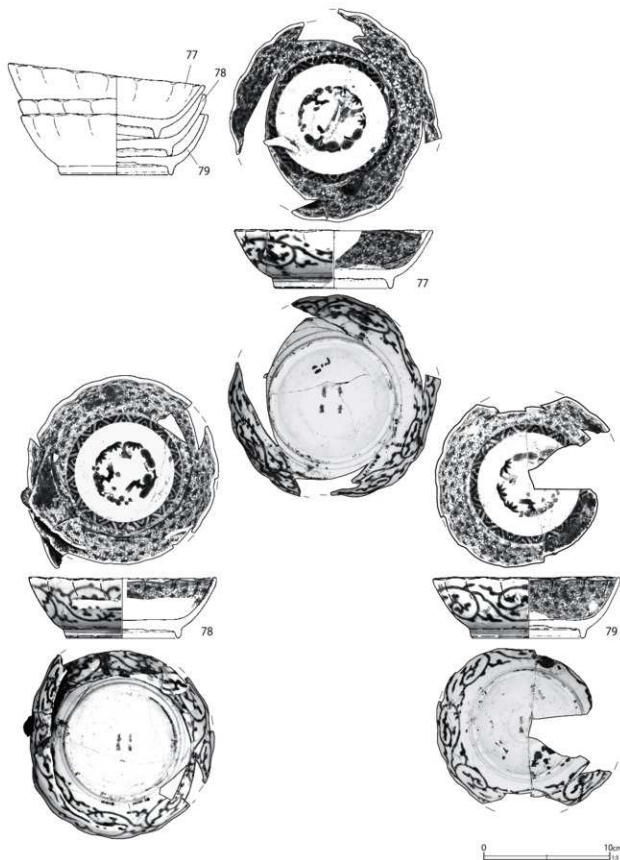
第 521 图 第 105·121 号土坑出土物 (12)



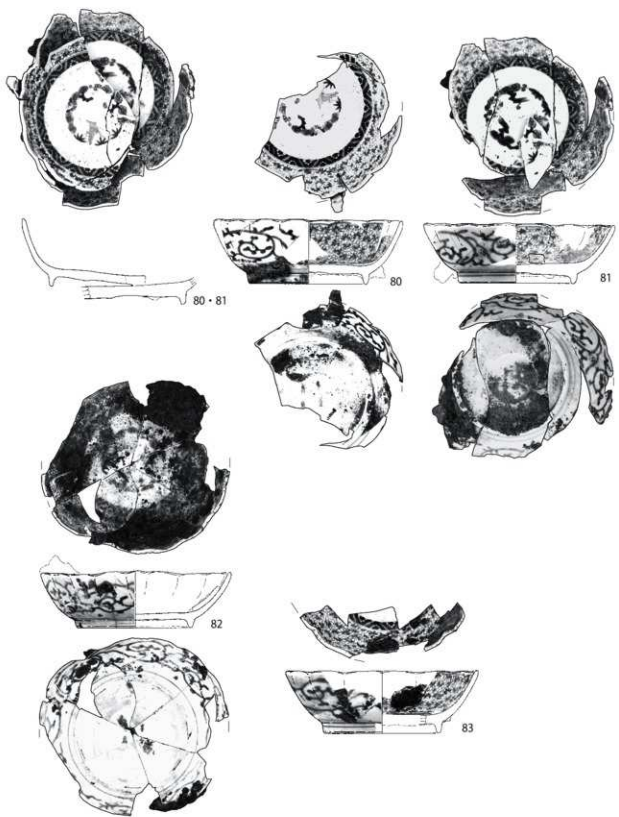
第 522 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (13)



第 523 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (14)



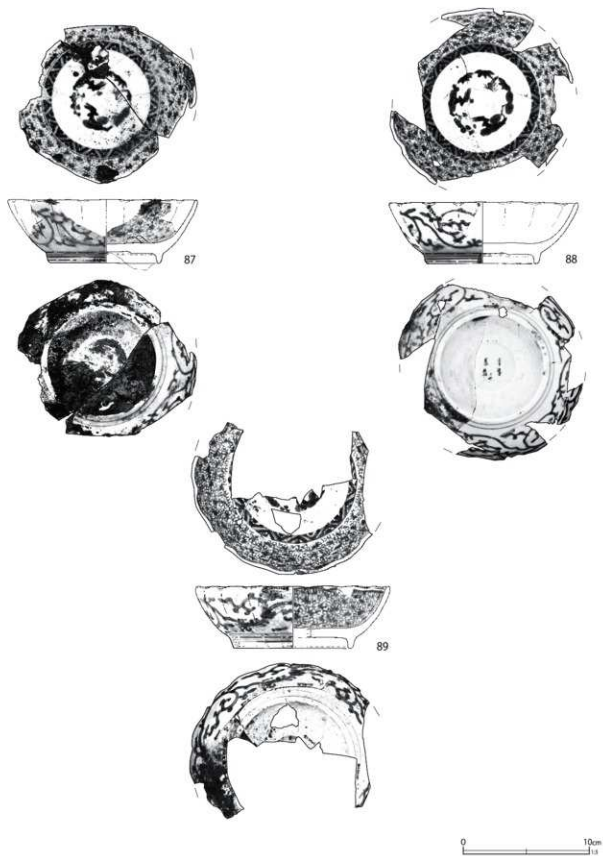
第 524 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (15)



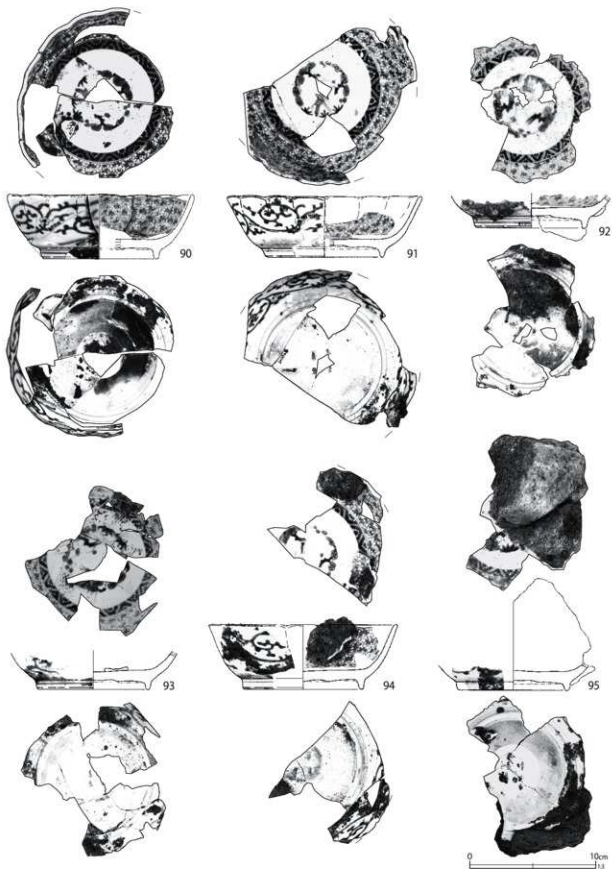
第 525 图 第 105·121 号土坑出土物 (16)



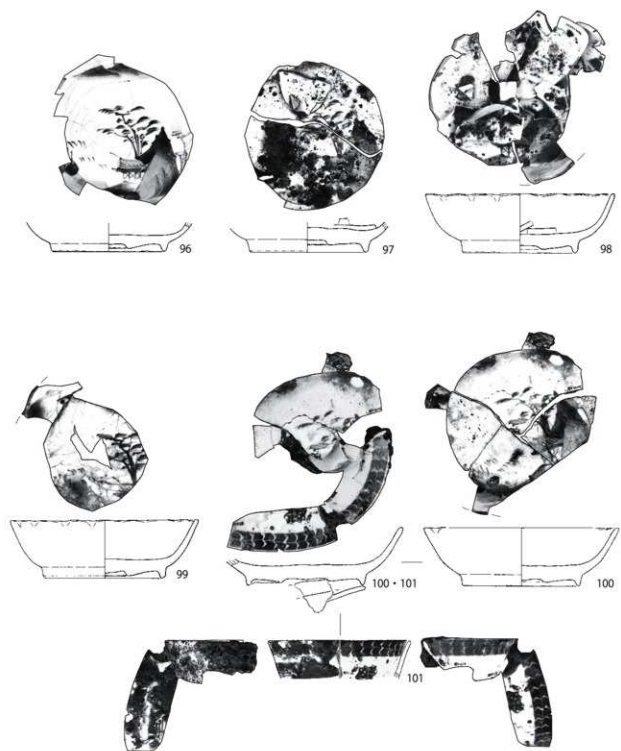
第 526 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (17)



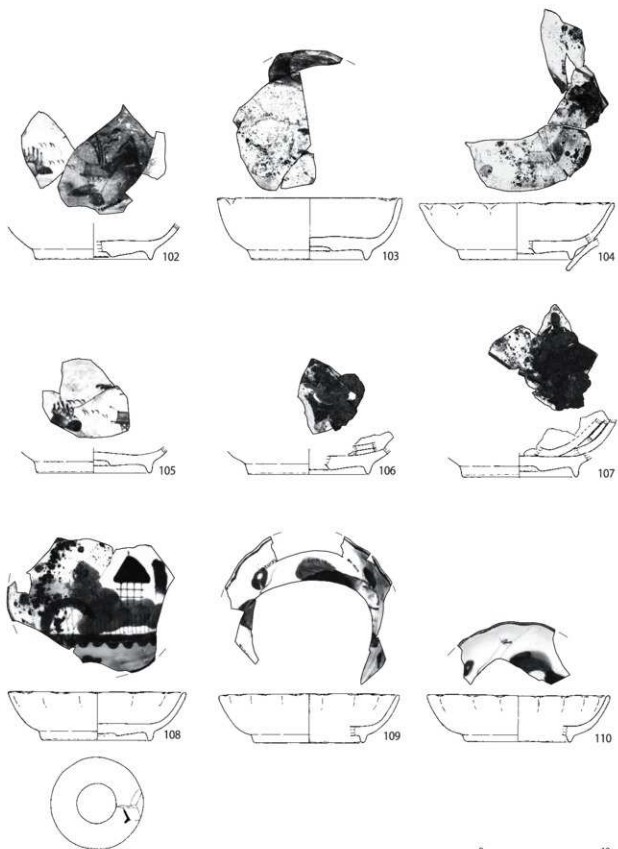
第527图 第105·121号土坑出土遗物(18)



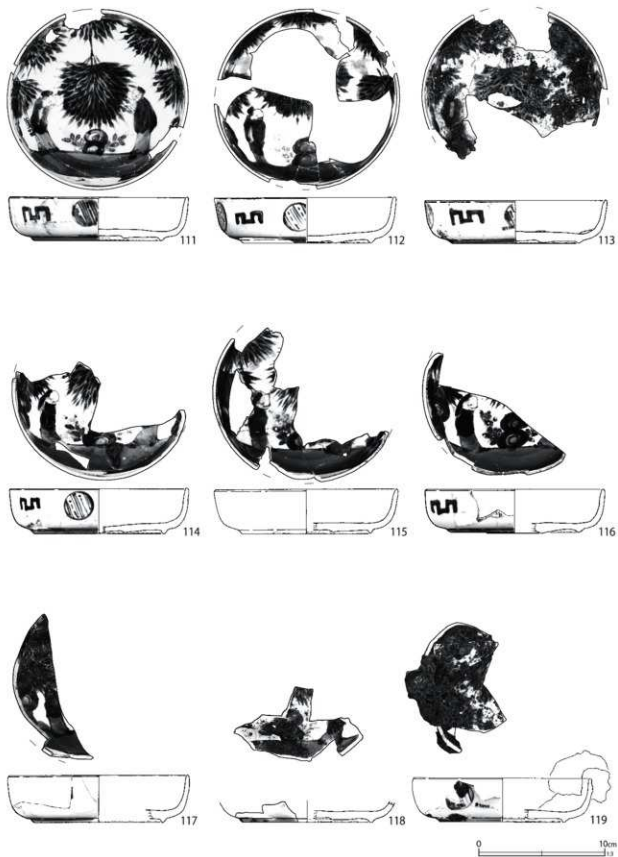
第 528 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (19)



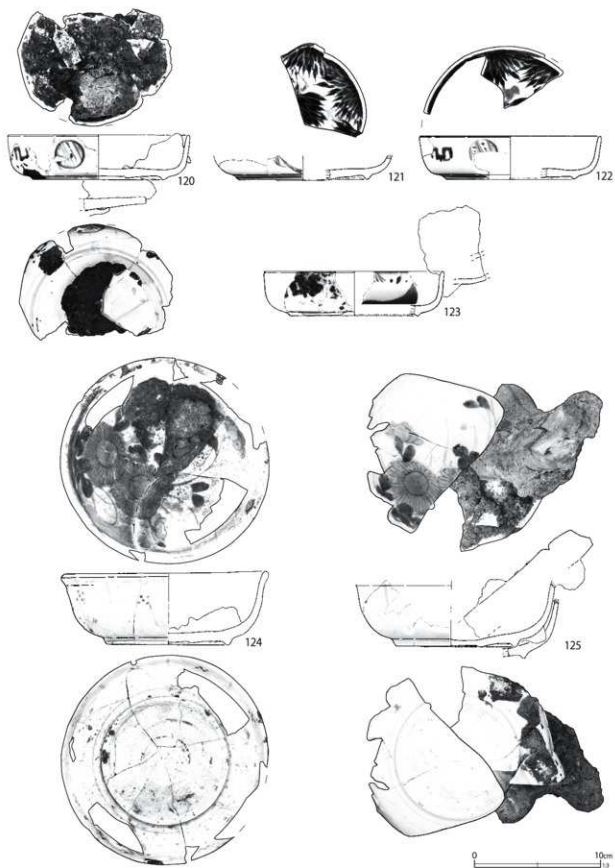
第 529 图 第 105 · 121 号土坑出土遗物 (20)



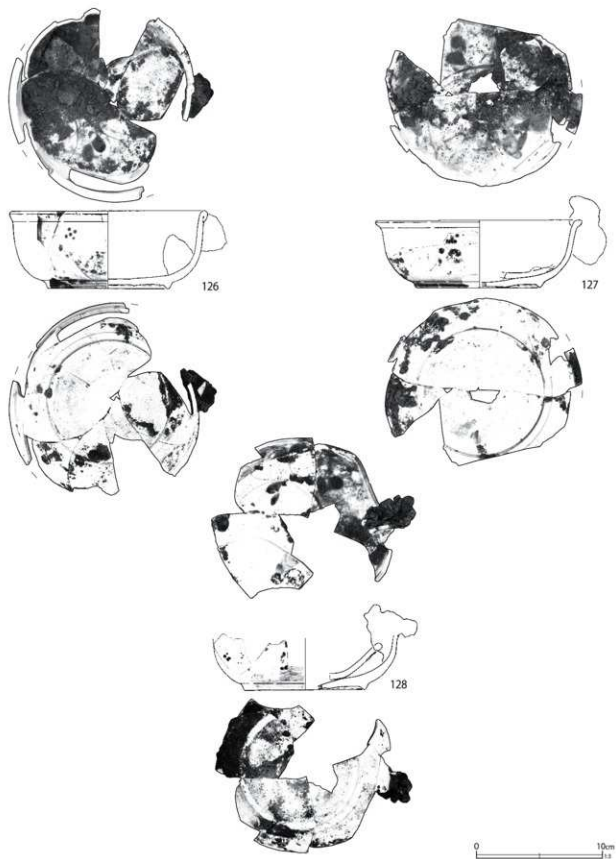
第 530 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (21)



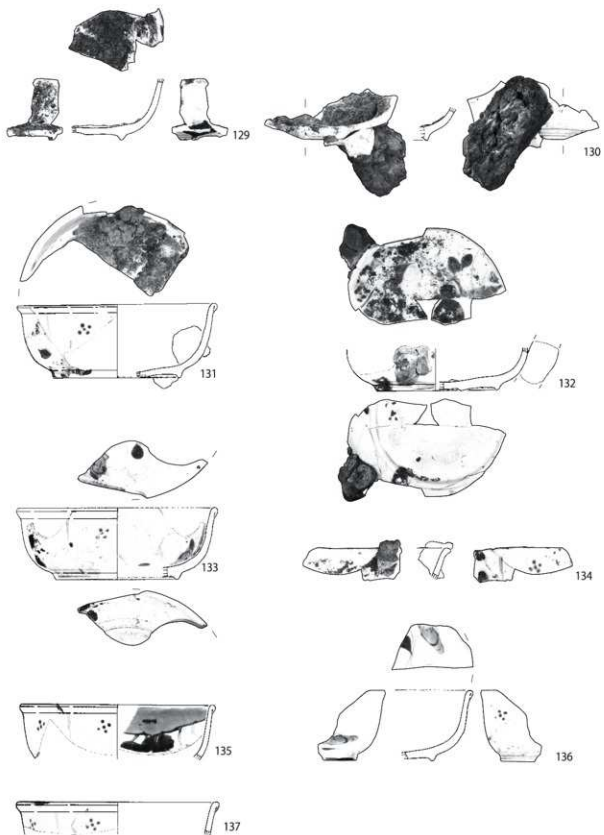
第 531 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (22)



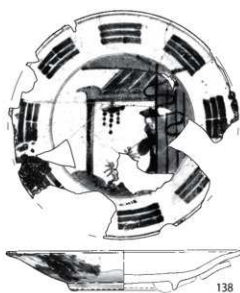
第532図 第105・121号土坑出土遺物(23)



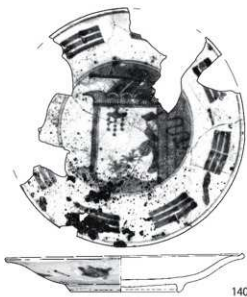
第 533 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (24)



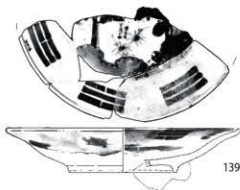
第 534 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (25)



138



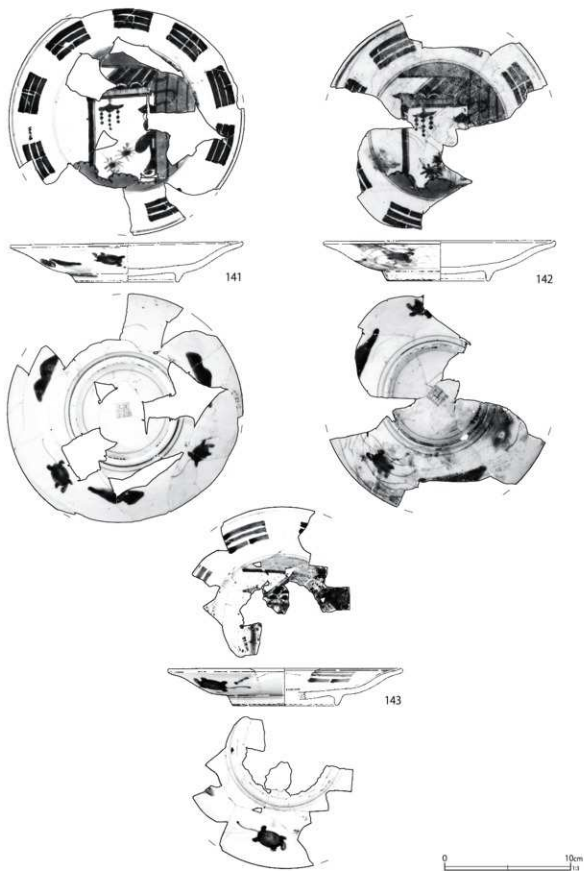
140



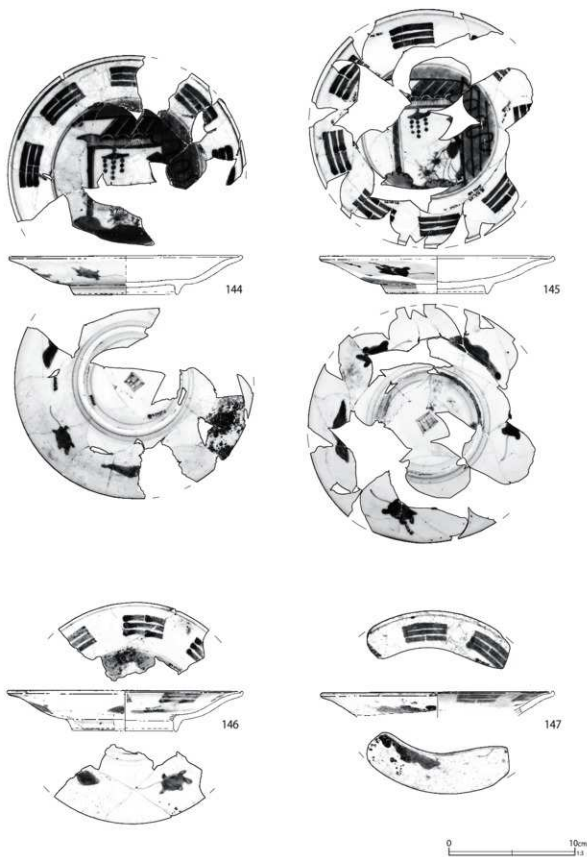
139



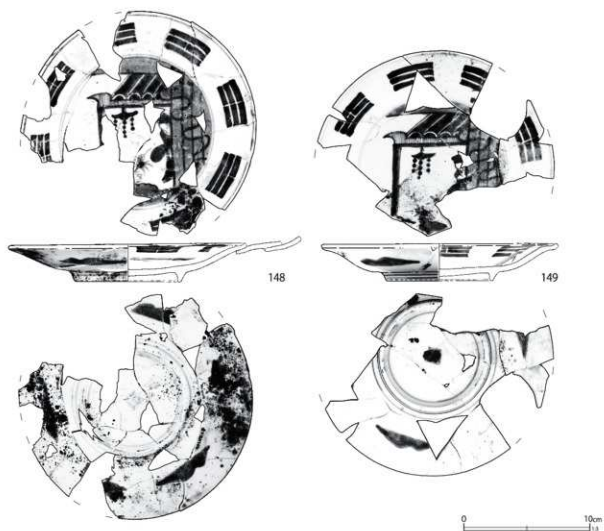
第535图 第105·121号土坑出土遗物(26)



第536图 第105・121号土坑出土遗物(27)



第 537 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (28)



第538図 第105・121号土壇出土遺物(29)

するが、56～58のほうが、口縁部が薄くシャープであり、同一のものでは無い。

59～62は底部の細片で、内面は61のみ粉彩を認める。緑色に発色する。発色の具合は44に近いが、底部の形状などが僅かに異なり、別個体であろう。他は内面も透明釉とする。63～66・69・70は口縁部の細片である。64は内面に金彩で絵付けを行うようだが、被熱で色が抜けて観察し難い。65は内面に粉彩を施すもので、緑色に発色する。44・61に近い発色である。70は内面に青い色釉を施すものらしい。

67・68は体部下位の破片で、内面に粉彩を施

すものらしいが、色調などは判然としない。

高台部内に染付される底裏銘は、大型の皿では角枠銘で「大清嘉慶年製」のみが確認され、17・20・33・34・35・36・58が判読できる。小型の皿では、簡略化されて判読し難いが、やはり角枠銘で崩し方にもいくつかのパターンがある。

71は、明末～清初期の景德鎮窯系磁器皿である。所謂「芙蓉手」の皿であり、高台内は明瞭なカンナ削り痕を有す。第324号土壇(第8区画)の遺物であるが、この遺構の遺物は第105・121号土壇との接合が多く、遺物自体も被熱しているので、他の舶載磁器と一括して扱う。

72は、やはり明末～清初期の漳州窯系磁器皿(盤)で、被熱している。全体的には第324号土壙から出土した破片が多いが、第105号土壙でも同一個体の破片が出土し、両遺構のものが接合した。さらに、第121号土壙からも、肥前系磁器の皿と被熱して溶着した破片が出土しており(第516図72)、これも第324号土壙出土の破片と接合関係にあった。復元径は口縁部および内底面の染付圏線から算出したものであり、口径38.3cm、底径19.7cm、器高は7.2cmである。所謂「スワトウ」の皿であるが、このサイズの大皿は国内でも出土例が少ないものと思われる。釉薬は厚く1mm程ある。高台壘付部は露胎とし、高台部内面側にかけて砂の付着が著しい。このほか、第517図14に中国徳化窯系磁器を示す。

第517～549図には、出土した国産陶磁器を中心に図示する。なお、複数の同文・別個体がある資料は、非掲載遺物も含めた最少個体数を想定した。

1は肥前系磁器の薄手半球形碗で、第105・121号間での接合である。組み物の破片は見られない。2は肥前系磁器のやや大振りの碗で、第107号土壙から出土したものが、強く被熱している。3・4は肥前系磁器の端反碗の身・蓋である。やはり第105・121号土壙間で接合している。身に被熱は認められないが、蓋は明確に被熱している。

6～10までは瀬戸美濃系磁器の端反碗である。6・7は第107号土壙のものを扱った。後者は第106号土壙の破片と接合する。いずれも被熱している。8は第105・107・121号土壙で接合している。口縁部の反りがやや弱い。なお、9・10には被熱が認められず混在の可能性もある。

11は肥前系磁器の坏で厚手のものである。12・13は肥前系磁器の湯呑形碗で小型のものである。いずれも弱く被熱している。14は中国徳化窯系磁器である。高台内は露胎である。15は

第105号土壙出土の卵殻手酒杯で、内面の上絵付けは被熱して黒く変色する。

16～26・101は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。いずれも強く被熱する。外面を染付で六区に分割し、各区画に「福」「壽」文を配す。同文の端反碗は最少個体数で10個体である。27～36はその蓋で強く被熱する。身と同様の染付を施し、つまみ内に「大明年製」銘を有す。最少個体数で8個体である。37・38は瀬戸美濃系磁器で、端反碗の蓋である。37は第106号土壙と第121号土壙で接合している。いずれも被熱する。39～49は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗としたが、口縁部は輪花状になる。小鉢としたほうが妥当かもしれない。おそらく向付のように用いられたものだろう。最少個体数は10点だが、破片数が多く、さらに1～2点あったように思われる。

50～60は肥前系磁器の猪口である。高台は蛇の目状高台、口縁部は僅かに切れ込みを入れて輪花状にする。外面には竹林人物文が染付されるが、金彩が加えられている。最小6個体以上であるが、破片数から、さらに数個体分あったように思われる。61・62は肥前系磁器鉢である。61は微塵唐草文を、62は花唐草文を染付する。

63～100・102～171は肥前系磁器の皿である。

63～71は肥前系磁器の小型の皿で、内面体部に微塵唐草文、内底面に環状松竹梅文を染付する。最少個体数は7個体である。

72～76は内面に山水楼閣文を一枚絵で染付する。最少個体数は5個体である。

77～95は内面体部に微塵唐草文を染付し、内底面に環状松竹梅文を染付する。77～79は重ねられた状態で被熱したもので、その痕跡が確認できる。80・81も別個体の皿が溶着しており、やはり重ねられていた可能性が高い。最少個体数は18個体である。なお、被熱した同文の皿は第104号土壙でも2片出土している。

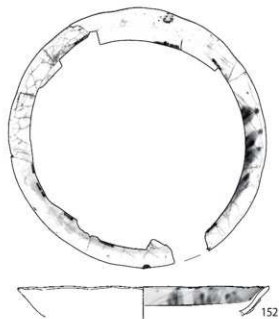
96～110は、内面に山水楼閣文を染付するもの



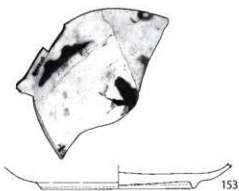
150



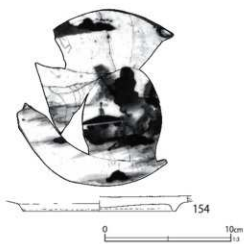
151



152



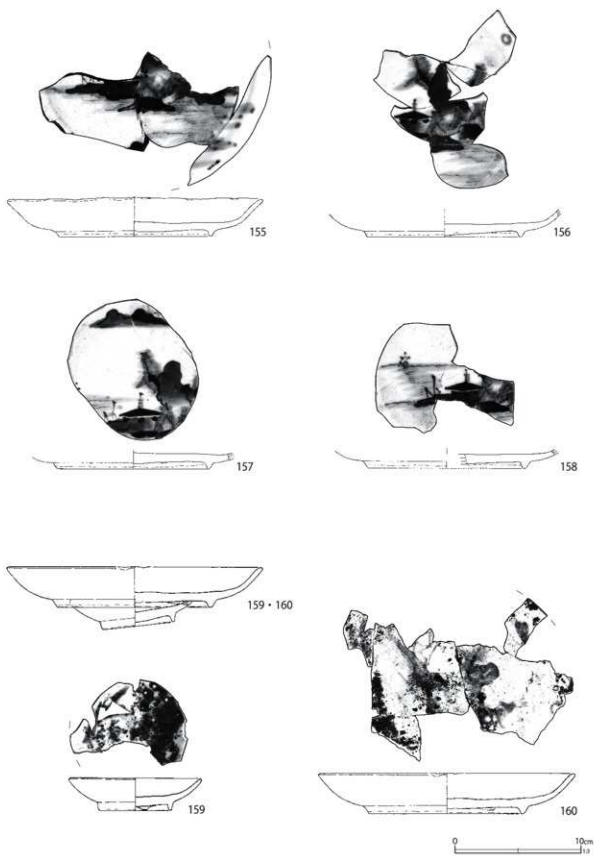
153



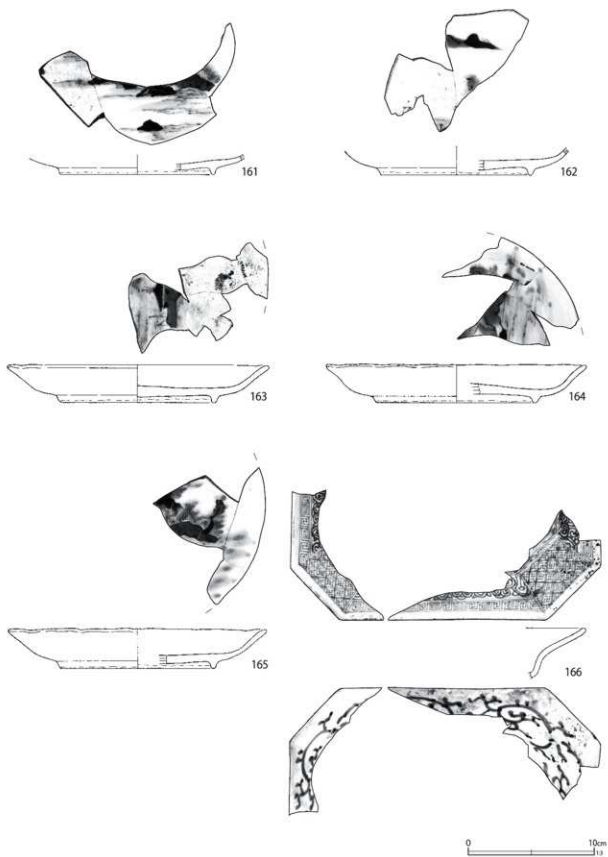
154

0 10cm

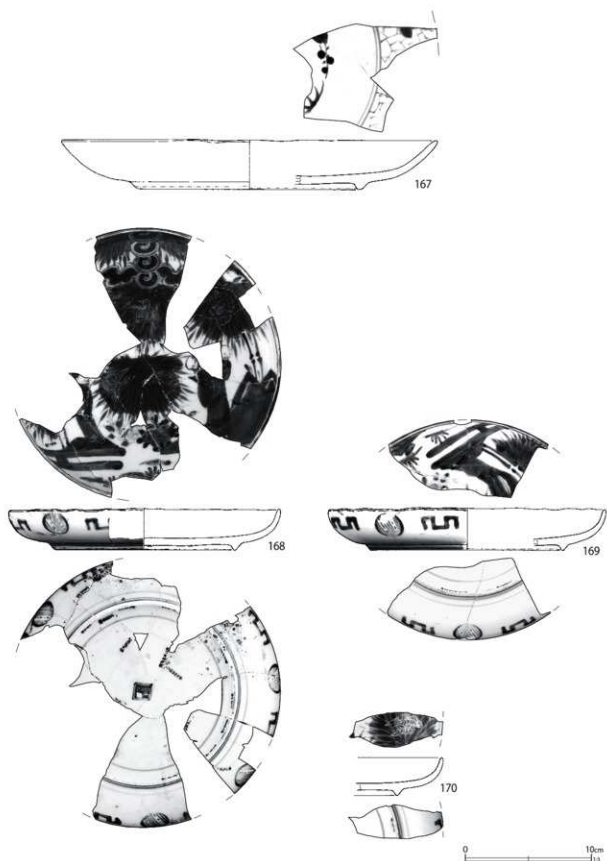
第 539 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (30)



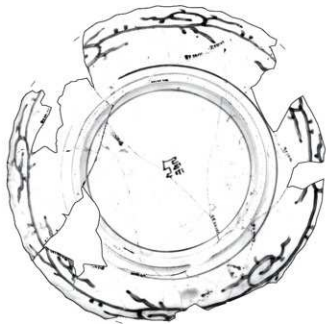
第540图 第105·121号土坑出土物(31)



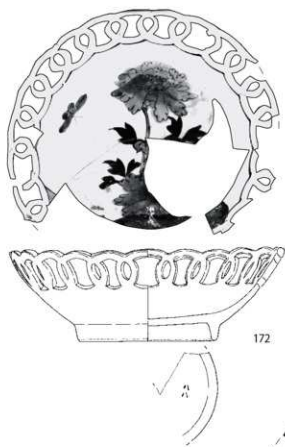
第 541 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (32)



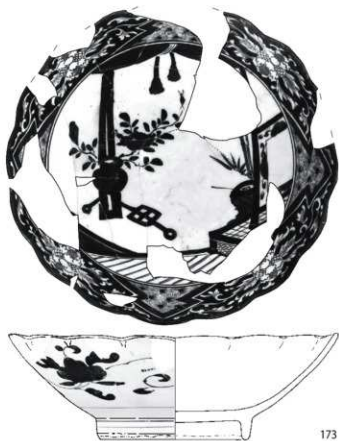
第542図 第105・121号土坑出土遺物(33)



第 543 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (34)



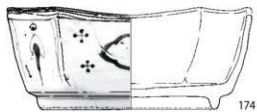
172



173

0 10cm
1/10

第544图 第105·121号土坑出土遗物(35)



174



175



176



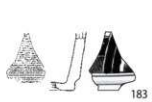
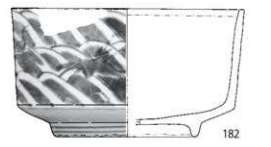
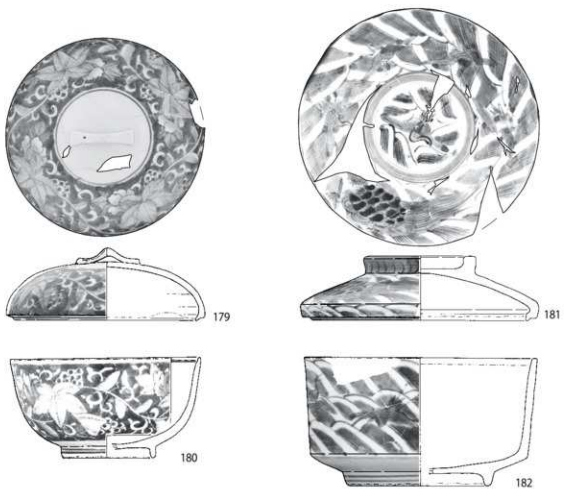
177



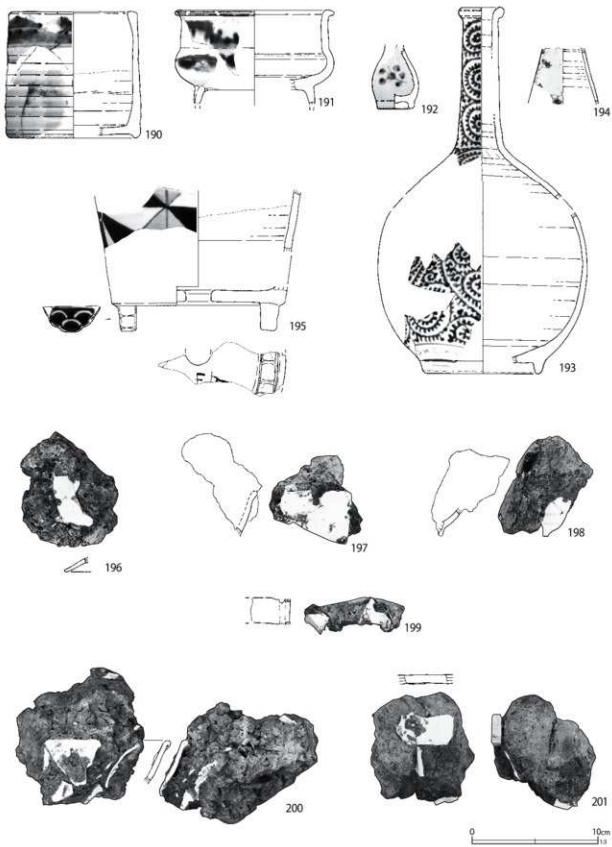
178



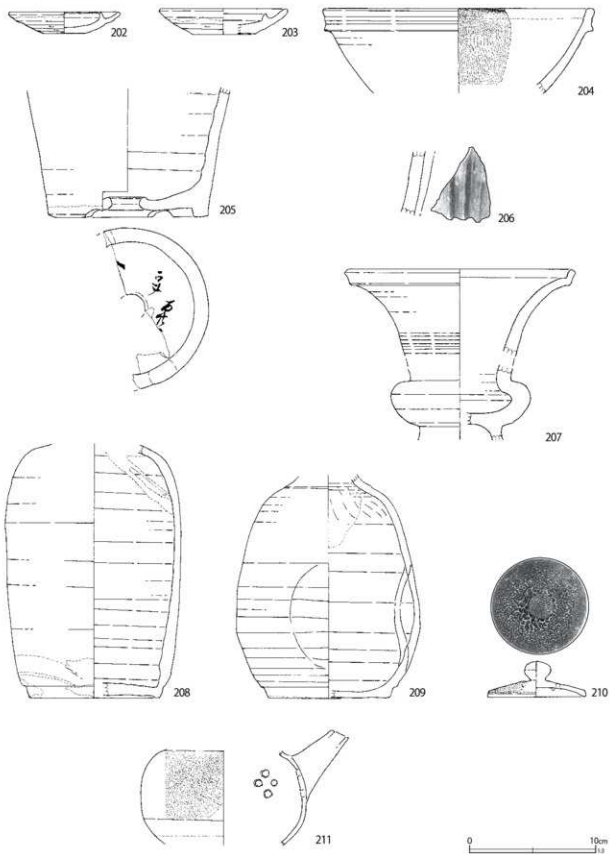
第 545 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (36)



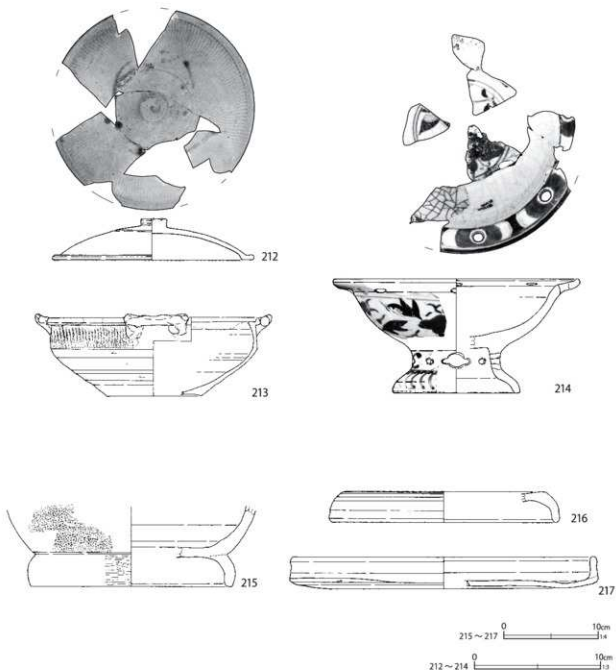
第 546 图 第 105·121 号土坑出土遗物 (37)



第 547 图 第 105・121 号土坑出土遗物 (38)



第548图 第105·121号土坑出土物(39)



第 549 図 第 105・121 号土壌出土遺物 (40)

第 224 表 第 105・121 号土壌出土遺物観察表 (2) (第 517 ~ 549 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(9.6)	5.2	(3.6)	-	60	普通	白	SK105・SK105・121 接合	肥前系 内外面施軸・121 染付 強く被熱・一部黒化 (煤の付着)	
2	磁器	碗	-	[1.6]	(5.4)	-	10	普通	白	SK107 SK107 肥前系	内外面施軸・染付 被熱・煤付着	
3	磁器	碗	11.2	6.2	4.7	-	100	普通	白	SK105・SK105・121 接合	肥前系 内外面施軸・121 染付	236-5
4	磁器	蓋	4.7	3.5	10.6	-	40	良好	白	SK105・SK105・121 接合	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・一部赤化 (燻反碗の蓋)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
5	磁器	碗	-	[3.7]	5.8	-	20	良好	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施釉 外面染付 内面ピン痕2遺存	
6	磁器	碗	(8.9)	4.6	3.8	-	35	良好	白	SK107	SK107 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱・煤付着 (端反碗)	236-6
7	磁器	碗	(9.2)	[5.0]	-	-	25	良好	白	SK106	SK106・107 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付 被熱・煤付着 (端反碗)	
8	磁器	碗	(10.3)	[4.9]	-	-	40	良好	白	SK105	SK105・107・121 接合 瀬戸美濃系 内外 面施釉・染付 弱く被熱・煤付着 121 (端反碗)	
9	磁器	碗	(8.1)	3.8	3.4	-	55	良好	白	SK121	SK121 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)	
10	磁器	碗	8.1	[4.0]	-	-	40	良好	白	SK105・ 145	SK105・145 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付	
11	磁器	坏	(6.5)	3.2	2.5	-	40	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施釉 被熱	
12	磁器	碗	(6.6)	[4.8]	-	-	30	良好	白	SK105	SK105・106 接合 肥前系 内外面施釉・ 染付 弱く被熱	
13	磁器	碗	(6.6)	[4.9]	-	-	30	良好	白	SK105	SK106・106 接合 肥前系 内外面施釉・ 染付 被熱	
14	磁器	碗	-	[1.9]	(3.5)	-	10	良好	白	SK105	SK105 中国徳化系 内外面施釉 高台 内藏胎 弱く被熱	236-7
15	磁器	坏	-	[2.4]	-	-	10	良好	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上 給付(青) 被熱して上給付変色	236-8
16	磁器	碗	10.5	[5.5]	-	-	85	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱して変形 (端反碗)	236-9
17	磁器	碗	(10.3)	6.0	(4.3)	-	35	普通	白	SK105	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付 強く被熱 (端反碗)	
18	磁器	碗	10.6	[5.2]	-	-	70	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱 (端反碗)	
19	磁器	碗	(10.4)	6.0	(4.4)	-	40	普通	白	SK105	SK105・106・121 接合 瀬戸美濃系 内外 面施釉・染付 強く被熱して一部赤変 121 (端反碗)	
20	磁器	碗	10.8	5.9	4.6	-	70	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 弱く被熱し少量煤付着 (端反碗)	
21	磁器	碗	(10.7)	[5.5]	-	-	60	普通	白	SK105	SK105・121・324 接合 瀬戸美濃系 内外 面施釉・染付 強く被熱 (端反碗) 324	
22	磁器	碗	(10.7)	6.0	4.3	-	50	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印 強く被熱 (端 反碗)	237-1
23	磁器	碗	(10.7)	[5.3]	-	-	10	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕 弱く被熱 (端反碗)	
24	磁器	碗	(10.6)	6.0	4.5	-	40	普通	白	SK105	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付 弱く被熱 (端反碗)	
25	磁器	碗	(10.7)	[4.8]	-	-	20	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱・土砂付着 (端反碗)	
26	磁器	碗	(10.7)	[4.9]	-	-	25	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱・一部赤変 (端反碗)	
27	磁器	蓋	3.8	2.7	9.3	-	100	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 弱く被熱 少量煤付着 (端反碗の蓋)	237-2
28	磁器	蓋	3.9	2.9	9.5	-	85	普通	白	SK105	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付 強く被熱・一部歪み (端反碗 の蓋)	
29	磁器	蓋	3.8	2.8	9.3	-	70	普通	白	SK105	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	
30	磁器	蓋	4.0	2.8	9.5	-	70	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱 (端反碗の蓋)	
31	磁器	蓋	3.8	2.9	(9.4)	-	40	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱し土砂付着・歪みあり (端反碗 の蓋)	
32	磁器	蓋	(3.9)	2.7	(9.3)	-	40	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 弱く被熱 (端反碗の蓋)	
33	磁器	蓋	3.8	2.7	(9.3)	-	30	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱 (端反碗の蓋)	
34	磁器	蓋	-	[2.0]	(9.2)	-	20	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱・一部赤変 (端反碗の蓋)	
35	磁器	蓋	-	[1.9]	(9.4)	-	20	普通	白	SK105	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施 釉・染付 被熱 (端反碗の蓋)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
36	磁器	蓋	3.7	[1.3]	-	-	10	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付被熱・土砂付着 (端反碗の蓋)	
37	磁器	蓋	-	[2.4]	(9.3)	-	30	普通	白	SK106-121	SK106・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付被熱 (端反碗の蓋)	
38	磁器	蓋	-	[2.3]	(9.1)	-	40	普通	白	SK121	SK121 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付僅かに煤付着 (端反碗の蓋)	
39	磁器	碗	8.6	6.3	4.5	-	80	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付強く被熱 砂付着	237-3
40	磁器	碗	8.0	6.1	4.5	-	80	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付被熱	
41	磁器	碗	8.1	6.2	4.3	-	80	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付被熱	
42	磁器	碗	8.3	6.1	4.3	-	60	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱	
43	磁器	碗	(8.0)	6.3	4.2	-	50	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱	
44	磁器	碗	8.0	[5.6]	-	-	60	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕 強く被熱	
45	磁器	碗	(8.1)	6.2	(4.6)	-	40	普通	白	SK121	SK121 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱	
46	磁器	碗	(8.4)	6.1	4.6	-	35	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱	
47	磁器	碗	(8.2)	6.1	(4.2)	-	30	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱	
48	磁器	碗	(7.8)	6.2	4.5	-	35	普通	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 138と溶着	
49	磁器	碗	(8.2)	[5.1]	-	-	25	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱	
50	磁器	猪口	8.5	7.3	6.9	-	85	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付(金・赤) 蛇の目状高台	237-4
51	磁器	猪口	8.8	7.6	6.8	-	50	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付(金・赤) 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕 強く被熱・赤染	237-5
52	磁器	猪口	-	[7.0]	(6.6)	-	30	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 外面色絵 蛇の目状高台 強く被熱・一部黒化	
53	磁器	猪口	(9.0)	7.3	(7.2)	-	15	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 外面色絵 蛇の目状高台 被熱	
54	磁器	猪口	(8.4)	7.3	(6.9)	-	30	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付 焼き継ぎ痕	
55	磁器	猪口	-	[3.9]	(6.6)	-	15	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付 蛇の目状高台 被熱	
56	磁器	猪口	-	[5.3]	(6.9)	-	10	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付 蛇の目状高台 強く被熱・黒化	
57	磁器	猪口	8.8	7.4	6.5	-	40	良好	白	SK105-121	SK105・121・127 接合 肥前系 内外面施軸・染付 外面色絵 蛇の目状高台 被熱	
58	磁器	猪口	8.2	[3.3]	-	-	20	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付 蛇の目状高台 強く被熱・一部黒化	
59	磁器	猪口	-	[5.2]	-	-	20	良好	白	SK105-324	SK105・324 接合 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付	
60	磁器	猪口	(9.2)	[4.3]	-	-	20	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 外面上給付 被熱・土砂・瓦溶着	
61	磁器	鉢	9.4	7.8	4.6	-	75	普通	白	SK104-121	SK121・104 接合 肥前系 内外面施軸・染付 被熱	237-6
62	磁器	鉢	9.5	6.5	4.3	-	75	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	237-7
63	磁器	皿	10.2	2.5	6.0	-	70	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
64	磁器	皿	10.0	2.5	5.8	-	80	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 被熱	237-8
65	磁器	皿	10.0	2.6	5.5	-	85	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 被熱	
66	磁器	皿	10.4	2.6	5.8	-	70	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して一部赤染・土砂少量付着	
67	磁器	皿	(10.0)	2.5	(5.7)	-	20	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して土砂付着	
68	磁器	皿	(10.2)	2.5	(5.6)	-	40	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
69	磁器	皿	(9.9)	2.5	(5.7)	-	35	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 被熱一部赤変	
70	磁器	皿	10.2	2.4	5.5	-	75	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
71	磁器	皿	(9.8)	2.4	(5.9)	-	25	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 付着した土砂を介して128の皿と溶着	
72	磁器	皿	(10.4)	2.6	6.2	-	55	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	237-9
73	磁器	皿	(10.2)	2.4	(5.8)	-	40	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	
74	磁器	皿	-	[1.8]	5.6	-	40	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	
75	磁器	皿	-	[1.5]	5.4	-	30	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	
76	磁器	皿	(10.4)	2.6	5.6	-	35	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	238-1
77	磁器	皿	14.8	4.6	9.1	-	75	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 強く被熱・内面に土砂付着	238-2
78	磁器	皿	14.7	4.8	8.8	-	75	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・一部土砂付着	238-2
79	磁器	皿	14.7	4.8	8.7	-	70	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 強く被熱・一部土砂付着	238-2
80	磁器	皿	(14.8)	5.1	9.1	-	40	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱して土砂付着・別の皿が溶着	238-3
81	磁器	皿	(15.0)	4.7	8.9	-	60	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・別の皿が溶着	238-3
82	磁器	皿	14.9	4.6	8.9	-	75	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱して土砂・別の皿溶着	238-4
83	磁器	皿	(15.1)	5.0	(9.0)	-	20	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱して土砂付着・磁器皿片溶着	
84	磁器	皿	15.0	5.0	8.7	-	80	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱して一部土砂付着	
85	磁器	皿	14.9	5.0	8.6	-	75	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱して一部土砂付着	
86	磁器	皿	14.4	4.9	8.8	-	75	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 焼き継ぎ痕 被熱	238-5
87	磁器	皿	(14.8)	5.0	8.6	-	40	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・土砂・磁器皿片溶着	
88	磁器	皿	14.8	4.9	8.7	-	70	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	
89	磁器	皿	(15.1)	4.9	(9.2)	-	50	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	
90	磁器	皿	(14.6)	5.1	9.0	-	50	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・一部に土砂・磁器皿片溶着	
91	磁器	皿	15.3	4.8	9.1	-	50	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	
92	磁器	皿	-	[2.6]	8.5	-	25	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・土砂付着	
93	磁器	皿	-	[3.1]	8.8	-	25	普通	白	SK105・121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	
94	磁器	皿	(14.8)	5.1	(9.3)	-	25	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・土砂付着	
95	磁器	皿	-	[2.2]	8.5	-	30	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱・土砂付着	
96	磁器	皿	-	[2.3]	8.8	-	35	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 被熱	238-6
97	磁器	皿	-	[2.5]	9.0	-	35	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱・一部赤変・強く歪む	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
98	磁器	皿	(15.0)	4.7	8.8	-	50	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱・別の 碗付着	
99	磁器	皿	(14.7)	4.6	(9.1)	-	35	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱・一部黒化	
100	磁器	皿	(15.2)	4.6	9.1	-	50	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱・一部 赤変・土砂付着	
101	磁器	碗	(11.0)	[3.1]	-	-	15	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 瀬戸美濃系 内外面施 軸・染付 強く被熱して変形・赤変(端 反碗)	
102	磁器	皿	-	[2.9]	(9.1)	-	25	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱・一部赤変	
103	磁器	皿	(15.4)	4.9	9.0	-	25	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱・一部 黒化	
104	磁器	皿	(15.3)	(4.5)	8.8	-	25	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱・割れた口縁部が体部 に接着 一部黒化・赤化	
105	磁器	皿	-	[2.1]	9.0	-	20	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱	
106	磁器	皿	-	[2.1]	(9.4)	-	10	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱 土砂・磁器片付 着	
107	磁器	皿	-	[1.9]	(8.9)	-	10	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 強く被熱 土砂・磁器片付 着	
108	磁器	皿	(14.0)	3.8	8.5	-	70	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱し内面付着 物あり	
109	磁器	皿	(13.9)	3.9	(8.5)	-	25	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 弱く被熱	
110	磁器	皿	(14.4)	3.7	(8.2)	-	15	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 僅かに保付着	
111	磁器	皿	14.0	3.4	10.0	-	90	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	238-7
112	磁器	皿	14.3	3.6	10.0	-	65	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
113	磁器	皿	14.3	3.4	10.0	-	60	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 内面上染付 蛇の目凹形高台 土砂 付着	238-8
114	磁器	皿	(14.0)	3.6	(10.3)	-	35	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
115	磁器	皿	(14.3)	3.5	(10.1)	-	30	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
116	磁器	皿	(14.0)	3.4	(10.1)	-	25	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
117	磁器	皿	(14.1)	3.7	(10.2)	-	15	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
118	磁器	皿	-	[1.7]	(10.2)	-	10	良好	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
119	磁器	皿	(14.0)	3.4	(9.7)	-	25	良好	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸・染付 被熱・ 土砂付着 蛇の目凹形高台	
120	磁器	皿	(14.2)	3.5	10.2	-	40	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 蛇の目状高台 強く被熱して土砂多 量付着・別の皿も附着	
121	磁器	皿	-	[1.9]	(10.2)	-	10	良好	白	SK324	SK324 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 煤付着 蛇の目凹形高台	
122	磁器	皿	(14.2)	3.4	(10.0)	-	10	良好	白	SK324	SK324 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上染付 蛇の目凹形高台	
123	磁器	皿	(14.1)	3.5	(10.0)	-	10	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 蛇の目凹形高台 被熱・土砂付着	
124	磁器	皿	16.0	5.9	9.5	-	85	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 蛇の目凹形高台 強く被熱・土砂付 着	239-1
125	磁器	皿	-	[10.1]	9.3	-	65	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の 目凹形高台 強く被熱・瓦・土砂付着	
126	磁器	皿	15.3	6.2	9.5	-	65	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の 目凹形高台 強く被熱・土砂付着	

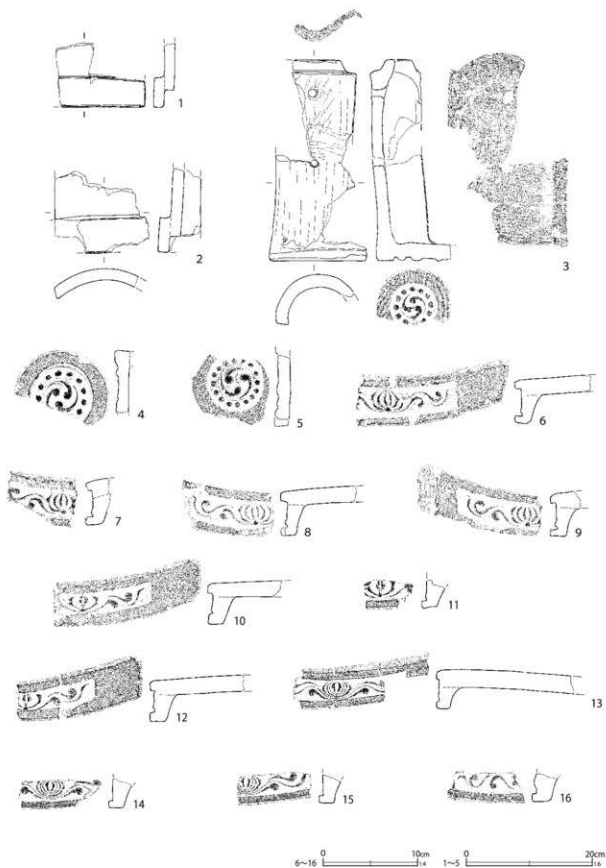
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
127	磁器	皿	(16.0)	5.3	9.7	-	55	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 強く被熱・土砂付着	
128	磁器	皿	-	[4.1]	9.4	-	40	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 強く被熱・土砂付着 71と溶着	
129	磁器	皿	-	[4.8]	-	-	10	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 強く被熱・砂付着	
130	磁器	皿	-	[2.6]	-	-	10	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・土砂付着	
131	磁器	皿	(15.5)	5.8	(9.9)	-	25	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 被熱・土砂付着	
132	磁器	皿	-	[3.4]	(9.5)	-	35	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 強く被熱・土砂・瓦付着	
133	磁器	皿	(15.4)	5.7	(9.4)	-	10	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 被熱	
134	磁器	皿	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸 外面染付	
135	磁器	皿	(15.2)	[4.3]	-	-	20	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 少量煤付着(被熱か)	
136	磁器	皿	-	5.6	-	-	5	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目圓形高台 被熱	
137	磁器	皿	(15.7)	[2.6]	-	-	15	良好	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
138	磁器	皿	18.3	3.2	8.1	-	80	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 土砂付着・別の皿破片溶着 48と溶着	239-2
139	磁器	皿	(18.2)	3.5	(8.3)	-	20	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して土砂付着、一部赤変	
140	磁器	皿	18.6	3.1	8.4	-	75	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して変形、一部土砂付着	
141	磁器	皿	18.3	3.2	8.0	-	70	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 一部被熱	
142	磁器	皿	(18.2)	3.2	8.0	-	50	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
143	磁器	皿	(18.3)	2.9	8.2	-	35	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・土砂付着	
144	磁器	皿	18.2	3.1	8.0	-	50	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
145	磁器	皿	18.4	3.0	8.0	-	75	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
146	磁器	皿	(18.0)	3.2	(8.1)	-	20	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
147	磁器	皿	(18.3)	[2.0]	-	-	10	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
148	磁器	皿	18.5	3.1	8.2	-	70	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 ほかの磁器皿・碗溶着	239-3
149	磁器	皿	(18.4)	3.0	8.2	-	40	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 少量の土砂付着	
150	磁器	皿	20.4	3.2	11.8	-	70	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 底部ハリ支痕1 被熱	239-4
151	磁器	皿	20.4	3.2	12.2	-	65	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 底部ハリ支痕1 強く被熱	
152	磁器	皿	19.6	[2.3]	-	-	25	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱・一部土砂付着	
153	磁器	皿	-	[1.9]	(12.0)	-	25	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕1 強く被熱	
154	磁器	皿	-	[1.2]	-	-	30	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕1 被熱	
155	磁器	皿	(19.9)	3.1	(11.9)	-	30	普通	白	SK105-324	SK105・324 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕1 被熱	
156	磁器	皿	-	[2.3]	(12.1)	-	20	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕1 被熱	
157	磁器	皿	-	[1.3]	(12.0)	-	20	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕3 被熱	
158	磁器	皿	-	[1.6]	(12.3)	-	15	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
159	磁器	皿	(10.2)	2.6	5.6	-	50	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熟して土砂付着 160 と 落着	
160	磁器	皿	(20.0)	3.2	12.0	-	35	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熟 159 と落着	
161	磁器	皿	-	[1.6]	(12.0)	-	15	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 弱く被熟	
162	磁器	皿	-	[2.3]	(11.7)	-	15	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 被熟・一部黒化	
163	磁器	皿	(20.6)	3.0	(12.0)	-	10	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 被熟・一部土砂付着	
164	磁器	皿	(20.5)	3.1	(12.4)	-	10	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 弱く被熟	
165	磁器	皿	(20.3)	3.1	(12.1)	-	10	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 被熟・一部黒化	
166	磁器	皿	-	[4.0]	-	-	15	良好	白	SK105-107	SK105・107 肥前系 内外面施軸・染付 被熟	239-5
167	磁器	皿	(29.4)	3.9	(17.4)	-	10	普通	白	SK105-106	SK105・106 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 焼き継ぎ痕 高台内ハリ支痕 被熟 SK121 と SK324 と同一個体	
168	磁器	皿	21.4	3.2	14.5	-	50	普通	白	SK105-106	SK105・106・50-1・E7g50r 接合 肥前系 内外面施軸・染付 内面上給付(金・赤) 金縁 被熟	239-6
169	磁器	皿	(21.8)	3.2	(15.3)	-	15	普通	白	S01	S01 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上給付(金・緑) 金縁 焼き継ぎ痕 SK105・121 と接合関係無いが、文様から 同文資料として、ともに図示	239-7
170	磁器	皿	-	3.0	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 内面 上給付(金) 金縁	
171	磁器	皿	25.2	4.7	14.6	-	80	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 高台内ハリ支痕 1 被熟	239-8
172	磁器	鉢	21.3	7.3	10.5	-	60	良好	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 内面染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 「ハハ」	240-1
173	磁器	鉢	25.5	8.8	11.0	-	75	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 一部被熟	240-2
174	磁器	鉢	19.1	8.0	13.8	-	90	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸・染付	240-3
175	磁器	鉢	(15.2)	[3.6]	-	-	15	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 煤付着	240-4
176	磁器	鉢	-	[2.9]	(9.1)	-	30	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 僅かに煤付着	240-5
177	磁器	鉢	(15.0)	4.9	9.6	-	15	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 少量の煤付着	
178	磁器	鉢	(14.7)	[2.7]	-	-	10	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 内面染付 弱く被熟	
179	磁器	蓋	-	5.7	14.3	-	90	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸 外面染付 被熟 最大径 15.8 cm	240-6
180	磁器	蓋物	14.9	7.9	7.1	-	70	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸外 面染付 被熟 179 の身	240-6
181	磁器	蓋	8.5	5.1	17.0	-	90	普通	白	SK105-121	SK105・121 接合 肥前系 内外面施軸・ 染付 182 の蓋 最大径 18.9 cm	240-7
182	磁器	蓋物	18.4	10.2	10.9	-	75	普通	白	SK105-121・324	SK105・121・324 接合 肥前系 内外面施 軸 外面上給付 181 の身	240-7
183	磁器	蓋物か	-	[4.6]	-	-	5	普通	白	SK106	SK106 外面施軸・染付 被熟・煤付着 184・185 と同一	
184	磁器	蓋物か	-	[6.9]	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 外面施軸・染付 被熟・煤付着 183・185 と同一	
185	磁器	蓋物か	-	[3.9]	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 外面施軸・染付 被熟・煤付着 183・184 と同一	
186	磁器	合子	(5.0)	2.2	(5.0)	-	20	普通	白	SK107	SK107 肥前系 内外面施軸	
187	磁器	合子	(3.9)	1.4	3.5	-	55	普通	白	SK107	SK107 肥前系 内外面施軸 被熟・煤付 着	
188	磁器	仏飯器	(5.5)	5.6	3.3	-	40	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 外面上給付 弱く被熟・煤付着	
189	磁器	仏飯器	-	[4.6]	(3.6)	-	30	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 煤付着	

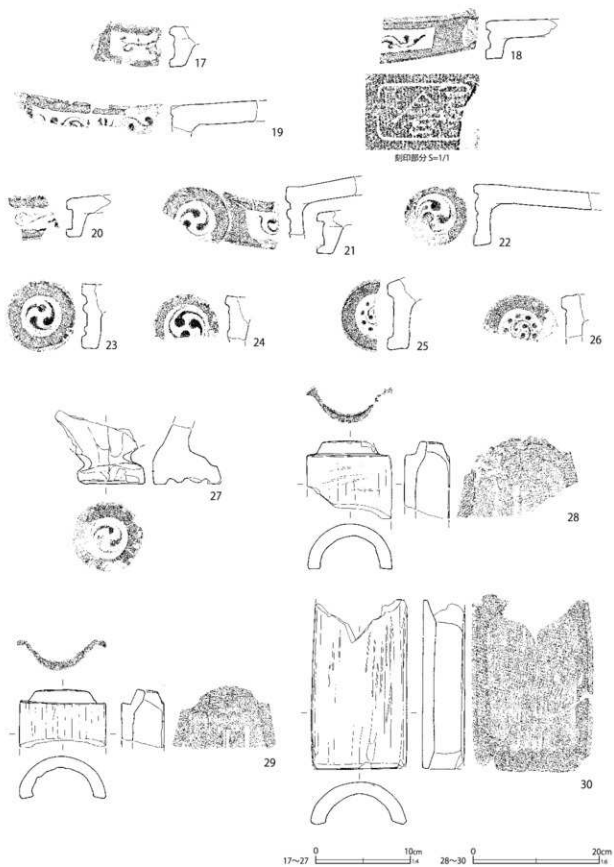
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
190	磁器	香炉 ²	(9.4)	9.9	(9.9)	-	25	普通	白	SK105-106・107	肥前系 内外面施軸 外面下位青磁軸・上位染付 高台内墨痕あり 上下接点ない数破片から図上復元	
191	磁器	香炉 ²	(11.9)	(7.4)	(9.4)	-	15	良好	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 外面染付 煤付着 上下接点ない2破片から図上復元	
192	磁器	御神酒 徳利	-	[5.1]	2.6	-	65	普通	白	SK121	SK121 肥前系 外面施軸・染付	
193	磁器	徳利	3.0	(29.0)	(9.1)	-	40	普通	白	SK105-324	SK105・324 接合, SK235に同一個体 外面施軸・染付 被熱 接点ない3破片から図上復元	
194	磁器	燗徳利	-	[4.5]	-	-	5	良好	白	SK105	SK105 瀬戸美濃系 外面施軸・染付 被熱	
195	磁器	植木鉢	-	[11.0]	(13.7)	-	15	良好	白	SK105-324	SK105(底部片)・SK324(胴部片) 肥前系 外面施軸・染付 被熱・煤付着 底部墨書	
196	磁器	蓋	-	[1.2]	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 肥前系か 内外面施軸 焼土塊に溶着・埋没	
197	磁器	皿	-	[3.6]	-	-	5	普通	白	SK121	SK121 肥前系 内外面施軸 外面染付 長8.1cmの焼土塊に付着・埋没	
198	磁器	皿	-	[2.2]	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸・染付 長6.8cmの焼土塊に付着・埋没	
199	磁器	皿	-	[2.0]	-	-	5	普通	灰	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸被熱して平瓦と接着	
200	磁器	皿	-	[3.4]	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 焼土塊に溶着・埋没	
201	磁器	皿	-	[0.7]	-	-	5	普通	白	SK105	SK105 肥前系 内外面施軸 外面染付 焼土塊に溶着・埋没	
202	陶器	灯明皿	(8.6)	1.7	3.3	-	50	良好	灰白	SK105	SK105 京都信楽系 内外面透明軸 被熱	
203	陶器	灯明皿	(9.8)	2.0	(5.0)	I	25	普通	黄灰	SK105	SK105 瀬戸美濃系 内外面柿軸・外面下位拭き取り 被熱・変色	
204	陶器	播鉢	(20.5)	[6.8]	-	I	10	普通	灰白	SK121	SK121 口縁部～外面鉄軸 内面樋目 小形 強く被熱・変色	240-8
205	陶器	植木鉢	-	[10.1]	12.6	E1	20	普通	灰白	SK105	SK105 瀬戸美濃系か 外面灰軸 底部墨書 被熱	241-1
206	陶器	不明	-	[5.1]	-	DE6	5	良好	灰白赤褐色	SK121	SKJ121 備前系 外面貼付文	241-2
207	陶器	花生	(17.5)	[13.4]	-	IK	15	良好	灰	SK105-121	SK105・121接合 瀬戸美濃系 内外面柿軸 被熱	
208	陶器	徳利	-	[19.9]	(10.1)	EHI	30	普通	淡黄	SK105-121	SK105・121接合 瀬戸美濃系 外面灰軸・121 底部拭き取り 強く被熱	
209	陶器	徳利	-	[17.5]	9.5	I	50	良好	黄灰	SK105-121	SK105・121接合 瀬戸美濃系 内外面柿軸 強く被熱 一部変色	241-3
210	陶器	蓋	-	2.8	7.5	HIK	100	良好	楊灰	SK121	SK121 上面絞肌軸 穿孔I	241-5
211	陶器	土瓶	-	[9.1]	-	I	30	良好	にぶい橙	SK121	SK121 内面灰軸 外面絞肌軸	241-7
212	陶器	蓋	-	3.3	15.8	I	70	良好	黄灰	SK121	SK121 内面灰軸 外面トビガンナ状施文 戻輪流掛 213の蓋	241-6
213	陶器	鍋	(16.4)	6.5	(7.4)	IK	35	良好	黄灰	SK121	SK121 内面灰軸 外面一部灰軸・トビガンナ状施文 被熱 212の身	241-8
214	陶器	鉢	(19.3)	9.1	(9.8)	-	25	良好	楊灰	SK105-121	SK105・121接合 萬古系か 内外面白化粧・施軸・呉須絵 強く被熱・一部赤変(孟洗)	241-4
215	瓦質土器	火鉢	-	[8.5]	(21.1)	CEH1	10	普通	にぶい赤褐色	SK105-106・107	SK121・105・106接合 外面ミガキ・施文 強く被熱・赤変 接点ない3破片から図上復元	
216	瓦質土器	蓋	(21.5)	3.2	(23.8)	CFHK	10	普通	灰白	SK121	SK121 上面シワ状痕 強く被熱・一部赤変	
217	土師質土器	培塔	(31.8)	3.3	(32.4)	CEF1	55	普通	浅黄橙	SK105	SK105 砂目底 被熱・赤変	

である。細部まで同文と考えられるのは、96～107(最少9個体)と109・110(最少2個体)である。108は1個体のみである。焼き雑さの痕跡がある。なお、100に101の端反碗が熱で溶着している。

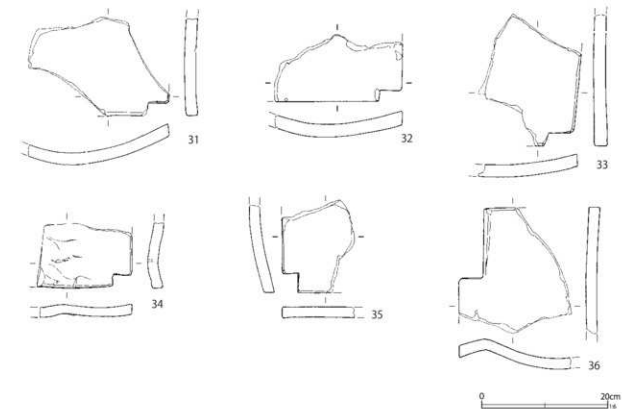
111～123は腰が張るもので、蛇の目凹形高台のものである。内面には竹林人物文を染付し、上絵付けで金彩を加える。最少個体数は9個体である。124～137は口縁部を短く折り返して玉縁状にするものである。蛇の目凹形高台を有し、内面



第 550 图 第 105 号土坑出土遗物 (1)



第 551 图 第 105 号土坑出土遗物 (2)

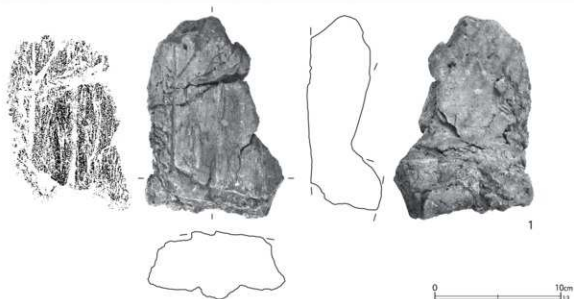


第 552 図 第 105 号土城出土遺物 (3)

第 225 表 第 105 号土城出土遺物観察表 (1) (第 550 ~ 552 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	道具瓦	[10.3]	[14.4]	-	ACHIKL	良好	にぶい橙	SK105	伏間瓦 被熱・赤変	
2	瓦	道具瓦	[13.0]	[15.2]	-	ACIK	良好	灰白	SK105	伏間瓦 被熱・赤変	
3	瓦	軒丸瓦	32.3	15.8	15.1	AHIK	普通	灰白	SK105	12 珠文 被熱・変色 凸面ヘラナゲ一部布圧痕 凹面ゴザメ	251-9
4	瓦	軒丸瓦	-	[14.6]	(14.8)	AELK	良好	灰白	SK105	右巻き	251-10
5	瓦	軒丸瓦	[11.5]	[13.1]	(15.0)	ACIK	良好	灰白	SK105	SK106 と接合 16 珠文 左巻き 弱く 被熱・変色 胎土硬質	251-11
6	瓦	軒棧瓦	[8.5]	[16.4]	-	AIK	普通	灰白	SK105	被熱・変色 胎土軟質	252-1
7	瓦	軒棧瓦	[2.8]	[7.3]	-	ACIK	普通	灰白	SK105	胎土軟質	
8	瓦	軒棧瓦	[8.3]	[11.4]	-	AHIK	普通	浅黄橙	SK105	被熱・赤変	
9	瓦	軒棧瓦	[3.4]	[13.7]	-	AHIK	普通	灰白	SK105	被熱・変色 胎土軟質	252-2
10	瓦	軒棧瓦	[8.2]	[16.0]	-	AHIK	普通	灰白	SK105		252-3
11	瓦	軒棧瓦	[2.6]	[5.9]	-	AHIK	普通	にぶい橙	SK105	被熱・赤変	
12	瓦	軒棧瓦	[10.0]	[14.4]	-	ACHIK	普通	にぶい黄橙	SK105	被熱・赤変	252-4
13	瓦	軒棧瓦	[14.6]	[23.8]	-	AHIK	良好	灰黄	SK105	被熱・変色	252-5
14	瓦	軒棧瓦	-	[9.1]	-	AHIK	普通	灰白	SK105	被熱・変色	
15	瓦	軒棧瓦	-	[8.3]	-	AIK	普通	灰白	SK105	被熱・赤変	
16	瓦	軒棧瓦	-	[9.8]	-	AK	普通	にぶい黄橙	SK105	被熱・赤変	
17	瓦	軒棧瓦	-	[8.6]	-	ACHIK	普通	灰白	SK105	弱く被熱 胎土軟質	252-6
18	瓦	軒棧瓦	[7.6]	[11.1]	-	AHIK	良好	灰白	SK105	刻印あり 鋳化 胎土硬質	252-7
19	瓦	軒棧瓦	[10.3]	[20.3]	-	AHIK	普通	にぶい黄橙	SK105	被熱・変色	
20	瓦	軒棧瓦	[5.1]	[5.6]	-	AIK	普通	灰白	SK105	被熱・変色 胎土軟質	
21	瓦	軒棧瓦	[8.1]	[12.6]	(7.4)	AIK	普通	灰白	SK105	右巻き 被熱・変色 胎土軟質	

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
22	瓦	軒棧瓦	[13.5]	[8.3]	6.5	AHK	普通	灰白	SK105	右巻き	252-8
23	瓦	軒棧瓦	-	[7.5]	7.0	EHI	普通	にぶい黄橙	SK105	被熱・赤変 胎土軟質	
24	瓦	軒棧瓦	-	[6.5]	6.4	AHK	普通	橙	SK105	左巻き 被熱・赤変 胎土軟質	
25	瓦	軒棧瓦	[3.8]	[4.5]	6.7	AEMK	普通	灰白	SK105	左巻き 被熱・変色	
26	瓦	軒棧瓦	-	[7.5]	[7.0]	AHK	普通	浅黄橙	SK105	左巻き 被熱・変色	
27	瓦	隅瓦	[7.8]	[9.2]	[7.2]	AHK	普通	浅黄橙	SK105	右巻き 被熱・赤変 胎土粉質	
28	瓦	丸瓦	[12.4]	13.7	-	AIK	普通	にぶい橙	SK105	被熱・変色 凸面ヘラナゲ後ヨコナゲ 凹面一部ゴザメ、内叩き	
29	瓦	丸瓦	[9.3]	14.0	-	AIK	普通	灰白	SK105	凸面ヘラナゲ明瞭 凹面ゴザメ、内叩き	
30	瓦	丸瓦	28.2	15.3	-	AIK	普通	灰白	SK105	被熱・変色 凸面丁寧なヘラナゲ、 工具のあたりがミガキ状になる 凹面ゴザメ、弱く内叩き	
31	瓦	棧瓦	[15.8]	[22.7]	-	AIK	普通	灰白	SK105		
32	瓦	棧瓦	[10.7]	[20.6]	-	AIK	普通	灰白	SK105	被熱・変色	
33	瓦	棧瓦	[21.1]	[16.6]	-	AIK	良好	灰白	SK105	硬質	
34	瓦	棧瓦	[10.4]	[15.3]	-	AIK	普通	灰	SK105	強く被熱して赤変・変形	
35	瓦	棧瓦	[11.6]	[14.9]	-	AHK	普通	灰白	SK105	被熱・変色	
36	瓦	棧瓦	[20.2]	[18.1]	-	AHK	普通	灰黄	SK105	被熱・変色 黒色粒子目立つ	



第 553 図 第 105 号土壌出土遺物 (4)

には大きく花文を染付する。最少で7個体だが、破片数を見るとさらに2、3個体あったように思われる。

138～149は外反して口縁部に至る皿で、内面体部に八卦文、内底面に建物内の人物を染付する。最少個体数が10個体である。なお、第107号土壌に同文の皿が一片含まれる。

150～158・160～165まではやや大振り、内面に山水樓閣文を染付する。高台内の中央に一箇所のハリ支え痕を有すものである。接合率が悪

かったが、最少個体数は11個体である。なお、隣接する第1号道路跡からも同文の破片2片が出土している。

166は、平面形が多角形（おそらく四隅を面取りした八角形）の大皿である。第105・107号土壌から出土したもので、被熱している。167は内面体部に氷裂文、内底面に環状松竹梅文を染付する大皿である。168～170は、腰が張るもので、蛇の目凹形高台のものである。染付と上絵付けは111～123と同じであり、大小の組み物だった可



第 554 図 第 105 号土壙出土遺物 (5)

第 226 表 第 105 号土壙出土遺物観察表 (2) (第 553・554 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚み	胎土	遺構	備考	図版
1	建築材	壁土	16.2	11.1	5.8	EHI	SK105	材圧痕 被熱・赤変	
2	建築材	壁土	11.9	9.2	5.6	CEI	SK105	材圧痕 被熱・弱く赤変	
3	建築材	壁土	12.9	14.3	10.0	CEHI	SK105	被熱・弱く赤変	

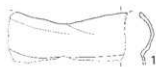
能性が高い。最少個体数は 2 個体である。

171 は口縁部を細かい輪花状に成形する大皿である。

172～178 は肥前系磁器の鉢である。172 は口縁

部に環状の透かしを有すものである。173 は口縁部を輪花状に作る大型の鉢である。174 は変形の鉢で、平面形は四隅を面取りして八角形にする。

171 の皿や 172～174 の鉢は、別個体破片が出土し



第 555 図 第 105 号土壇出土遺物 (6)

第 227 表 第 105 号土壇出土遺物観察表 (3) (第 558 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	不明	縦 [4.0] 横 [9.4] 厚さ 0.3 重さ 61.2	SK105	被熱・変形 容器の一部か	
2	銅製品	不明	縦 [4.5] 横 [6.9] 厚さ 0.4 重さ 39.3	SK105	被熱・変形し重着あり 容器の一部か	

ておらず、一点ずつの所有だったと思われる。

175～178は所謂八角鉢だが、器高が低い点が珍しい。最少個体数は2個体である。

179・180および181・182は、肥前系磁器の蓋物と蓋である。いずれもサイズの大きいものである。183～185は肥前系磁器の蓋物の破片で、同一個体の可能性が高い。内面にカキ目状の痕跡がある。186・187は肥前系磁器の合子、188・189は仏飯器である。190・191は肥前系磁器の香炉だが、いずれも明確な被熱痕が認められない。

192は肥前系磁器の御神酒徳利で小さなサイズのものである。193は肥前系磁器の徳利で、直接接合しない複数の破片から図上復元した。194は瀬戸美濃系磁器の爛徳利で、被熱している。195は瀬戸美濃系磁器の植木鉢である。第105号土壇と第324号土壇から出土した接点の無い数破片から、復元して図示した。被熱している。196～201には、焼土塊内に埋もれた状態の磁器片を示した。196は端反碗の蓋、他は肥前系磁器の皿類である。

磁器類と比較して陶器は極端に少ない。202は京都信楽系陶器、203は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。204は産地不詳の播鉢で小型である。胎土は白色味が強く粉っぽい。口縁部から外面に鉄釉が施される。被熱して一部黒化している。205は灰釉を施釉する植木鉢である。206は胎土から

備前系陶器のようだが、器種は不明である。207は瀬戸美濃系陶器の柿軸を施す花生である。被熱して破損した数破片から復元して図示した。

208は瀬戸美濃系陶器の一升徳利、209はべこかん徳利である。210・211は陶器の土瓶と蓋で、同一個体と思われる。外面に細かい鮫肌釉を施す。第121号土壇の出土だが、被熱しておらず後世の混在かもしれない。212・213は鍋と蓋で、外面に細かなトビガナナ状の施文を行い、灰釉を流し掛ける。身のほうは破片ごとに色調に差が見られ、被熱痕と思われるが、明確ではない。214は陶器の台付鉢で、胎土は緻密・妬器質である。白化粧の上に透明釉、さらに崩れた花唐草文らしい文様を絵付けする。あまりみられない器種だが、口縁部に円孔を巡らすのは萬古系陶器に多い。従って本資料は萬古系陶器の台付鉢ないし盃洗と考えることができる(鈴木裕子氏の御教示)。明確に被熱して、一部歪んでいる。

215～217は土器類で、陶器よりもさらに少ない。図示したものは全て被熱している。いずれも角閃石等を含むもので、栗橋周辺地域で生産されたものと考えられる。

以上、陶磁器は全体として19世紀はじめ頃の様相にみえる。しかし、12・13の磁器湯呑形碗や、15の内面に「江戸絵付け」を有す非鉄手酒杯が被熱しており、火災の時期は、1830～40年

代と推定する。

第550～552図には瓦を示した。1・2は道具瓦（伏間瓦）である。3～5は軒丸瓦である。6～26までは軒棧瓦である。6～9に示したものは、中心飾りが片側三枚の蓮弁、唐草は巻きがやや大きい。非掲載のものを含め8点（中心飾り遺存6点）が認められる。13～15は、中心飾りが片側4枚の細い蓮弁で、唐草の巻きは緩い。非掲載のものを含めて9点（中心飾り遺存5点）が認められる。本跡出土の軒棧瓦は、この二種が主体である。27は「隅巴」の部分である。28～30は丸瓦、31～36は棧瓦の隅切部分を示す。

第553・554図は被熱した壁土材である。どのような部分の破片なのか窺えないが、拓本で示したように平坦面に木目状の圧痕が見られるものが多い。第555図は金属製品で、銅製品の破片と考えられる。

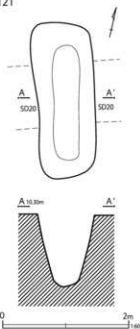
第121号土塋（第556～558図）

E7-H5グリッドに位置し、長軸2.45m、短軸0.98m、深さ1.10mの隅丸長方形を呈する土塋である。中心部に第20号溝跡が重複するが、この溝は地境溝であり、本跡は地境を無視して構築されたことが窺われる。

陶磁器類については、第105号土塋のものとともに第510～549図に示したとおりである。

第557・558図1～16図は出土した瓦類である。1は鬼瓦の破片である。2～12は軒棧瓦である。瓦当文様にはややバリエーションがある。特徴的なのは、中心飾りが括れて珠文のようになる5～7で、これまであまり類例が見られないものである。3の平瓦部の上面には朱線が認められる。11・12は軒棧瓦の軒丸部分で、12は素文とする。13は軒丸瓦である。14は平瓦（ないし棧瓦の平部分）に焼成後の刻書があるものである。「角屋／七兵衛」と書かれており、本区画の「旅籠屋 百姓 七兵衛」が、「角屋」の屋号を名乗っていたことが分かる。

S K 121



第556図 第121号土塋

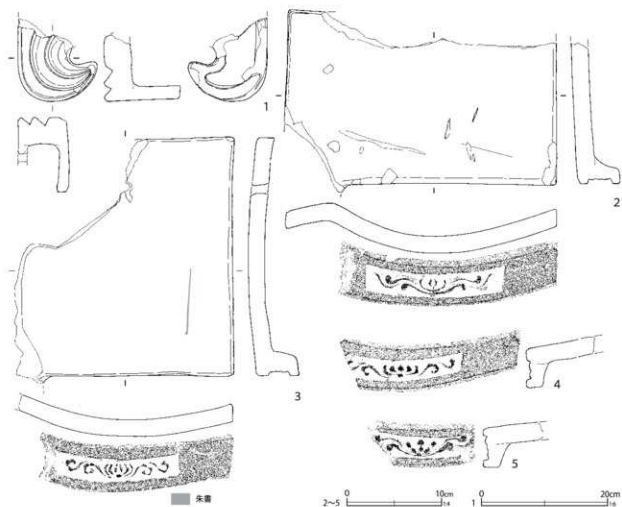
第558図17は、緑色を呈する有色硝子の瓶である。後世の混在と思われるが、国内に持ち込まれた英国製品であり、取り上げておく。表面には陽刻（エンボス）状に文字が入れられ、伝製品と比較すると「[J. SCHWEP] PE & Co/[51 BERNERS] STREET/[OXFORD STREE] T/[GENUINE SUPER] IOR/[AERATED W] ATERS」と復元される。底部が丸い所謂「ハミルトンボトル」で、炭酸水を入れた容器である。J. SCHWEPPE & Co は、1783年にスイスのジュネーブで設立され、1792年以降は英国ロンドンで事業を展開させた。瓶自体は、レモネードを含む炭酸飲料の生産が盛んだった19世紀中頃～末葉に帰属するものであろう。

本跡は第105号土塋と同時期の火災処理に関わる土塋であるが、土層が若干攪乱されているようで、一定の混在遺物の存在が推定される。

第7区画のその他の土塋

第105・121号土塋以外でも、第7区画には火災に関連した土塋が認められる。

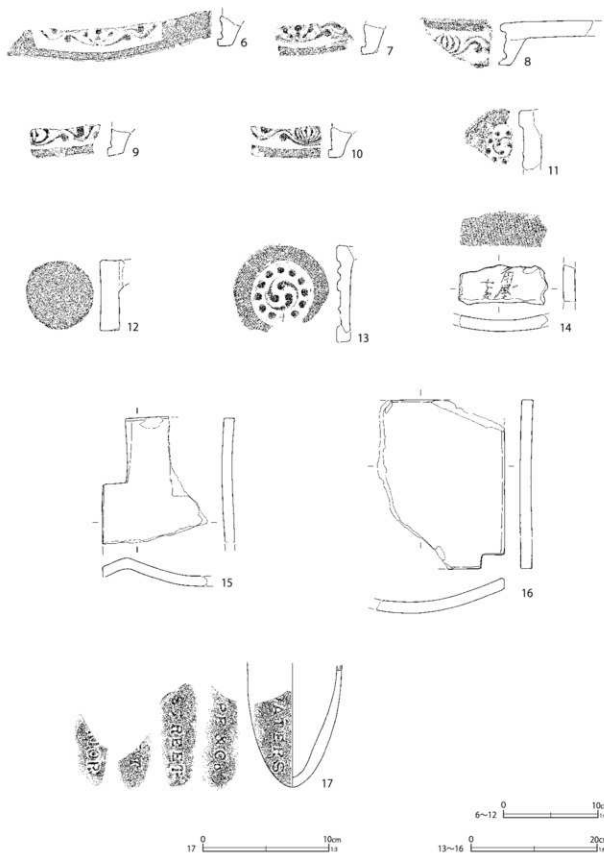
第106号土塋は第105号土塋の北側に位置し、



第557図 第121号土壇出土遺物(1)

第228表 第121号土壇出土遺物観察表(第557・558図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	鬼瓦	[13.3]	[12.7]	-	AIK	普通	灰白	SK121	裏面穿孔あり	252-10
2	瓦	軒椽瓦	[19.3]	28.9	-	AIK	普通	灰白	SK121	上面にヘラのあたり、傷多い	253-2
3	瓦	軒椽瓦	26.1	[23.2]	-	AHIK	普通	灰白	SK121	上面に朱書き線あり	253-1
4	瓦	軒椽瓦	[7.7]	[19.5]	-	AHIK	良好	にぶい黄橙	SK121	被熱・赤変 胎土硬質	253-3
5	瓦	軒椽瓦	[6.4]	-	[11.4]	-	AK	不良	SK121	胎土軟質	253-4
6	瓦	軒椽瓦	-	[21.3]	-	AIK	普通	灰	SK121		253-6
7	瓦	軒椽瓦	-	[8.6]	-	AIK	普通	灰白	SK121		
8	瓦	軒椽瓦	[10.0]	[9.0]	-	AHIK	普通	灰白	SK121	被熱・変色	
9	瓦	軒椽瓦	-	[7.4]	-	AHIK	普通	にぶい橙	SK121	被熱・赤変	
10	瓦	軒椽瓦	-	[7.7]	-	AHIK	普通	にぶい黄橙	SK121	被熱・赤変	
11	瓦	軒椽瓦	[3.1]	[4.7]	(7.6)	AHIK	普通	灰白	SK121	左巻き 9珠文か 被熱・赤変	
12	瓦	軒椽瓦	[3.0]	[7.7]	7.4	AHIK	普通	灰白	SK121	書文	
13	瓦	軒丸瓦	[4.4]	-	15.2	AHIK	普通	にぶい黄橙	SK121	左巻き 12珠文 被熱・赤変	
14	瓦	平瓦	[6.3]	[14.3]	-	AHIK	良好	灰白	SK121	上面釘書き「角屋/七兵[衛]」 胎土硬質	235-5
15	瓦	椽瓦	[20.5]	[16.9]	-	ACTK	良好	灰白	SK121	胎土硬質	
16	瓦	椽瓦	27.1	[20.5]	-	AHIK	普通	灰白	SK121		
17	硝子製品	瓶	器高 [9.7]	重 188.0				緑色・透明	SK121		284-9



第 558 图 第 121 号土坑出土遗物 (2)

長軸2.42mの隅丸長方形を呈する土壌である。覆土の下層に被熱した瓦類が埋められ、次いで焼け焦げた炭化材を埋め、さらに焼土・壁土が埋められている。出土した陶磁器は被熱遺物が主体だが、被熱が認められない近代の陶磁器もかなり混在している。遺構の一部が攪乱されているものと思われる。

第560図1～3に出土した陶磁器類を示す。1は肥前系磁器の半球形碗で、外面に蛸唐草文が染付される。明確に被熱している。2は瀬戸美濃系磁器の坏で、しぎ状の施文後に酸化クロム青磁釉を施釉。3は笠間系陶器の挿鉢である。胎土は橙色味が強く、黒色粒子を多く含む。2・3は被熱がみられない。火災自体は第105・121号土壌と同時期であろう。瓦は多くが被熱していた。軒椽瓦は破片数で44点出土している。軒平部分の瓦当文様は第105号土壌で多かった二種類が主体であった。第573図1は鬼瓦である。2は集合的な条線を有す平瓦である。後世の混入と思われる。第574・575図1～4には被熱した壁土材を示す。1は遺存部分が円筒形をしており、全体の形状を想定し難いものである。

第583図1～6・第584図1には金属製品を示す。このうち第583図1～3は銅製品で、1は切羽、2は容器の破片、3は把手の破片である。第585図1・2は石製品である。

第107号土壌は、第106号土壌の西隣に位置し、調査区外に延びる。長軸3.10mの隅丸長方形を呈する土壌である。覆土は焼土ブロックを主体とする土層で、明らかに火災処理土壌である。

出土した陶磁器を第560図4～9に示す。4は瀬戸美濃系磁器の坏で、薄手の器壁は口縁部で僅かに端反る。被熱はみられない。5は肥前系磁器の鉢で、外面に山水楼閣文を染付するものらしい。明確な被熱はみられず、僅かに煤の付着がある。6は肥前系磁器の合子蓋、7は京都信楽系陶器の灯明皿、8は瀬戸美濃系陶器の片口鉢であ

る。これらは明確に被熱している。9の瓦質土器蓋も被熱・変色がみられる。なお、8の片口鉢には、第106・121・145号土壌と接合関係がみられた。このほか、肥前系磁器では、小丸碗・多角形の皿・一對の御神酒德利・蓋物、瀬戸美濃系磁器では端反碗の蓋・爛德利・鉢類、瀬戸美濃系陶器ではべこかん德利・植木鉢・水鉢に被熱がみられた。全体として陶器は少なく、磁器が多い。

第573図3～6には瓦類を示した。5は集合的な条線を有す平瓦である。後世の混入と思われる。第575・576図5～7は、被熱した壁土、第576図8・9は漆喰である。漆喰は8が分銅形、9が円形を呈する薄いものである。あるいは2つが重なって用いられていたものかもしれない。

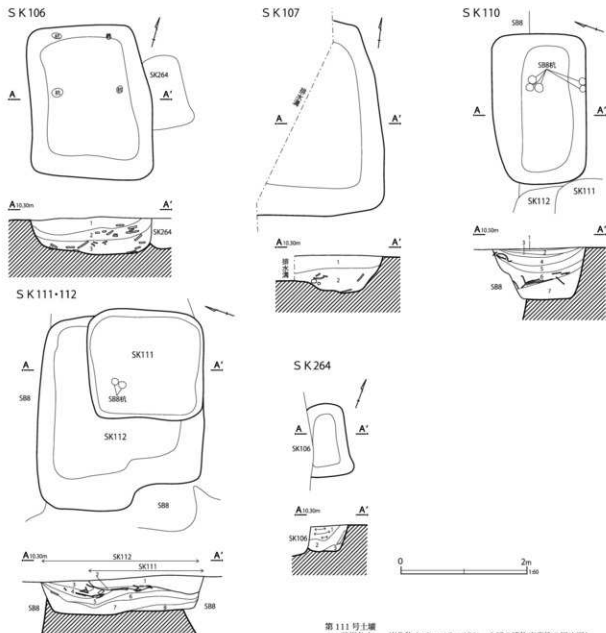
第583図7・8には金属製品の鉄釘、第585図3には大型の砥石を示す。

本跡も第105・106・121号土壌と同時期の火災に関わるものであろう。

第110・111・112号土壌は、いずれも第8号建物跡の基礎に囲まれた範囲内に位置する。

第110号土壌は長軸2.38mの隅丸長方形を呈する土壌である。覆土は下層に木製品が多いが、その中でもより下位に建築材のようなものが多く、建物跡などの解体に伴う廃棄が想定されている。

第560～564図10～63は出土した陶磁器である。11の瀬戸美濃系磁器の丸碗や、14～16の瀬戸美濃系磁器坏に酸化コバルト染付が施される。23は瀬戸美濃系磁器の端反になる皿で、染付・絵付けは見られない。24は瀬戸美濃系磁器の皿で、平面形は方形の四隅を面取った八角形である。25は肥前系磁器の皿で、平面形は変形した菱形である。いずれも高台内に「玩」の染付銘と、「匠」の釘書きが見られる。『絵図』にみる居住者の「七兵衛」を示す「カド七」の店印と考えられる。40は胎土に黒色の斑がみられる爛德利で、大塚相馬系陶器と考えられる。53は瓦質土器の香炉で、外面に横方向の弱いミガキが施



第 106 号土壇

- 1 褐色土 赤褐色焼土小ブロック多量 炭化物含む 瓦比較的不多い
- 2 褐色土 赤褐色焼土小ブロック・炭化物含む 瓦は1層より多い
- 3 黒褐色土 赤褐色焼土小ブロック少量 炭化物多量 瓦比較的多量

第 107 号土壇

- 1 暗褐色土 焼土ブロック極多量 炭化物多量 粘性・しまりあり 1層より多い 焼土ブロック極多量 1層より焼土ブロックが大きい 炭化物多量 粘性・しまり弱 表面が炭化した木材(板・杭)出土 壁面の被熱による硬化はなし 多量の焼土ブロック、被熱した瓦が出土するが、2層出土のものの方がサイズが入る 焼土ブロックにはスガが混じる 火災後の片付跡か
- 2 暗褐色土

第 110 号土壇

- 1 灰色細砂 砂粒粗粒過ぎ 検出面上に分布する洪水砂か
- 2 灰色土 砂質 焼土・炭化物微量 細砂多量 流入土
- 3 灰色土 焼土・炭化物少量 流入土
- 4 暗褐色土 木製品、特に樹皮を多く含む 流入土か
- 5 灰色土 細砂少量 樹皮・木製品少量 粘性あり 埋戻し
- 6 灰色土 細砂微量 樹皮少量 木製品多量に炭塵 粘性強
- 7 暗褐色土 樹皮多量 木製品は比較的少ない 上層と異なり構造物の解体に伴う炭塵と解釈される

第 111 号土壇

- 1 暗褐色土 炭化物(φ2～15mm)7% 2層の遺物焼棄後の埋め戻し しまり弱
- 2 樹皮等の層 木製品 樹皮等多量に含む 小規模な建物群替によるものか

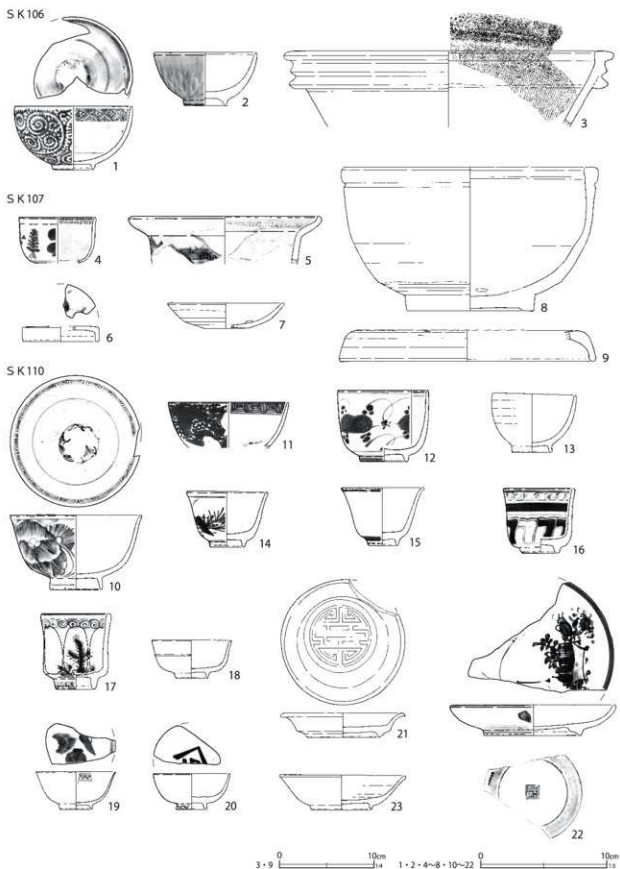
第 112 号土壇

- 1 灰色土 木製品少量
- 2 灰黄褐色土 炭化物少量 樹皮少量 木製品多量 一時的な現象によるものか
- 3 黒褐色土 木質の繊維、貝、小礫等がラミナ状に堆積する 日常的な廃棄によるものか
- 4 灰黄褐色土 砂質 灰土ベースに細砂含む 樹皮少量
- 5 灰黄褐色土 細砂少量 樹皮含む 木製品微量 木質繊維の多い
- 6 暗褐色土 黒色土が交互にラミナ状に堆積する
- 7 暗褐色土 細砂・樹皮少量 南側からの廃棄か

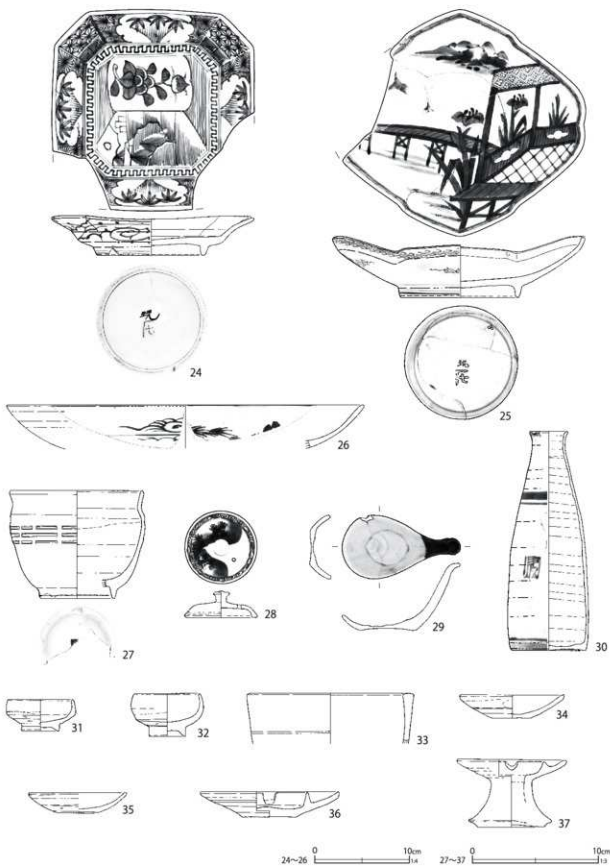
第 264 号土壇

- 1 灰褐色土 砂質 黄白色シルト質土(地山土)ブロックをまばらに含む 遺物片含む 下層に炭化物堆積含む 帯状(矢印方向)に褐鉄集中がみられる 粘性なし しまり強
- 2 暗灰褐色土 砂質 地山土の黄白色シルトブロック(φ15～30mm)多量 一辺3～5cm、幅1cm前後の炭化物材片含む ほぼ完形の陶磁器片・瓦片多く含む 粘性あり しまり弱
- 3 灰褐色土 砂質 地山砂質土層と黒砂の状がやや色調暗い 遺物・炭化物片含むが1・2層に比べ少量で均質の堆積 粘性弱 しまりあり

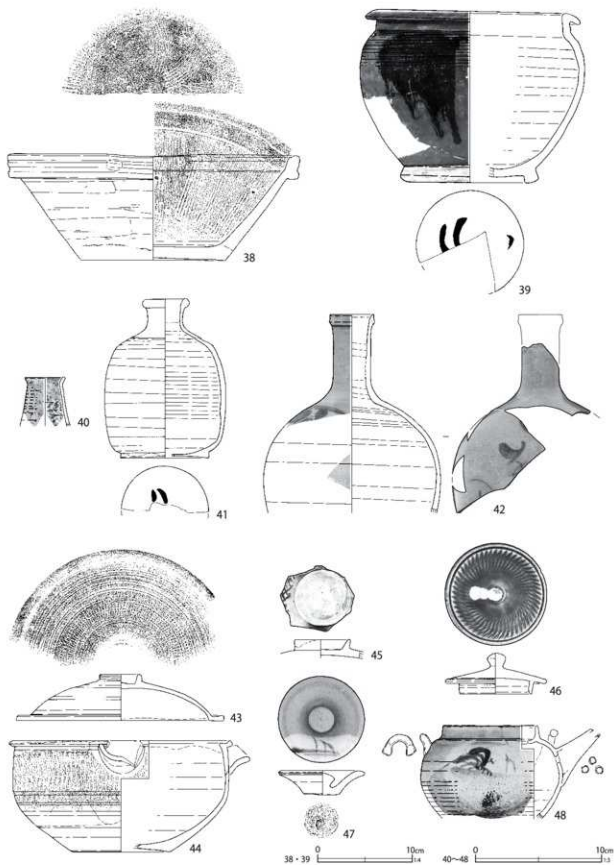
第 559 図 第 7 区画の土壇



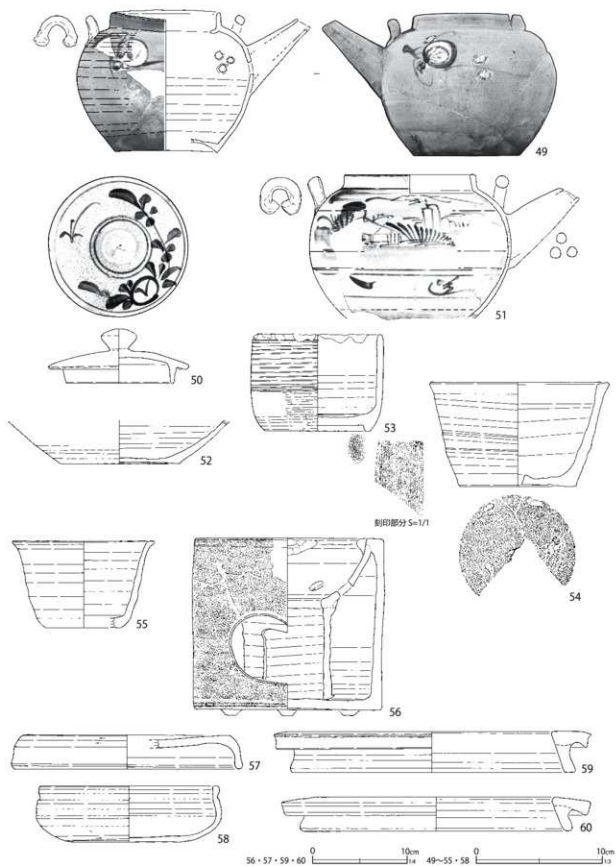
第560図 第7区画の土壇出土遺物（1）



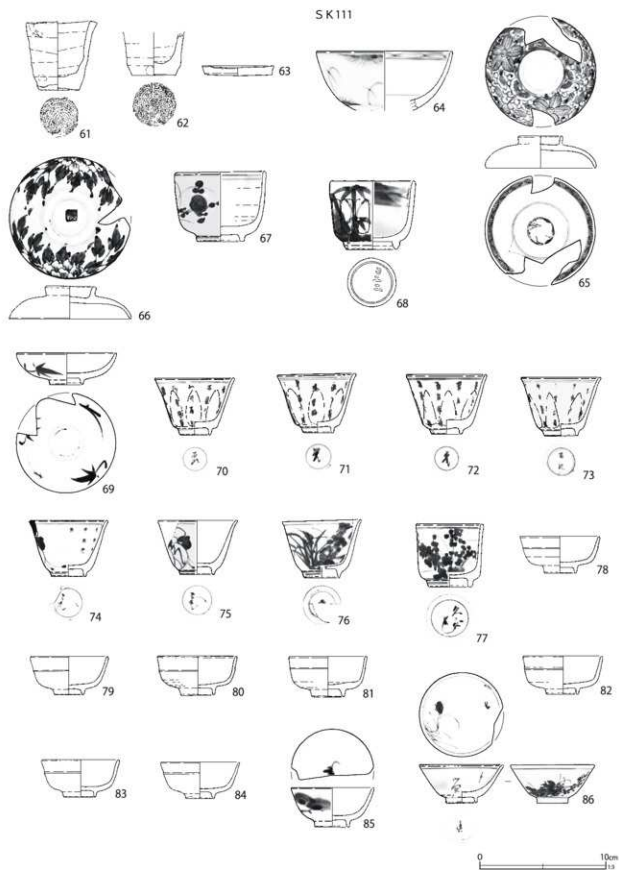
第561図 第7区画の土壙出土遺物(2)



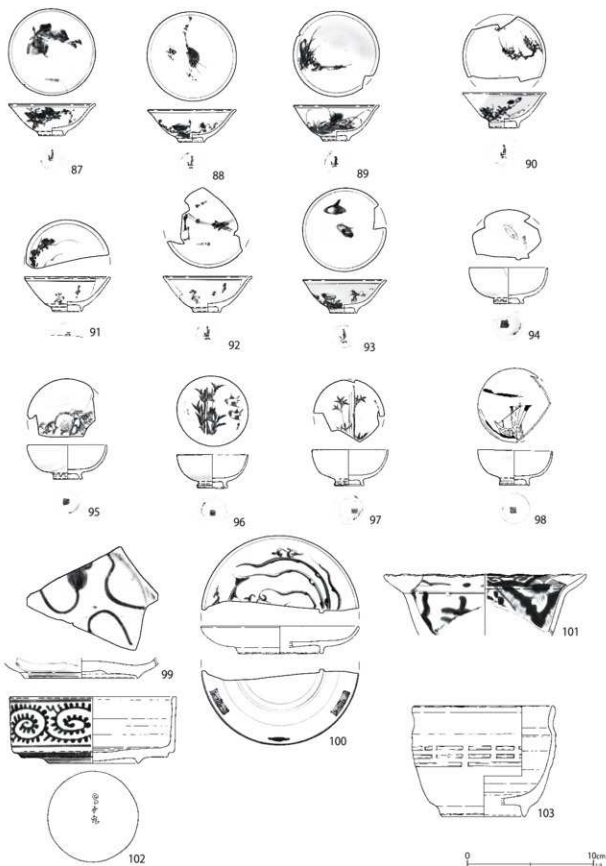
第 562 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (3)



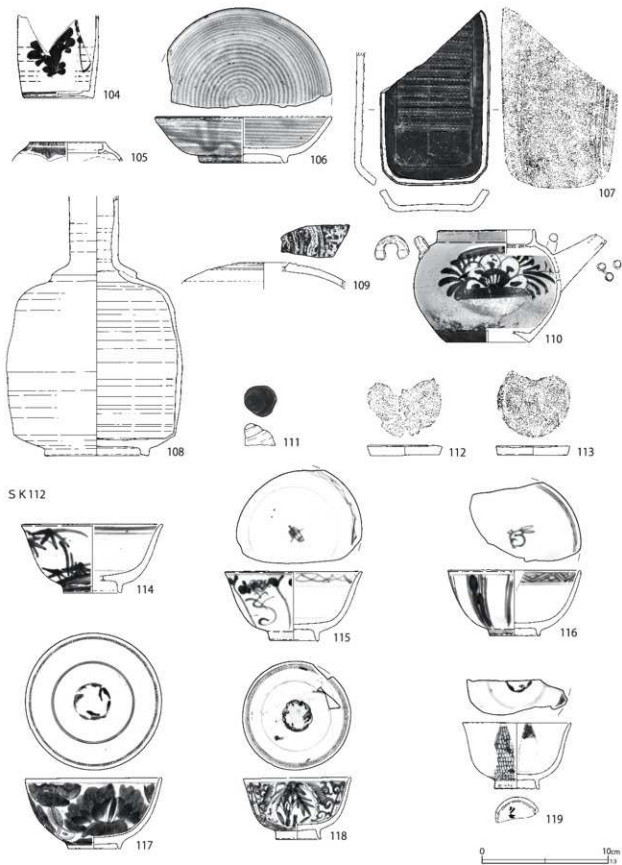
第 563 図 第 7 区画の土曜出土遺物 (4)



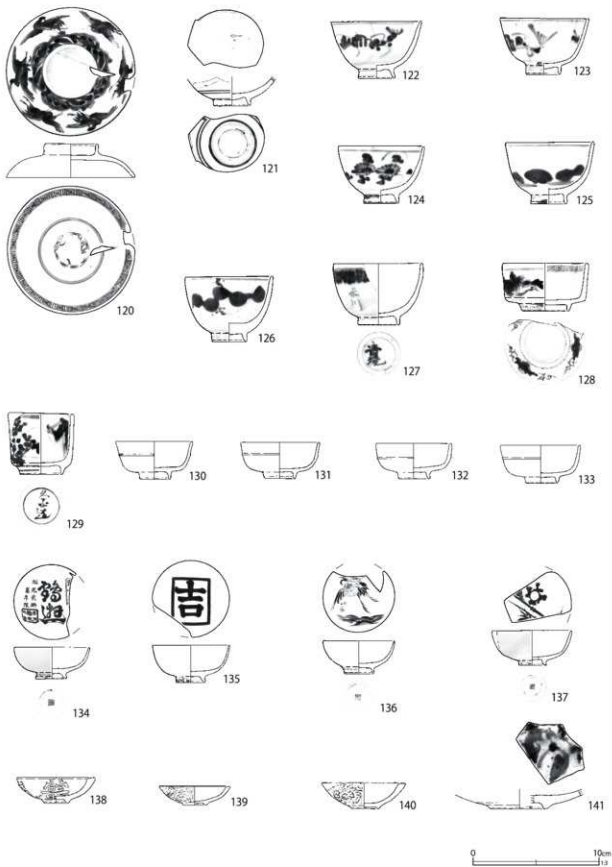
第 564 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (5)



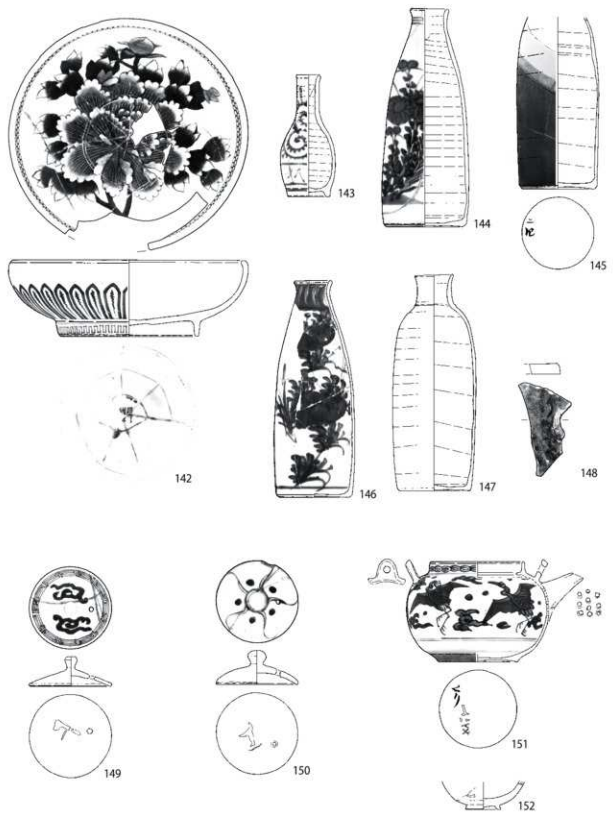
第 565 図 第 7 区画の土壙出土遺物 (6)



第 566 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (7)

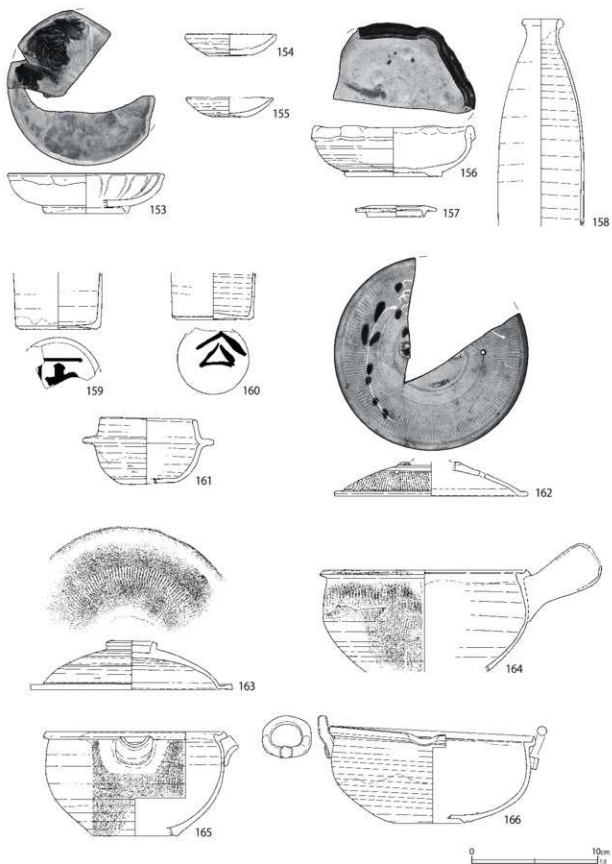


第 567 図 第 7 区画の土壙出土遺物 (8)

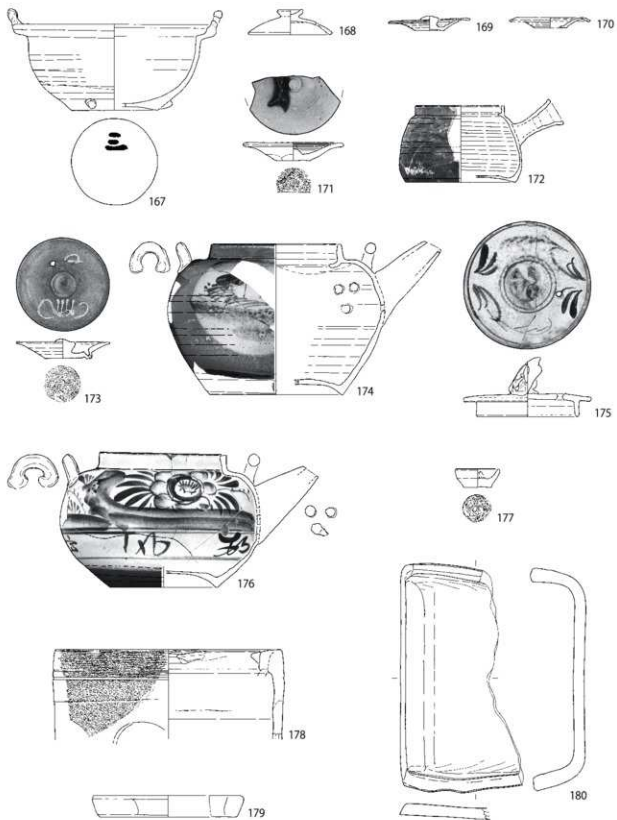


142 0 10cm 14 143~152 0 10cm 13

第 568 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (9)

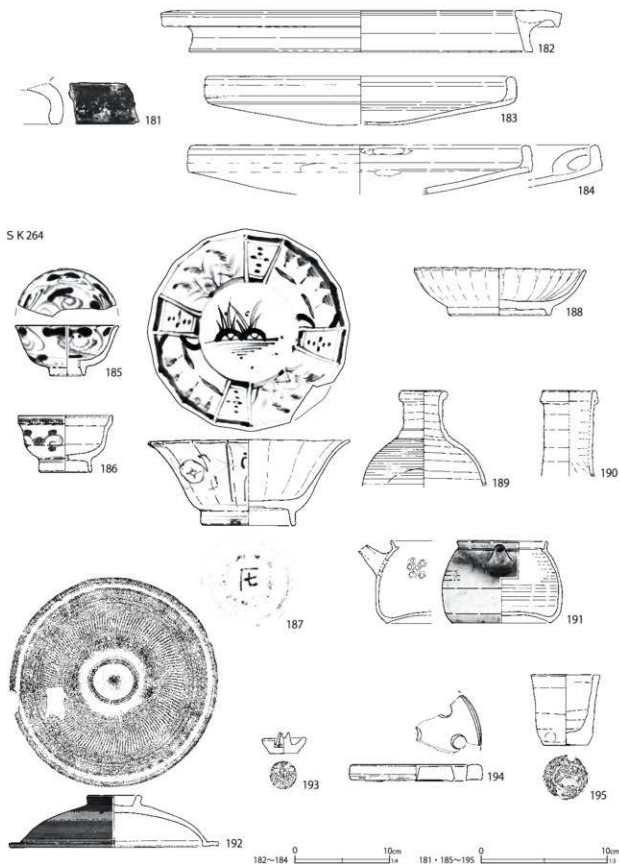


第 569 図 第 7 区画の土坑出土遺物 (10)



0 10cm 0 10cm
 178 167~177・179・180

第570図 第7区画の土壌出土遺物(11)



第 571 図 第 7 区画の土壌出土遺物 (12)

第229表 第7区画の土壌出土遺物観察表(1) (第560～571図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(9.2)	5.0	3.0	-	25	良好	白	SK106	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	
2	磁器	坏	8.0	4.1	3.2	-	95	良好	白	SK106	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 外面 しのぎ状施文	
3	陶器	擂鉢	(33.0)	[8.1]	-	IK	5	良好	にぶい橙	SK106	笠間系 内面上位～外面柿軸 内面擂目	
4	磁器	坏	6.0	[3.6]	-	-	30	良好	白	SK107	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
5	磁器	鉢	(14.8)	[3.8]	-	-	10	良好	白	SK107	肥前系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ痕	
6	磁器	蓋	-	1.2	(6.0)	-	10	良好	白	SK107	肥前系 内外面施釉 上面給付 被熱 (合子)	
7	陶器	灯明皿	(9.0)	2.0	(3.5)	K	30	良好	灰白	SK107	京都信楽系 口縁部～内面透明釉 被熱	
8	陶器	鉢	(19.7)	11.4	(10.0)	IK	15	良好	灰白	SK107	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡 被熱	
9	瓦質土器	蓋	(23.5)	3.3	(27.0)	CIK	20	普通	にぶい橙	SK107	上面砂目痕 被熱・変色	
10	磁器	碗	10.2	5.9	4.0	-	95	良好	白	SK110	肥前系 内外面施釉・染付 (扇反碗)	
11	磁器	碗	(9.5)	[3.6]	-	-	10	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付 白色物質(漆喰か)付着	
12	磁器	碗	7.0	5.6	3.8	-	75	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	
13	磁器	坏	6.5	4.7	3.0	-	60	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 口紅	
14	磁器	坏	6.2	4.4	2.7	-	100	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	
15	磁器	坏	6.4	4.5	2.3	-	80	良好	灰白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	
16	磁器	坏	5.5	5.1	2.8	-	100	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 外面に緑 色の給付あり	112-2
17	磁器	坏	(5.2)	5.9	2.9	-	45	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	
18	磁器	坏	6.2	3.0	2.4	-	95	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉	
19	磁器	坏	(6.2)	3.0	2.5	-	20	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付 (御釜手酒杯)	
20	磁器	坏	(6.0)	2.8	(2.3)	-	30	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付(青) 外面酸化コバルト染付	112-3
21	磁器	皿	9.4	1.9	5.6	-	95	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文 (型押壽文皿)	112-4
22	磁器	皿	(12.9)	2.4	7.4	-	30	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付	
23	磁器	皿	9.8	2.7	4.8	-	90	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉	
24	磁器	皿	21.2	4.2	11.1	-	85	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 高台内釘 書「花」	112-5
25	磁器	皿	(26.4)	6.5	12.3	-	80	良好	白	SK110	肥前系 内外面施釉・染付 高台内釘書 「花」 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤)	112-6
26	磁器	皿	(37.8)	[4.6]	-	-	5	良好	白	SK110	肥前系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
27	磁器	鉢	10.4	8.5	5.8	-	50	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内面上位～外面青磁釉 外面 陽刻状施文 高台内酸化コバルト染付	113-1
28	磁器	蓋	-	2.1	5.6	-	100	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付 内面施文	
29	磁器	蓮華	-	5.3	-	-	95	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付 内面施文 長9.4cm 幅5.0cm	113-2
30	磁器	燗徳利	(2.8)	17.3	5.8	-	90	良好	白	SK110	瀬戸美濃系 内面上位～外面施釉 外面酸 化コバルト染付	113-4
31	陶器	坏	5.0	2.5	2.8	HIK	90	良好	楊灰	SK110	瀬戸美濃系 内外面灰釉	113-3
32	陶器	坏	5.1	3.4	2.8	C	95	良好	灰白	SK110	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面赤色付着物	113-5
33	陶器	鉢	(12.7)	[4.0]	-	C	10	良好	灰白	SK110	淡路根平系 内外面黄色釉	
34	陶器	灯明皿	8.3	1.9	3.0	IK	100	良好	淡黄	SK110	京都信楽系 内面～口縁部透明釉 外面上 位煤付着	
35	陶器	灯明皿	7.8	1.6	3.0	IK	100	良好	淡黄	SK110	京都信楽系 内面～口縁部透明釉 内面ビ ン版3 外面上位煤付着	
36	陶器	灯明皿	10.9	2.0	4.2	I	100	良好	灰白	SK110	京都信楽系 内面～口縁部透明釉	
37	陶器	灯火具	8.7	5.3	5.4	IK	80	良好	灰白	SK110	産地不明 底部糸切痕(左) 内外面灰釉	
38	陶器	擂鉢	(29.8)	11.2	15.4	DEBL	35	良好	赤褐	SK110	堺明石系 砂目底 内面擂目	
39	陶器	壺	20.0	18.4	12.4	I	50	良好	灰白	SK110	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面鉄軸流掛 内底面目跡3遺存	113-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	境成	色調	遺構	備考	図版
40	陶器	頸德利	3.0	[3.9]	-	K	5	良好	黄灰	SK110	大塚相馬系 内面上位～外面灰輪 胎土に黒斑がみられる	113-7
41	陶器	德利	3.1	12.6	(7.0)	IK	45	良好	灰白	SK110	外面灰輪 底部墨書	114-1
42	陶器	德利	(3.4)	[15.7]	-	K	25	良好	灰	SK110	頸部内面～外面灰輪 外面具須輪(青)	114-2
43	陶器	蓋	3.2	3.7	16.4	K	100	良好	にぶい橙	SK110	内面結輪 外面トビガンナ状施文(行平の蓋)	
44	陶器	行平	17.2	8.8	(7.6)	K	55	良好	にぶい橙	SK110	内外面結輪 外面トビガンナ状施文・露胎部煤付着	
45	陶器	蓋	4.3	[1.5]	-	H	15	良好	灰白	SK110	内外面灰輪 外面緑輪流披・鉄輪	114-3
46	陶器	蓋	-	3.2	5.6	IK	95	良好	淡橙	SK110	上面灰輪・トビガンナ状施文 つまみに輪 白輪流披 最大径8.0cm(土瓶の蓋)	114-5
47	陶器	蓋	6.1	1.9	2.6	IK	100	良好	にぶい橙	SK110	下面糸切痕(右) 上面施輪・白土染付	
48	陶器	土瓶	7.3	[7.3]	-	IK	40	良好	にぶい橙	SK110	外面施輪・白土染付 体部下位煤付着	
49	陶器	土瓶	(8.5)	11.2	8.1	IK	85	良好	灰白	SK110	外面灰輪・須輪・白蓋で給付 口縁部歪む	
50	陶器	蓋	-	4.3	8.3	IK	100	良好	にぶい橙	SK110	上面白土染付 最大径11.2cm(土瓶の蓋)	114-4
51	陶器	土瓶	10.2	[11.4]	-	IK	70	良好	にぶい橙	SK110	外面白土染付 片側被熱・白化 体部下位露胎部白化粧	114-4
52	陶器	土瓶	-	[3.4]	9.3	EIK	20	良好	灰白	SK110	瀬戸美濃系 外面結輪 底部白化粧	114-6
53	瓦質土器	香炉	9.9	7.6	8.2	AHK	95	普通	明褐色	SK110	今戸 外面ミガキ・沈線 底部刻印「白井ノ清次郎」 爐す	114-7
54	瓦質土器	植木鉢	(14.0)	8.2	9.2	CEHK	55	普通	灰褐	SK110	胎土酸化糸切痕ナゲ消し・穿孔 爐す	
55	瓦質土器	植木鉢	(11.1)	6.8	(5.8)	CEBK	15	普通	明赤褐・にぶい橙	SK110	胎土酸化糸焼成(あるいは被熱による変色か)	
56	瓦質土器	坩堝	19.8	18.8	19.6	CEHK	70	普通	にぶい橙	SK110	砂目底 円筒形 外面施文 爐す	114-8
57	瓦質土器	蓋	(21.6)	[3.5]	(24.0)	CEHK	15	普通	にぶい黄橙	SK110	上面砂目 爐す(火消巻の蓋)	
58	土師質土器	把手付鍋	(14.0)	4.4	-	CHK	35	普通	にぶい橙	SK110	底部回転ケズリ	
59	瓦質土器	電鐔	25.4	4.3	29.8	CHK	55	普通	にぶい黄橙	SK110	煤付着 最大径(33.6)cm	
60	瓦質土器	電鐔	(25.0)	3.6	(27.8)	CHK	30	普通	明褐・褐	SK110	爐す 煤付着 最大径(32.7)cm	
61	土師質土器	焼塩壺	4.8	5.4	3.1	AHKJK	100	普通	にぶい橙	SK110	底部糸切痕(左) 胎土粉質 口縁部の一部に強い歪み	115-1
62	土師質土器	焼塩壺	-	[3.4]	3.4	AHK	40	普通	にぶい橙	SK110	底部糸切痕(左) 胎土粉質	115-2
63	土師質土器	蓋	5.7	0.8	5.3	AIK	100	普通	にぶい橙	SK110	胎土粉質(焼塩壺の蓋)	115-3
64	磁器	碗	(10.6)	[4.7]	-	-	45	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪・染付	
65	磁器	蓋	3.3	2.5	8.7	-	85	良好	白	SK111	肥前系 内外面施輪・染付	
66	磁器	蓋	3.8	2.6	9.6	-	90	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 口唇部～外面酸化コバルト染付	
67	磁器	碗	7.0	5.5	3.7	-	70	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪・染付(湯呑形碗)	
68	磁器	碗	6.5	5.4	3.8	-	100	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪・染付 弱く被熱(湯呑形碗)	115-4
69	磁器	坏	7.8	2.5	2.5	-	90	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-5
70	磁器	坏	6.1	4.5	2.3	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-6
71	磁器	坏	6.1	4.7	2.3	-	85	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-6
72	磁器	坏	6.2	4.7	2.2	-	100	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-6
73	磁器	坏	6.1	4.6	2.4	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-6
74	磁器	坏	(6.0)	4.4	2.6	-	50	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-6
75	磁器	坏	(6.1)	4.3	2.6	-	55	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-7
76	磁器	坏	6.1	4.6	2.7	-	70	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面酸化コバルト染付	115-8
77	磁器	坏	5.1	5.0	3.4	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪・外面酸化コバルト染付・一部緑色の輪下影	115-9
78	磁器	坏	6.3	2.9	2.4	-	80	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪	116-1
79	磁器	坏	6.0	3.0	2.3	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施輪	116-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
80	磁器	坏	6.2	3.1	2.5	-	70	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸	116-1
81	磁器	坏	6.0	3.2	2.5	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸	116-1
82	磁器	坏	6.1	3.0	2.3	-	75	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸	116-1
83	磁器	坏 (6.0)	2.9	2.3	-	70	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸	116-1	
84	磁器	坏	6.2	2.8	2.2	-	45	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸 同形別個体2あり	116-1
85	磁器	坏 (6.5)	3.1	(2.6)	-	45	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付		
86	磁器	坏	6.5	3.0	2.3	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2
87	磁器	坏	6.7	2.5	2.0	-	100	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-3
88	磁器	坏	6.8	2.6	2.0	-	100	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2
89	磁器	坏	6.6	2.8	2.0	-	95	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2
90	磁器	坏	6.4	2.8	2.2	-	70	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2
91	磁器	坏 (6.7)	2.7	(2.2)	-	45	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2	
92	磁器	坏 (6.9)	2.8	2.0	-	40	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2	
93	磁器	坏	6.5	2.6	2.0	-	90	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	116-2
94	磁器	坏 (6.1)	2.8	2.2	-	35	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面酸化コバルト染付 (卵殻手酒杯)	116-4	
95	磁器	坏 (6.2)	2.7	2.1	-	40	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面酸化コバルト染付 (卵殻手酒杯)	116-5	
96	磁器	坏	5.6	2.6	2.2	-	100	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青・金) 外面酸化コバルト染付 (卵殻手酒杯)	116-6
97	磁器	坏 (6.0)	2.8	2.2	-	60	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青・金) 外面酸化コバルト染付 (卵殻手酒杯)	116-7	
98	磁器	坏	5.8	2.7	2.2	-	75	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面酸化コバルト染付 (卵殻手酒杯)	
99	磁器	皿	-	[1.6]	(9.0)	-	5	良好	白	SK111	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目凹形高台 弱く被熱	117-1
100	磁器	皿 (12.4)	2.1	(6.6)	-	40	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付		
101	磁器	鉢 (15.8)	[4.8]	-	-	5	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕		
102	磁器	段重	13.1	5.2	7.1	-	95	良好	白	SK111	肥前系 内外面施軸 外面染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 弱く被熱・煤付着	117-2
103	磁器	香炉	(11.0)	8.7	(6.5)	-	35	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 内面上位～外面青磁軸 外面隔刻状施文	
104	磁器	燗徳利	-	[6.5]	5.4	-	20	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付	
105	磁器	急須	5.8	[1.5]	-	5	良好	白	SK111	瀬戸美濃系 外面施軸・染付		
106	陶器	皿 (13.8)	3.6	6.4	IK	50	良好	灰白	SK111	瀬戸美濃系 内外面刷毛目軸	117-3	
107	陶器	卸皿	-	1.7	-	DIK	70	良好	にぶい黄橙	SK111	型成形 内面卸目・柿軸 外面布圧痕をヘラナゲで消す 長[13.8]cm 幅8.7cm	
108	陶器	徳利	-	[20.5]	8.2	K	40	良好	灰	SK111	大塚相馬系 外面灰軸 頸部隆白釉流掛 上下接点ない破片から図上復元	117-5
109	陶器	蓋 (4.0)	[2.1]	-	IK	5	良好	灰白	SK111	内外面鉄軸 外面施文	117-4	
110	陶器	土瓶	7.6	8.9	6.6	EIK	90	良好	灰鴨	SK111	外面灰軸・灰土染付 露胎部煤付着	117-6
111	瓦質土器	仕切盤	-	[1.7]	-	CHK	5	普通	明焼灰	SK111	巻貝 仕切盤の飾りと思われ 煤す	
112	土師質土器	蓋	5.9	0.8	5.4	ABHK	60	良好	にぶい橙	SK111	上面弱い指頭圧痕 硬質 (焼塩釜の蓋)	
113	土師質土器	蓋	5.8	0.7	5.4	AHK	90	普通	にぶい橙	SK111	上面弱い指頭圧痕 硬質 被熱か (焼塩釜の蓋)	
114	磁器	碗 (11.1)	5.4	(4.5)	-	40	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (瀧反碗)		
115	磁器	碗 (10.6)	5.4	(3.7)	-	50	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (瀧反碗)		
116	磁器	碗 (10.4)	5.2	(3.8)	-	40	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	境成	色調	遺構	備考	図版
117	磁器	碗	10.7	5.6	4.0	-	100	良好	白	SK112	肥前系 内外面施軸・染付	118-1
118	磁器	碗	8.4	4.9	3.4	-	90	良好	白	SK112	肥前系 内外面施軸・染付 (福反碗)	
119	磁器	碗	(8.4)	5.2	(3.4)	-	25	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) (福反碗)	
120	磁器	蓋	4.1	2.7	10.0	-	90	良好	白	SK112	肥前系 内外面施軸・染付	
121	磁器	碗	-	[2.3]	2.8	-	20	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・茶)	
122	磁器	坏	7.1	4.5	2.8	-	70	良好	白	SK112	SK111 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
123	磁器	坏	6.9	4.5	2.5	-	60	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
124	磁器	坏	6.7	4.5	2.7	-	100	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	118-2
125	磁器	坏	6.9	4.9	2.7	-	95	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面木型打込施文・染付	
126	磁器	坏	6.8	5.1	2.7	-	100	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面木型打込施文・染付	118-3
127	磁器	坏	6.9	4.8	3.1	-	40	良好	白	SK112	SK110・111 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	118-4
128	磁器	坏	(6.6)	3.8	3.6	-	40	良好	白	SK112	SK111 接合 肥前系 内外面施軸・染付	118-6
129	磁器	坏	4.9	4.8	3.2	-	70	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	118-5
130	磁器	坏	5.9	3.0	2.3	-	80	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸	118-7
131	磁器	坏	6.1	2.9	2.3	-	100	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸	118-7
132	磁器	坏	(5.8)	2.8	2.4	-	40	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸	118-7
133	磁器	坏	6.3	3.0	2.4	-	90	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸	118-7
134	磁器	坏	5.9	2.5	2.3	-	70	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青・赤) 外面染付 (卵殻手酒杯)	119-1
135	磁器	坏	6.1	2.9	2.2	-	70	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面染付 (卵殻手酒杯)	119-2
136	磁器	坏	5.6	2.6	2.2	-	70	良好	白	SK112	SK111 接合 瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面染付 (卵殻手酒杯)	119-3
137	磁器	坏	(6.2)	2.7	2.1	-	40	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 外面染付 (卵殻手酒杯)	
138	磁器	紅皿	(6.0)	2.0	(1.8)	-	40	良好	白	SK112	肥前系 型成形 内外面施軸・隅状伏施文「福」「壽」	119-4
139	磁器	紅皿	(5.6)	1.5	(1.7)	-	40	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 型成形 内面～口縁部施軸 外面型押施文	119-7
140	磁器	紅皿	6.5	2.0	2.1	-	50	良好	白	SK112	肥前系 型成形 内外面施軸 外面型押施文	119-6
141	磁器	皿	-	[1.5]	(4.3)	-	10	良好	白	SK112	肥前系 内外面施軸 内面染付 (初期伊万里様式)	119-5
142	磁器	鉢	24.5	8.1	14.4	-	85	良好	白	SK112	肥前系 内外面施軸・染付 焼き継ぎ痕	119-8
143	磁器	御神酒德利	1.7	9.6	3.3	-	90	良好	灰白	SK112	肥前系 外面施軸・染付	
144	磁器	燗德利	2.8	17.3	5.9	-	70	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 外面施軸・染付 焼き継ぎ痕	120-1
145	磁器	燗德利	-	[13.6]	5.7	-	60	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 外面施軸(下位鉄輪) 底部墨書 同文別個体1あり	120-1
146	磁器	燗德利	2.8	17.2	5.6	-	70	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付	120-1
147	磁器	燗德利	(2.9)	17.1	5.5	-	65	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 外面施軸	120-1
148	磁器	榎木鉢	-	[0.9]	-	-	5	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 底部墨書 被熱	120-2
149	磁器	蓋	-	2.3	6.3	-	100	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 上面染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(白)「下」か(急須の蓋)	
150	磁器	蓋	-	2.7	6.3	-	95	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 外面施軸・染付 穿孔1 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(白)	
151	磁器	土瓶	7.3	8.1	6.2	-	90	良好	白	SK112	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印(赤) 墨書「くり」	120-3
152	陶器	坏	-	[2.3]	2.8	K	15	良好	灰白	SK112	京都信楽系 内外面施軸 外面上絵付「浅(赤)」胎土磁質	120-4
153	陶器	皿	12.3	3.1	(6.5)	IK	60	良好	浅黄橙	SK112	型成形 内外面施軸 内面施文・一部緑軸 外面布目痕 軟質施軸陶器	120-5
154	陶器	灯明皿	7.1	1.7	3.5	I	100	良好	灰白	SK112	内面～口縁部灰軸 内面目跡3 口縁部煤付着	120-6
155	陶器	灯明皿	6.8	1.5	2.4	IK	100	良好	にぶい黄橙	SK112	内面～口縁部灰軸 口縁部煤付着	120-7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
156	陶器	鉢	(12.1)	4.0	(7.6)	CIK	35	良好	灰白	SK112	内外面灰釉 口縁部鉄釉・加飾 同文別個体1あり	
157	陶器	蓋	4.3	0.9	4.5	AHK	100	良好	灰黄	SK112	上面灰釉 最大径6.4cm	
158	陶器	燗德利	2.8	[16.4]	-	IK	35	良好	明焼灰	SK112	外面灰釉	
159	陶器	燗德利	-	[4.5]	(6.0)	IK	5	良好	明焼灰	SK112	外面灰釉 底部墨書「花」 158と同一個体か	121-1
160	陶器	燗德利	-	[3.7]	5.7	HK	15	良好	灰白	SK112	京都信楽系 外面施釉 底部墨書「△」	121-2
161	陶器	釜	7.4	5.2	4.4	CIK	85	良好	にぶい橙	SK112	内面〜外面上位付着	121-3
162	陶器	蓋	-	[2.7]	15.3	K	70	良好	灰白	SK112	内面灰釉 外面イッチンと青色の釉で絵付・トビガンナ状施文 穿孔1 (行平の蓋)	121-4
163	陶器	蓋	3.2	3.8	15.9	IK	100	良好	灰白	SK112	内外面施釉、外面の一部拭き取り、トビガンナ状施文 (行平の蓋)	
164	陶器	行平	16.0	[10.2]	-	IK	40	良好	灰白	SK112	内外面施釉 外面トビガンナ状施文 外面下位に煤付着	
165	陶器	行平	14.1	8.2	6.7	K	50	良好	にぶい黄橙	SK112	内外面施釉、外面の拭き取り、トビガンナ状施文 底部煤付着	
166	陶器	鍋	16.0	8.5	5.5	IK	85	良好	灰白	SK112	内外面鉄釉 底部煤付着	
167	陶器	鍋	15.7	8.0	(6.9)	HK	80	良好	灰白	SK112	内外面施釉 底部墨書「三」・煤付着	121-5
168	陶器	蓋	-	1.9	(6.4)	HK	25	良好	灰黄	SK112	穿孔1 (急須の蓋)	
169	陶器	蓋	-	1.2	2.5	IK	50	良好	灰黄褐	SK112	上面中心のみ施釉 最大径6.5cm (急須の蓋)	
170	陶器	蓋	-	1.5	(2.6)	IK	30	良好	にぶい黄橙	SK112	上面中心のみ施釉 最大径(6.4)cm (急須の蓋)	
171	陶器	蓋	(7.8)	1.4	(2.7)	IK	45	良好	灰白	SK112	下面糸切痕 上面一部施文・施釉 (土瓶の蓋)	121-6
172	陶器	急須	6.9	6.5	8.6	IK	70	良好	灰黄褐	SK112	SK111接合 外面の一部施釉	
173	陶器	蓋	-	1.5	2.9	IK	100	良好	にぶい黄橙	SK112	上面灰釉・イッチン絵付 穿孔 最大径7.4cm (土瓶の蓋)	
174	陶器	土瓶	(10.0)	12.0	(10.4)	IK	35	良好	にぶい橙	SK112	外面灰釉・白土染付	
175	陶器	蓋	-	4.7	8.0	IK	95	良好	灰白	SK112	上面白土染付 穿孔 強く被熱 最大径10.1cm (土瓶の蓋)	121-7
176	陶器	土瓶	10.0	10.7	8.5	IK	80	良好	灰白	SK112	外面白土染付 底部墨書痕あり	121-7
177	土師質土器	乗燗	(3.3)	1.4	2.2	AOBK	95	普通	にぶい褐	SK112	底部糸切痕(左)	121-8
178	瓦質土器	埴師	[23.8]	[9.5]	-	CHIK	5	普通	黒・にぶい褐	SK112	口縁部ミガキ 外面施文 燻す	
179	土師質土器	日皿	(11.7)	1.7	(10.8)	AHK	10	普通	灰白	SK112		
180	瓦質土器	十徳	-	4.4	-	CEIK	30	普通	灰白	SK112	外面シワ状痕 長[9.8]cm 幅18.1cm	
181	瓦質土器	火鉢	-	[3.2]	-	CHIK	5	良好	灰	SK112	外面ミガキ後に漆(赤)塗布	122-3
182	瓦質土器	竜蹄	(32.6)	4.4	(36.2)	CFHK	10	普通	灰白	SK112	上面を中心に煤多く付着 最大径(42.5)cm	
183	土師質土器	焙烙	(32.0)	5.1	(33.1)	CHIK	45	普通	外：褐灰 内：黒褐	SK112	砂目底 内底〜外面煤付着	122-1
184	土師質土器	焙烙	(35.0)	[5.2]	(36.3)	CIK	20	普通	灰白	SK112	底部シワ状痕 底部少量煤付着	122-2
185	磁器	碗	(8.1)	4.0	(2.6)	-	30	普通	白	SK264	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅 (福反碗)	
186	磁器	蓋物	(6.5)	4.5	(4.2)	-	45	普通	白	SK264	肥前系 内外面施釉 外面染付 僅かに煤付着	216-4
187	磁器	鉢	16.0	6.8	7.2	-	90	良好	白	SK264	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台・釘書き「花」	216-5
188	磁器	皿	13.5	3.8	7.9	-	75	良好	白	SK264	肥前系 内外面施釉 口紅 蛇の目状高台	216-6
189	陶器	德利	3.4	[7.5]	-	I	30	普通	にぶい赤褐	SK264	備前系 体部煤ます 胎土石器質	217-1
190	陶器	德利	4.0	[6.3]	-	-	10	良好	灰	SK264	内面灰釉 内面上位〜外面緑釉被膜	217-2
191	陶器	急須	6.9	6.6	7.8	EHI	90	普通	灰白	SK264	外面一部施釉 胎土石器質 同文別個体1あり	217-3
192	陶器	蓋	4.1	4.1	16.5	IK	95	普通	にぶい橙	SK264	外面鉄釉・トビガンナ状施文	217-4
193	土師質土器	乗燗	3.1	1.7	2.2	AK	100	普通	にぶい橙	SK264	江戸在地系 胎土粉質 灯芯受上位煤付着	217-5
194	瓦質土器	日皿	(10.1)	1.3	(10.4)	CHIK	20	普通	にぶい黄橙	SK264	被熱して黄変 一部白化	
195	土師質土器	焼塩壺	(5.4)	5.6	3.5	AHI	60	不良	にぶい黄橙	SK264	底部糸切痕(左) 胎土粉質	217-6

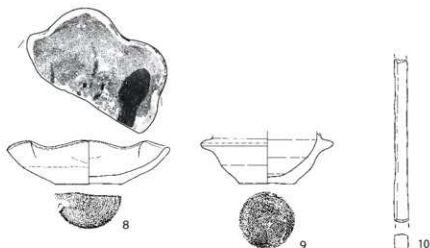
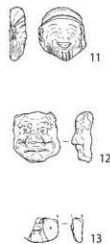
SK111



SK112



SK264



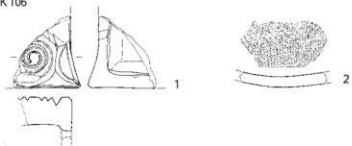
0 5cm

第572図 第7区画の土壇出土遺物(13)

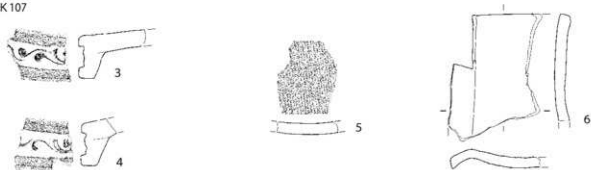
第230表 第7区画の土壇出土遺物観察表(2) (第572図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	2.1	2.2	2.0	-	AHK	良好	橙	SK111	底部糸切痕(左) 胎土粉質 江戸在地系か	242-19
2	土製品	基石	径1.8	0.5	1.5	A	良好	橙	SK111	江戸在地系 手捻り成形	黒色塗付物	242-20
3	土製品	基石	径2.0	0.5	1.6	AK	良好	にぶい橙	SK111	江戸在地系 手捻り成形		
4	土製品	基石	径1.7	0.5	1.4	AK	良好	にぶい橙	SK111	江戸在地系 手捻り成形		
5	土製品	基石	径2.1	0.5	1.5	AK	良好	にぶい橙	SK111	江戸在地系 手捻り成形		
6	土製品	芥子面	1.7	1.7	0.55	1.3	A	良好	橙	SK112	江戸在地系 一枚型成形	243-2
7	土製品	芥子面	1.5	2.0	0.6	1.5	AK	良好	にぶい橙	SK112	江戸在地系 一枚型成形 僅かに遺存 彩色(青)	243-3
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
8	旋軸土器	ミニチュア	(8.6)	2.3	(3.6)	18.7	AIK	普通	橙	SK112	江戸在地系 重底部糸切痕(左) 内外面施釉 絵付(茶・緑)	
9	旋軸土器	ミニチュア	-	[2.8]	3.0	26.1	AHK	普通	橙	SK112	江戸在地系 釜 底部糸切痕(左) 内外面施釉 外面白土	243-1
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考		図版		
10	硝子製品	筭	[8.7]	0.7	0.7	14.0	SK112	透明か	中美 被熱(黄白色化)	284-6		
番号	種別	器種	幅	長さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
11	土製品	芥子面	2.5	2.8	0.8	4.9	AK	良好	橙	SK264	江戸在地系 一枚型成形	245-9
12	土製品	芥子面	2.5	2.6	1.1	5.1	AK	良好	橙	SK264	江戸在地系 一枚型成形	245-10
13	土製品	芥子面	[1.7]	[1.3]	0.6	1.2	IK	普通	橙	SK264	お多福か 芥子面 型押成形 裏面指頭痕 ナゲ	245-13

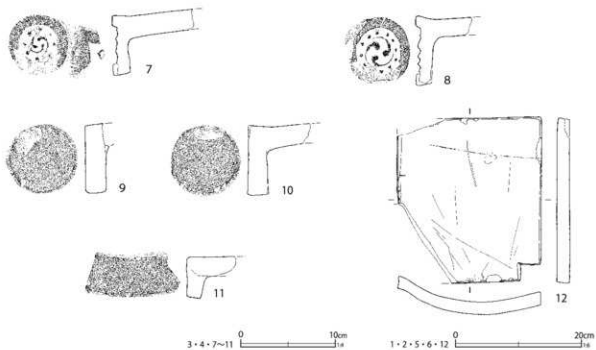
SK106



SK107



SK112



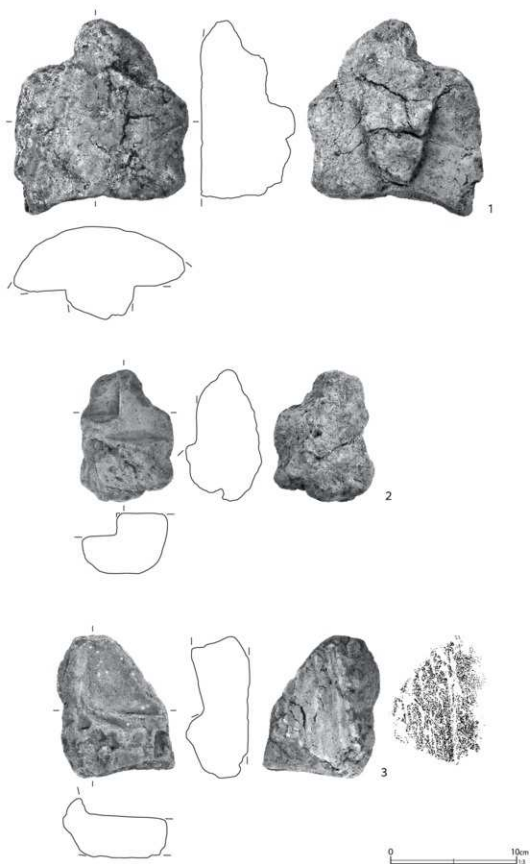
3・4・7~11 10cm
 1・2・5・6・12 20cm

第573図 第7区画の土壇出土遺物(14)

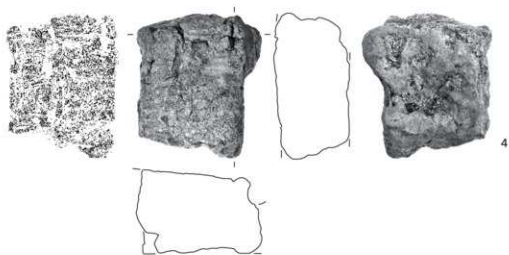
第231表 第7区画の土壇出土遺物観察表(3)(第573図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	鬼瓦	[11.5]	[10.8]	-	AHK	普通	灰黄	SK106	穿孔あり 被熱・赤変	252-9
2	瓦	椀瓦か平瓦	[8.6]	[14.0]	-	AHK	普通	にぶい黄橙	SK106	裏面に集約的な条線 被熱・赤変	
3	瓦	軒椀瓦	[7.6]	[8.9]	-	AHK	普通	にぶい橙	SK107	被熱・赤変	

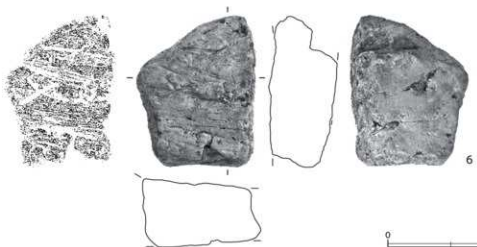
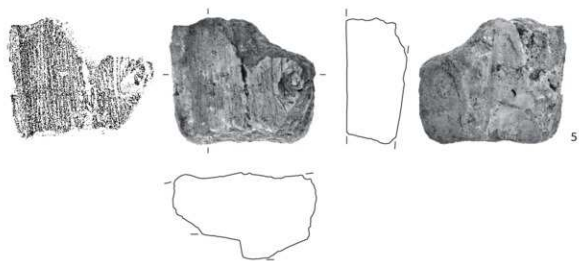
SK106



第574図 第7区画の土壙出土遺物 (15)

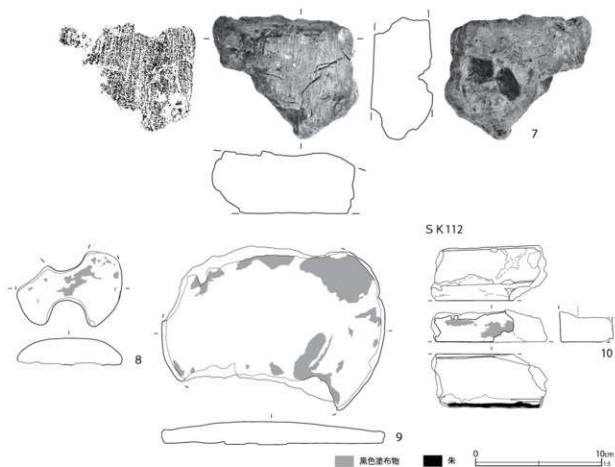


S K107



第 575 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (16)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
4	瓦	軒棧瓦	[4.2]	[6.3]	-	AHK	普通	にぶい橙	SK107	被熱・赤変	
5	瓦	棧瓦か平瓦	[12.0]	[9.9]	-	H	普通	浅黄橙	SK107	裏面に集約的な条線 被熱・赤変	
6	瓦	棧瓦	[20.4]	[18.0]	-	AIK	普通	灰白	SK107	被熱・赤変 歪み強い	
7	瓦	軒棧瓦	[9.7]	[11.8]	6.3	ACIK	良好	灰白	SK112	左巻き 8珠文 胎土硬質	
8	瓦	軒棧瓦	[6.0]	[7.7]	7.0	ACIK	良好	灰白	SK112	右巻き 12珠文 胎土硬質	
9	瓦	軒棧瓦	[3.3]	-	7.0	AIK	良好	灰白	SK112	素文	
10	瓦	軒棧瓦	[6.9]	[7.4]	7.1	AIK	良好	灰	SK112	素文	
11	瓦	軒棧瓦	[5.4]	[10.3]	-	AIK	良好	灰白	SK112	素文	
12	瓦	平瓦	26.7	23.2	-	AIK	普通	灰	SK112	表面焼成前の傷多い 粘土接合痕あり	



第 576 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (17)

第 232 表 第 7 区画の土壇出土遺物観察表 (4) (第 574 ~ 576 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	遺構	備考	図版
1	建築材	壁土	15.7	13.8	7.5	HI	SK106 曲線状に成形・ナヅ	被熱・赤変	285-4
2	建築材	壁土	10.1	7.5	6.0	CEHI	SK106 材圧痕か	被熱・赤変	
3	建築材	壁土	11.4	9.3	5.0	OHI	SK106 材圧痕	被熱・黒化	
4	建築材	壁土	11.6	10.0	6.6	BHI	SK106 材圧痕	スサ入り 被熱・赤変	
5	建築材	壁土	10.0	11.4	6.8	H	SK107 材圧痕	被熱・赤変	
6	建築材	壁土	12.1	9.5	5.2	CDEH	SK107 材圧痕	被熱・赤変	
7	建築材	壁土	10.0	11.6	5.0	CEHI	SK107 材圧痕	被熱・赤変	
8	建築材	漆喰	6.0	8.3	2.1	-	SK107		
9	建築材	漆喰	13.1	17.6	1.8	-	SK107		
10	建築材	漆喰	2.6	9.2	4.2	-	SK112 瓦含む	表面黒色塗布物 朱の痕跡あり	

され、上部には螺旋状に沈線が巡る。口縁部は二次的な敲打痕が多い。胎土は粉っぽく精良である。底面の刻印は「白井清次郎」である。白井清次郎（1825～1898）は浅草今戸焼の職人で、二十三歳（1847）の時に開業とされる（白井裕一郎2016）。

第577～579図は出土した木製品である。1は曲物の蓋で樹皮紐が残存する。2・3は曲物の底板である。2には「壽」の焼印が押される。4・5は赤漆塗り、6・7は黒漆塗りの箸である。8は蓋で、裏面が炭化している。9は呑口と栓で、栓の上部は面取りされる。10・11は櫛で、いずれも結櫛である。12は柄で、銅製の金具が付いている。金具上部に穴があり、他材が付いていたものと考えられる。13は木札である。「口上」の焼印がある。14の上下辺には木釘孔、側面に木釘が残り、他材と組み合わせた痕跡が残る。「と 朧」の墨書が書かれる。16は、これまで栗橋宿跡で報告した神酒口と異なる形と厚みであるが、柄部、扇部があることから、神酒口と推定される。17は箱杖で、側面と底面の三箇所に「角七」の焼印がある。

第583図9～12には金属製品を示す。9は煙管の吸口、10は鉄製の錠、11・12は釘である。

第111号土壌は長軸1.84mの隅丸方形を呈する土壌である。下層に樹皮等を多量に含む。

第564～566図64～113に出土した陶磁器を示す。酸化コバルト染付の磁器を含む組成である。70～73は腰部が角張る磁器坏で、外面に酸化コバルト染付で「赤壁賦」が書かれている。74・75は同文で草花文と文字の組み合わせで「天莫空勾踐 時非無范蠡」の詩句を書く。94～98は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯である。94の内面に江戸絵付けで「ふじのや」と上絵付けされる。108は陶器の徳利で、胎土は灰色・硬質で微細な黒色粒子を含む。この黒色粒子は灰釉の上にも浮き出て鉄斑状になっており、大堀相馬系陶器の特

色を示している。外面は鶯色の灰釉、頸部に糠白釉を流し掛ける。111は巻貝を象った瓦質土器の一部で、仕切り盤の装飾と考えられる。下部は接合面で剥落している。胎土に角閃石を多く含む。112・113は土師質土器の焼塩壺蓋で、白色骨針状物質を含む点特徴的である。第572図1～5は土製品で、2～5に示した基石がまとまって出土した。

第583図13・第584図3は金属製品である。後者は文久永寶である。第585図4・5は石製品である。5は石筆で、白色不透明のものである。図の下側は破損面としたが、鋭利な道具で切断されたようにも見える。

第112号土壌は、第111号土壌の下部から検出され、より古い。長軸3.09mの不整形を呈する。覆土には木質の繊維や貝類がラミナ状に堆積し、一定期間開口した廃棄土壌の可能性がある。

第566～571図114～184に陶磁器を示す。114～119は染付が施される磁器碗類で、瀬戸美濃系・肥前系磁器の端反碗・丸碗類である。121は瀬戸美濃系磁器の碗で、赤・茶の上絵付けが施される。

122～127は瀬戸美濃系磁器の坏である。122～124は、極めて近いモチーフを染付するが、模様細部は異なっており、高台部などの形態にも差異がみられる。125・126も、木型打込の施文後に染付で類似するモチーフを描く。129は瀬戸美濃系磁器の長筒形の坏で、酸化コバルト染付が施される。

134は内面に赤で「霜雪操」、青で「鶴遊」、赤で「旭光來映/萬年枝」、青で「古河/松本/吟造」銘を上絵付けする。古河市内に現存する青木酒造の屋号が松木屋であるので、当時の青木善兵衛家によるものであろう。青木酒造は天保2年（1831）に江州出身者が創業したとされる。135は内面に「固」と青で上絵付けする。『東講』や『営業便覧』を見ると、栗橋上町の原勢屋（小

林軍治家)の屋号紋が「固」である。

138～140は磁器の紅皿である。138は外面に陽刻状に「福」「壽」文を二単位表示ものとみられ、胎土の特徴から肥前系磁器と考えられる。

152は京都信楽系陶器の坏で、胎土は極めて堅緻に焼成されて磁器質である。外面に赤の上絵付けがみられ「浅紅」の「浅」の一部と考えられる(村山2021)。158・159は産地不明の陶器欄徳利で、同一個体の可能性が高い。159の底面に「正」の墨書がある。160は京都信楽系陶器の欄徳利で底部に墨書「△」が書かれる。181は瓦質土器の脚部と思われる破片だが、外面が丁寧にヨコミガキされ、その上に赤色塗布物が残る。赤漆を塗ったものと思われる。第572図6～9には土製品、10には硝子製品の筭を示す。

第573図7～12には、瓦類を示す。7～11は軒棧瓦の破片で、9～11のように瓦当面を素文とするものが認められる。第576図10は漆喰の破片である。第2号建物跡周辺から出土したものの同様に、黒色塗布物痕と朱線の痕跡が認められ、黒壁の土蔵建物に伴うものであろう。

第579～582図24～48は木製品である。25は樽の蓋で、側面の木釘から二枚以上をつないだと考えられる。表面に「三久」の焼印がある。26は剣形の神酒口で、三つ巴の銅製金具が付けられている。33の樽側板には「改製造」「水麗」の焼印が残る。34・35は樽側板で、34には「七」、35には「□代」の焼印がある。36は箱状で、赤色塗料の上に黒漆が塗られる。「倉」の焼印がある。一部炭化する。38は筭である。全面黒漆塗り、金で文様が描かれるが不鮮明である。右側面に木釘穴があり、左端と同様の材が付いていたものと推定される。39・40は鏡箱で全面黒漆塗りである。39は表面右半に年輪を生かした装飾が施される。外周には側板固定の段が作られる。40は側面に側板固定の木釘が残存する。柄の付け根に切込みが入る。41の表裏面に

は「角七」の焼印がある。第110号土壇出土の箱枕(17)にも同じ焼印が見られる。43は工具柄で、端部に金属が残る。44は刀の柄で、全面黒漆塗りである。45は刷毛で黒漆が付着する。第583図14～21・第584図4～6は金属製品、第585図6～10は石製品である。

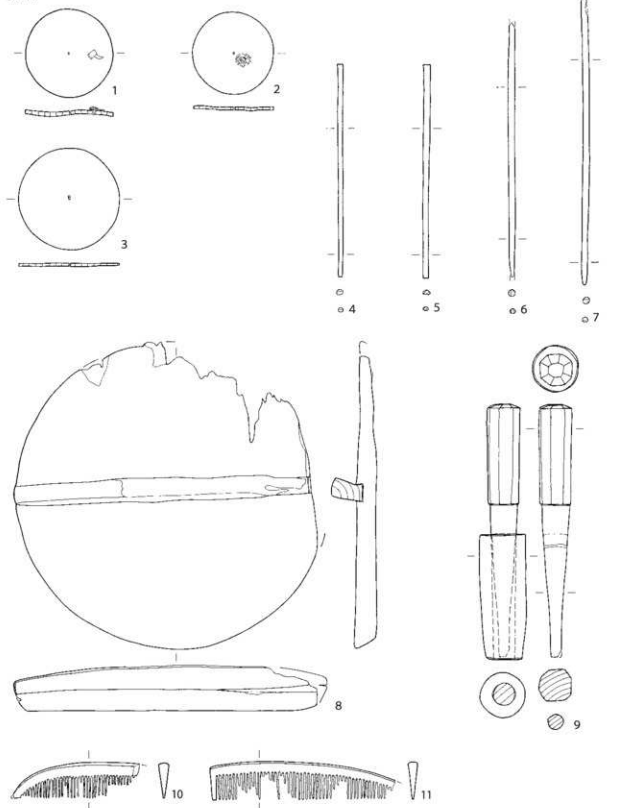
以上に示した第110～112号土壇は、遺物の内容から栗橋9期の比較的古い段階に帰属する土壇である。遺構の重複関係から第8号建物跡より新しいことがわかっており、建物が明治前半期以前に廃絶していたことを明確にしている。また、陶磁器や木製品に墨書や刻書で「角屋七兵衛」を示すものが多いのも特徴的である。

第264号土壇は、第106号土壇の東側に重複して検出されたもので、より新しい。長軸1.15mの隅丸長方形を呈する土壇である。覆土は砂質土で遺物の包含は比較的多い。

第571図185～195には出土した陶磁器を示す。185は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、内外面二段に崩れた筆文を染付する。臭須の色調がやや濃く、酸化コバルト染付の可能性もある。187は肥前系磁器の鉢で、高台内に「正」の釘書きがある。189は備前系陶器の徳利で、頸部に条線を有す。体部に窪みが認められ、「べこかん徳利」のように加圧で体部を窪ますものである。頸部・肩部境に段を有す。本跡からは明確な酸化コバルト染付の製品が出土していない。全体的な様相は栗橋8期であるが、185の瀬戸美濃系磁器端反碗や、後述する鉛面子から、実際には栗橋9期の早い段階に帰属する遺構と考えられる。

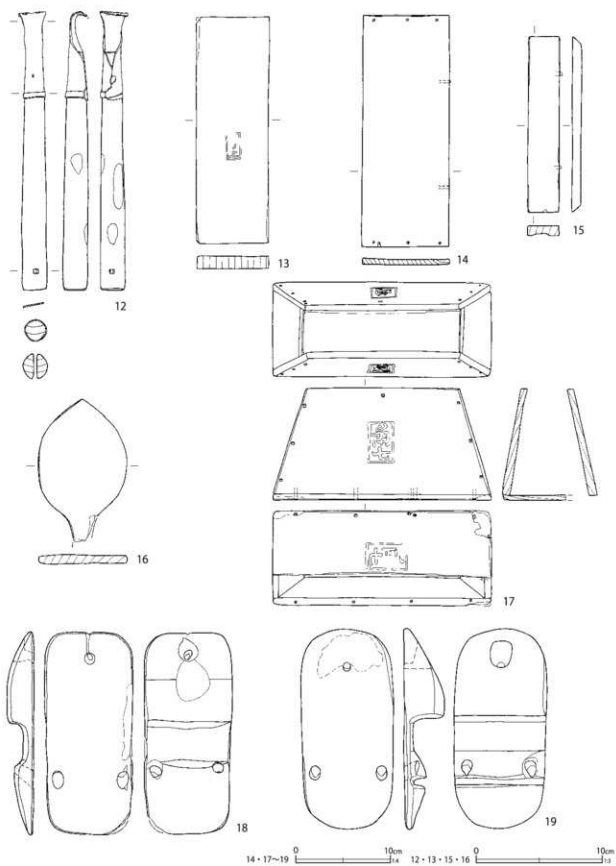
第572図11～13は土製品の泥面子で、いずれも芥面子である。第583図22は、金属製品の鉛面子である。絵のモチーフは六孫王経基の龍退治の場面である。部分的に赤や白などの塗料で彩色されるが本例には残っていない。この薄型タイプの鉛面子は大阪製で、都内の遺跡で出土する鉛面子にこのタイプのものはほとんどない。栗橋宿跡では

SK110

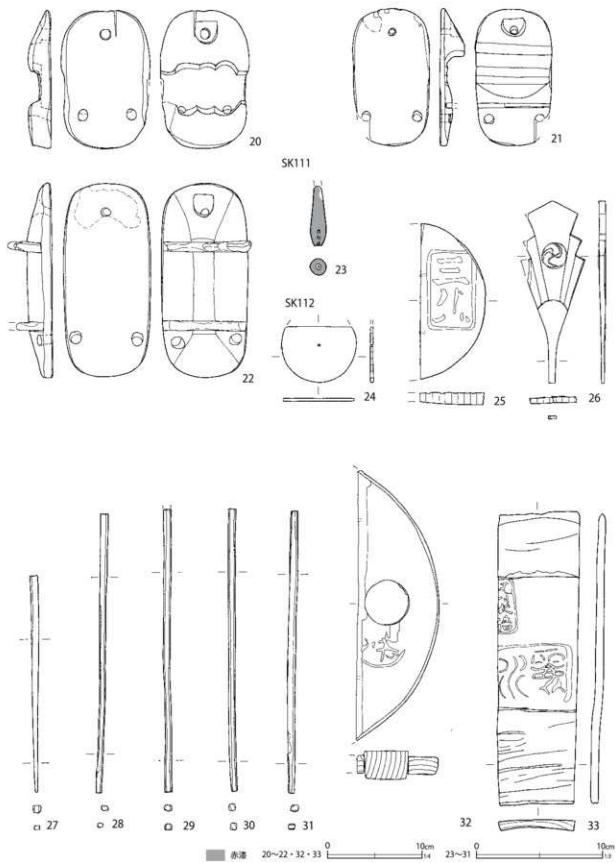


0 10cm 1:1

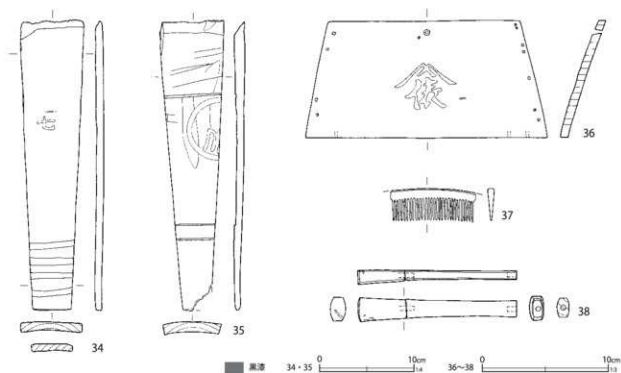
第 577 図 第 7 区画の土壌出土遺物 (18)



第578図 第7区画の土壇出土遺物 (19)



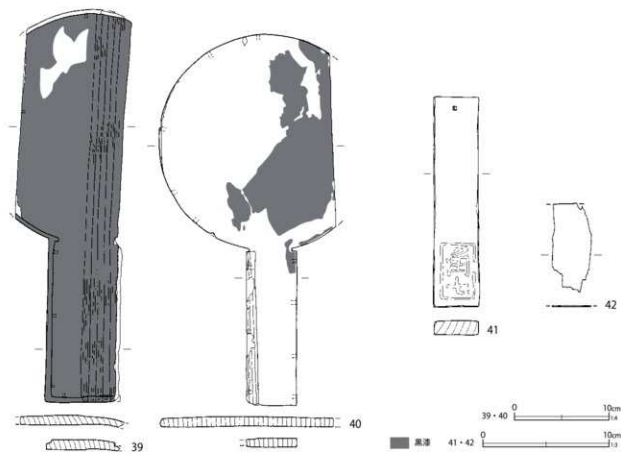
第 579 図 第 7 区画の土壇出土遺物 (20)



第580図 第7区画の土壇出土遺物(21)

第233表 第7区画の土壇出土遺物観察表(5)(第577～582図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	曲物	-	-	0.3	6.9	-	-	楕目	SK110	蓋 樹皮紐残 孔1	260-1
2	木製品	曲物	-	-	0.2	6.4	-	-	楕目	SK110	底板 焼印「壽」孔1	260-2
3	木製品	曲物	-	-	0.4	8.0	-	-	楕目	SK110	底板	
4	木製品	箸	16.8	0.4	0.4	-	-	-	削出丸棒	SK110	赤漆	
5	木製品	箸	16.8	0.5	0.3	-	-	-	削出丸棒	SK110	赤漆	
6	木製品	箸	[20.0]	0.5	0.5	-	-	-	削出丸棒	SK110	黒漆	
7	木製品	箸	[22.8]	0.5	0.5	-	-	-	削出丸棒	SK110	黒漆	
8	木製品	蓋	-	-	3.6	24.8	-	-	板目	SK110	裏目炭化	260-3
9	木製品	呑口・栓	9.8	3.6	3.6	-	-	-	芯持材	SK110	呑口の内側に黒い線 木栓の表面に黒い線 木栓は長19.9・幅2.6・厚2.6	260-4
10	木製品	柳	[10.0]	2.8	0.8	-	-	-	楕目	SK110		260-5
11	木製品	柳	[14.7]	3.0	0.8	-	-	-	不明	SK110		260-6
12	木製品	柄	22.0	1.9	1.9	-	-	-	板目	SK110	金属先端孔2 柄を止める孔1 柄:木製 金属:銅製	260-7
13	木製品	木札	17.8	5.8	1.0	-	-	-	楕目	SK110	焼印「口上」	
14	木製品	箱小	24.5	9.2	0.6	-	-	-	板目	SK110	片面黒書 木釘 孔 第241表13	296-8
15	木製品	箱	13.9	2.5	0.8	-	-	-	板目	SK110	側板 黒書「向?船?戸?前?」木釘2	
16	木製品	神酒口	[11.2]	7.0	0.7	-	-	-	板目	SK110	黒書(両面に文字見えるが不明瞭。二から三字か)	260-8
17	木製品	箱枕	10.0	23.2	-	-	11.8	-	板目	SK110	焼印3箇所「角七」コグ痕 孔 木釘	261-1
18	木製品	下駄	21.5	9.3	-	-	2.9	-	板目	SK110	何り下駄 孔3	
19	木製品	下駄	21.1	9.8	-	-	4.4	-	楕目	SK110	後歯下駄	
20	木製品	下駄	14.6	8.3	-	-	2.4	-	板目	SK110	何り下駄	261-2
21	木製品	下駄	14.4	8.2	-	-	[2.6]	-	板目	SK110	何り下駄	261-3
22	木製品	下駄	20.5	9.3	-	-	4.7	-	板目	SK110	陰印下駄 一部炭化	
23	木製品	浮子	[4.7]	1.2	1.2	-	-	-	-	SK111	赤漆 下に方形の孔	261-4



第581図 第7区画の土壌出土遺物(22)

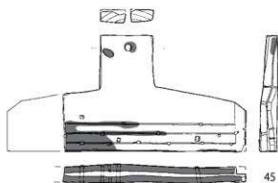
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
24	木製品	曲物	-	-	0.2	5.9	-	-	板目	SK112	黒書 第241表16	296-11
25	木製品	樽	-	-	0.9	(12.6)	-	-	板目	SK112	蓋木釘2焼印「三久」	
26	木製品	神酒口ある いは幣束か	14.3	[4.4]	0.4	-	-	-	板目	SK112	中央に銅「三つ巴」紋を釘で固定	261-5
27	木製品	箸	17.2	6.0	0.6	-	-	-	削出し	SK112		
28	木製品	箸	22.1	0.5	0.5	-	-	-	削出し	SK112		
29	木製品	箸	22.3	0.5	0.5	-	-	-	分割棒状	SK112		
30	木製品	箸	22.4	0.5	0.5	-	-	-	削出し	SK112		
31	木製品	箸	22.3	0.6	0.5	-	-	-	削出し	SK112		
32	木製品	樽蓋	28.2	[8.6]	3.0	-	-	-	板目	SK112	木釘残存 焼印	
33	木製品	樽	31.0	8.1	1.0	-	-	-	板目	SK112	側板 焼印「改製造」「水圓」	261-6
34	木製品	樽	30.7	6.7	1.1	-	-	-	板目	SK112	焼印「七」	
35	木製品	樽	[30.7]	6.2	1.0	-	-	-	板目	SK112	側板 刻印あり「口代」表裏加工 板 黒色塗料	
36	木製品	箱枕	-	19.2	0.6	-	9.2	-	板目	SK112	表面赤色塗料の上に黒漆残 孔16(木釘残10孔貫通6) 炭化跡(5つ)あり	262-1
37	木製品	櫛	[6.7]	2.5	0.5	-	-	-	不明	SK112		
38	木製品	笄	12.5	1.9	1.1	-	-	-	削出し	SK112	全体黒漆 金で模様不鮮明 孔2(内木残)	262-2
39	木製品	鏡箱	41.5	[11.0]	1.0	-	-	-	板目	SK112	木釘残存 両面黒漆	261-7
40	木製品	鏡箱	39.2	[18.4]	1.1	22.9	-	-	板目	SK112	木釘残5孔7 両面黒漆	261-8
41	木製品	木札	16.6	3.7	1.1	-	-	-	板目	SK112	黒書 焼印「角七」両面 第241 表14	296-9



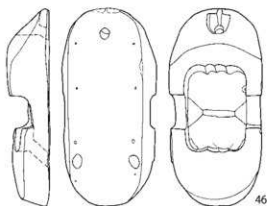
43



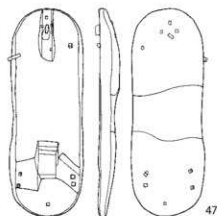
44



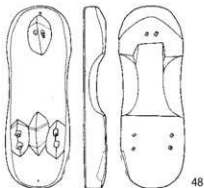
45



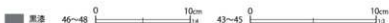
46



47

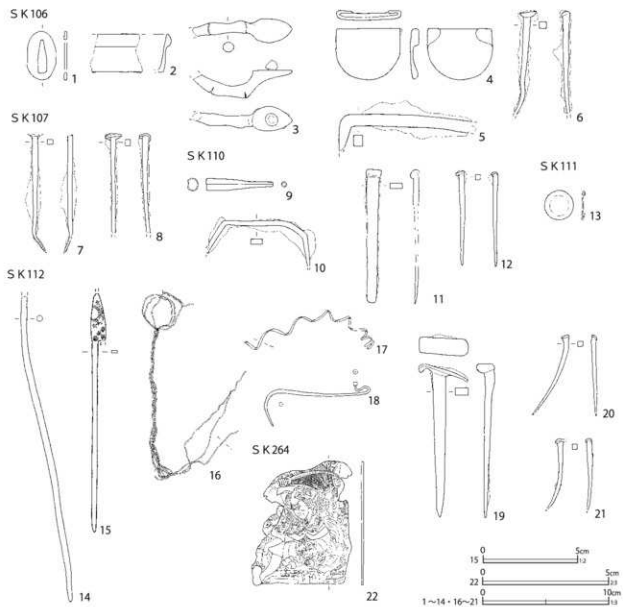


48



第582図 第7区画の土壌出土遺物(23)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
42	木製品	絲木	[7.1]	[3.1]	0.1	-	-	-	極目	SK112	墨書 第241表 15	296-10
43	木製品	柄杓	2.4	13.5	-	-	2.4	-	極目	SK112	端部に金属残	262-3
44	木製品	刀の柄	3.0	9.3	1.4	-	-	-	削出し	SK112	黒漆 方形の孔2 二枚合わせ	262-4
45	木製品	刷毛	9.2	(18.8)	1.6	-	-	-	板目	SK112	黒漆 孔 木釘 鉄釘	262-5
46	木製品	下駄	20.8	8.0	-	-	4.5	-	板目	SK111	割り下駄	262-6
47	木製品	下駄	22.0	7.8	-	-	2.1	-	板目	SK112	無眼下駄 孔4 木釘残2 鉄釘残7	262-7
48	木製品	下駄	19.2	6.8	-	-	2.4	-	板目	SK112	無眼下駄 孔8 木釘残6 鉄釘残1	262-8

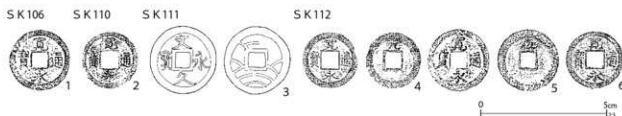


第 583 図 第 7 区画の土壌出土遺物 (24)

第 234 表 第 7 区画の土壌出土遺物観察表 (6) (第 583 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	切羽	縦 3.9 横 2.3 厚さ 0.2 重さ 7.2	SK106		
2	銅製品	容器	縦 [3.1] 横 [4.2] 厚さ 0.5 重さ 24.6	SK106	口縁破片	
3	銅製品	把手	縦 1.9 横 [8.0] 高さ 3.0 厚さ 0.9 重さ 44.4	SK106	引出の把手	
4	鉄製品	灰鉄	縦 4.0 横 5.1 厚さ 0.7 重さ 35.1	SK106	雪駄の灰鉄	276-2
5	鉄製品	錠	長さ [10.9] 幅 0.9 厚さ 0.7 重さ 62.8	SK106		
6	鉄製品	釘	長さ [8.2] 幅 (0.6) 厚さ (0.5) 重さ 11.8	SK106		
7	鉄製品	釘	長さ [9.8] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 11.2	SK107		
8	鉄製品	釘	長さ [7.8] 幅 (0.4) 厚さ (0.5) 重さ 6.3	SK107		
9	銅製品	煙管	長さ 5.3 小口径 1.0 × 0.8 口付径 0.4 重さ 3.6	SK110	吸口	273-1
10	鉄製品	錠	長さ [8.3] 幅 0.4 厚さ 0.9 重さ 22.6	SK110		
11	鉄製品	釘	長さ 10.5 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 11.8	SK110		
12	鉄製品	釘	長さ 7.9 幅 (0.4) 厚さ (0.4) 重さ 3.6	SK110		
13	銅製品	不明	径 2.3 厚さ 0.1 重さ 3.1	SK111	縁折れ面がる	

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
14	銅製品	火箸	長さ [24.2] 厚さ 0.5 重さ 17.8	SK112	使い代のみ 鍍金あり	
15	銅製品	簪	長さ [12.6] 幅 0.8 厚さ 0.1 重さ 4.0	SK112	飾り・片脚欠失 印刷文 様あり	274-1
16	銅製品	針金	縦 15.1 横 8.8 厚さ 0.1 重さ 5.6	SK112	径約 2cm の棒状品に括り 付けられていた形状を残す	
17	銅製品	不明	縦 3.1 横 10.3 厚さ 0.03 重さ 0.7	SK112	リボン状薄板	
18	銅製品	不明	縦 3.5 横 8.4 厚さ 0.3 重さ 3.8	SK112		
19	鉄製品	釘	長さ 12.0 幅 1.0 厚さ 0.6 重さ 36.3	SK112		
20	鉄製品	釘	長さ [6.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 3.1	SK112		
21	鉄製品	釘	長さ [5.5] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 3.1	SK112		
22	鉛製品	鉛面子	縦 5.0 横 4.0 厚さ 0.1 重さ 7.0	SK264	六孫王経基(能登治)	278-8



第584図 第7区画の土壌出土遺物(25)

第235表 第7区画の土壌出土遺物観察表(7)(第584図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.4 重さ 3.2	SK106	寛永通寶(新)	
2	銅製品	銭貨	径 22.8 厚さ 0.8 重さ 1.7	SK110	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径 27.0 厚さ 1.4 重さ 4.0	SK111	文久永寶	
4	銅製品	銭貨	径 22.3 厚さ 0.8 重さ 1.6	SK112	寛永通寶(新) 背元	
5	銅製品	銭貨	径 24.8 厚さ 1.2 重さ 0.6	SK112	寛永通寶(新) 背佐	
6	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.5	SK112	寛永通寶(新)	

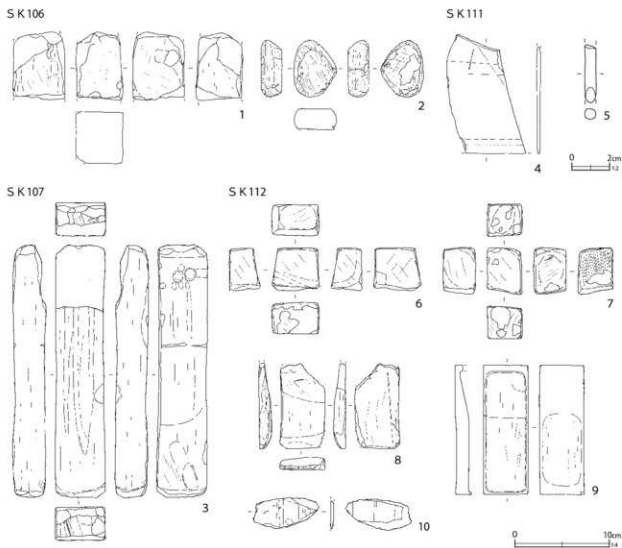
第8地点から6点出土している。いずれも出土時には2つ以上に折られ、所謂「おかちめんこ」の状態で埋まっていた。なお、鉛面子は明治10～30年代前半に流行したとされるが、本跡の陶磁器様相から、その中でも古い段階の資料である可能性がある。

第7区画の土壌は、大きく火災処理に関する土壌(第105～107・121号土壌)と、第8号建物跡の範囲内に展開する廃棄土壌(第110～112号土壌)が認められる。前者は栗橋7期後半の火災に関わるものと思われる。後者は栗橋9期のはじめに位置付けられる様相である。これを第8号建物跡との関係でみると、後者のグループでは、全てが建物跡より新しく、少なくとも栗橋9期の早い段階までに建物が廃絶していたことを示してい

る。一方、前者のグループでは第105号土壌が建物跡より新しい。重複部分が狭く、確実な観察所見とは言い難いが、火災時、あるいはそれ以前に建物が廃絶していた可能性があり、その点は建物跡出土遺物の年代観とも矛盾していない。

なお、本区画は、遺物に認められる文字資料からも『絵図』の「旅籠屋 百姓 七兵衛」の区画として問題が無く、『絵図』の年代も、火災の時期に極めて近いものと考えられる。

以上、第一面の第1～7区画の土壌について報告した。第一面の第8・9区画の土壌および、第一面のビット・性格不明遺構・第二面の諸遺構については、次年度以降に整理・報告を行う予定である。



第 585 図 第 7 区画の土壌出土遺物 (26)

第 236 表 第 7 区画の土壌出土遺物観察表 (8) (第 585 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[7.2]	5.0	5.5	315.4	砂岩	SK106	砥面 4 一部黒色化	281-2
2	石製品	磨石	6.0	4.5	2.2	27.6	軽石	SK106	自然面遺存 使用痕 4 被熱(強) 黒色化	
3	石製品	砥石	26.7	5.3	3.5	930.5	砂岩	SK107	砥面 4 被熱(一部赤化・黒化)	281-3
4	石製品	石板	[12.5]	[8.4]	0.4	54.9	粘板岩	SK111	線刻あり 側面工具痕	
5	石製品	石筆	[3.0]	径 0.6		1.9	滑石	SK111	白色不透明	284-2
6	石製品	砥石	4.5	5.0	3.3	122.9	砂岩	SK112	砥面 6	281-4
7	石製品	砥石	4.9	3.7	3.4	119.2	流紋岩	SK112	線状痕 1 面 砥面 6	281-5
8	石製品	砥石	[9.0]	[4.8]	1.3	88.0	流紋岩	SK112	砥面 5	
9	石製品	硯	13.7	4.7		215.9	粘板岩	SK112	器高 1.7 cm 墨付着	
10	石製品	石板	[3.3]	[7.0]	0.3	12.3	粘板岩	SK112	線刻あり	

7 鍛冶関連遺物

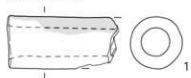
栗橋宿跡第9地点では、鍛冶関連遺物がまとまって出土している。『絵図』によると、第9地点にあたる箇所「鍛冶屋 幸次郎」と記載されており、鍛冶屋の存在を示している。特に第4区画からは夥しい量の鑪の羽口（以下「羽口」と略）・鉄滓が出土しており、この区画が「鍛冶屋」の場所に比定されると考えられる。江戸時代後期以降の宿場町における鍛冶屋の様相を示す良好な資料と認められることから鍛冶関連遺物の項を独立して設けた。

主な出土遺物は羽口である。第1区画と第6区画を除くすべての区画から出土している。最も多く出土しているのは第4区画である。第4区画のうち、破片の出土数が特に多い遺構を示すと、第145号土壌が158点、第141号土壌が63点、第297号土壌が45点を数える。同時に個体数も10点以上が確認されている。特に第145号土壌からは、未使用の羽口をはじめ、使用時に固定するための粘土が付いたままの羽口、鍛冶炉内に設置したとみられる炉寄石（ほどよせいし）といった出土例の少ない資料が出土している。

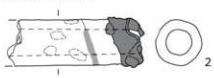
第586～599図は羽口と炉寄石である。1は第4号土壌より出土した羽口である。鑪側の破片である。2は第309号土壌より出土した羽口である。体部に複数の圧痕が認められる。それぞれ、第2区画と第3区画より出土しているが、本来は第4区画で使用されたものと考えられる。4～7は第135・136・137号土壌より出土した羽口である。4は、鑪側端部の面に墨書が書かれている。二箇所にかかれており、一箇所は「くり」と書かれている。栗橋の「くり」であろう。7は滓の付着した機械成型の煉瓦片である。明治後半期まで鍛冶行為が行われていたことを示している。8～11は第140号土壌より出土した羽口である。8は内面の鑪側端部が削られ若干薄くなっている。9は体部に対して平行に圧痕がみられる。11は、

内外径が小さく厚みがある。12～28は第141号土壌より出土した羽口である。39～99は第145号土壌より出土した羽口と炉寄石である。39は羽口を鑪の傍に固定するための粘土が付いた状態の羽口である。第607図のように使用されたと想定される。粘土部分は鑪側の面が激しく滓化している。鑪の外側の面には木炭片が付着している。羽口の体部は円形の圧痕が認められる。鑪側の先端部は欠けている。40は未使用品である。刻印、墨書などは確認できないが、全面に煤が付着している。形状は、鑪側端部でハの字状にやや開き、体部の中央に向かって細くなり、鑪側端部でまた開く。全長は36.4cmである。42は全長が40.1cmあり、掲載した羽口の中では最長である。40の未使用羽口よりも長い。41・44・45・50・51・71・79・83・90・91・94は体部に圧痕がみられる。96・97は工具によって切断された痕跡が認められる。98・99は第145号土壌より出土した炉寄石である。凝灰岩製で、被熱している。100～104は第146号土壌より出土した羽口である。101は、鑪側端部が削られている。112は第151号土壌より出土した羽口である。113～119は第153号土壌より出土した羽口である。114は、鑪側の口径が7.7cmであり、出土した羽口中第299号土壌より出土した羽口に次いで口径が大きい。118は圧痕が認められる。120は第157号土壌より出土した羽口である。複数の圧痕が体部に対して平行に認められる。125～130は第199号土壌より出土した羽口である。129は体部が厚く穴が細い。128は体部が薄く穴が太い。131・132は第200号土壌より出土した羽口である。第199号土壌より出土した羽口は、第200号土壌内の羽口との接合が多い。133は第287号土壌より出土した羽口である。133は体部が厚い。134～139は第296号土壌より出土した羽口である。138は、複数の圧痕が認められる。140～168は第297号土壌より出土

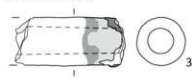
第2区画 SK 4



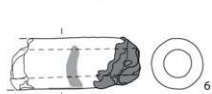
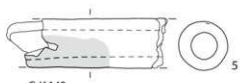
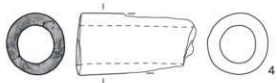
第3区画 SK 309



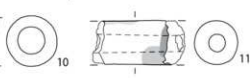
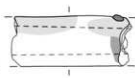
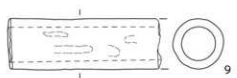
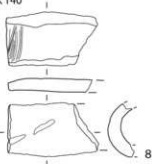
第4区画 SK 120



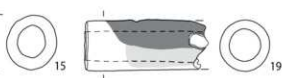
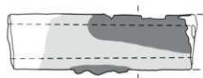
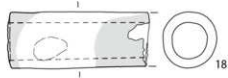
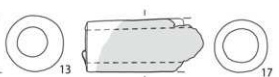
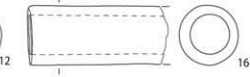
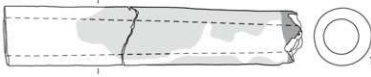
SK 135 ~ 137



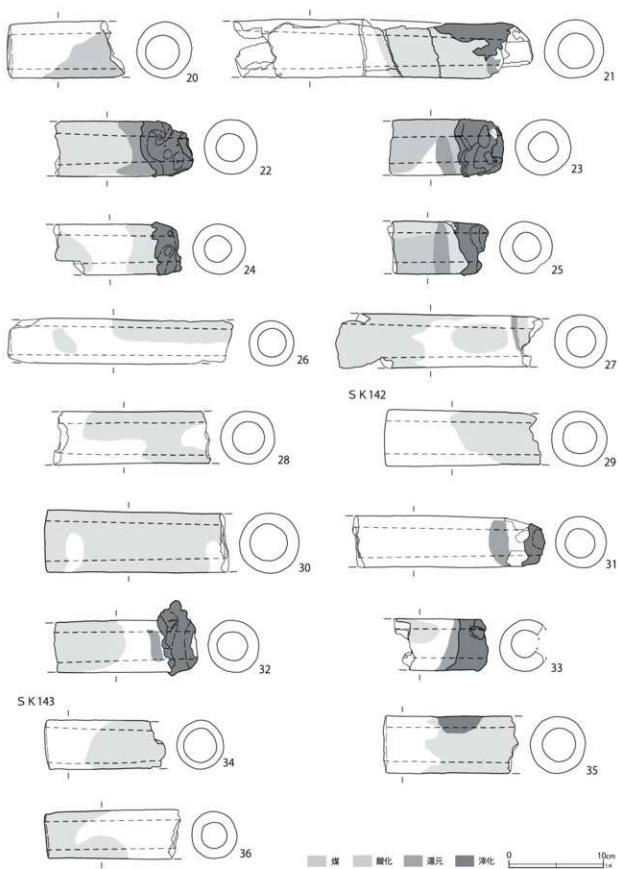
SK 140



SK 141

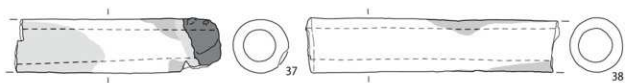


第 586 図 鍛冶関連遺物 (1)

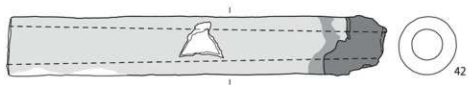
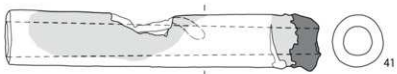
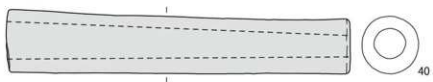
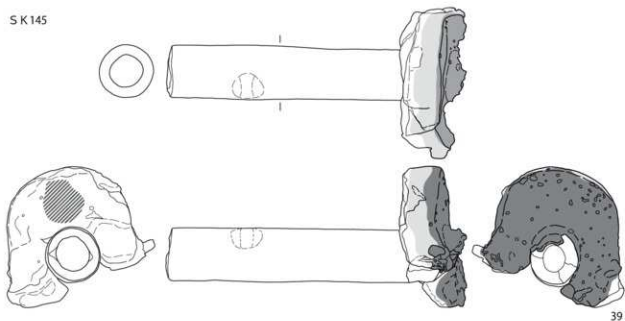


第 587 図 鍍治関連遺物 (2)

SK144

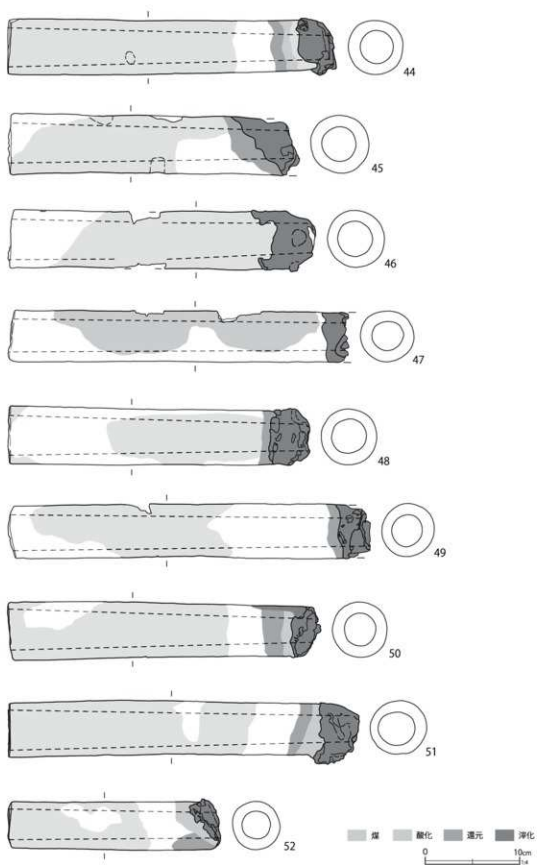


SK145

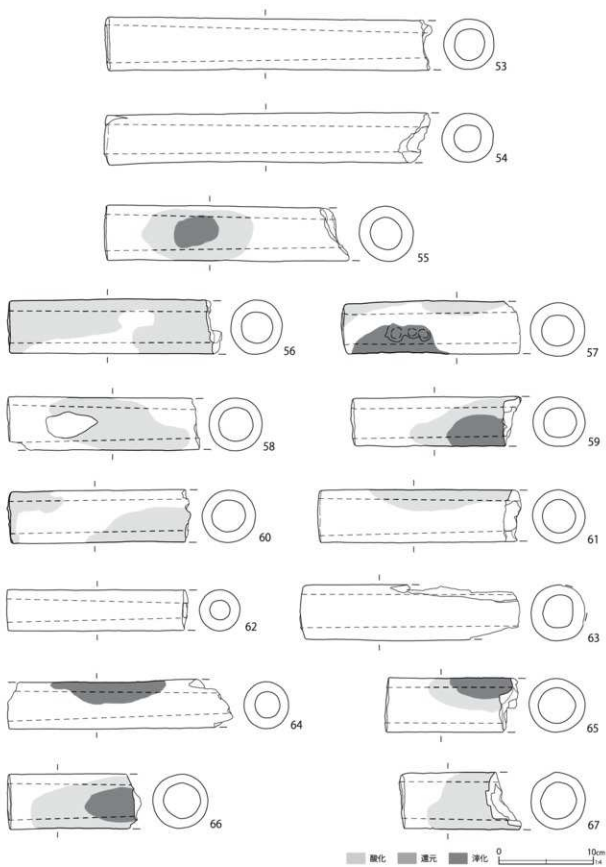


木炭片等付着
 煤
 酸化
 還元
 淨化
 0 10cm
└───┘

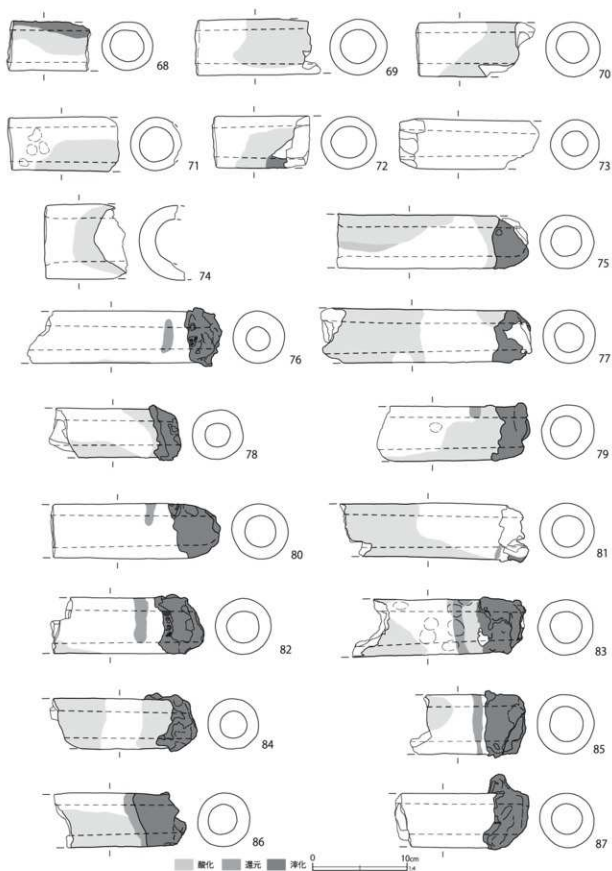
第 588 図 鍛冶関連遺物 (3)



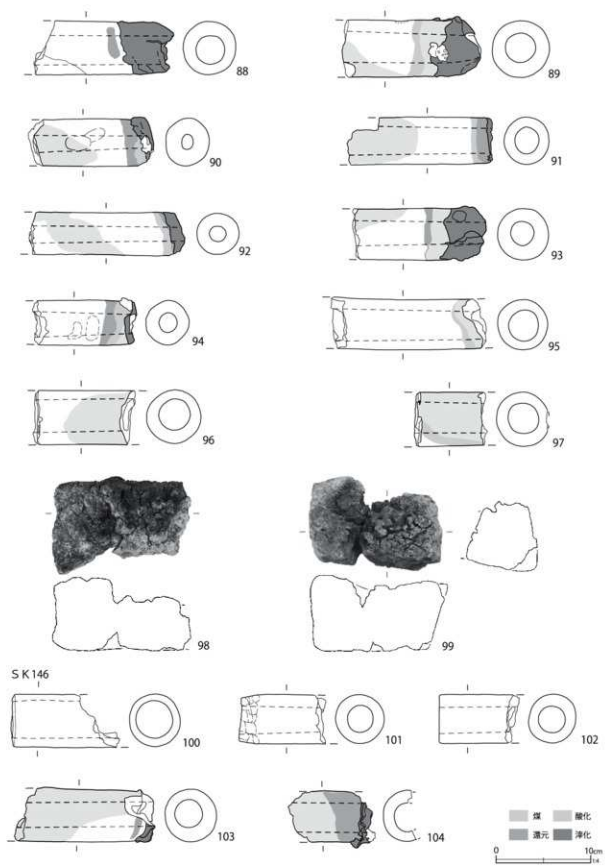
第 589 図 鐵冶関連遺物 (4)



第590図 鍛冶関連遺物(5)

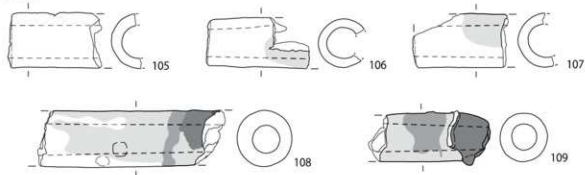


第 591 図 鋳冶関連遺物 (6)



第 592 図 鍛冶関連遺物 (7)

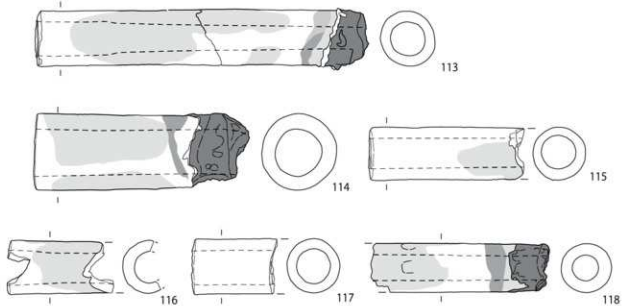
SK150



SK151



SK153



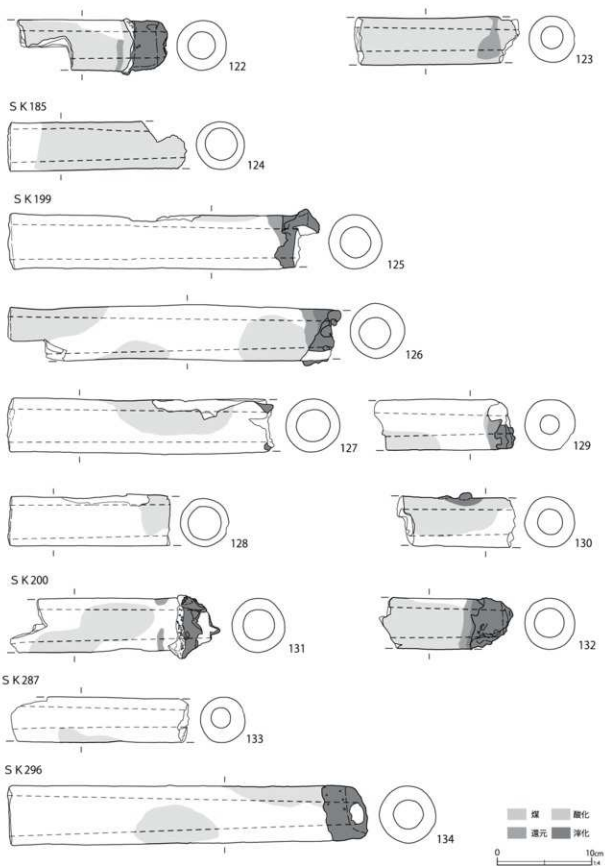
SK157



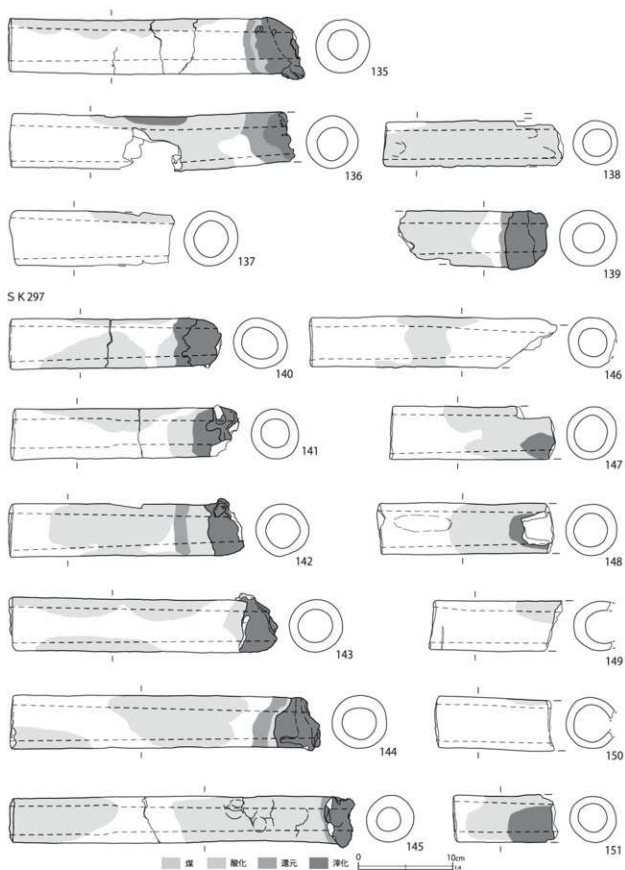
SK171



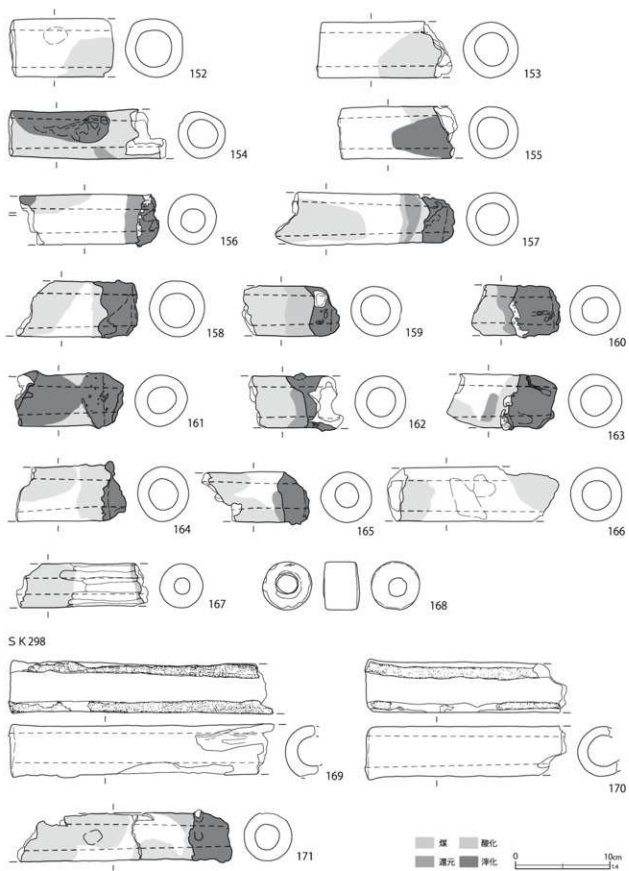
第 593 図 鍍治関連遺物 (8)



第 594 図 鍛冶関連遺物 (9)

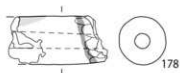
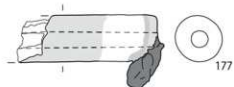
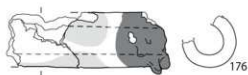
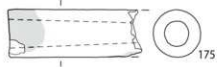
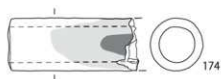
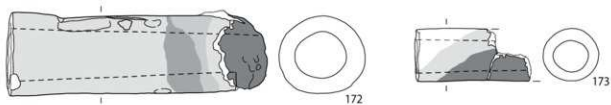


第 595 図 鍛冶関連遺物 (10)

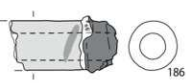
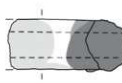
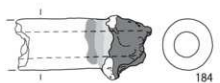
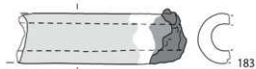
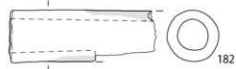


第 596 図 鍛冶関連遺物 (11)

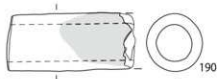
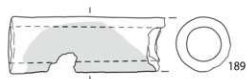
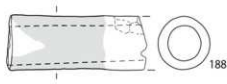
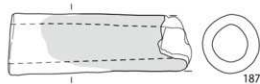
S K 299



S K 300



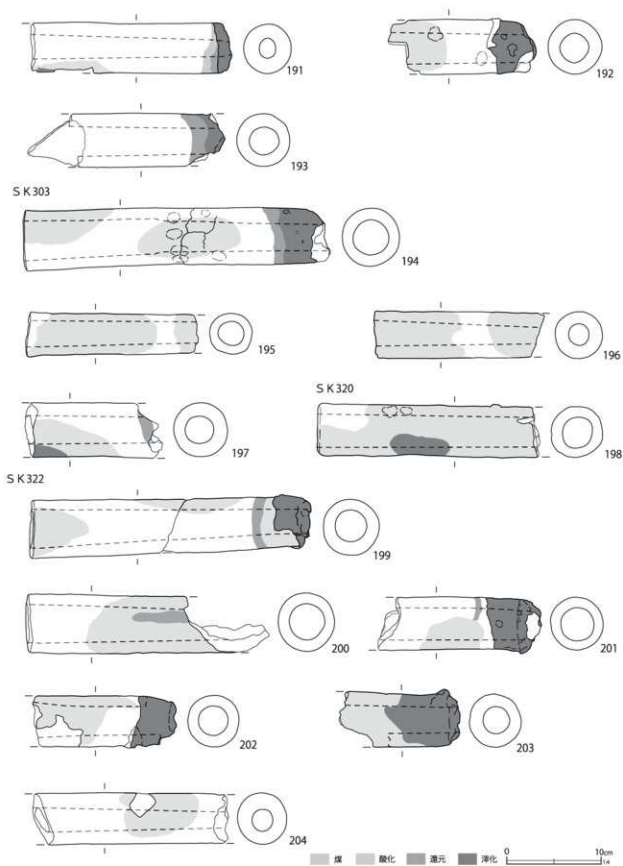
S K 301



■ 煤 ■ 酸化 ■ 還元 ■ 浮化

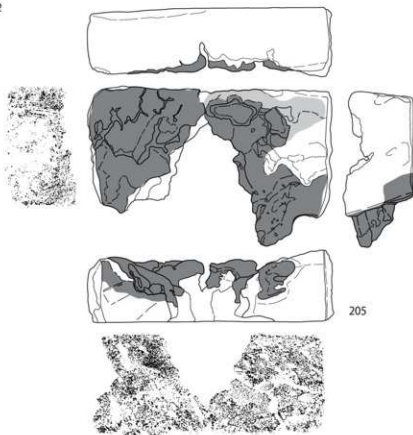
0 10cm

第 597 図 鍛冶関連遺物 (12)



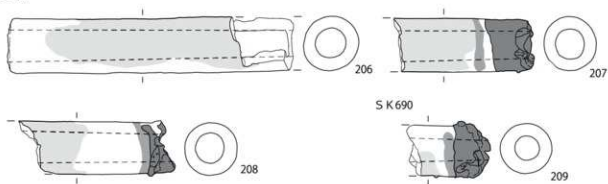
第 598 図 鍛冶関連遺物 (13)

S K 322



205

SB 7



S K 690

第5区画 S K 260



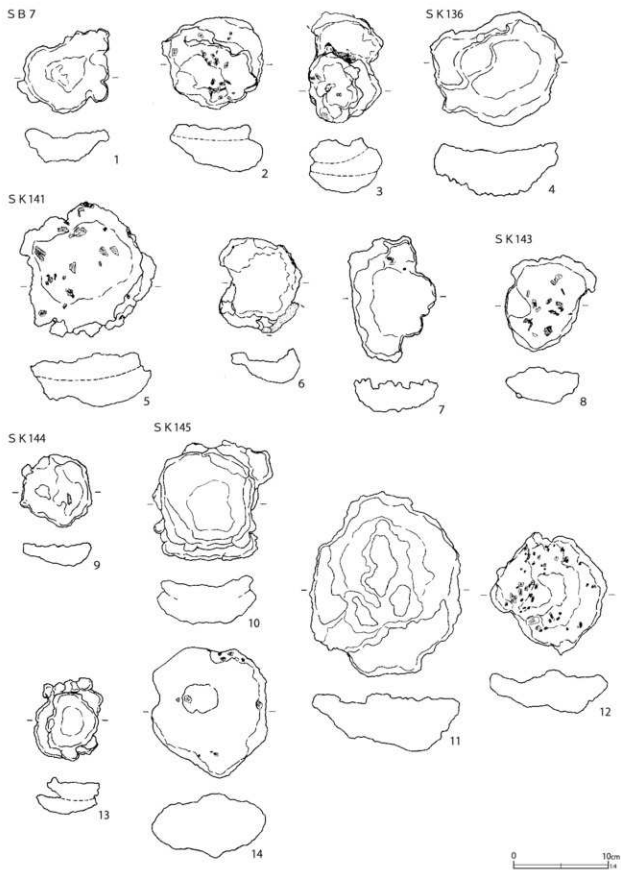
第7区画 S K 264



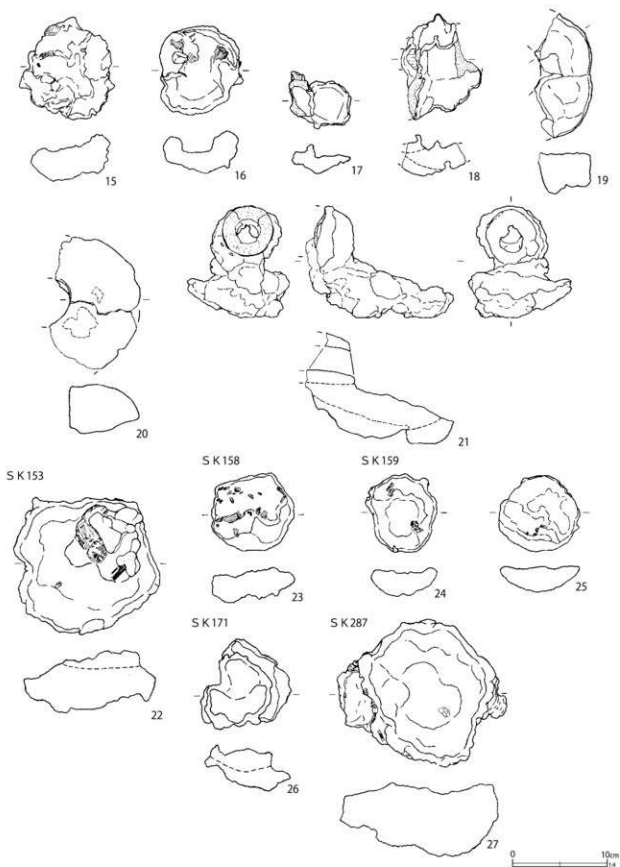
SO 1



第 599 図 鍛冶関連遺物 (14)

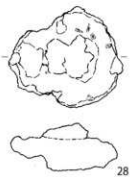


第600図 鍛冶関連遺物 (15)

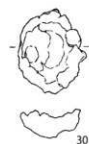


第 601 図 鍛冶関連遺物 (16)

S K 297



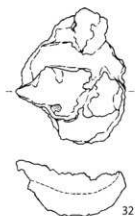
S K 298



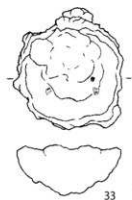
S K 299



S K 301



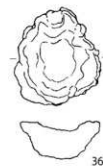
S K 301



S K 322



S K 210



第 602 図 鍛冶関連遺物 (17)

第237表 鍛冶関連遺物観察表(1)(第586~599図)

番号	種別	器種	長さ	胴径		輪径		重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外形	内径	外径	内径							
1	土製品	羽口	[11.7]	—	—	5.5	3.5	264.5	HJK	普通	灰白	SK4	指頭圧痕	
2	土製品	羽口	[14.5]	4.7	2.4	—	—	263.8	BHK	普通	灰白	SK309	指頭圧痕	
3	土製品	羽口	[11.6]	5.1	2.7	—	—	237.9	CIK	普通	灰白	SK120		
4	土製品	羽口	[12.3]	—	—	6.5	4.2	253.2	CHK	普通	灰白	SK135-136 +137	墨書	288-1
5	土製品	羽口	[16.7]	—	—	—	—	316.2	HJK	普通	灰白	SK135-136 +137	SK140と接合	
6	土製品	羽口	[13.8]	5.4	2.6	—	—	312.4	IK	普通	にぶい黄 橙	SK135-136 +137		
7	土製品	煉瓦	長さ [6.2] 厚さ 2.7					82.0	HJK	良好	にぶい赤 褐色	SK135-136 +137	機械成型 浮付着	288-2
8	土製品	羽口	[9.7]	—	—	—	—	91.5	CIK	普通	灰	SK140	内面に使用時のケズリ 角閃石多く含む	288-3
9	土製品	羽口	[16.2]	—	—	5.3	3.7	310.4	CIK	普通	にぶい橙	SK140	指頭圧痕	
10	土製品	羽口	[12.7]	—	—	—	—	287.5	HJK	普通	浅黄橙	SK140		
11	土製品	羽口	[9.7]	—	—	—	—	189.8	CHK	普通	灰白	SK140		
12	土製品	羽口	31.1	5.7	2.9	6.3	4.2	929.6	CIK	普通	灰白	SK141	SK142と接合 指頭圧痕	
13	土製品	羽口	[34.8]	—	—	6.3	4.2	1153.0	CHK	普通	灰白	SK141	SK142と接合 SK145と接合 指頭圧痕 工具痕	
14	土製品	羽口	[24.4]	—	—	5.3	3.6	413.0	IK	普通	灰白	SK141		
15	土製品	羽口	[20.1]	—	—	5.7	3.7	430.5	HJK	普通	灰白	SK141	SK145と接合	
16	土製品	羽口	[14.9]	—	—	6.3	4.4	396.6	CHK	普通	灰褐	SK141	内面ナゲ丁摩	
17	土製品	羽口	[12.4]	—	—	5.2	3.5	226.5	CHK	普通	にぶい橙	SK141	指頭圧痕	
18	土製品	羽口	[14.9]	—	—	5.9	3.9	355.4	CHKL	普通	灰白	SK141	指頭圧痕 表面に炭化物含む 外面強くへこむ	
19	土製品	羽口	[13.1]	—	—	5.3	3.4	260.7	IK	普通	明褐灰	SK141		
20	土製品	羽口	[12.4]	—	—	5.6	3.5	252.2	IK	普通	灰白	SK141	指頭圧痕	
21	土製品	羽口	[31.9]	(6.0)	(3.0)	—	—	743.7	IK	普通	灰褐	SK141		
22	土製品	羽口	[14.6]	5.7	2.3	—	—	384.0	HJK	普通	明褐灰	SK141		
23	土製品	羽口	[11.9]	5.8	2.9	—	—	332.1	IK	普通	灰白	SK141		
24	土製品	羽口	[13.3]	5.2	2.6	—	—	305.8	CHK	普通	灰白	SK141		
25	土製品	羽口	[10.5]	5.5	3.0	—	—	236.7	CIK	普通	灰白	SK141		
26	土製品	羽口	[23.8]	—	—	(4.5)	(3.0)	302.9	CHK	普通	褐灰	SK141		
27	土製品	羽口	[21.8]	—	—	—	—	458.7	HJK	普通	灰褐	SK141		
28	土製品	羽口	[16.7]	—	—	—	—	374.2	IK	普通	にぶい黄 橙	SK141		
29	土製品	羽口	[16.6]	—	—	6.0	3.5	424.4	CIK	普通	にぶい褐	SK142	SK145と接合	
30	土製品	羽口	[19.5]	—	—	6.7	4.2	593.9	CIK	普通	褐灰	SK142		
31	土製品	羽口	[20.3]	5.2	2.6	—	—	452.1	CHK	普通	灰白	SK142		
32	土製品	羽口	[15.1]	5.4	2.4	—	—	361.9	HJK	普通	灰白	SK142		
33	土製品	羽口	[10.0]	5.3	3.1	—	—	175.1	HJK	普通	灰白	SK142		
34	土製品	羽口	[12.7]	—	—	5.2	3.6	205.1	CHK	普通	灰白	SK143		
35	土製品	羽口	[14.2]	—	—	6.0	3.5	357.9	CHK	普通	灰白	SK143		
36	土製品	羽口	[14.4]	—	—	(5.0)	(3.0)	275.3	CHK	普通	灰黄	SK143		
37	土製品	羽口	[21.9]	5.5	3.6	—	—	543.1	HJK	普通	灰白	SK144		
38	土製品	羽口	[26.8]	—	—	5.8	3.6	502.4	CHK	普通	灰白	SK144		
39	土製品	羽口	31.6	—	—	5.5	3.6	1442.4	HJK	普通	にぶい橙	SK145	固定用粘土付着 整形後の圧痕あり	287-1
40	土製品	羽口	36.4	5.8	2.2	6.6	4.0	1163.5	CIK	普通	灰白	SK145	未使用	288-5
41	土製品	羽口	[33.3]	6.0	2.6	5.7	3.7	807.2	IK	普通	灰白	SK145	指頭圧痕	286-2
42	土製品	羽口	[40.1]	6.1	2.7	6.2	4.0	1152.9	IK	普通	灰黄褐	SK145		286-2
43	土製品	羽口	[35.9]	5.3	2.7	5.6	3.9	875.9	CIK	良好	灰白	SK145		286-2
44	土製品	羽口	[34.7]	5.3	2.5	5.8	4.3	890.8	CIK	良好	灰褐	SK145	指頭圧痕	286-2
45	土製品	羽口	[30.9]	—	—	6.5	4.2	792.8	IK	普通	灰白	SK145	指頭圧痕	286-2
46	土製品	羽口	[32.4]	5.6	2.1	6.2	4.3	765.9	HJK	普通	にぶい橙	SK145		288-6
47	土製品	羽口	[35.8]	5.5	3.2	5.3	3.5	765.5	IK	普通	灰白	SK145		288-7

番号	種別	器種	長さ	伊内径		輪内径		重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外形	内径	外径	内径							
48	土製品	羽口	[31.9]	6.0	2.5	6.1	4.2	966.2	CIK	普通	灰白	SK145		286-2
49	土製品	羽口	[38.2]	5.6	2.6	5.5	3.8	939.9	IK	普通	にぶい椀	SK145		289-1
50	土製品	羽口	[33.2]	5.4	2.4	6.2	4.3	844.9	CHIK	普通	灰白	SK145	指頭圧痕	286-2
51	土製品	羽口	[37.1]	5.4	2.5	5.7	4.2	998.1	CHIK	普通	にぶい黄椀	SK145	指頭圧痕	289-2
52	土製品	羽口	[22.5]	5.4	2.5	4.9	3.2	492.0	CHIK	普通	明褐灰	SK145		286-2
53	土製品	羽口	[34.5]	—	—	5.7	4.1	791.3	CIK	普通	灰白	SK145		286-2
54	土製品	羽口	[34.4]	—	—	5.3	3.1	827.2	CIK	普通	にぶい黄椀	SK145		286-2
55	土製品	羽口	[25.8]	—	—	5.8	3.8	649.2	CHIK	普通	明褐灰	SK145		286-2
56	土製品	羽口	[22.6]	—	—	5.5	3.4	489.5	CHIK	普通	灰白	SK145		286-1
57	土製品	羽口	[19.0]	—	—	5.3	3.4	454.1	HIK	普通	灰白	SK145		289-3
58	土製品	羽口	[20.3]	—	—	(5.5)	(4.0)	424.6	IK	普通	灰白	SK145		286-1
59	土製品	羽口	[18.0]	—	—	5.0	3.1	351.4	HIK	普通	灰白	SK145		286-1
60	土製品	羽口	[19.2]	—	—	5.5	3.4	447.5	IK	普通	灰白	SK145		286-1
61	土製品	羽口	[21.5]	—	—	5.5	3.9	476.3	HIK	普通	灰白	SK145		289-4
62	土製品	羽口	[19.9]	—	—	4.5	2.6	387.8	CHIK	普通	褐灰	SK145	角閃石多く含む	289-5
63	土製品	羽口	[23.2]	—	—	5.7	3.5	475.5	CIK	普通	灰白	SK145		286-2
64	土製品	羽口	[24.7]	—	—	(5.1)	3.2	401.9	CHIK	普通	にぶい椀	SK145		286-2
65	土製品	羽口	[13.8]	—	—	5.7	3.7	321.2	HIK	普通	明褐灰	SK145		289-6
66	土製品	羽口	[13.8]	—	—	5.8	3.8	300.5	CHIK	普通	灰椀	SK145		286-1
67	土製品	羽口	[12.4]	—	—	5.7	3.8	252.6	HIK	普通	黄灰	SK145		286-1
68	土製品	羽口	[8.0]	—	—	5.3	3.6	151.3	CHIK	普通	灰白	SK145		286-1
69	土製品	羽口	[13.1]	—	—	5.8	3.5	299.0	HIK	普通	明褐灰	SK145		286-1
70	土製品	羽口	[12.5]	—	—	5.6	3.3	254.1	HIK	普通	褐灰	SK145		286-1
71	土製品	羽口	[11.6]	—	—	5.5	3.5	205.5	IK	普通	灰白	SK145	指頭圧痕	289-7
72	土製品	羽口	[10.3]	—	—	4.2	3.0	220.6	CHIK	普通	黄灰	SK145		286-1
73	土製品	羽口	[14.7]	—	—	[4.2]	2.9	278.9	CHIK	普通	黄灰	SK145	二次的なケズリ	289-8
74	土製品	羽口	[8.7]	—	—	(7.7)	(5.7)	206.3	HIK	普通	灰白	SK145		289-9
75	土製品	羽口	[20.2]	(5.3)	(2.2)	—	—	520.5	HJK	普通	灰白	SK145		289-10
76	土製品	羽口	[20.6]	6.0	1.3	—	—	556.9	CHIK	普通	にぶい黄椀	SK145		286-1
77	土製品	羽口	[22.1]	5.5	2.5	—	—	565.7	IK	普通	灰白	SK145		286-1
78	土製品	羽口	[13.9]	5.9	2.4	—	—	337.9	IK	普通	灰白	SK145		286-1
79	土製品	羽口	[16.1]	5.3	3.0	—	—	388.4	HIK	普通	にぶい黄椀	SK145	指頭圧痕	289-11
80	土製品	羽口	[18.0]	(5.0)	(2.2)	—	—	466.2	CHI JKL			SK145	針状物質少量 角閃石多く含む 表面に炭化物含む	286-1
81	土製品	羽口	[20.0]	(6.0)	(3.1)	—	—	456.4	IK	普通	にぶい椀	SK145		290-1
82	土製品	羽口	[16.3]	6.0	2.8	—	—	424.7	IK	普通	灰白	SK145		286-1
83	土製品	羽口	[18.4]	5.9	(2.9)	—	—	462.9	HIK	普通	褐灰	SK145	指頭圧痕	290-2
84	土製品	羽口	[16.2]	6.2	2.7	—	—	396.6	IK	普通	灰白	SK145		290-3
85	土製品	羽口	[12.2]	(6.2)	3.0	—	—	280.3	IK	普通	灰白	SK145		286-1
86	土製品	羽口	[14.0]	—	—	—	—	276.7	IK	普通	灰白	SK145		290-4
87	土製品	羽口	[14.2]	(5.0)	(2.8)	—	—	374.0	IK	普通	灰白	SK145		286-1
88	土製品	羽口	[14.8]	5.0	2.9	—	—	340.2	IK	普通	にぶい椀	SK145		286-1
89	土製品	羽口	[14.7]	5.6	2.2	—	—	446.9	CIK	普通	灰白	SK145		290-5
90	土製品	羽口	[13.3]	5.2	1.6	—	—	338.6	CHIK	普通	灰白	SK145	指頭圧痕	290-6
91	土製品	羽口	[16.0]	5.0	2.7	—	—	303.4	CHIK	普通	にぶい椀	SK145	指頭圧痕	286-1
92	土製品	羽口	[16.3]	4.8	1.6	—	—	353.6	HIK	普通	にぶい黄椀	SK145		290-7
93	土製品	羽口	[14.1]	(5.8)	(2.2)	—	—	350.1	HIK	普通	灰白	SK145		286-1
94	土製品	羽口	[11.4]	4.8	2.1	—	—	237.2	CHIK	普通	にぶい椀	SK145	指頭圧痕	290-8
95	土製品	羽口	[16.4]	—	—	—	—	353.2	CHIK	普通	にぶい椀	SK145		286-1
96	土製品	羽口	[10.6]	—	—	—	—	260.5	CHIK	普通	灰白	SK145	切断時のためらい痕	290-9
97	土製品	羽口	[7.7]	—	—	—	—	177.0	CHIK	普通	灰白	SK145	切断時のためらい痕	290-10

番号	種別	器種	長さ	炉側径		輪側径		重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外形	内径	外径	内径							
98	石製品	炉基石	長 [14.7]	cm	幅 [9.7]	cm	厚 7.8 cm	624.9	—	—	—	SK145	凝灰岩	290-11
99	石製品	炉基石	長 [14.2]	cm	幅 [7.2]	cm	厚 8.0 cm	602.4	—	—	—	SK145	凝灰岩	290-12
100	土製品	羽口	[11.5]	—	—	5.5	3.9	152.5	HJK	普通	黄灰	SK146	二次的なケズリ	291-1
101	土製品	羽口	[9.2]	—	—	4.5	2.9	189.7	CJK	普通	灰白	SK146		
102	土製品	羽口	[8.5]	—	—	5.0	2.9	170.4	GHIK	普通	灰白	SK146		
103	土製品	羽口	[14.8]	5.2	2.4	—	—	383.9	IK	普通	褐灰	SK146		
104	土製品	羽口	[9.2]	—	—	—	—	105.3	IK	普通	灰白	SK146		
105	土製品	羽口	[9.9]	—	—	(5.8)	(3.4)	119.2	HJK	普通	灰白	SK150		
106	土製品	羽口	[10.9]	—	—	(4.9)	(3.1)	130.1	IK	普通	灰白	SK150		
107	土製品	羽口	[9.4]	—	—	(5.4)	(3.7)	114.2	CHK	普通	灰白	SK150		
108	土製品	羽口	[20.0]	—	—	—	—	579.3	HJK	普通	灰白	SK150		
109	土製品	羽口	[13.0]	4.5	2.1	—	—	246.7	IK	普通	灰白	SK150		
110	土製品	羽口	[8.5]	(5.5)	(2.8)	—	—	236.4	HJK	普通	灰白	SK150		
111	土製品	羽口	[9.2]	—	—	—	—	124.4	IK	普通	灰白	SK150		
112	土製品	羽口	[17.9]	—	—	6.1	4.3	437.6	IK	普通	褐灰	SK151		
113	土製品	羽口	[35.5]	5.8	2.5	6.0	3.6	1113.1	IK	普通	灰白	SK153		
114	土製品	羽口	[22.6]	7.0	4.2	8.1	5.2	1051.2	CJK	普通	灰白	SK153		
115	土製品	羽口	[16.4]	—	—	(5.5)	3.6	400.1	CJK	普通	灰白	SK153		
116	土製品	羽口	[11.3]	—	—	5.7	3.3	135.1	IK	普通	灰白	SK153		
117	土製品	羽口	[8.8]	—	—	5.8	3.7	209.5	IK	普通	灰白	SK153		
118	土製品	羽口	[18.9]	4.9	2.5	—	—	409.4	CJK	普通	灰白	SK153	指頭圧痕	
119	土製品	羽口	[11.7]	5.2	2.1	—	—	264.5	IK	普通	灰白	SK153		
120	土製品	羽口	[22.5]	—	—	—	—	507.5	CHK	普通	褐灰	SK157	指頭圧痕	
121	土製品	羽口	[17.7]	—	—	5.8	3.5	348.1	IK	普通	にぶい 黄橙	SK171		
122	土製品	羽口	[16.9]	5.1	2.7	—	—	316.6	IK	普通	にぶい 黄橙	SK171		
123	土製品	羽口	[17.4]	(4.8)	(2.0)	—	—	370.5	HJK	普通	にぶい 黄橙	SK171		
124	土製品	羽口	[18.9]	—	—	5.1	3.6	287.1	IK	普通	灰白	SK185		
125	土製品	羽口	[32.9]	(5.5)	(3.0)	5.9	3.2	601.7	IK	普通	灰白	SK199	SK200 と接合	
126	土製品	羽口	[35.2]	5.4	3.0	(5.7)	(4.0)	805.5	HJK	普通	灰白	SK199	SK200 と接合	
127	土製品	羽口	[28.1]	—	—	5.7	3.5	669.7	BHIK	普通	灰白	SK199	SK200 と接合	
128	土製品	羽口	[17.1]	—	—	5.1	3.6	276.4	IK	普通	灰白	SK199	SK200 と接合	
129	土製品	羽口	[14.8]	5.3	1.8	—	—	356.7	HJK	普通	にぶい 黄橙	SK199		
130	土製品	羽口	[12.5]	—	—	—	—	257.1	IK	普通	灰黄褐	SK199		
131	土製品	羽口	[22.1]	5.4	2.9	—	—	459.0	IK	普通	灰白	SK200		
132	土製品	羽口	[14.1]	(5.4)	(2.8)	—	—	261.7	IK	普通	灰白	SK200		
133	土製品	羽口	[18.8]	—	—	—	—	368.0	CHK	普通	灰白	SK287		
134	土製品	羽口	37.8	5.8	2.2	6.3	4.3	1195.1	HJK	普通	にぶい 橙	SK296		
135	土製品	羽口	[31.4]	5.9	2.9	5.6	3.7	842.1	HJK	普通	にぶい 橙	SK296		
136	土製品	羽口	[30.0]	5.3	2.9	5.5	3.8	656.3	HJK	普通	にぶい 橙	SK296		
137	土製品	羽口	[17.4]	—	—	5.8	4.3	297.6	HJK	普通	にぶい 橙	SK296		
138	土製品	羽口	[19.0]	—	—	4.6	3.0	277.7	IK	普通	にぶい 褐	SK296	指頭圧痕	
139	土製品	羽口	[15.6]	5.8	2.8	—	—	394.9	HJK	普通	にぶい 橙	SK296		
140	土製品	羽口	[22.3]	5.1	2.8	5.4	3.8	471.3	CHK	普通	にぶい 橙	SK297		
141	土製品	羽口	[24.2]	(5.2)	(2.5)	5.4	3.2	524.6	HJK	普通	灰白	SK297		
142	土製品	羽口	[24.9]	5.3	3.0	5.6	4.0	487.5	HJK	普通	灰白	SK297		
143	土製品	羽口	[28.4]	6.2	2.9	5.6	3.8	674.0	IK	普通	灰白	SK297		
144	土製品	羽口	[32.8]	5.3	2.6	5.6	3.8	809.0	IK	普通	にぶい 橙	SK297		
145	土製品	羽口	[36.4]	4.8	2.4	5.0	3.4	768.2	IK	普通	灰白	SK297		
146	土製品	羽口	[26.2]	—	—	5.1	3.6	470.6	IK	普通	灰白	SK297		
147	土製品	羽口	[17.5]	—	—	5.6	4.1	304.9	HJK	普通	明褐灰	SK297		
148	土製品	羽口	[18.8]	—	—	5.4	3.9	356.7	IK	普通	にぶい 黄橙	SK297	指頭圧痕 輪側広くへこむ	

番号	種別	器種	長さ	胴径		輪径		重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外形	内径	外径	内径							
149	土製品	羽口	[14.0]	—	—	5.2	3.7	185.2	H1K	普通	にぶい 黄橙	SK297		287-2
150	土製品	羽口	[12.6]	—	—	5.4	3.7	188.5	CH1K	普通	にぶい 黄橙	SK297		287-2
151	土製品	羽口	[11.0]	—	—	4.8	3.0	185.3	H1K	普通	灰黄灰	SK297		292-1
152	土製品	羽口	[11.0]	—	—	6.0	3.9	268.3	IK	普通	灰白	SK297	指頭圧痕	287-2
153	土製品	羽口	[14.4]	—	—	5.9	3.5	359.5	CH1K	普通	明艶灰	SK297		287-2
154	土製品	羽口	[16.7]	—	—	4.8	3.3	297.7	IK	普通	灰白	SK297		292-2
155	土製品	羽口	[12.6]	—	—	5.3	3.2	241.0	CIK	普通	灰白	SK297		292-3
156	土製品	羽口	[15.2]	5.1	2.3	—	—	319.5	CH1K	普通	にぶい 黄橙	SK297		287-2
157	土製品	羽口	[18.9]	(5.0)	(2.6)	—	—	351.4	IK	普通	灰白	SK297	指頭圧痕	292-4
158	土製品	羽口	[12.8]	5.9	3.2	—	—	261.1	IK	普通	灰白	SK297		287-2
159	土製品	羽口	[10.2]	5.1	2.9	—	—	208.6	CH1K	普通	灰黄	SK297		287-2
160	土製品	羽口	[9.3]	5.1	2.9	—	—	209.8	CIK	普通	灰白	SK297		287-2
161	土製品	羽口	[11.4]	5.5	2.5	—	—	261.7	IK	普通	にぶい 黄橙	SK297		292-5
162	土製品	羽口	[10.0]	—	—	—	—	197.8	H1K	普通	灰白	SK297		292-7
163	土製品	羽口	[11.2]	5.5	(2.8)	—	—	235.5	H1K	普通	灰白	SK297		287-2
164	土製品	羽口	[11.5]	5.9	(2.8)	—	—	246.1	H1K	普通	稀灰	SK297		287-2
165	土製品	羽口	[11.2]	5.3	(2.4)	—	—	223.9	CH1K	普通	灰白	SK297		287-2
166	土製品	羽口	[18.1]	—	—	—	—	375.8	CIK	普通	灰白	SK297	指頭圧痕	287-2
167	土製品	羽口	[13.9]	—	—	—	—	269.7	CIK	普通	灰白	SK297	二次的なケズリ	292-6
168	土製品	羽口	[3.8]	5.2	2.1	—	—	91.0	CH1K	普通	灰	SK297	輪郭端部切断片 角閃石多く含む	292-8
169	土製品	羽口	[28.1]	—	—	(5.6)	(3.3)	360.2	CH1K	普通	明艶灰	SK298	断面研磨	292-9
170	土製品	羽口	[21.5]	—	—	(5.5)	(3.3)	324.1	CH1K	普通	灰白	SK298	断面研磨	293-1
171	土製品	羽口	[22.5]	5.0	2.4	—	—	413.2	IK	普通	灰白	SK298		
172	土製品	羽口	[27.3]	(8.5)	(3.7)	8.8	5.6	1617.0	CH1K	普通	灰白	SK299		293-2
173	土製品	羽口	[12.4]	—	—	6.1	4.1	260.7	IK	普通	灰白	SK299		
174	土製品	羽口	[13.8]	—	—	5.4	3.8	275.4	IK	普通	灰白	SK299		
175	土製品	羽口	[14.0]	—	—	(5.1)	3.0	277.8	BH1K	普通	灰白	SK299		
176	土製品	羽口	[17.3]	5.7	2.6	—	—	420.2	IK	普通	灰白	SK299		
177	土製品	羽口	[15.5]	5.0	1.5	—	—	381.8	IK	普通	灰白	SK299		293-3
178	土製品	羽口	[10.5]	4.8	1.5	—	—	220.0	IK	普通	灰白	SK299	二次的なケズリ	293-4
179	土製品	羽口	[20.7]	—	—	(4.8)	(3.4)	399.8	G1K	普通	灰白	SK300		
180	土製品	羽口	[18.8]	—	—	(5.8)	(3.8)	372.9	CH1K	普通	にぶい 黄橙	SK300		
181	土製品	羽口	[16.1]	—	—	5.4	4.2	375.7	CIK	普通	にぶい 黄橙	SK300	指頭圧痕	
182	土製品	羽口	[15.5]	—	—	5.5	3.6	280.2	CIK	普通	灰白	SK300		
183	土製品	羽口	[17.9]	(5.2)	(2.7)	—	—	266.1	IK	普通	にぶい 黄橙	SK300		
184	土製品	羽口	[14.4]	5.5	2.3	—	—	356.5	CIK	普通	灰白	SK300		
185	土製品	羽口	[12.4]	5.3	2.8	—	—	299.0	IK	普通	灰白	SK300		
186	土製品	羽口	[11.4]	5.2	2.8	—	—	260.2	H1K	普通	灰白	SK300		
187	土製品	羽口	[19.3]	—	—	6.5	4.2	540.5	IK	普通	黄灰	SK301		
188	土製品	羽口	[14.7]	—	—	5.9	4.0	317.1	IK	普通	灰白	SK301	指頭圧痕	
189	土製品	羽口	[16.5]	—	—	5.9	4.1	342.5	IK	普通	にぶい 黄橙	SK301		
190	土製品	羽口	[13.4]	—	—	5.8	3.9	328.6	H1K	普通	灰白	SK301		
191	土製品	羽口	[21.1]	5.3	1.3	—	—	539.6	H1K	普通	灰白	SK301		
192	土製品	羽口	[15.6]	5.4	2.8	—	—	350.5	H1K	普通	灰白	SK301	指頭圧痕	
193	土製品	羽口	[21.0]	—	—	—	—	422.5	H1K	普通	灰白	SK301		
194	土製品	羽口	[32.2]	5.9	2.9	6.2	3.8	1015.3	B1K	普通	灰白	SK303		
195	土製品	羽口	[18.2]	—	—	4.7	2.8	274.6	IK	普通	灰白	SK303		293-5
196	土製品	羽口	[18.0]	—	—	4.9	2.3	378.4	CIK	普通	灰白	SK303		
197	土製品	羽口	[14.5]	—	—	—	—	398.0	IK	普通	灰白	SK303		
198	土製品	羽口	[23.5]	—	—	5.6	3.5	527.2	B1K	普通	灰白	SK320	指頭圧痕	
199	土製品	羽口	[29.7]	5.6	2.5	6.3	4.4	828.3	IK	普通	にぶい 黄橙	SK322		

番号	種別	器種	長さ	胴側径		輪側径		重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
				外形	内径	外径	内径							
200	土製品	羽口	[25.7]	—	—	6.1	4.2	538.8	IK	普通	にぶい 黄橙	SK322		
201	土製品	羽口	[17.2]	5.5	3.0	—	—	399.9	IK	普通	褐灰	SK322		
202	土製品	羽口	[15.2]	5.1	3.0	—	—	298.6	DIK	普通	灰白	SK322		
203	土製品	羽口	[12.8]	5.2	2.6	—	—	274.3	IK	普通	灰白	SK322		
204	土製品	羽口	[20.6]	—	—	—	—	582.6	IK	普通	にぶい 黄橙	SK322		
205	石製品	伊寄石	長 [15.5]	cm幅 [25.8]	cm厚 7.5 cm	—	—	1735.0	—	—	—	SK322	凝灰岩	283-11
206	土製品	羽口	[30.3]	—	—	5.6	3.3	803.1	IK	普通	灰白	SB7 整地層		
207	土製品	羽口	[14.8]	5.5	2.9	—	—	376.0	CHK	普通	灰白	SB7 整地層		
208	土製品	羽口	[16.5]	5.5	2.8	—	—	348.5	IK	普通	灰白	SB7 整地層		
209	土製品	羽口	[8.9]	5.3	2.3	—	—	210.6	CHK	普通	にぶい 黄橙	SK159		
210	土製品	羽口	[15.4]	5.0	2.6	—	—	338.6	IK	普通	灰白	SK260	指頭圧痕	
211	土製品	羽口	[19.8]	—	—	6.5	4.3	474.0	BCHK	普通	灰白	SK264	指頭圧痕	
212	土製品	羽口	[5.5]	(6.7)	(2.2)	—	—	79.0	CHI	普通	灰白	SO26層	羽口の吹先下部 調整無し	外面

第238表 鍛冶関連遺物観察表(2) (第600～602図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	遺構	備考	図版
1	鉄滓	椀形滓	9.0	9.0	3.6	291.16	SB7		
2	鉄滓	椀形滓	9.7	9.8	5.0	414.15	SB7		
3	鉄滓	椀形滓	11.7	7.8	5.8	463.3	SB7		
4	鉄滓	椀形滓	12.2	13.2	5.7	720.06	SK136		285-7
5	鉄滓	椀形滓	14.4	12.8	5.8	1078.25	SK141		285-7
6	鉄滓	椀形滓	10.0	7.3	3.7	240.26	SK141		285-7
7	鉄滓	椀形滓	13.4	8.9	3.6	399.85	SK141		285-7
8	鉄滓	椀形滓	10.3	7.8	3.8	299.43	SK143		285-7
9	鉄滓	椀形滓	7.7	7.3	2.4	141.37	SK144		285-7
10	鉄滓	椀形滓	12.5	10.5	5.1	912.75	SK145		
11	鉄滓	椀形滓	19.8	15.6	6.2	1975.09	SK145		
12	鉄滓	椀形滓	13.1	12.4	4.6	579.26	SK145		
13	鉄滓	椀形滓	8.8	6.7	3.8	195.1	SK145		
14	鉄滓	椀形滓	13.9	12.0	6.8	1191.51	SK145		285-8
15	鉄滓	椀形滓	10.9	8.4	4.9	322.25	SK145		
16	鉄滓	椀形滓	9.4	8.0	4.5	294.25	SK145		
17	鉄滓	椀形滓	6.1	6.2	3.1	94.75	SK145		285-8
18	鉄滓	椀形滓	11.2	6.8	4.4	236.08	SK145	羽口付着	285-8
19	土製品	羽口用粘土	6.2	13.1	4.3	226.65	SK145		285-8
20	土製品	羽口用粘土	9.5	14.0	5.1	475.5	SK145		285-8
21	鉄滓	椀形滓	15.7	11.9	6.3	705.54	SK145	羽口(外径5.3 内径2.7 残存長4.2)付着	
22	鉄滓	椀形滓	14.6	13.9	6.6	1079.44	SK153		287-7
23	鉄滓	椀形滓	8.2	8.9	3.8	234.5	SK158		
24	鉄滓	椀形滓	8.3	6.9	3.0	237.49	SK159		
25	鉄滓	椀形滓	8.0	8.5	2.6	227.72	SK159		
26	鉄滓	椀形滓	9.6	9.2	5.0	276.86	SK171		
27	鉄滓	椀形滓	15.7	16.8	7.9	1182.6	SK287		
28	鉄滓	椀形滓	10.7	11.4	5.1	453.95	SK297		
29	鉄滓	椀形滓	8.6	9.3	3.5	279.54	SK298		
30	鉄滓	椀形滓	9.0	6.3	3.1	222.61	SK298		
31	鉄滓	椀形滓	16.1	17.0	6.5	894.08	SK298		
32	鉄滓	椀形滓	14.3	11.6	6.0	565.95	SK299		
33	鉄滓	椀形滓	13.0	11.1	5.4	782.94	SK301		
34	鉄滓	椀形滓	6.6	7.7	3.5	153.01	SK322		
35	鉄滓	椀形滓	12.6	10.1	3.4	534.54	SK210		
36	鉄滓	椀形滓	10.4	8.4	3.9	404.14	SK210		

第239表 鍛冶関連遺物一覧表 (重量 単位: g)

遺構	時期	縦形洋	鍛冶洋	伊壁	羽口	その他	製品	重量合計	備考
SB1	9期				224			224	
SB5	7期				27			27	
桶8	9期				138			138	
SE3	7期				80			80	
SD1	9期					1,687		1,687	
SD2	9期				98			98	
SD6	8～9期	898	899	33	101	537		2,468	
SD7	8～9期				122			122	
SK4	9期				15			15	
SK26	9期				26			26	
SK35	9期				41			41	
SK45	9期				10			10	
SK50	7～8期				41			41	
SK78	8期				78			78	
SK99	9期				20			20	
SK120	9期				417			417	
SK136	不明	316	505	123	36	193		1,173	
SK135/136/137	9期				1,416			1,416	3基の土壌の資料を一括で取り上げ
SK138	9期	479	267	109	911			1,766	
SK140	9期				1,308			1,308	
SK141	9期	14,188	741		9,559	863	109	25,460	
SK141 下層	8～9期	8,714	188	466	41	195		9,604	
SK142	9期	2,524	1,028		3,275	986		7,813	
SK143	7～8期	1,655	1,362	24	1,503			4,544	
SK144	7～8期	3,284	979	189	1,616			6,068	
SK145	9期	72,051	16,368	8,779	41,118	2,077	251	140,644	
SK146	9期				1,007			1,007	
SK147	9期	209	62	61		14		346	
SK149	9期				167			167	
SK150	9期	489	402		1,919			2,810	
SK151	9期				435			435	
SK152	9期	434	89		24			547	
SK153	7期	13,912	3,067	148	3,767			20,894	
SK154	不明	266						266	
SK155	不明				97			97	
SK156	不明				111			111	
SK157	9期				644			644	
SK158	-	660	104		54			818	
SK159	9期	5,623			1,524			6,272	
SK163	8期	333						333	
SK165	8期				165			165	
SK169	9期	51			54			105	
SK170	8～9期	224	167		130			521	
SK171	7期	3,494	1,544	50	2,299			7,387	
SK171 下層	7期	2,684						2,684	
SK172	9期	385	246	12				643	
SK183	9期	130	107		371			608	
SK184	9期				171			171	
SK185	9期				294			294	
SK190	9期	247						247	
SK192	9期	149						149	

遺構	時期	輪形径	鋸治径	伊壁	羽口	その他	製品	重量合計	備考
SK197	9期	586	285		88			959	
SK198	9期	165	26	351	539			1,081	
SK199	9期	3,861	1,168	177	3,875			9,081	
SK200	8期	6,788	1,158	505	1,934			10,385	
SK210	9期	7,602	3,700	82	141			11,525	
SK226	8期				44			44	
SK233	不明		489					489	
SK235	9期				61			61	遺構は次冊報告予定(第9区画)
SK260	9期				508			508	
SK264	8期				481			481	
SK287	8～9期	18,486	1,950	1,858	1,459	146	64	23,963	
SK289	7期～	874	233	146	440			1,693	
SK293	7期	1,816	2,367	199	1,451			5,833	
SK296	7～8期か	6,708	325	934	4,740			12,707	
SK297	7期	8,361	498	879	12,759	79		22,576	
SK298・690	不明	9,009	1,693	523	1,587			12,812	
SK299	9期	8,972	972	443	4,189	667		15,243	
SK300	8期	2,086	68	154	3,017	32		5,357	
SK301	7期	3,320	191		3,110			6,621	
SK302	不明				215			215	
SK303	7期	6,600	344		2,801	1,018		10,763	
SK309	8期	176	303	60	260			799	
SK320	7期	2,758			534			3,292	
SK321	7～8期				187			187	
SK322	6～7期				3,168			3,168	
SK324	8～9期				1,128			1,128	遺構は次冊報告予定(第9区画)
SK332	不明				451			451	
SB7 整地層 E7-16Gr	不明	651	17		237	60		965	整地層内
SB7 整地層 E7-15Gr		3,271	274	62	632	474		4,713	整地層内
SB7 整地層 E7-16Gr		3,746	453	323	135	202		4,859	整地層内
S023・24層	3期				16			16	
S026層	3期				221			221	
S027層	3期				116			116	
E7-16 P111		1,210			206	175		1,591	遺構は次冊報告予定

第240表 輪の羽口出土量集成型

遺構	総数 (破片数)	最小 個体数	重量 合計	輪側(51% 以上遺存)	伊側(51% 以上遺存)	出土区画	時期	備考
SB1	2	0	224			第5区画	9期	
SBS	2	0	27			第3区画	7期	
桶8	1	0	138			第4区画	9期	
SE3	2	0	80			第5区画	7期	
SD2	2	0	98			第5区画	9期	
SD6	2	0	101			第4区画	8～9期	
SD7	6	0	122			第4区画	8～9期	
SK4	2	1	15	1		第5区画	9期	
SK26	1	0	26				9期	
SK35	1	0	41			第3区画	9期	
SK45	1	0	10			第2区画	9期	
SK50	1	0	41			第5区画	7～8期	
SK78	2	0	78				8期	
SK99	1	0	20			第3区画	9期	
SK120	4	1	417	1		第4区画	9期	

遺構	総数 (破片数)	最小 個体数	重量 合計	輪側(51% 以上遺存)	伊側(51% 以上遺存)	出土区画	時期	備考
SK136	1	0	36			第5区画	不明	
SK135・ 136・137	11	2	1,416	2	1	第4区画	9期	SK140と接合
SK138	15	1	911	1	1		9期	
SK140	8	1	1,308	1			9期	SK137・136・135と接合
SK141	62	12	9,559	12	6		9期	SK142・145と接合
SK141 下層	1		41				8～9期	
SK142	17	3	3,275	3	3		9期	SK141・145と接合
SK143	12	3	1,503	3			7～8期	
SK144	8	2	1,616	2	1		7～8期	
SK145	158	43	41,118	43	36		9期	SK141・142と接合
SK146	5	5	1,007	5	1		9期	
SK149	5	0	167				9期	
SK150	12	3	1,919	3	1		9期	
SK151	1	1	435	1			9期	
SK152	1	0	24				9期	
SK153	13	5	3,767	5	4		7期	
SK155	1	0	97				不明	
SK156	2	0	111				不明	
SK157	3	0	644				9期	
SK158	1	0	54				不明	
SK159	16	3	1,524	3	1		9期	
SK165	1	0	165			第5区画	8期	
SK169	1	0	54				9期	
SK170	2	0	130			第4区画	8～9期	
SK171	19	2	2,299	2	1		7期	
SK183	3	1	371	1	1	第5区画	9期	SK184と接合
SK184	2	0	171				9期	SK183と接合
SK185	1	0	294			第4区画	9期	
SK197	2	0	88				9期	
SK198	7	1	539	1			9期	
SK199	31	4	3,875	4	3		9期	SK200と接合
SK200	14	3	1,934		3		8期	SK199と接合
SK210	1		141				9期	
SK226	1	0	44			第5区画	8期	
SK235	3	0	61			第9区画	9期	
SK260	5	1	508		1	第5区画	9期	
SK264	1	1	481	1			8期	
SK287	10	1	1,459	1		第4区画	8～9期	
SK289	6	1	440	1			7期～	
SK293	21	1	1,451	1	1		7期	
SK296	17	5	4,740	5	5		7～8期 か、	
SK297	45	20	12,759	20	15		7期	
SK298・ 690	11	2	1,587	2	1		不明	
SK299	25	4	4,189	4	4		9期	
SK300	11	4	3,017	4	4		8期	
SK301	8	4	3,110	4	2		7期	
SK302	1	0	215				不明	
SK303	9	4	2,801	4	1		7期	
SK309	1	1	260		1	第3区画	8期	
SK320	1	0	534			第4区画	7期	

遺構	総数 (破片数)	最小 個体数	重量 合計	輪側(51% 以上遺存)	炉側(51% 以上遺存)	出土区画	時期	備考
SK321	1	0	187			第4区画	7～8期	
SK322	12	5	3,168	3	5	第4区画	6～7期	
SK324	12	1	1,128		1	第9区画	8～9期	
SK332	4	1	451	1			不明	
SB7 (E7-16)	7	2	237	1	2	第4区画	不明	整地層内
SB7 (E7-15)	9	0	632			第4区画	不明	整地層内
SB7 (E7-16)	1		135				不明	整地層内
S0/23・ 24層	2	0	16				18C中	
S0/26層	5	0	221				18C中	
S0/27層	4	0	116				18C中	
E7-16Gr Pit1	6	0	206					
計	706	155	125,309	146	106			

した羽口である。148は強い圧痕が認められる。150は厚みが薄い。166は大きな圧痕が認められる。167は炉側端部が削られている。羽口に付着した滓をそぎ落とし、再び使用しようとした可能性が考えられる。168は炉側端部を切断したものである。169～171は第298号土壌より出土した羽口である。169・170体部に対して平行に割られ、断面が研磨されている。研磨されている部分を拓本で示す。別の用途に転用された可能性がある。172～178は第299号土壌より出土した羽口である。172は輪側径が8.8cmあり、掲載した羽口の中で最大である。177・178は厚みがあり、穴が細い。178は付着した滓を削った痕跡も認められる。179～186は第300号土壌より出土した羽口である。181は体部に圧痕が認められる。187～193は第301号土壌より出土した羽口である。191は厚さがあり、穴が細い。192は圧痕が認められる。194～197は第303号土壌より出土した羽口である。196は厚みがあり、穴が細い。198は第320号土壌より出土した羽口である。体部に圧痕が認められる。199～204は第322号土壌より出土した羽口である。204は厚みがあり、穴が細い。205は第322号土壌より出土した炉寄石である。凝灰岩製である。被熱している面は、激しく滓化して

いる箇所もある。一方でその裏面は、被熱が少ない。210は第5区画内の第260号土壌より出土した羽口である。体部に圧痕が認められる。211は第7区画内の第264号土壌より出土した羽口である。体部に対して直角に複数の圧痕が認められる。212は道路跡より出土した羽口である。厚みが非常にあり、第8地点より出土した羽口と相似しているため、古い段階の羽口の可能性がある。

第600～第602図は、鉄滓と羽口の固定に使用された粘土である。掲載した鉄滓はすべて椀形滓である。この他に、椀形滓以外の鍛冶滓・鍛造剥片なども出土している。椀形滓には、木炭が付着しているものが多い。21の羽口が付着した鉄滓は、羽口の炉への挿入角度がわかる。

鉄滓類については、全てを回収できないため、現地で計量した。鉄滓を含めた関連資料の重量は、第239表に示す。輪の羽口については、原則回収した。整理作業で輪側・炉側が残る破片をカウントし、最少個体数を想定した。その結果は第240表に示す。これらを参照すると、7期から9期へ降るにつれ、遺物の出土遺構が増加している。操業の規模は19世紀後半がピークと考えられる。全体の所見については、VI章で再び触れることにしたい。

8 文字資料

栗橋宿跡の調査では、陶磁器・木製品・瓦・石製品・炭化物（紙本資料）等に、文字が墨書、刻書された遺物が認められた。

これらのうち陶磁器については、文字数が少なく意もとり難いものが多いので、各遺物実測図・写真図版に示し、判読が可能だった釈文については観察表の中に示した。第242表には、そのうち文字数が多いもの、特徴的なものを示した。

瓦については、刻書が第121号土城出土遺物に認められ「角屋/七兵衛」と判読される（第558図14）。

石製品については、一部の硯や石板に刻書が認められた。

木製品については、かなりの割合で墨書や焼印の資料が認められた。特に木札類はその性格上、比較的長文の文字が墨書されており、判読が可能なるものを第241表（原文は全て縦書き）に示した。

また、一部の赤外線写真を写真図版に示した。これらの中には、調査区内の居住者に関わる「旅籠屋 百姓 喜右衛門」（第3区画）や、「旅籠屋 百姓 七兵衛」（第7区画）に係る史料が多く含まれ、『絵図』にみられる記載と対比が可能である。

特殊な史料として、第6・8号建物跡から出土した樽への焼印・墨書がみられる。樽の側面に書かれた墨書は遺存が悪く判読は困難であったが、焼印の状態は比較的良好で、建物基礎に転用される前段階に機能した焼印を複数確認することが出来た。建物跡の事実記載に記したように、焼印の種類から、第6号建物跡の改修と、第8号建物跡の建築が連関して行われた可能性がある。

第8号建物跡基礎の樽8の内面には、全体的に反故紙が貼られ、その上から黒色の塗布物が施されていた。防湿・防水に係る細工と思われる。脆い状態で保存することはできなかったが、現地で

第241表 文字資料釈文(1)

番号	遺構	器種	釈文(左欄は表・右欄は裏)	神区	図版	
1	SB 2	第1区画 樽鏡	(丸印)	-	294-1	
2	埋植1	第1区画 経木	□□ [] 差引	86-6	295-10	
3	埋植13	第8区画 樽鏡	□□ 莪 []	95-1	295-11	
4	埋植13	第8区画 樽側板	[] 水屋物	-	295-12	
5	埋植13	第8区画 樽側板	(封藏印)	95-6	295-13	
6	SD16	第2・3区画 木札	五上□□	153-1	296-1	
7	SD19	第5・6区画 木札	武 []	164-2	296-2	
8	SD19	第5・6区画 経木	八□□文右衛門	164-3	296-3	
9	SK44	第2区画 木札	栗橋□□ [] [] 菊田 [] [] 同中町 紀州屋 []	-	296-4	
10	SK55	第2区画 不明軸装の志材か	□□ ヨツ	264-20	296-5	
11	SK99	第2区画 木札	武州栗橋□□莪□ 春木屋 []	[] 四 荷物安□	230-8	296-6
12	SK99	第2区画 木札	[] [] 武 [] 紀州 [] [] ◎ []	230-9	296-7	
13	SK110	第7区画 箱側板	と 巻	578-14	296-8	
14	SK112	第7区画 木札(表裏二面)	[] [] 八合□□ 西	□斗 [] 西	581-41	296-9
15	SK112	第7区画 経木	春	581-42	296-10	
16	SK112	第7区画 円板	□と 五郎	579-24	296-11	

番号	遺構		器種	釈文 (左欄は表・右欄は裏)	押図	図版
17	SK132	第1区画	木札	[] □ [] 六口		210-7 296-12
18	SK132	第1区画	木札 (表裏二面)	明□□□□ 成田山 □ □□□□	□□□	210-4 297-1
19	SK132	第1区画	木札	[] [] (6文字小)	エー□□□	210-6 297-2
20	SK132	第1区画	板	矢野扱	吉岡	210-3 297-3
21	SK132	第1区画	板	三郎	芳	210-5 297-4
22	SK145	第4区画	木札	(記号)		320-18 297-5
23	SK145	第4区画	板	[] [] 門		320-19 297-6
24	SK145	第4区画	板	武州 [] 花 []		320-20 297-7
25	SK145	第4区画	樽鏡	正味 イ上海干 五駄分入		318-5 297-8
26	SK159	第4区画	木札	第八区 栗橋宿 紀州屋殿行 [] 第拾月廿二日 []	第拾二区	336-2 297-9
27	SK181	第5区画	木札	武州くりはし [] 若狭屋庄右衛門 []		467-2 297-10
28	SK181	第5区画	経木	十 長助 ○	小八	467-3 297-11
29	SK183	第5区画	桶側板	明治二 [] 明		468-18 297-12
30	SK183	第5区画	木札	栗橋 〇	壽□□ 六本	467-5 298-1
31	SK183	第5区画	木札	拾五	↑	467-6 297-13
32	SK183	第5区画	木札	栗橋 虫 荒野や 行		467-7 298-2
33	SK183	第5区画	経木	八 ①	五口	467-8 298-3
34	SK183	第5区画	経木	文	ト (文字の一部か)	467-9 298-4
35	SK190	第5区画	投票札	[] 殿 [] 三回 一 []		- 298-5
36	SK208	第5区画	木札	埼玉縣北葛飾郡 栗橋町上丁烏田定口方 □□中田喜作行	越前国三陸町 橋下町 河戸喜造出 九月十三日	469-27 298-6
37	SK208	第5区画	木札	埼玉縣北葛飾郡 栗橋町上丁烏田定口方 中田喜作行	越前国三國町□村橋本 河戸喜造出	469-26 298-7
38	SK216	第6区画	樽鏡	正 [] ち [] 三 []		504-12 298-8
39	SK216	第6区画	木札	(墨書あり)	8 5 3 5 []	504-14 298-9
40	SK226	第5区画	板] し 角屋七兵衛		306-12 298-10
41	SK227	第5区画	木札	埼玉縣栗橋町仲町 兼田兼吉様		469-28 298-11
42	SK260	第5区画	樽鏡	(記号)		- 299-1
43	SK260	第5区画	木札	六月□□日 [] 入	[] 秋葉兵助殿 伊勢屋 左兵衛出	410-23 299-2
44	SK309	第3区画	樽鏡	[] 余 [] 改		294-5 299-3
45	SK309	第3区画	木札	栗橋宿 紀州屋喜右衛門様行	釜利 出 (墨書あり)	294-6 299-4
46	SK309	第3区画	樽側板	記号		- 299-5
47	SK323	第6区画	経木	□□十五		506-31 299-6
48	SK323	第6区画	経木	赤吉 [二十村々] (左部欠あり)		506-32 299-7
49	SK323	第6区画	経木	八十	三	506-34 299-8

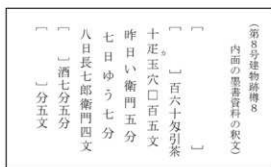
番号	遺構	器種	釈文（左欄は表・右欄は裏）	棟区	図版	
50	SK323	第6区画	経木	拾七彦	306-35	299-9
51	SK323	第6区画	経木	□	306-36	299-10
52	SK323	第6区画	経木	新五 □	306-37	299-11

第242表 文字資料釈文（2）

番号	出土遺構	区画	備考	釈文	棟区	図版
1	SE4	第9区画	磁器急須	へ	130-15	77-7
2	SD15	第1・2区画	磁器燗德利	紀印	150-7	79-3
3	SD15	第1・2区画	磁器燗德利	紀州屋	150-6	79-2
4	SD15	第1・2区画	磁器急須	くり	150-13	79-7
5	SK27	第2区画	陶器甕	[中○中口]カ 式百文	243-141	94-6
6	SK131	第1区画	磁器急須	埴カ	303-30	127-6
7	SK145	第4区画	磁器皿	金ノ勝ノ甚ノ円	313-28	141-6
8	SK145	第4区画	陶器燗德利	助	315-55	146-1
9	SK145	第4区画	陶器陶器燗	カメノ廿八	315-51	145-4
10	SK251	第6区画	磁器香炉	「ヤトヒ」ないし「カトヒ」	407-71	209-2
11	SK252	第5区画	陶器椀鉢	カ（別に墨痕あり）	458-433	209-8
12	SK252	第5区画	陶器急須	□「ツカ」八	459-435	210-6
13	SK252	第5区画	陶器急須	「フ八」ないし「ツ八」カ	459-436	210-7
14	SK260	第5区画	磁器香炉	ヤト口ノ四十	402-25	214-2
15	SK290	第5区画	甕	「三ツ」	414-6	220-4
16	SK293	第4区画	陶器土瓶	百口【十カ】六	361-166	221-4
17	SK297	第4区画	陶器風炉	花雨風呂ノ口【千カ】木四元ノ土【五カ】年十月	339-10	223-4
18	SK297	第4区画	陶器花生	二十ノアイ	339-4	222-6
19	SK297	第4区画	磁器皿	日	339-2	222-3
20	SK300	第4区画	陶器椀鉢	【キ〇】ノ【土ノハバ】ノ十式文	363-193	225-3
21	SK301	第4区画	陶器割入れ	墨跡カ	364-204	226-1
22	SK305	第3区画	磁器皿	野	279-2	227-3
23	SK312	第3区画	甕	三十八ノ大ト	292-28	228-1
24	SK135・136・137	第4区画	土製品羽口	【 】ノ【 】ノくり	586-4	288-1

撮影した写真を写真図版39・40に示し、右に写真図版40-2の資料の釈文を示す。「引茶」は挽茶、「玉穴」は貨幣を示すものと思われる。

なお、釈文の作成にあたっては、久喜市教育委員会・久喜市立郷土資料館より全面的な協力を得たほか、陶磁器の墨書等については依田が基礎的な観察を行った。



9 出土遺物一覧と遺構の時期

出土した遺物の点数・重量と各遺構の想定される時期を一覧表にまとめた。

出土した瓦は、発掘調査中に水洗い・乾燥・分類を行い、点数と重量を記録した(第243表)。なお、第8・9区画の土壌およびピットについては、来年度以降に別冊で報告するものであるが、瓦の計測表および、出土遺物一覧表については、

本書に掲載する。表中の瓦の分類は、「平瓦」が棧瓦・平瓦、「軒瓦」が軒丸瓦・軒棧瓦・軒平瓦、「道具瓦」が冠瓦・伏間瓦・熨斗瓦である。このうち、軒瓦・道具瓦と、平瓦類で縦横いづれかの一边が残っているもの、隅の切れ込みが残る棧瓦を回収し、整理作業で抽出、実測を行った。

第243表 第一面瓦計測表

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印のある瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SB1	250407	3568	5439	30	9023	49	1773	9			1707	12	268349	2668
SB2	16108	223	426	2	51	1							16585	226
SB3	185864	2354	2366	13	4115	25							192345	2392
SB4	8609	124			163	2	313	2					9085	128
SB5	5863	87			159	2							6022	89
SB6	114275	2814	365	2	1023	10							115663	2826
SB7	7765	61	405	2	321	3							8491	66
SB8	87174	907			3450	16	1045	2	202	1			61821	926
桶1	406	6											406	6
桶3	1960	21											1960	21
桶5	185	4											185	4
桶6	1950	32											1950	32
桶8	5450	54			98	1	255	1					5803	54
桶10	629	7			394	1							1023	8
桶11	114	2											114	2
桶12	9	1											9	1
桶13	327	2											327	2
桶15	90	1											90	1
桶17	211	5			173	1							384	6
桶18	9260	79			132	1							9392	80
桶19	1018	16											1018	16
桶20	227	5											227	5
桶22	275	5											275	5
桶23	1121	15											1121	15
桶45	3014	23											3014	23
桶46	1120	30											1120	30
桶47	473	8											473	8
桶48	165	4											165	4
桶5桶内	184	11											184	11
SE1	3950	45	436	1	139	1							4525	47
SE2	56164	498	1804	8	2949	12	540	2					61457	520
SE3	54339	1132	448	4	1930	33	259	3					56996	1172
SE4	13817	205	267	1	363	4	327	1					14774	211
SD1	10605	148	646	3					97	1			11348	152
SD2	15316	201			302	2							15618	203
SD4	5504	51	310	1									5814	52
SD5	1040	11			84	1							1124	12
SD6	380	5											380	5
SD7	310	5											310	5
SD8	123	2											123	2
SD15	32392	359	115	1	676	3	140	1					33323	364
SD16	2440	28			351	2							2791	30
SD17	14129	136			492	4	285	1					14906	141
SD18	2709	31			962	3							2671	24
SD19	43251	397	998	3	572	2							44821	492
SD20	3963	35			60	1							4023	36
SD21	3519	33			276	1							3795	34
SD23	17484	268	630	2	1652	4			292	1			19995	248
SD24	54948	757	658	2	1469	2							57076	761
SK1	4330	35	350	2			325	2					5005	39
SK2	720	13											720	13
SK3	1200	24											1200	24

道橋	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印のある瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SK4	11850	158	640	4	172	2							12662	164
SK5	2400	46											2400	46
SK6	1925	16			139	1							2064	17
SK7	513	5											513	5
SK8	87	2											87	2
SK10	1754	28											1754	28
SK11	573	10											573	10
SK12	13300	199	1103	7	883	5							15316	211
SK14	235	7			229	1							455	8
SK17	2965	35											2965	35
SK18	11298	96											11298	96
SK19	181	6											181	6
SK20	350	7											350	7
SK21	30695	420	3176	9	769	6			259	2			34899	437
SK22	782	15											782	15
SK23	282	5											282	5
SK24	745	5			487	2							732	7
SK25	1704	25	161	1									1855	26
SK26	889	39											889	39
SK27	537	4											537	4
SK28					155	1							155	1
SK31	8600	34											8600	34
SK34	488	1											488	1
SK35	150	4											150	4
SK36	720	11					96	1					816	12
SK37	142	3											142	3
SK38	153	5											153	5
SK39	679	15											679	15
SK40	11852	128	1800	8	428	3	303	1					14383	22
SK41	863	14											863	14
SK44	10424	136			889	4	167	1	226	1			11706	142
SK45	1040	18											1040	18
SK48	520	9											520	9
SK49	2700	37											2700	37
SK50	1624	47											1624	47
SK51	323	6											323	6
SK52	3485	70	13	1	53	1							3551	72
SK53	2882	19											2882	19
SK55	3325	37	165	1	497	2							3987	40
SK56	298	11											298	11
SK57	50	3											50	3
SK62	2200	29	671	2									2871	31
SK63	348	8											348	8
SK65	1652	36											1652	36
SK66	3850	71	287	1									4137	72
SK68	110	4											110	4
SK69	770	7											770	7
SK70	159	3											159	3
SK72	30034	378			860	7							30894	385
SK74	399	7											399	7
SK75	727	5											727	5
SK78	3269	53											3269	53
SK82	1141	9											1141	9
SK83	2450	31			161	1							2611	32
SK84	167	4											167	4
SK85	200	3											200	3
SK86	433	11											433	11
SK87	2550	3			1753	3	137	1					4440	7
SK88	3	1											3	1
SK92	73	2			105	1							178	3
SK94	1532	30											1532	30
SK95	1032	26							96	1			1128	27
SK96	2	1											2	1
SK97	884	1			100	1							984	2
SK98	6787	49											6787	49
SK99	2692	48	182	1	775	4							3649	53
SK101	124650	1181	2150	7	6507	21	380	4	349	3			134936	1216
SK102	156072	1438	6260	21	2012	17	773	2					165117	1478
SK105	705138	7589	18150	135	10543	96	2509	13	511	6			736851	7839
SK106	343817	3915	7130	67	4411	67	1931	14	1957	8			359246	4071

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印のある瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SK107	212276	1807	4904	31	1327	20	1607	5	168	170			220282	2033
SK108	303227	3924	9500	57	4500	24	1939	9	2778	13			411944	4027
SK109	872	12											872	12
SK110	15904	153	2550	13	24	1							18478	167
SK111	5650	91	68	1	85	1							5803	93
SK112	20586	246	650	5	967	6	465	3					22668	260
SK114	206	4											206	4
SK117	3121	51			129	2							3250	53
SK118	357	3											357	3
SK119	524	3											524	3
SK120	9898	134	1309	1	284	2							11491	137
SK121	440150	3727	20232	119	6885	34	529	5	15171	10			481967	3895
SK122	18133	149	1914	6	1541	8							21588	163
SK126	213	6											213	6
SK127	487	9	561	3									1048	12
SK128	136	2											136	2
SK129	352	7											352	7
SK131	8400	119			146	1							8546	120
SK132	500	13											500	13
SK134	40974	370	322	2	1314	7							42610	379
SK135 136 137	20653	125	259	1	4900	4							25812	130
SK136	1556	17											1556	17
SK138	1694	22	65	1	200	1							1939	24
SK139	929	13			145	1							1074	14
SK140	482991	4906	15650	80	6673	52	1158	5	471	1			506943	5044
SK141	25392	299	64	1									25456	300
SK142	28387	266	5039	13	922	7	532	1					34880	287
SK143	1080	20											1080	20
SK144	702	6											702	6
SK145	38524	365	272	1	428	2	326	1					39550	369
SK146	365	7	872	2									1237	9
SK147	306	5			137	1	155	1					598	7
SK148	1444	20											1444	20
SK149	1996	45	99	1									2095	46
SK150	8524	106	360	1	60	1							8944	108
SK151	495	8											495	8
SK152	157	3					100	1					257	4
SK153	1460	19											1460	19
SK154	301	2											301	2
SK155	97	3											97	3
SK156	842	23					190	1					1032	24
SK157	1756	19											1756	19
SK158	204	2											204	2
SK159	4300	50	180	1	80	1							4560	52
SK161	115	1											115	1
SK162	570	5											570	5
SK163	1580	26											1580	26
SK164	1686	14	280	1									1966	15
SK165	1176	17											1176	17
SK167	497	8											497	8
SK169	4585	60							260	1			4845	61
SK170	1600	19	157	1	112	1							1869	21
SK171	53	3	13	1									66	4
SK172	203	4											203	4
SK173	452	9	76	1									528	10
SK174	216	5											216	5
SK175	567	10											567	10
SK177	4088	55			810	2	320	1					5218	58
SK178	701	4											701	4
SK179	349	11											349	11
SK181	3195	61							140	1			3335	62
SK182	7553	31	503	3	227	1	518	1					8801	36
SK183	23472	237	946	4	114	1							24532	242
SK184	25592	283	410	2	200	1							26202	286
SK186	108	1											108	1
SK187	2950	32	53	1									3003	33
SK188	3700	31											3700	31
SK189	6300	89											6300	89
SK190	4700	82											4700	82

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印のある瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SK192	3077	40											3077	40
SK193	3376	52											3376	52
SK195	63825	925	695	4	395	6							64915	935
SK196	1491	24	27	1									1428	25
SK197	465	7											465	7
SK198	207	4			125	1							332	5
SK199	1905	22											1905	22
SK200	1160	13											1160	13
SK201	1490	21	336	2	113	1							1849	24
SK202	3700	68	425	2	127	1							4252	71
SK203	1448	21			134	1	15	1					1597	23
SK204	10330	121	523	1									10853	122
SK205	25924	351	360	1	787	6	438	2	496	2			28925	362
SK206	1585	20			290	2							1875	22
SK207	7700	92											7700	92
SK208	26980	383			999	4	530	1					28309	388
SK209	21130	204											21130	204
SK210	10387	234					390	2					10977	236
SK211	1949	25			105	1							2054	26
SK212	9805	97											9805	97
SK214	2150	29											2150	29
SK216	12380	149	321	1	145	1							12846	151
SK217	7607	130			240	2			85	1			7932	133
SK218	462	11											462	11
SK219	680	8											680	8
SK220	400	6											400	6
SK223	530	5											530	5
SK224	5138	62											5138	62
SK226	23357	293	258	1	541	5							24156	299
SK227	315	5											315	5
SK229	50626	536	488	3	900	6	256	1					52270	546
SK230	68518	718	2692	11	870	4			127	1			72207	734
SK231	1820	25			115	1							1935	26
SK232	680	11			155	1							835	12
SK235	59319	543	1943	8	1544	8	200	1	1739	5			64745	565
SK238	28609	406	2200	4	245	5							31054	415
SK244	7142	77	430	1	545	2			297	1			8414	81
SK245	2750	63			148	1							2898	64
SK246	3408	49			92	2							3500	51
SK247	217400	1882	6100	19	6100	22	600	1					230200	1924
SK248	325800	2782	8200	22	7200	32	1120	3	2600	7			344920	2846
SK248A	24090	208	1057	4	640	3							25787	265
SK249	2250	25											2250	25
SK251	1900	21			197	1	214	1					2311	23
SK252	18660	102	1060	5	860	3							20580	110
SK253	18653	277			357	5	325	1					19335	283
SK255	3250	30			104	1							3354	31
SK257	1367	20											1367	20
SK260	116590	1073	2610	9	6560	16	409	2	330	2			126499	1102
SK261	7791	28			262	1	287	1					8340	30
SK262	4800	39											4800	39
SK264	4495	57											4495	57
SK265	3699	38											3699	38
SK267	242	5											242	5
SK268	2012	25											2012	25
SK270	1900	24											1900	24
SK272	64448	684	2641	4	1205	11	586	2	3743	8			72623	709
SK273	714	8											714	8
SK274	21967	321	177	1	732	3							22876	325
SK277	1164	16											1164	16
SK278	947	7											947	7
SK279	332	3											332	3
SK280	1309	18											1309	18
SK281	215	2											215	2
SK282	313	5											313	5
SK284					181	1							181	1
SK285	949	14											949	14
SK286	11920	97			505	3			79	1			12504	101
SK287	786	12											786	12
SK289	24	1											24	1

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印のある瓦		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SK290	13747	133	285	2									14032	135
SK293	604	3											604	3
SK294	971	10											971	10
SK295	640	12											640	12
SK296	4855	30							124	1			4979	31
SK297	2150	21	164	1	288	1							2602	23
SK298	3450	35											3450	35
SK299	7210	58							347	2			7557	60
SK300	2900	23			619	2							2519	25
SK301	9193	108	200	1	202	2							9595	111
SK302	1396	14											1396	14
SK303	1098	7											1098	7
SK305	1155	7											1155	7
SK309	969	18			170	1							1139	19
SK312	3907	41											3907	41
SK313	776	3											776	3
SK314	6981	58	293	1	192	1							7466	60
SK316	300279	2405	7235	27	7542	63	415	2					315471	2497
SK316 東側	50800	435	1186	5	100	1	890	3	144	1			53120	445
SK318	2600	29											2600	29
SK319	160129	1224	954	4	2877	18			384	2			164344	1248
SK320	2999	17											2999	17
SK322	1815	20											1815	20
SK323	928	5											928	5
SK324	276246	2667	9900	28	5087	23	1886	7	2000	5			295319	2730
SK331	137375	1302	4100	10	3350	13	2950	7	7758	13			185533	1345
SK333	1626	10											1626	10
SK334	12102	160			198	2	222	1					12522	163
SK337	1191	3			2750	8	402	2	343	2			4686	15
SK339	18497	275	317	1	1679	5	301	1	147	1			20941	283
SK340	42693	405	3050	5	860	6			821	5			47424	421
SK341	7300	98	233	1									7733	99
SK342	7054	66			122	1			296	1			7432	68
SK343	1546	11											1546	11
SK688	5800	57											5800	57
SK689	38574	362	640	1	684	2							39898	365
SK690	3113	20			159	1							3272	21
道路跡一括	155900	1642	250	1	2744	16	354	2					159448	1661
道路跡 6・7層	1079	25											1079	25
道路跡 8・9層	5014	80			346	2							5360	82
道路跡 11・12層	1188	25	115	1	100	2							1403	28
道路跡 13・14層	422	17	43	1	56	1							521	19
道路跡 14-19層	31	2											31	2
道路跡 19-22層	1327	3	32	1									1359	4
道路跡 23-24層	6	1											6	1
道路跡 25層	9	1											9	1
道路跡 26層	99	2											99	2
道路跡 27層	186	10											186	10
道路跡 27層	27	1											27	1
道路跡計	165288	1809	440	4	3246	21	554	2					169528	1836

整理作業で扱った全ての遺物については、点数と重量を第244表に掲載した。次年度以降報告予定の遺構についても、第一面の遺構については、この表に、全体の数量・重量については掲載した。第二面の遺構については、別途、表を提示する予定である。

各遺構の推定時期については、第245表に掲載した。陶磁器様相からの推定であり、陶磁器量や伝世期間の問題から若干の誤差が想定される。少ない遺物から判断した場合は()、遺構重複から判断した場合は[]を付した。表中に示した時期区分と想定時期は、すでに「遺跡の概要」で提示したが、再度、下に掲載しておく。なお、表右側には、磁器類のうち、酸化コバルト染付・型紙

摺絵染付・銅版転写染付の製品の有無を示した。○を入れたものは、出土が確認できたもの、△は量が非常に少なく、混在の可能性のある場合である。

第246表には主要遺構の陶磁器組成を示した。分類にあたっては東京大学校内遺跡群の分類（東京大学埋蔵文化財調査室1999・2011）を参照し、器種の判別が可能な破片数と底部破片数をカウントした。底部破片数は一部の遺存があれば1点とカウントしており、直接に個体数を示すものではない。

第一面の火災処理に係る土壌である、第101・102・105・121号土壌の組成表を示す。

栗橋1期…17世紀前半

この時期に該当する遺構は極めて少ない。本報告書では該当遺構は無い。

栗橋2期…17世紀後半～18世紀初頭

この時期の該当遺構がほとんど無い。ただし、18世紀初頭頃と思われる遺構が、栗橋宿跡第8地点でまとまって検出されている（『栗橋宿跡VII』参照）。本報告書では道路跡下層がこの時期に遡る可能性がある。

栗橋3期…18世紀前葉～中葉（第2四半期～第3四半期前半）、肥前系磁器の粗製（波佐見系）碗が多い。本報告書では、道路跡の下層がこの時期に遡る。

栗橋4期…18世紀後葉（第3四半期後半～第4四半期前半）、肥前系磁器外面青磁釉碗各種、筒形碗が認められる。本報告書では、道路跡の一部がこの時期に遡る。

栗橋5期…18世紀後葉～19世紀初頭（18世紀第4四半期後半～19世紀第1四半期）
肥前系磁器広東碗が指標で、浅間A火山灰の降下時期である。

栗橋6期…19世紀前葉（第1四半期後半）
瀬戸美濃系磁器の出現時期である。

栗橋7期…19世紀前葉～中葉（第2四半期中心）
瀬戸美濃系磁器端反碗の盛行期で、磁器湯呑形碗、陶器青緑釉土瓶等も多い。本報告ではこの時期以降の遺構が多い。なお、第105・121号土壌をはじめとした火災処理土壌は、この時期の後半に位置付けたい。

栗橋8期…19世紀中葉（第3四半期）
体部半球形の磁器卵殻手坏、型押寿文皿、木型打込施文に染付を施す磁器碗皿類。

栗橋9期…19世紀中葉～後葉
酸化コバルト染付磁器の出現以降。

第24表 出土遺物一覧表

陶器・土器の()は底面片数、金属製品の()は数量である

遺構	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他	
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量		
S81	423(141)	8044	337(69)	20324	190(94)	9394	3968	288349	2	21.7	55	1653.9	1(5)	19.6	16	13972.7	0		夏末浦遺文鏡(11.6g) 2枚含む・非周 銅資料に石版(板板)9点(141g)・磨 石(向阿古・安山岩)1点(29g)・板板 した底石(板板)1点(3g) 種子2点(1.8g) 麻竹2点(20.6g) 骨製品2点(11.7g) 貝類17点(45.3g) 土製品は人形・瓦片類1点(16.6g) 土 1点(5.1g) 硝子製品17点(15g) 土 第2点(99g)	
S82	149(77)	964	118(21)	1745	53(23)	2314	226	16585	1	2.0	71	198.3	9(1)	26.2	6	34.2	3	2.0g	硝子製品3点(8g) 土管2 点(298g)	
S83	44(14)	805	42(6)	710	13(10)	350	2392	192345	0	-	2	4.0	0	-	2	62.0	0		非周銅資料に火打石(玉軸)1点(44g)・ 底石(板板)1点(58g) 硝子製品1点 (2g)	
S84	67(12)	836	91(14)	1691	49(19)	1592	128	9085	0	-	8	75.3	3	4.9	2	73.0	4		非周銅資料に磨した底石(板板)1 点(55g)・礎(板板)1点(38g) 骨文のある夏末浦遺文鏡あり	
S85	70(20)	612	59(13)	1846	22(12)	1456	89	6922	1	2.9	11	2205.7	2(3)	14.2	4	28.0	2		非周銅資料に磨した底石(板板)1 点(19g)・ 板板した底石(板板)13点(9g) 夏末浦遺文鏡の11.6g1枚あり 貝類22点(226.9g)	
S86	31(10)	435	41(7)	1153	27(12)	784	2826	115663	0	-	8	34.2	3(1)	6.0	1	6.0	8		非周銅資料に礎(板板)1点(6g) 夏末浦遺文鏡の11.6g1枚あり 貝類8点(52.2g)	
S87	66(21)	1924	52(13)	6712	15(4)	2275	66	8191	2	29.3	0	-	(1)	2.7	2	538.9	1		非周銅資料に底石(ホルンフェルス)1点 (339g) 土製品は人形・瓦片類2点(29.3g)	
S88	52(13)	843	56(5)	1629	5(1)	58	926	61821	0	-	3	54.5	1	5.7	1	26.0	9		非周銅資料に底石(板板)1点(26g) 貝類1点(30.6g)	
S89																				
S910																				
桶1	6(1)	52	10(2)	96	8(4)	223	6	406	1	21.0	4	69.2	1(2)	69.1	0	-	3		夏末浦遺文鏡・硝子製品(かんざし) (21.0g) 土製品は人形・瓦片類1点 (21.0g) 土製品は人形・瓦片類1点(2.0g)	
桶3	17(6)	233	13(3)	521	6(4)	170	21	1960	0	-	1	69.1	1	3.4	1	7.0	6		非周銅資料に磨した底石(板板) 1点(7g)	
桶5	24(6)	298	23(9)	940	16(7)	679	4	185	1	2.0	0	-	5(1)	11.9	0	-	1		土製品は人形・瓦片類1点(2.0g)	
桶6	7(7)	166	2(0)	15	2(2)	76	32	1950	1	2.4	0	-	0	0	0	-	0		土製品は人形・瓦片類1点(2.4g)	
桶7	4(1)	39	8(2)	52	2(2)	46	0	0	0	0	50.2	0	0	0	0	-	0		土製品は人形・瓦片類1点(2.4g)	
桶8	43(20)	619	27(12)	729	11(7)	593	54	5803	0	-	1	2.0	0	0	0	-	1		土製品は人形・瓦片類1点(2.0g)	
桶9																				
桶10	8(0)	34	4(1)	174	5(2)	208	8	1023	0	-	1	2.4	0	0	0	-	0		土管1点(154g)・硝子類片	
桶11	4(1)	9	6(3)	75	3(1)	236	2	114	0	-	2	40.6	3	17.4	0	-	0			

濃精	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		陶製品		石製品		木製品		その他	
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量		
種12	6(1)	43	3(1)	77	5(2)	90	1	9	1	5.0	0	-	0	-	1	5.0	非埋藏資料に磁石(粉灰器)1点(5g) 種子4点(0.6g) 断片7点(19.9g) 土製品は人形・玩具類1点(5.9g)	
種13	3(1)	3(1)	2(1)	13	0(0)	-	2	327	0	-	0	-	0	-	0	-	3	細致のかたまりに磁粒10粒含む・草木 通管(四文様・山笠)1粒含む
種14	0(0)	-	4(4)	334	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	文久本質1粒含む
種15	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1	90	0	-	0	-	0	-	0	-	0	非埋藏資料に磁石(線紋器)1点(94g)
種16	4(2)	102	3(0)	53	4(1)	343	0	-	0	-	0	-	0	-	2	165.8	0	非埋藏資料に磁石(線紋器)1点(35g)
種17	6(0)	33	0(0)	-	4(1)	207	6	384	0	-	2	32.4	0	-	0	-	0	-
種18	5(2)	221	2(0)	30	0(0)	-	89	9392	0	-	0	-	0	-	3	121.2	0	-
種19	0(0)	-	3(1)	34	3(1)	32	16	1018	0	-	0	-	0	-	0	-	1	0
種20	3(0)	12	3(0)	22	1(1)	3	5	257	0	-	0	-	0	-	0	-	1	0
種21	1(1)	7	2(1)	30	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種22	3(2)	117	2(0)	7	3(2)	178	5	27.6	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種23	6(4)	259	7(2)	194	1(1)	85	15	1121	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種24	16(6)	206	9(3)	853	4(1)	4994	23	3014	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種25	14(1)	178	12(4)	46	2(0)	37	30	1120	0	-	1	8.6	0	-	0	-	0	-
種26	3(0)	17	7(1)	201	3(2)	35	8	473	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種27	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	4	165	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種28	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
種29	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	11	184	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
SE1	170(42)	1458	68(15)	1460	23(13)	1798	47	4525	1	3.0	7	174.7	2(3)	15.6	4	63.0	2	同一磁器類(昭和十二年)1枚あり 非埋藏資料に磁石(線紋器)1点(54g) ・石灰(粉灰器)1点(4g) 貝類1点(0.4g) 土製品はミニチュア7点(3.9g) 土管4 点(337g)
SE2	170(69)	4391	134(40)	5595	53(21)	3889	529	61457	21	264.5	8	315.0	4(3)	38.6	7	1287.4	3	材質不明の金属製品1点(149.7g) 東米器具には新元1枚・新文様(口蓋)1 枚あり 非埋藏資料に磁石(形紋器)1 点(29g) 草木通管を含む 土製品はミ ニチュア1点(5.9g) 人形・玩具類1点 (62.0g) キセム(陶器)19点(196.6g) 硝子製品6点(1827g) に「コーラス/ MORNINGA ONE CO.LTD. 瓶飲料水瓶1点 ・「日輪堂標」印・総重量を含む
SE3	43(12)	990	7(1)	327	4(1)	392	1172	59996	0	-	2	11.3	2(1)	45.9	0	-	0	金属製品に材質不明1点(1.6g)あり 非埋藏資料に磁石(粉灰器)2点(44g) ・磁石(ホルンフェルス)1点(300g) 種子4点(14.17g) 断片1点(2g) 貝類1 点(11.4g) 土製品はミニチュア7点(10.9g) 硝子製品34点(712g) 土管1点(141g)
SE4	122(43)	1982	99(30)	6996	45(20)	3315	211	14774	1	1.0	10(1)	292.2	7	15.0	3	174.0	0	

遺構	礎石		間壁		土層		瓦		土製品		銅製品		石製品		木製品		その他	
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量		
S01	67(23)	1216	96(14)	2213	55(22)	3129	152	11348	3	11.6	44	490.2	3	2.5	1	408.3	3 種子2点(8.98g) 貝類9点(106.3g) 土製品はミニチュア7点(7.0g)人形・ 玩具類1点(4.6g) 硝子製品1点(2g) 漆工1点(10g)	
S02	109(26)	1175	84(11)	1365	19(6)	714	203	15618	1	1.9	30	81.9	1(3)	9.5	0	-	1 寛永通寶に背突1枚あり 貝類4点 (15.7g) 土製品は小銅製品1点(1.9g) 硝子製品1点(2g) 土管6点(844g)	
S04	56(20)	1146	66(17)	2410	21(10)	1455	52	3814	1	3.0	6	43.4	0	-	41	182.4	2 非陶磁資料に磁石(粘板岩)28点(17g) 磁石(粘板岩)31点(7g) 硝子製品はミニチュア1点(3.0g)	
S05	11(3)	317	19(8)	489	10(3)	805	12	1124	0	-	4	1.2	8	15.5	0	-	3 土管1点(3.9g)	
S06	0(0)	-	2(1)	432	0(0)	-	5	380	3	17.0	5	25.3	0	-	0	-	1 土製品はミニチュア3点(17.0g)	
S07	10(4)	76	2(1)	33	3(1)	75	5	310	0	-	0	0	0	0	0	0	1 硝子製品1点(3g)	
S08	2(1)	80	0(0)	-	1(1)	36	2	123	0	-	0	0	0	0	0	0	0	
S015	157(64)	2577	107(29)	4255	43(19)	1700	364	33323	3	36.0	1	192.4	0	-	0	-	2 土製品はミニチュア7点(11.0g)人形・ 玩具類2点(55.0g) 硝子製品1点(4g)	
S016	18(6)	252	12(1)	170	6(3)	137	30	2791	0	-	0	0	0	0	0	0	1	
S017	103(62)	2266	71(23)	1675	21(10)	1358	141	14096	0	-	4	12.1	6(1)	10.9	5	895.0	0 非陶磁資料に磁石(ホルンフェルス)1 点(69g)・磁石(ホルンフェルス)1点(13g) 土製品はミニチュア1点(11.2g)	
S018	35(17)	573	22(5)	599	14(6)	256	34	3671	1	1.2	0	-	1	3.8	0	-	0 寛永通寶に背突1枚あり	
S019	229(83)	5219	200(62)	8220	60(49)	4250	402	44821	1	48.4	54	386.4	(1)	2.0	8	468.8	15 非陶磁資料に磁石(粘板岩)2点(266g) 種子2点(8.32g) 獣骨5点(234.2g)貝 類5点(251.0g) 土製品はミニチュア 4点(21.2g)人形・玩具類6点(27.3g) 硝子製品2点(29g)	
S020	10(3)	223	14(3)	235	4(2)	145	56	4023	2	13.1	0	-	0	-	2	830.0	0 非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(8g) 土製品はミニチュア2点(13.1g)	
S021	5(3)	126	8(3)	319	4(3)	172	34	3795	0	-	0	0	0	0	0	0	0	
S022																		
S023	37(15)	1164	29(6)	1178	7(4)	214	248	19995	0	-	1	2.4	(2)	7.2	0	-	0 寛永通寶に背突の蓋1枚あり	
S024	34(13)	1086	30(7)	1453	9(4)	473	761	37075	0	-	3	28.0	0	-	0	-	1 硝子製品1点(1.9g) 土管2点(104g) 非陶磁資料1点(67.9g)あり	
S81	179(41)	3375	25(11)	2721	9(6)	2067	29	5905	1	40.0	11	231.2	6	9.2	1	174.9	1 土製品は人形・玩具類1点(40.0g) 硝子製品8点(653g)に丸筒イナゴ硝子 瓶(8の燻瓶) 骨付	
S82	17(4)	480	10(2)	467	2(2)	44	13	720	0	-	1	4.2	0	-	1	4.7	0	
S83	8(2)	126	3(1)	17	2(1)	17	24	1200	0	-	1	26.7	0	-	0	-	1	
S84	90(28)	1565	35(9)	3787	32(10)	2507	164	12662	0	-	49	540.7	0	-	2	4.5	2 硝子製品1点(4g)	
S85	35(12)	369	16(8)	303	16(8)	693	46	2400	0	-	4	63.4	4	0.8	2	574.2	0	
S86	2(0)	1	2(0)	75	2(1)	56	17	2064	1	1.4	0	-	1	2.1	0	-	0	
S87	1(0)	4	3(1)	31	0(0)	-	5	513	0	-	0	0	0	0	0	0	0	

濃精	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		陶製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
SK8	9(2)	61	6(0)	-	2(2)	50	2	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	種子 270 点以上 (0.28g)
SK9	4	6(0)	4	1(1)	16	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	非陶磁資料に属(粘板片)1点 (19g)
SK10	7(3)	508	8(1)	268	7(3)	399	28	1754	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	非陶磁資料に属(粘板片)2点以上 (3.2g)
SK11	12(3)	115	6(0)	80	18(12)	636	10	573	1	1.0	0	0	0	0	0	0	0	1	土製品はミニチュア1点 (1.0g)
SK12	76(34)	2857	51(15)	4393	89(13)	4545	211	15316	0	0	6	696.2	0	0	0	0	0	7	硝子製品4点 (453.1g) に「陶器家/藤 藤消/周縁片、銘裏面および「次郎」」 銘裏を含む。 土管 23 点 (7091g) 鎌瓦 3 点 (62g)
SK14	9(0)	198	8(2)	367	3(0)	32	8	455	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点 (2.9g)
SK16	3(1)	66	3(0)	22	0	0	0	0	1	2.0	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点 (2.9g)
SK17	19(5)	300	3(1)	163	3(1)	262	35	2365	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	29.5
SK18	22(6)	620	10(3)	479	1(0)	13	46	11298	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	100.6
SK19	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	6	181	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK20	5(3)	101	2(1)	57	9(4)	242	7	350	0	0	1	1.4	0	0	0	0	0	0	種子 6 点 (0.05g)
SK21	199(66)	3123	98(25)	4060	48(25)	6701	437	34899	0	0	13	194.3	1	4.5	3	26.0	39	0	非陶磁資料に属(砂管)1点 (21g)
SK22	10(3)	132	6(1)	91	7(3)	88	15	782	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	種子 272 点 (10.13g)
SK23	1(0)	2	1(0)	2	0(1)	19	5	282	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	種子 2 点 (1.57g)
SK24	27(11)	712	10(4)	161	8(3)	699	7	732	0	0	0	0	1	36.9	0	0	0	0	硝子製品1点 (44g)
SK25	11(5)	96	6(1)	237	1(1)	118	26	1855	0	0	1	2.6	0	0	0	0	0	0	0
SK26	13(3)	97	12(5)	157	9(4)	498	39	889	0	0	5	27.5	1	7.3	0	0	0	0	0
SK27	2(1)	37	1(1)	1449	0(0)	-	4	537	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK28	1(0)	1	1(1)	26	1(1)	8	1	155	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK31	20(5)	362	7(3)	925	18(8)	937	34	4600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK32	0	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK33	0	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK34	0(0)	-	1(0)	8	0(0)	-	1	488	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK35	15(0)	41	9(1)	47	5(1)	38	4	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK36	2(1)	9	2(1)	36	0(0)	-	12	816	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK37	1(0)	3	1(0)	5	0(0)	-	3	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK38	2(0)	4	5(0)	120	0(0)	-	5	153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK39	3(0)	11	3(0)	13	1(0)	57	15	679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK40	128(43)	3839	58(16)	4903	21(12)	1040	22	14383	0	0	84	2059.6	(3)	6.4	1	9.0	6	0	非陶磁資料に属(粘板片)1点 (9g) 粘板片 2 点 (10.2g) 鎌瓦 1 点 (21g)

遺構	礎石		間壁		土層		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	礎片数	重量	礎片数	重量	礎片数	重量	礎片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
S841	13(4)	476	12(3)	173	7(5)	148	14	863	2	12.6	0	0	0	0	0	0	0	0	種子25点(28.1g) 土製品はミニチュア71点(8.6g)人形・玩具類1点(3.9g) 徳瓦5点(937g)
S842	5(0)	14	6(0)	0	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	(1)	2.3	0	0	0	0	
S843	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S844	46(19)	1013	24(10)	1366	17(5)	1131	142	11706	0	0	8	26.2	5(1)	4.7	2	9.4	22	9.4	獣骨3点(3.3g) 硝子製品1点(9g)
S845	19(6)	249	11(0)	144	2(0)	260	18	1040	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S846																			
S847	2(0)	17	3(1)	41	1(1)	26	0	0	0	0	0	0	(1)	2.8	0	0	0	0	
S848	9(0)	28	1(0)	3	4(1)	85	9	620	0	0	0	0	(1)	2.2	0	0	0	0	
S849	27(13)	80	11(4)	28	4(4)	12	37	2700	1	2.9	11	56.5	3	13.6	0	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点(2.9g) 硝子製品1点(2g)
S850	43(8)	308	66(9)	750	23(3)	529	47	4624	0	0	3	22.9	3	8.9	3	471.4	0	0	非陶磁資料に砥石(砂目)1点(30g)
S851	2(2)	131	2(1)	3	1(1)	23	6	323	0	0	3	8.8	0	0	0	0	0	0	種子14点(0.29g)
S852	44(11)	659	63(7)	1225	88(13)	2290	72	3351	1	8.5	0	0	4	8.8	0	0	0	0	土製品はミニチュア71点(8.6g)
S853	59(22)	492	21(9)	3180	12(5)	1236	19	2882	0	0	1	17.1	0	0	1	33.6	1	33.6	種子30点(2.01g) 硝子製品1点(257g)
S854																			
S855	22(8)	700	21(2)	274	13(4)	295	40	3967	0	0	4	61.4	1	0.7	0	0	0	0	土管1点(215g)
S856	11(4)	81	2(0)	237	2(1)	50	11	258	0	0	1	26.1	0	0	0	0	0	0	
S857	0(0)	0	1(1)	40	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S858	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S862	2(2)	95	4(1)	45	6(3)	530	31	2871	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	金属製品に材質不明1点(51.8g) あり
S863	4(0)	19	8(2)	63	1(0)	10	8	348	0	0	0	0	(1)	2.4	0	0	0	0	非陶磁資料に砥石(砥石)1点(1g) 土製品はるつぼ1点(20.7g)
S864	5(1)	40	2(0)	22	0(0)	0	0	0	1	20.7	0	0	2	9.4	1	6.0	0	0	
S865	16(4)	153	9(2)	93	1(1)	7	36	1632	0	0	6	15.6	1	15.3	1	37.0	1	37.0	非陶磁資料に砥石(粘板岩)1点(37g) 非陶磁資料にるつぼ1点(20.7g)
S866	106(43)	2388	39(7)	1191	7(2)	276	72	4137	1	5.6	22	283.5	3	187.8	2	84.1	12	84.1	種子3点(7.15g) 硝子製品1点(1g) 金属製品に砥石1点(99.7g) あり 非陶磁資料に砥石(粘板岩)1点(3g) 貝類19点(16.2g) 硝子製品1点(24g) 土製品は人形・玩具類1点(5.6g)
S868	1(1)	16	6(0)	57	1(1)	9	4	110	0	0	1	22.8	(1)	2.1	0	0	0	0	
S869	3(0)	9	7(2)	2964	3(2)	30	7	1730	0	0	6	131.2	6	0	1	36.0	0	0	非陶磁資料に砥石(粘板岩)1点(36g)
S870	0(0)	0	1(0)	5	1(0)	25	2	159	0	0	1	2.2	0	0	0	0	0	0	
S871	0(0)	0	6(0)	0	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S872	4(1)	18	11(3)	28	21(3)	1077	385	36894	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S873	3(1)	36	0(0)	0	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S874	4(0)	8	2(0)	4	3(3)	46	7	399	0	0	0	0	1	38.4	0	0	0	0	
S875	0(0)	0	8(7)	1641	0(0)	0	5	727	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S877	1(0)	1	3(0)	3	1(1)	22	0	0	0	0	1	2.1	0	0	0	0	0	0	
S878	59(21)	1332	48(9)	1531	19(8)	581	53	3269	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	非陶磁資料に砥石(砂目)1点(34g)

濃精	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		陶製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	
SK79	5(1)	24	1(0)	4	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	破瓦1点(91g)
SK80	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK81	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK82	9(2)	105	4(1)	147	4(1)	192	9	1141	0	0	1(1)	8.8	0	0	0	0	0	0	-
SK83	82(29)	1547	7(2)	282	5(2)	1093	32	2611	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK84	3(2)	147	1(0)	5	2(0)	120	1	167	0	0	1	8.5	0	0	0	0	0	0	-
SK85	22(7)	157	2(1)	21	0(0)	0	3	200	0	0	2	8.6	0	0	0	0	0	0	-
SK86	15(3)	419	9(0)	43	4(2)	89	11	433	0	0	2	1.2	3	49.8	0	0	0	0	1
SK87	7(2)	370	6(3)	1290	1(1)	790	7	4440	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	235.8
SK88	11(2)	85	2(1)	19	1(0)	42	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK89	4(2)	451	6(1)	1339	13(3)	1788	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK91	3(1)	86	1(1)	7	3(2)	176	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK92	1(1)	2	2(1)	261	2(0)	109	3	178	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK93																			-
SK94	44(25)	1900	19(1)	242	8(6)	422	30	1532	0	0	1	45.8	0	0	2	675.5	0	0	非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(59g) 非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(20g) 磁石(流紋岩)1点(69g) 貝類5点(47.4g) 硝子製品3点(40g)
SK95	21(13)	1037	9(2)	80	2(0)	61	27	1128	0	0	10	59.9	0	0	4	91.6	1	0	-
SK96	62(2)	42	3(0)	21	0(0)	0	1	2	0	0	1	8.7	0	0	0	0	0	0	-
SK97	2(2)	66	2(0)	36	2(2)	76	2	584	0	0	0	0	0	0	2	88.3	0	0	-
SK98	31(13)	840	15(3)	931	53(10)	1289	49	6787	0	0	1	6.8	0	0	0	0	0	0	-
SK99	54(28)	1655	31(8)	2943	14(7)	679	52	3670	0	0	5	32.1	0	0	1	9.0	36	0	非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(9g)
SK100	0(0)	-	1(0)	3	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
SK101	57(22)	1327	78(13)	13420	22(4)	510	1216	134036	0	0	35	196.8	1(1)	27.7	1	4.0	8	0	天保通寶1枚あり 非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(4g) 硝子3点(2.79g) 夏木通寶四文銭の1枚1枚あり 土製品は磁土2点(121.9g) 土管1点(71g) 土製品は磁土3点(2402.9g) 非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(9g) 磁石(砂岩)12点(400g) 磁石(流紋岩)1点(210g) 磁(粘板岩)1点(9g) 土製品は磁土4点(2326.9g) 土管1点(184g) 土製品は磁土3点(1533.9g)
SK102	61(24)	1313	7(2)	1560	9(4)	1841	1478	165117	2	1121.0	102	486.2	14(5)	300.7	2	1240.5	1	0	-
SK105	192(229)	16951	29(10)	1446	7(4)	792	7839	796851	3	2402.0	1	14.7	2	190.5	0	0	0	0	-
SK106	79(27)	1307	32(4)	2180	7(5)	287	4071	359246	4	2326.0	39	681.8	4(1)	83.4	7	971.0	0	0	-
SK107	46(10)	439	15(4)	1498	3(2)	87	2033	220282	3	1533.0	4	27.1	0	0	0	0	0	0	-
SK108	33(15)	596	6(3)	194	3(2)	905	4027	411944	0	0	23	136.3	0	0	0	0	0	0	-
SK109	5(0)	60	1(1)	54	1(0)	198	12	872	0	0	1	3.2	0	0	0	0	0	0	-
SK110	84(33)	3397	62(24)	8838	48(25)	6554	167	18478	0	0	33	160.5	1(1)	5.3	3	120.0	36	0	硝子製品1点(296g) 土管1点(204g) 非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(15g) 磁石(流紋岩)1点(39g)・4点(粘板岩) 1点(69g) 硝子1点(1.25g) 天文通寶1枚あり 非陶磁資料に石版(粘板岩)1点(44g) 磁石(流紋岩)2点(125g) 土製品は人形・土具類4点(6.0g) 土製小瓶1点(9.8g)
SK111	96(51)	2282	42(16)	1611	12(7)	270	93	3803	5	15.8	19	57.6	1(1)	7.1	4	223.9	1	0	-

建構	礎石		間壁		土壁		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
SK112	137(69)	4211	106(39)	4221	47(18)	3293	269	22668	4	47.6	11	72.9	5(3)	36.6	6	574.3	23		質本通貫に貫通1枚・掛瓦1枚あり 非陶磁質材に片打石(瓦類)1点(16g) 種子131点(1.3kg)、貝類10点(382.4g) 土製品はミニチュア2点(44.8g)人形・ 玩具類2点(2.8g) 硝子製品1点(14g)
SK114	8(2)	116	2(0)	4	1(0)	174	4	206	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SK116	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	貝類2点(4.4g) 土製品は人形・玩具類 1点(2.9g) 硝子製品2点(39g) 土管 1点(19g)
SK117	35(22)	982	25(7)	2545	27(11)	7147	53	3250	1	2.9	6	67.9	0	-	0	-	2	-	
SK118	1(1)	57	1(0)	41	1(0)	62	3	357	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
SK119	3(1)	217	1(0)	3	3(2)	101	3	824	1	13.6	4	8.8	(1)	2.0	3	2835.1	4		質本通貫ミニチュア7点(13.6g) 硝子製品1点(18g) 土製品はミニチュア11点(11g)枚あり 土管2点(3.4g) 硝子製品3点(10g) 土製品は人形・玩具類1点(3.1g) 土 管3点(124g) 燧瓦1点(39g)
SK120	56(15)	1031	40(12)	830	18(4)	2283	137	11491	1	3.1	23	212.0	4(1)	57.0	1	1.2	2		
SK121	117(33)	8843	22(7)	978	7(2)	469	3695	481967	0	-	1	3.9	0	-	0	-	0	-	金属製品に材質不明1点(5.5g) 質本通 貫の文庫の11葉1枚あり 非陶磁質材に焼した砥石(粘板岩) 1点(79g)・石版(粘板岩)2点(86g) 燧骨1点(10.5g) 硝子製品5点(106g) 土製品は人形・玩具類2点(166.4g) 土管42点(6726g)
SK122	347(110)	5886	136(42)	5635	60(18)	2901	163	21388	2	168.4	29	326.9	5(1)	80.5	3	156.0	7		
SK124	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
SK125	1(0)	2	2(0)	9	2(2)	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
SK126	16(7)	468	8(1)	268	8(3)	590	6	213	0	-	8	16.0	0	-	2	31.0	5		非陶磁質材に焼した砥石(粘板岩)2 点(31g)
SK127	4(0)	51	17(2)	240	2(0)	6	12	1048	0	-	4	54.5	0	-	0	-	0	-	
SK128	3(0)	8	9(2)	40	1(1)	5	2	136	0	-	2	18.9	0	-	0	-	0	-	
SK129	10(4)	83	10(0)	49	2(1)	60	7	352	0	-	0	-	(1)	2.4	1	45.0	0		非陶磁質材に砥石(粘板岩)1点(45g)
SK130	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
SK131	117(42)	2085	81(27)	4636	35(20)	2092	120	8546	2	44.4	10	208.7	3	36.4	0	-	9		金属製品に指1点(2.8g)あり 貝類1点(6.0g) 硝子製品1点(22g) 土製品はミニチュア2点(44.4g) 燧瓦6点(18.1g) 燧骨6点(18.1g)
SK132	7(3)	65	8(2)	188	1(0)	35	13	500	0	-	1	42.0	0	-	1	77.0	13		
SK134	18(6)	282	19(3)	598	11(4)	624	379	42610	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	
SK135_136 137	155(71)	5296	53(15)	2480	36(10)	14478	130	25812	1	40.0	1	54.0	0	-	0	-	11		土製品は人形・玩具類1点(40.0g) 硝 子製品3点(997g)に片打石(粘板岩) 燧瓦4点・(天宮堂/燧骨/小燧骨) 燧瓦1点含む 土管8点(1464g) 燧瓦1点(85g)
SK135_136 139	1(0)	39	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	-	13	31.2	0	-	0	-	0	-	金属製品に材質不明1点(8.0g)あり
SK136	1(1)	39	2(2)	85	1(1)	27	17	1556	0	-	1	4.0	0	-	0	-	0	-	

品名	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		陶製品		銅製品		石製品		木製品	その他		
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量			破片数	重量
SK137	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
SK138	80(33)	1966	25(10)	1219	9(4)	555	24	1959	0	-	4	45.3	1	3.1	0	-	0	-	0	-
SK139	33(13)	883	7(0)	63	6(0)	447	14	1074	0	-	3	8.3	0	-	0	-	0	-	0	-
SK140	166(95)	10248	87(26)	6267	49(27)	16250	5044	506943	1	21.5	9	290.8	2	1.2	3	114.0	10	-	0	-
SK141	132(71)	4681	110(43)	6897	22(15)	3658	300	25456	2	10.7	11	271.9	1(3)	10.9	6	1565.4	6	-	0	-
SK142	132(77)	6403	61(22)	5748	49(19)	6897	287	34880	1	5.5	4	322.6	6	12.1	3	246.9	8	-	0	-
SK143	11(3)	435	2(1)	249	2(1)	244	20	1080	0	-	2	11.8	0	-	0	-	0	-	0	-
SK144	2(0)	13	5(1)	101	1(1)	50	6	702	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
SK145	197(100)	5633	204(58)	9968	77(42)	7904	369	39550	3	12.7	4(3)	76.6	6(26)	116.2	12	4137.6	29	-	0	-
SK146	25(12)	349	17(7)	367	8(4)	590	9	1257	0	-	8	38.4	4	46.8	1	1.3	8	-	0	-
SK147	17(7)	168	8(1)	334	2(1)	29	7	598	0	-	0	-	0	-	2	94.9	1	-	0	-
SK148	8(2)	210	7(5)	437	3(2)	137	20	1444	0	-	13	163.6	1	11.2	1	31.0	1	-	0	-
SK149	25(9)	281	25(9)	313	12(6)	393	46	2095	2	14.8	5	138.7	0	-	1	58.0	6	-	0	-
SK150	30(13)	1116	11(2)	342	12(8)	538	108	8944	0	-	0	-	0	-	0	-	2	-	0	-
SK151	0(0)	-	3(2)	121	0(0)	-	8	495	0	-	0	-	0	-	0	-	4	-	0	-
SK152	0(0)	-	2(0)	41	5(3)	465	4	257	0	-	2	122.5	0	-	0	-	0	-	0	-
SK153	7(5)	271	12(7)	637	2(1)	160	19	1460	0	-	0	-	0	-	1(1)	8.8	0	-	0	-
SK154	0(0)	-	6(0)	60	0(0)	-	2	301	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
SK155	1(1)	52	0(0)	-	0(0)	-	3	97	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
SK156	13(3)	140	13(4)	314	4(3)	144	24	1032	1	1.0	1	8.7	1(1)	5.4	0	-	5	-	0	-
SK157	5(3)	170	1(1)	361	0(0)	-	19	1796	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-

建構	礎石		間壁		土留		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	
SK158	1(0)	2	1(0)	3	4(0)	235	2	204	1	3.5	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品はミニチュア1点(3.5g)
SK159	94(43)	3663	53(18)	2251	15(6)	961	52	4560	0	0	3	11.6	5	1.1	0	0	0	0	土製品はミニチュア1点(3.5g)
SK160	1(1)	31	6(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK161	2(0)	9	1(0)	2	0	0	0	1	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK162	4(0)	41	6(0)	107	4(1)	69	5	510	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK163	2(0)	18	2(0)	22	3(0)	22	26	1380	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK164	42(24)	2163	16(6)	935	8(3)	990	15	1066	2	21.0	2(2)	17.5	5(2)	7.5	2	136.3	0	0	文久大書1枚・寛永通寶四文銭の21・21 枚・11歳1枚あり 非陶磁資料に磁石(磁石約31点(80g)) 硝子製品31点(55g)に磁器(高梁骨粉製 品ボンネットケトル、磁瓶1点・磁器 に類物を混入した化粧皿1点含む 土管3点(298g))
SK165	9(4)	113	8(6)	767	6(2)	183	17	1176	1	10.7	(1)	4.4	0	0	0	0	0	0	寛永通寶四文銭の11歳1枚あり 品はミニチュア1点(10.7g) 硝子製品 1点(3g)
SK166	11(3)	234	1(1)	46	2(1)	43	0	0	0	0	0	0	0	0	1	119.0	0	0	非陶磁資料に磁石(磁石約1点(119g)) 硝子製品1点(203g)
SK167	20(15)	1524	6(3)	488	5(3)	6372	8	497	0	0	0	0	0	0	1	276.7	0	0	硝子製品2点(69g)に「WESTMILK」/ REC/DISE/MOK」磁器製の瓶1点・日 曜磁器/(形)磁器製の緑色化粧皿2点 ・1大木製/ホヤと目薬/磁瓶1点含む
SK168	2(1)	15	1(0)	2	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	非陶磁資料に磁(磁石約1点(18g)・石版 (磁石)1点(38g)) 骨製品3点(32.3g) 貝類14点(12.3g) 土製品はミニチュア4点(72.0g) 人形・磁 土製品は(6.6g) 磁器製品3点(90g) 硝子製品2点(90g)に磁器・磁石・ホ ヤの類2点、磁器製の丸蓋の文芸品 ・磁瓶1点・木/瓦/土管製 /たむし木) 磁瓶1点・石版り5点を含む 土管2点(196g)
SK169	164(84)	7889	67(21)	4399	24(9)	1625	61	4845	6	118.4	8	175.3	4	76.4	3	322.8	9	0	0
SK170	21(9)	449	14(6)	493	7(1)	873	21	1869	0	0	4	4.4	4	14.5	0	0	0	0	0
SK171	4(0)	60	4(1)	313	12(7)	1688	4	66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK172	12(8)	684	9(3)	365	6(3)	131	4	203	0	0	4	55.0	1	9.5	0	0	0	0	0
SK173	13(2)	165	11(0)	131	3(0)	61	10	528	0	0	0	8	52.4	3	17.8	3	128.0	0	0
SK174	3(1)	210	5(0)	497	1(0)	76	5	216	0	0	1	6.7	1	48.1	0	0	0	0	0

遺構	礎石		開窓		土塼		瓦		土製品		銅製品		細製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	
SK175	19(4)	247	19(3)	1342	10(2)	284	10	567	0	-	1	5.4	1	6.3	2	6.0	0	0	丹波産資料に焼した低石(粘板岩) 1点(2g)・政康寺1点(4g) 硝子製品 2点(15g)に石籠り含む 土管 4点(49g)
SK176	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	-	10	39.1	1	8.5	0	-	2	0	硝子製品6点(92g)
SK177	10(3)	290	8(2)	85	3(1)	103	28	5218	0	-	3	20.0	2	10.6	0	-	1	硝子製品14点(18,32g) 磁器1点(2,1g)	
SK178	23(11)	185	4(1)	41	0(0)	-	4	701	1	1.0	2	49.9	0	0	0	-	0	土製品はミニチュア1点(11,0g) 硝子製品5点(109g)	
SK179	39(25)	1834	17(5)	3132	4(1)	219	11	349	0	-	5	139.1	0	-	0	-	0	硝子製品16点(254g)	
SK181	74(19)	1622	45(16)	2097	37(12)	1000	62	3335	1	2.3	7	218.3	3	22.7	3	166.0	8	金属製品に材質不明2点(29,2g)あり 丹波産資料に焼した低石(粘板岩) 1点(13g)・低石(凝灰岩)1点(38g) 種子4点(13,71g) 骨製品3点(29,2g) 貝類14点(123,2g) 硝子製品9点(572g)に底部(コロロンビ ア)1枚の裏面1点・「製録/製匠/四一/ 〇五」の裏面1点あり 土製品はミニチュア1点(2,3g)	
SK182	199(99)	6440	62(19)	3298	18(10)	2265	36	8801	2	14.5	4	76.7	2	20.8	0	-	8	土製品はミニチュア1点(4,8g)人形・ 瓦片類1点(9,7g) 硝子製品2点(4g) 骨文のある鹿角磨片1枚あり	
SK183	134(222)	33140	210(113)	38538	139(45)	63728	242	24532	4	40.2	36(1)	1163.4	5(2)	140.1	10	1146.0	39	丹波産資料に石版(凝灰岩)5点(20g)・ 低石(凝灰岩)2点(95g) 種子4点(6,74g) 貝類22点(54,1g) 土製品はミニチュア3 点(3,6,4g)人形・瓦片類1点(3,8g) 土管80点(1139g) 道具1点(7g) 硝子製品10点(384g)に「SANKSE」板風1 点・「南条/赤十字」板風1点・「白夏/神楽木」 板風1点・瓦器(磁器)板風2点含む	
SK184	126(63)	3563	36(15)	5508	32(11)	2367	296	26202	1	12.7	0	-	1	2.8	0	-	2	土製品1点(112,7g)	
SK185	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	0	金属製品に材質不明1点(0,3g)あり 第一級陶器(瓦正七年)あり 硝子製品6 点(53g)に「SANKSE」板風1点含む 土製品はミニチュア1点(6,0g) 硝子製品 2点(149g)に「東/瓦/尾瀬/止戸火」 板風1点含む 土管5点(29g)
SK186	32(35)	3460	23(16)	1916	6(1)	515	1	108	1	7	14	21.5	5(1)	13.7	0	-	2	0	丹波産資料に低石(凝灰岩)1点(129g) 硝子製品1点(53g) 土管8点(500g)
SK187	46(23)	1519	24(9)	482	10(5)	1147	33	3003	2	6.0	0	-	0	-	0	-	5	0	丹波産資料に低石(凝灰岩)1点(129g) 硝子製品1点(53g) 土管8点(500g)
SK188	66(46)	2856	40(14)	2832	19(8)	1769	31	3700	0	-	4	40.3	5	30.8	1	129.0	3	0	丹波産資料に低石(凝灰岩)1点(129g) 硝子製品1点(53g) 土管8点(500g)

遺構	礎礎		陶器		土器		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	
S189	138(67)	4577	79(27)	3524	28(12)	3220	89	6300	7	70.0	13	236.9	4(1)	153.5	3	745.3	14		龍一様銅貨(明治十二年)あり 龍一様銅貨に連(昭和初期)1点(2g) 非鉄金属材料(明治)あり 土製品はミニチュア7点(70.0g) 硝子製品19点(888g)に底面「口交野井 硝子製」製白粉画との重各1点・「志 海/丹/海心/海雲」製画1点・「志 ら/赤毛染/いろは」製染付画1点・底 部「K.OYERES」製画1点・底面「金」 エンボス製有色画(茶色)1点を含む 龍一様銅貨(明治十八年)あり 土製品は ミニチュア1点(13.6g) 硝子製品12点 (251g)に「厚野」製画1点含む 土管1 点(87g)
S190	95(38)	3101	82(15)	3793	33(12)	3466	82	4100	1	13.6	3	18.6	(1)	6.5	0	-	15		
S192	47(26)	3685	17(8)	1877	15(4)	1094	40	3077	0	-	1	227.8	0	-	0	-	0		
S193	140	2	3(1)	79	2(0)	122	52	3376	0	-	0	-	0	-	0	-	0		
S194	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
S195	10(4)	296	15(6)	565	1(0)	17	935	64915	1	47.7	0	-	0	-	0	-	0		
S196	29(9)	646	12(3)	303	13(6)	534	25	1428	0	-	2	27.1	2	10.7	0	-	6		
S197	4(1)	14	2(0)	38	1(0)	5	7	465	0	-	0	-	0	-	0	-	0		
S198	7(3)	135	2(1)	49	0(0)	-	5	352	0	-	2	8.0	(1)	2.5	0	-	1		
S199	22(11)	633	21(14)	1275	7(3)	1089	22	1905	0	-	2	67.9	0	-	0	-	2		
S200	9(4)	364	10(3)	129	7(4)	327	13	1160	0	-	0	-	0	-	0	-	0		
S201	21(7)	476	31(7)	1106	7(5)	180	24	1849	0	-	0	-	0	-	0	-	2		
S202	15(8)	340	11(3)	290	7(2)	311	71	4232	0	-	3	47.3	0	-	0	-	0		
S203	13(2)	157	13(3)	346	11(4)	255	23	1507	0	-	2	4.5	4	9.0	0	-	0		
S204	30(8)	362	31(11)	2015	5(4)	536	122	10853	1	7.0	4	96.8	0	-	0	-	9		
S205	3(1)	132	0(0)	-	0(0)	-	362	28025	0	-	0	-	0	-	0	-	2		
S206	18(9)	311	6(3)	182	4(1)	79	22	1875	0	-	0	-	0	-	0	-	2		
S207	5(2)	97	8(1)	168	11(5)	312	92	1790	0	-	0	-	0	-	0	-	0		
S208	95(43)	3535	38(16)	2386	26(14)	2826	388	25209	0	-	3	150.7	0	-	0	-	10		
S209	9(4)	532	10(2)	196	0(2)	311	204	21130	0	-	0	-	0	-	0	-	0		
S210	32(7)	825	17(7)	927	18(5)	920	226	10977	6	75.5	43	202.5	7	12.6	5	8.4	9		

連携	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		木製品		その他	
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量		
SR211	41(25)	1361	26(12)	1123	3(2)	57	26	2054	0	1	49.5	0	-	-	37	17	日皿2点 (31.7g) 寛永通寶四文銭の11裏1枚あり	
SR212	4(2)	52	5(1)	121	0(0)	-	97	9805	0	-	0	-	(1)	4.4	1	1.0	井筒磁器資料に属(粘板瓦)1点 (1g)	
SR213	1(0)	1	1(1)	27	1(0)	7	0	-	0	-	0	-	0	-	0	0	寛永通寶四文銭の11裏1枚あり	
SR214	12(6)	586	30(5)	299	21(5)	886	29	2150	0	-	6	115.7	6(2)	12.9	0	1	種子1点 (12.9g) 日皿1点 (22.3g) 種子1点 (13.69g) 日皿1点 (15.0g)	
SR216	31(16)	660	36(13)	1374	15(10)	586	151	12846	0	-	2	72.2	(1)	3.0	0	13	金属製品に如製器1点 (23.3g) 骨 土管1点 (63.9g) 土管1点 (109g) 種子22点 (0.54g)	
SR217	69(40)	2710	48(19)	1971	38(9)	16549	133	7392	0	-	35	1201.7	3	83.8	0	6	寛永通寶四文銭の11裏1枚あり 銅子製品35点 (178g) に「ヘチマコロン」 緑色磁瓶1点、「二重巻白瓦」煎餅風1 点、「ヘチマ」定規巻白瓦、煎餅風1点・ 底部(両葉型)煎餅風1点・底部(レール) 煎餅風1点・底部にクナナ焼酎文様のエン ズ有平白色化陶タラシム風1点・「も もの花」他款の高巻井筒巻白粉磁瓶1点 含む	
SR218	1(1)	84	0(0)	245	1(0)	2	11	462	0	-	0	-	0	-	0	0	金属製品に材質不明1点 (3.5g) あり	
SR219	3(1)	41	5(3)	229	1(0)	63	8	680	0	-	0	-	0	-	0	0	寛永通寶四文銭の11裏1枚あり	
SR220	0(0)	-	1(0)	7	0(0)	-	6	400	0	-	0	-	0	-	0	0	寛永通寶四文銭の11裏1枚あり	
SR221	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0	寛永通寶四文銭の11裏1枚あり	
SR222	0	-	1(0)	7	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	0	土管2点 (122g)	
SR223	9(5)	247	6(3)	35	0(0)	-	5	330	1	21.0	0	-	0	-	0	2	土製品はミニチュア1点 (21.0g) 骨製品1点 (6.8g) 土製品はミニチュ ア1点 (8.4g) 硝子製品38点 (1833g) に「00」煎餅風2点・銅器や磁器に磨粉 を施した化粧大瓶2点・底部(ヤブ)に 七ヶ煎餅(牛乳風)1点・七ヶ一厘水・ 煎餅風1点・底瓦1枚 煎餅風1点 (化 粧タラシム風)含む	
SR224	75(36)	3203	26(10)	5114	22(6)	4077	62	5138	1	8.4	2	73.7	1	1.6	2	230.7	6	金属製品に材質不明1点 (3.5g) あり 寛永通寶四文銭の11裏1枚あり 非陶磁器資料に磁石 (磁紋) 5点 (85g) 土製品はミニチュア7点 (185.0g) 人形 ・玩具風5点 (57.9g) 煎餅1点 (109.3g) 土管1点 (1382g) 硝子製品5点 (498g) に「ホーラー」煎 餅大瓶含む
SR226	255(106)	5815	191(54)	6744	87(44)	7218	259	24156	14	326.3	16	224.8	9(2)	20.1	7	170.5	27	金属製品に材質不明1点 (3.5g) あり 寛永通寶四文銭の11裏1枚あり 非陶磁器資料に磁石 (磁紋) 5点 (85g) 土製品はミニチュア7点 (185.0g) 人形 ・玩具風5点 (57.9g) 煎餅1点 (109.3g) 土管1点 (1382g) 硝子製品5点 (498g) に「ホーラー」煎 餅大瓶含む
SR227	13(4)	123	4(1)	216	6(0)	442	5	315	2	9.0	0	-	0	-	1	18.0	4	非陶磁器資料に灰打石 (石灰) 1点 (18g) 土製品はミニチュア2点 (8.0g) 人形・ 玩具風1点 (1.0g) 硝子製品2点 (20g)

建構	礎石		間壁		土留		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品	その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量		
S8229	257 (121)	8757	121 (58)	9429	61 (17)	18729	546	52270	3	58.9	4	22.0	3(3)	106.8	4	184.2	12	構造用1枚・十円硬貨1枚・銅線(明和丸印)1枚あり 非純鐵質材料に磁石 (ホルンブエルス) 1点 (96g)・石版 (安山岩) 1点 (31g)・増石 (角閃石・安山岩) 1点 (38g)・土製品はミニチュア2点 (55.9g) 別に土管35点 (312g) 煉瓦1点 (101g) 硝子製品30点 (1459g) に「KAC」IE LAIT/UBAO & CIE、酸化銅水銀1点・1斗一カーノ登録表附九一七号、酸化銅水銀1点・「星野博隆」銀裏紙1点・底面「SSS」エンボスのインク瓶1点を含む
S8230	456 (227)	19664	156 (61)	18566	90 (35)	30285	734	72207	6	16.6	40	905.3	9	64.6	6	108.1	1	金銀製品に材質不明3点 (17.4g) あり、非純鐵質材料に磁石 (鉄板) 1点 (5g)・石版 (鉄板) 1点 (25g)・石版 (石材不明) 1点 (1g) 骨彫品2点 (11.3g) 貝類6点 (19.7g) 土製品はミニチュア4点 (13.4g) 人形・玩具類2点 (3.3g) 土管38点 (4130g) 硝子製品12点 (1721g) に「大木製/日露/神楽水」銀裏紙・「夏澤」銀紙・「陸奥堂/梅/菊/仁武丹」銀紙・底面「S」銀のインク瓶・底面「金」銀紙を各1点を含む
S8231	2(1)	91	1(0)	22	0(0)	-	26	1935	0	-	10	102.8	0	-	0	-	0	金銀製品に材質不明2点 (2.6g) あり、非純鐵質材料に石版 (鉄板) 3点 (93g)
S8232	24(4)	1210	19(14)	1883	4(0)	311	12	835	0	-	0	-	0	-	0	-	0	土製品はミニチュア4点 (47.3g) 人形・玩具類4点 (68.0g) 土管小瓶3点 (24.3g)
S8233	68(31)	3275	38(10)	1399	19(4)	7063	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	土管12点 (1039g) 煉瓦3点 (367g) 硝子製品12点 (5444g) に「得心丹/鏡感堂」銀紙2点・底面「平度/分利」銀紙1点・白紙不透明紙・底面「ANNO」銀紙・白紙不透明紙・東京山崎陶器窯・「JOFFERMIN」エンボスの帝國陶器窯・「JOFFERMIN」K.H.L.」銀紙・「3D LITER」銀青色紙・「Regard Bottle」瓶・「明信堂製/日/露/神楽水」紙・「三宅島/御宮製/造所」銀線紙・「COM.LYBRIOL/SCOTT/DM」500.RITH.1083800」銀肝油瓶 (米田製) 各1点含む
S8235	558 (300)	19897	117 (52)	20257	120 (53)	15216	865	64745	11	129.6	109	943.1	2(3)	19.4	8	737.3	17	金銀製品に材質不明2点 (2.6g) あり、非純鐵質材料に石版 (鉄板) 3点 (93g)

濃度	磁器	陶器	土器	瓦	土製品	陶製品	銅製品	鋼製品	石製品	木製品	その他										
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数										
S8238	252(104)	6919	156(67)	10621	39(20)	6571	415	31054	6	148.4	24	671.7	1(3)	14.0	7	354.7	150	3	48	金属製品に指1点(2.6g)あり 文み本質 3枚あり 非陶磁資料に磁石(粘板岩)2 点(48g) 種子230点以上(31.77g) 紙 片1点(0.10g)未測 土製品はミニチュ ア3点(86.5g)人形・玩具類3点(61.9g) 土管3点(178g) 硝子製品9点(127g) に「1883」印あり 漆器酒瓶含む	
S8239	50(26)	2097	2(1)	71	2(2)	1192	0	-	0	-	3	15.8	0	-	1	184.0	0	1030	1030	非陶磁資料に4明白石製品(粘岩)1点 (184g) 土管1点(374g) 硝子製品に「forz」印あり 1030 8000000 硝子瓶・土管三十点入 総重量1.7g 総重量印各1点あり	
S8240	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8241	142(75)	5690	36(13)	2270	18(9)	1277	81	8414	2	21.5	1	19.2	0	-	3	201.3	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8245	18(8)	312	2(1)	32	2(1)	163	64	2868	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8246	1(0)	198	14(4)	762	12(3)	371	51	3500	1	33.5	0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8247	4(1)	31	3(1)	451	0(0)	-	1924	230200	0	-	4	46.0	3	35.5	1	3.0	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8248	51(27)	1457	18(5)	4001	10(4)	832	3111	370707	0	-	13	190.2	0	-	1	59.7	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8249	17(4)	152	10(3)	343	4(3)	3148	25	2250	0	-	3	11.5	2	12.5	0	-	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8250	2(1)	41	4(3)	173	1(1)	59	0	-	0	-	0	-	0	-	1	8.0	0	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8251	17(6)	259	2(1)	713	0(0)	-	23	2311	1	2.0	0	-	0	-	0	-	2	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8252	265(125)	8283	115(42)	13162	43(16)	7865	110	20580	11	90.1	11	670.4	5	221.8	3	322.0	11	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)
S8253	85(43)	2267	22(10)	884	8(5)	401	283	19335	1	96.0	0	-	(2)	10.2	0	-	7	-	-	-	非陶磁資料に磁石(粘板岩)1点(9g) 種子4点(7.17g) 土製品はミニチュア 1点(10.4g) 土管1点(11.1g) 硝 子製品3点(416g)

建構	礎石		間壁		土層		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	
S8255	12(6)	354	5(1)	988	4(2)	361	31	3354	0	0	1	8.2	(1)	4.0	0	0	0	0	
S8257	16(7)	222	4(0)	71	5(2)	304	20	1367	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	種子109点(4.63g)
S8259	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	夏末湖沼田文類の口蓋1枚あり 非陶磁資料に砥石(形枚形)1点(08g) 砥石(流紋形)1点(31g) 種子155点 (309.37g) 断骨1点(28.4g) 貝類417 点(106.1g) 土製品はミニチュア1点 (47.4g) 人形・玩具類3点(16.1g) 硝 子製品1点(109g) 土管1点(10g)
S8260	190(76)	4922	119(34)	3025	74(28)	3492	1102	128499	4	63.5	0	0	(2)	7.6	4	296.2	51	0	夏末湖沼田文類の口蓋1枚あり 非陶磁資料に砥石(形枚形)1点(7.0g)あり 土製品は人形・玩具類4点(17.2g)
S8261	7(6)	514	7(4)	594	2(2)	30	30	8340	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8262	5(3)	130	10(3)	254	0(0)	0	39	4800	0	0	4	71.3	4(2)	27.6	0	0	0	0	夏末湖沼田文類の口蓋1枚あり
S8263	3(1)	67	4(2)	166	1(1)	78	0(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8264	12(4)	591	30(6)	874	13(5)	427	57	4495	5	18.5	0	0	0	0	0	0	0	0	金属製品に類1点(7.0g)あり 土製品は人形・玩具類4点(17.2g)
S8265	5(3)	110	2(1)	83	1(1)	3	38	3999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8267	2(0)	13	1(0)	15	0(0)	0	5	212	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8268	40(17)	623	25(5)	1093	10(5)	134	25	2012	0	0	0	0	0	0	1	8920.0	0	0	金糸付巻の煙灰1点(39.7g)あり
S8269	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8270	38(16)	611	31(10)	749	2(0)	27	24	1960	0	0	0	1	5.9	1	33.2	0	0	0	文久水筒1枚あり 非陶磁資料に砥石(形枚形)1点(2g) 種子25点(0.56g) 土製品はミニチュ ア1点(31.5g) 土製小差18点(171.1g) 硝子製品2点(82g)
S8271	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	非陶磁資料に類した砥石(形枚形)2 点(24g)
S8272	21(8)	1174	71(33)	2871	10(4)	1843	709	72623	19	262.6	0	0	3(1)	26.2	1	2.0	74	0	非陶磁資料に石版(形枚形)1点(104g) 硝子製品9点(1399g)に磁器(磁田)部 品1点(199g) 土製品はミニチュ ア1点(31.5g) 土製小差18点(171.1g) 硝子製品2点(82g)
S8273	5(4)	430	12(8)	661	3(1)	37	8	714	0	0	0	0	0	0	2	24.0	0	0	非陶磁資料に類した砥石(形枚形)2 点(24g)
S8274	171(80)	5243	76(33)	1649	9(4)	1869	325	22576	0	0	3	218.8	3	113.7	2	115.9	0	0	非陶磁資料に石版(形枚形)1点(104g) 硝子製品9点(1399g)に磁器(磁田)部 品1点(199g) 土製品はミニチュ ア1点(31.5g) 土製小差18点(171.1g) 硝子製品2点(82g)
S8275	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	磁器類各1点合計
S8276	0(0)	0	1(0)	1	1(1)	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8277	5(1)	44	3(1)	34	6(3)	392	16	1164	0	0	1	32.5	(1)	2.3	0	0	0	0	
S8278	3(0)	34	0(0)	0	0(0)	0	7	947	0	0	0	0	(1)	1.8	0	0	0	0	
S8279	8(5)	148	15(2)	296	1(1)	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8279	2(0)	28	6(1)	84	0(0)	0	3	332	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8280	8(1)	26	5(3)	308	0(0)	0	18	1309	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S8281	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	0	2	215	0	8.0	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点(8.0g)
S8282	8(5)	196	1(1)	4	1(1)	8	5	313	0	0	2	9.6	0	0	0	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点(9.6g)
S8284	5(2)	35	1(1)	61	3(2)	330	1	181	0	6.4	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点(6.4g)
S8285	3(0)	19	0(0)	0	0(0)	0	14	949	0	0	4	179.4	0	0	0	0	0	0	

濃精	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		陶製品		石製品		木製品		その他		
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量			
SK286	49(18)	1151	39(12)	1353	39(19)	33399	101	12504	2	17.0	5	89.5	15.3	0	-	26	種子4点(9.74g) 貝類2点(52.9g) 土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)		
SK287	9(2)	184	5(2)	121	5(1)	199	12	786	0	-	0	-	(1)	5.5	0	-	3	覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK289	245	610	179	323	204	1	24	0	-	-	1	35.1	0	-	0	-	3	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK290	30(12)	896	14(3)	941	15(6)	3744	135	14032	0	-	4	12.6	5	3.1	1	137.7	2	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK291	0	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK292	0	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK293	6(4)	333	9(3)	522	5(4)	583	3	604	0	-	0	-	0	-	0	0	0	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK294	7(8)	78	5(3)	624	3(2)	583	10	971	0	-	0	-	0	-	0	0	3	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK295	3(0)	409	11(2)	188	49(20)	1134	12	610	0	-	0	-	0	-	0	0	3	土製品はミニチュア2点(17.6g) 硝子 製品1点(4g) 土管1点(139g) 硝子 覆木漆器四文様の日置1枚(表方)	
SK296	8(3)	301	6(3)	33	9(3)	495	31	4979	1	18.2	0	-	0	-	0	1	675.4	0	土製品は人形・玩具類1点(18.2g) 土製品はミニチュア3点(17.9g)
SK297	14(3)	366	22(9)	6617	5(3)	639	23	2022	3	17.9	1	491.7	1	2.3	0	6	土製品はミニチュア3点(17.9g)		
SK298	22(11)	784	10(3)	452	12(4)	3033	35	3150	0	-	0	-	0	-	2	672.1	0	土製品はミニチュア3点(17.9g)	
SK299	20(10)	632	19(9)	520	4(3)	196	60	7557	2	30.2	1	18.4	(1)	2.2	3	458.3	3	土製品は人形・玩具類1点(18.1g) 土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK300	18(10)	1062	11(7)	1780	15(8)	2405	25	3519	0	-	0	-	1(1)	3.5	0	-	6	土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK301	18(9)	582	14(6)	714	21(10)	1200	111	9395	1	4.2	1	31.9	0	-	0	-	3	土製品はミニチュア1点(4.2g)	
SK302	12(9)	794	12(1)	174	4(1)	127	14	1386	0	-	0	-	0	-	0	-	0	土製品はミニチュア1点(4.2g)	
SK303	8(4)	174	4(1)	492	3(2)	170	7	1098	1	21.1	0	-	1	13.4	1	2.0	2	土製品は人形・玩具類1点(21.1g) 土製品はミニチュア1点(21.1g)	
SK304	0(0)	-	1(0)	3	0(0)	-	0	0	0	0	3	5.6	0	-	0	0	0	土製品は人形・玩具類1点(5.6g)	
SK305	12(6)	894	5(4)	1328	5(4)	95	7	1155	1	8.1	0	-	0	-	4	667.9	2	土製品は人形・玩具類1点(8.1g) 土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK306	1(1)	51	2(1)	136	0(0)	-	0	0	0	0	0	-	0	-	2	154.0	0	土製品は人形・玩具類1点(15.4g) 土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK309	27(12)	578	30(6)	215	5(4)	219	19	1130	0	-	1	8.7	0	-	0	-	4	土製品は人形・玩具類1点(8.7g) 土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK312	56(16)	874	42(9)	3548	21(11)	357	41	2907	0	-	4	22.7	1(1)	7.5	3	41.5	0	土製品は人形・玩具類1点(7.5g) 土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK313	4(4)	436	2(1)	83	0(0)	-	3	776	0	-	0	-	0	-	0	-	0	土製品は人形・玩具類1点(7.76g) 土製品はミニチュア2点(30.2g)	
SK314	52(25)	1061	34(8)	1411	24(7)	917	60	7460	1	35.9	0	-	(1)	2.4	0	-	1	土製品は人形・玩具類1点(35.9g) 硝子 種子多数(90.0g) 炭化木・木片(80.0g) 土製品は壁土1点(985.9g)	
SK316	31(12)	649	19(10)	1387	9(5)	1325	2497	31547	1	863.0	6	36.8	1	5.7	0	-	1	土製品は人形・玩具類1点(5.7g) 土製品は壁土1点(985.9g)	
SK316 東側	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	445	53120	0	-	0	-	0	-	0	-	0	0	土製品は人形・玩具類1点(44.5g) 土製品は壁土1点(985.9g)
SK318	10	810	26	810	26	810	29	2600	0	-	0	-	0	-	0	-	0	0	土製品は人形・玩具類1点(8.1g) 土製品は壁土1点(985.9g)
SK319	26(12)	670	25(9)	624	9(7)	741	1248	16434	1	379.0	0	-	0	-	1	46.9	0	土製品は壁土1点(379.0g)	
SK320	15(3)	174	14(9)	2884	3(3)	676	17	2999	0	-	0	-	0	-	1	195.8	0	土製品は壁土1点(379.0g)	
SK321	23	111	23	111	64	100	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	土製品は壁土1点(379.0g)	
SK322	10(6)	529	8(4)	313	3(1)	1503	20	1815	0	-	0	-	0	-	2	1988.4	0	土製品は壁土1点(379.0g)	
SK323	0(0)	-	4(2)	98	1(1)	182	5	928	0	-	0	-	0	-	0	-	7	目録1点(148.6g)	

建構	礎石		間壁		土留		瓦		土製品		鉄製品		銅製品		石製品		木製品		その他	
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量		
SK324	436(149)	19294	231(82)	10031	37(20)	4069	2730	293319	8	133.4	11	57.4	1(2)	13.2	2	131.6	120		種子多数 (30.02g) 杉目1点 (123.0g) 榎骨3点 (34.5g) 貝目1点 (17.7g) 土 製品はミニチュア3点 (27.8g) 人形・花 具類3点 (66.3g) 土器小皿1点 (14.7g) 文つば1点 (24.7g) 硝子製品1点 (6g)	
SK325	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK326	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK331	2(0)	20	5(2)	637	1(1)	15	1345	155533	1	800.0	0	-	0	-	8	2206.5	0		非陶磁資料に空白(変山形)13点 (2個体 分285g) 土製品は壺土1点 (800.0g)	
SK332	13(8)	68	11(2)	284	4(2)	284	10	1626	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK333	28(8)	706	27(5)	762	2(12)	498	163	12522	0	-	0	-	1(1)	12.5	2	149.0	10		非陶磁資料に砥石(波紋形)1点 (145g) 非陶磁資料に磨石(角筒石)1点 (195g)	
SK334	7(0)	38	4(1)	72	1(1)	85	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK335	35(8)	994	10(2)	476	1(1)	12	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK337	7(5)	322	5(2)	1665	2(1)	600	15	4686	1	8.0	7	10.2	1	7.9	0	-	0	-	硝子製品1点 (87g) 土製品はミニチュア7点 (8.0g)	
SK338	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK339	18(7)	474	19(6)	1421	1(1)	41	283	20941	2	12.4	0	-	0	-	6	2.3	1	9.0		非陶磁資料に砥石(砂形)1点 (9g) 種子7点 (8.26g) 土器小皿2点 (12.4g)
SK340	6(4)	151	8(3)	304	1(1)	11	421	47424	0	-	0	-	0	-	1	64.0	1		非陶磁資料に石筥(変山形)1点 (64g) 土管4点 (52g)	
SK341	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	99	7733	0	-	0	-	0	-	2	106.0	2		非陶磁資料に石版(板板形)2点 (106g) 硝子製品	
SK342	74(28)	2915	45(11)	2225	5(2)	377	68	7432	1	5.0	0	-	1	8.0	1	385.2	7		骨製品1点 (40.3g) 土製品はミニチュ ア7点 (55.0g) 硝子製品3点 (58g)	
SK343	7(1)	24	24(6)	731	8(3)	536	11	1546	0	-	5	63.9	0	-	0	-	6	-		
SK344	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK345	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK346	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
SK688	25(9)	582	13(5)	1169	11(2)	636	57	5800	1	632.3	2	33.8	0	-	0	-	1		土製品は鎌瓦1点 (653.2g) 磨瓦7点 (4271g)	
SK689	1(1)	9	4(1)	135	2(0)	65	365	39898	0	-	1	17.4	0	-	0	-	0	-		
SK690	12(4)	336	12(5)	2471	7(1)	933	21	3272	0	-	0	-	0	-	1	481.9	0		土管1点 (516g) 土管1点 (177g)	
SK691	7(2)	57	3(0)	18	2(1)	100	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
ET694(1)	3(1)	28	4(4)	231	0(0)	0	-	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
ET694(12)	1(1)	-	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
ET694(11)	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	0	-	1	638	0	-	0	-	0	-	0	-		
ET694(12)	4(1)	144	6(0)	0	0(0)	-	4	213	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
ET694(15)	1(1)	69	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
F765(11)	0(0)	-	0(0)	-	1(1)	9	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
F766(11)	1(1)	12	1(0)	62	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
F766(12)	0(0)	-	0(0)	283	2(1)	14	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
F766(14)	0(0)	37	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		
F766(11)	0(0)	-	0(0)	-	0(0)	-	1	514	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-		

濃精	磁器		陶器		土器		瓦		土製品		陶製品		銅製品		石製品		木製品		その他
	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	
E7jp/13	0(0)	21	0(0)	-	0(0)	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E7jp/14	0(0)	-	2(0)	36	0(0)	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S0(道路)	288(96)	6114	196(53)	7139	40(26)	2378	1661	139448	0	-	23	197.8	16(5)	59.2	1	17.4	1	1	買水通管に還元1枚・四文銭の11枚1枚あり
S0/5層	2(0)	2	3(0)	3	0(0)	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
S0/6・7層	35(4)	82	14(2)	67	3(1)	7	25	1079	0	-	0	0	0	0	0	1	7.7	0	
S0/8-10層	30(6)	155	58(6)	723	8(5)	67	82	5360	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	目録4点(7.3g)
S0/11-12層	24(4)	75	21(7)	462	8(5)	40	26	1403	0	-	0	0	0	0	0	1	5.1	0	目録4点(7.3g)
S0/13-14層	30(5)	191	41(4)	1031	19(8)	373	19	521	0	-	0	0	0	0	2	2.0	0	0	非陶磁資料に赤石(玉磨)2点(2g)
S0/14-19層	12(1)	74	20(4)	83	0(0)	-	2	31	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	種子2点(2.13g)
S0/19層	72(11)	419	318(67)	407	16(6)	172	4	1359	0	-	0	0	0	0	3	73.5	0	0	非陶磁資料に赤石(鏡紋)1点(49g)・赤石(角閃石・安山岩)7点(9g)
S0/19-22層	5(0)	7	6(0)	31	3(0)	17	1	6	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	種子1点(15.12g) 貝類27点(37.89g)
S0/23-24層	10(0)	15	47(4)	131	4(1)	34	1	9	0	-	0	0	0	0	1	6.5	0	0	非陶磁資料に赤石(角閃石・安山岩)1点(1.8g) 種子10点(32.31g)
S0/25層	20(1)	48	62(9)	352	4(3)	30	2	99	0	-	0	0	0	0	2	16.6	1	0	非陶磁資料に赤石(玉磨)1点
S0/26層	177(19)	611	415(64)	3783	66(0)	382	10	186	1	5	0	0	0	0	3	12.2	12	0	非陶磁資料に赤石(玉磨)7点(30.7g) 種子22点(48.0g) 貝類7点(30.7g)
S0/27層	72(8)	197	240(24)	1173	39(40)	203	1	27	0	-	0	0	0	0	6	49.2	0	0	非陶磁資料に赤石(角閃石・安山岩)1点 種子6点(7.00g) 貝類24点(22.0g)
道路総計	786(140)	7960	1431(246)	15435	290(65)	3703	1836	169528	0	-	23	197.8	16(8)	59.2	22	190.2	16	0	

第245表 遺構推定時期一覧表

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	型紙借給染付	刷取転写染付
SB1	9期			○	
SB2	9期		○	△	
SB3	9期	9期でも古い段階	△		
SB4	8期	SK129との重複関係から9期に降る可能性残る			
SB5	7期				
SB6	5期以前	6～7期に改修か			
SB7	7期以降				
SB8	6期	SB6の改修と同時期に構築ならば、本跡も7期に降る可能性もある			
SB9	-				
SB10	-				
桶1	8期			△	
桶3	9期		○		
桶5	8期	酸化コバルト染付磁器・型紙借給染付磁器ともに1片ずつ	△	△	
桶6	9期				
桶7	5期以降	陶磁器や少ない 主に7期に機能・廃絶と推定			
桶8	9期		○	△	
桶9	-				
桶10	9期	硝子片・土管あり			
桶11	7期以降				
桶12	8期以降	陶磁器少ない			
桶13	-	陶磁器極めて少ない			
桶14	-				
桶15	9期か	文久永寶1枚含む			
桶16	9期	陶磁器は少ない、硝子製品含む	○		
桶17	6～7期	桶18と並び同時期の可能性高い			
桶18	7期	桶17と並び同時期の可能性高い 7期廃絶と推定			
桶19	-				
桶20	8～9期	9期の古い段階までと推定			
桶21	7期以降	陶磁器極めて少ない			
桶22	7期以降				
桶23	9期				
桶45	9期		○	△	
桶46	9期		△		
桶47	8期か				
桶48	[9期か]	遺構重複関係から時期推定			
SE1	9期		○	○	○
SE2	9期		○	○	○
SE3	7期	火災関連遺構			
SE4	9期		○	○	○
SD1(竹桶1)	9期		○	○	○
SD2(竹桶2)	9期		○	○	△
SD4(竹桶3)	7～8期		△		
SD5	9期				
SD6	[8～9期]	陶磁器極めて少ない			
SD7	8～9期	栄桶8期～9期はじめ頃と推定 硝子製品1点含む、9期廃絶か			
SD8	[9期]	陶磁器極めて少ない			
SD15	8～9期	廃絶は9期	○	△	
SD16	7～8期			△	△
SD17	7～8期		△	△	△
SD18	7～8期			△	△
SD19	8期		△		△
SD20	7期以降				
(竹桶4)					
SD21	7～8期	陶磁器少ない			
SD22	-				
SD23	9期		○	○	○
SD24	9期		○		
SK1	9期	ゴム印版磁器坏 丸善インク硝子瓶 (○にMの刻印)	○	○	○
SK2	9期		○	○	○

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	型紙摺 絵染付	銅版転 写染付
SK3	9期	酸化コバルト染付の磁器類徳利含む	○		
SK4	9期	型紙摺絵染付磁器平碗・燗徳利	○	○	
SK5	9期	型紙摺絵染付磁器皿	○	○	
SK6	8～9期	陶磁器極めて少ない 地方窯系陶器柿輪盤			
SK7	9期	陶磁器極めて少ない 型紙摺絵染付平碗			△
SK8	9期	陶磁器少 型紙摺絵染付平碗			△
SK9	-	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器燗徳利			
SK10	9期	酸化コバルト染付の磁器環・急須・燗徳利	○		
SK11	9期	地方窯系陶器類一定量含む			
SK12	9期	多色の銅版転写染付磁器	○	○	○
SK14	9期	陶磁器少 酸化コバルト染付磁器杯	○		
SK16	9期	陶磁器極めて少ない 酸化コバルト染付磁器碗蓋	○		
SK17	9期	型紙摺絵染付平碗	○	○	
SK18	9期	酸化コバルト染付の磁器多い 型紙摺絵染付平碗あり	○	△	
SK19	-	陶磁器無し			
SK20	9期	陶磁器少 酸化コバルト染付の磁器端反碗・急須	○		
SK21	9期	酸化コバルト染付の磁器多い	○		
SK22	8期	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器詩文皿、湯呑形碗、陶器三彩土瓶			
SK23	9期	陶磁器極めて少ない 磁器皿型紙摺絵染付			△
SK24	9期	酸化コバルト染付の磁器急須・皿	○		
SK25	9期	酸化コバルト染付の磁器燗徳利	○		
SK26	9期	酸化コバルト染付の磁器燗徳利・酸化クロム青磁輪製品複数	○		
SK27	-	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器湯呑形碗・丸碗 薬種7忌以降			
SK28	-	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器片あり			
SK31	9期	型紙摺絵染付平碗	○	○	
SK32	-	陶磁器無し			
SK33	-	陶磁器無し			
SK34	-	陶磁器極めて少ない			
SK35	9期	陶磁器少 銅版転写染付磁器燗徳利1点 薬種9期ではあるが、詳細な時期絞れず。			△
SK36	9期	陶磁器極めて少ない 地方窯系陶器含む 瀬戸美濃系磁器の端反の環を含む 薬種9期のはじめ頃			
SK37	8～9期	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器湯呑形碗 頸部緑軸の陶器すず徳利			
SK38	8期	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器端反碗・京都信楽系陶器灯明皿・陶器青緑軸土瓶・吉見系陶器土瓶			
SK39	9期か	陶磁器少 陶器青緑軸土瓶 土管			
SK40	9期	酸化コバルト染付の磁器多い 型紙摺絵染付の磁器は細片のみ数片に留まる	○	△	
SK41	9期	型紙摺絵染付平碗・燗徳利含む	○	○	
SK42	-	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器湯呑形碗			
SK43	-	陶磁器無し			
SK44	9期		○		
SK45	9期	酸化コバルト染付の磁器環含む	○		
SK46	7期以降	陶磁器少 埴明石系陶器燗鉢の口縁部は小さく丸みある 19世紀中葉に近い時期			
SK47	7期以降	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器端反碗			
SK48	-	陶磁器少、細片多い			△
SK49	9期	酸化コバルト染付の磁器環・蓋など含む	○		
SK50	7～8期	瀬戸美濃系磁器湯呑形碗 薬種7期後半以降か			
SK51	9期	酸化コバルト染付の磁器植木鉢	△		
SK52	9期	薬種9期はじめ頃	○		
SK53	9期	酸化コバルト染付磁器環・急須 銅版転写染付磁器平碗	○		○
SK54	9期	酸化コバルト染付磁器多い 型紙摺絵染付の磁器が少量含まれる。	○	○	
SK55	9期		○	○	
SK56	9期	型紙摺絵染付の磁器皿含む	○	○	
SK57	-	陶磁器極めて少ない			
SK58	-	陶磁器無し			

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	銅版転写染付	銅版転写染付
SK62	9期	陶磁器様相は栗桶7期だが、SB4との関係から9期とする 煉瓦1点含む			
SK63	7期	陶器青緑釉土瓶 松岡系陶器土瓶含む 瀬戸美濃系磁器無			
SK64	7期以降	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器水漬あり			
SK65	9期	銅版転写染付の磁器坏あり	○		○
SK66	9期	型紙摺給染付の丸瓶・蓋あり	○	○	
SK67	9期	型紙刷給染付の磁器平碗が複数あり	○	○	
SK68	7期以降	松岡系陶器の土瓶あり			
SK69	-	陶磁器少 銅版転写染付磁器を含む 全体の遺物少なく詳細な時期不明			○
SK70	-	陶磁器極めて少ない			
SK71	-				
SK72	7期か	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器碗・松岡系陶器土瓶含む			
SK73	7期以降	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器丸瓶・溜反碗			
SK74	8期か	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器に、外面瑠璃釉単彩の湯呑形碗			
SK75	8期	陶器青緑釉土瓶・三彩土瓶 地方系陶器楕鉢			
SK77	7～8期	陶器三彩土瓶 松岡系陶器土瓶 瀬戸美濃系磁器細片あり			
SK78	8期	確実な酸化コバルト磁器は無し 赤絵で上給付された瀬戸美濃系磁器の碗蓋あり			
SK79	9期か	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器燗徳利・練瓦含む			
SK80	-	陶磁器無し			
SK81	-	陶磁器無し			
SK82	7期以降	肥前系磁器湯呑形碗			
SK83	9期	酸化コバルト染付磁器多い	○		
SK84	9期	陶磁器少ない 酸化コバルト染付磁器坏あり			
SK85	8～9期	明確な酸化コバルト染付磁器は無い 組成から栗桶9期のはじめ頃			
SK86	9期	酸化コバルト染付磁器坏・燗徳利	○		
SK87	9期	酸化コバルト染付磁器皿を1点含む 栗桶9期はじめか	△		
SK88	9期	陶磁器や少ない 酸化コバルト染付と多色の銅版転写染付磁器が各1点 詳細な時期絞り込めず	△		△
SK90	9期	酸化コバルト染付磁器の燗徳利と急須	○		
SK91	9期	陶磁器少ない 酸化コバルト染付磁器の坏	○		
SK92	9期か	陶磁器少ない 磁器燗徳利底部 陶器の白土染土瓶			
SK93	-	陶磁器無し			
SK94	9期	型紙摺給染付の磁器平碗数あり	○	○	
SK95	9期	多色の銅版転写染付磁器はみられない	○		○
SK96	9期	酸化コバルト染付磁器の溜反坏・平碗	○		
SK97	9期	第4号竹樋より新	○		○
SK98	9期	銅版転写染付磁器複数 第4号竹樋より新	○	○	○
SK99	9期	酸化コバルト染付磁器複数	○		
SK100	-	陶磁器極めて少ない			
SK101	7期	天保通寶1枚あり 火災関連土壇 本文参照			
SK102	7期	火災関連土壇 本文参照			
SK105	7期	火災関連土壇 本文参照			
SK106	7期	栗桶7期の被熱遺物主体だが、後世の混じりが多い	△	△	△
SK107	7期	火災関連土壇			
SK108	7期	火災関連土壇			
SK109	9期	陶磁器少ない 土管あり		○	
SK110	9期	酸化コバルト染付磁器多い	○		
SK111	9期	酸化コバルト染付磁器多い	○		
SK112	9期	酸化コバルト染付磁器一定量含むがSK110・111よりは少ない	○		
SK114	8期以降	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器含む 土器の様相から栗桶8期以降と推定			
SK116	-	陶磁器無し			
SK117	9期	多色の銅版転写染付磁器はみられない	○		○
SK118	-	陶磁器極めて少ない			
SK119	-	陶磁器極めて少ない			
SK120	9期	銅版転写染付磁器はやや少量 手抜き成型の練瓦あり	○	○	○
SK121	7期	栗桶7期の被熱遺物主体だが、後世の混じりがある			
SK122	9期		○	○	
SK124	-	陶磁器無し			
SK125	7期	松岡系陶器の土瓶(絞肌軸)あり			
SK126	8期	明確な酸化コバルト染付の磁器は含まれない 瀬戸美濃系磁器の小型丸碗で赤絵を施すものあり 三河産磁器あり 栗桶9期はじめに降る可能性あり			

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	型紙摺 絵染付	銅版転 写染付
SK127	9期	陶磁器やや少ない 酸化コバルト磁器平陶含む	△		
SK128	7～8期	陶磁器少ない 築橋7期の火災被熱遺物を少し含む			
SK129	9期	酸化コバルト染付の磁器急須含む	○		
SK130	-	陶磁器無し			
SK131	9期	酸化コバルト染付の磁器を少量含む 築橋9期の古い段階か	○		
SK132	9期	陶磁器少ない 酸化コバルト染付の磁器坏を含む	○		
SK134	9期	型紙摺絵染付の丸碗・猪口含む		○	
SK135 136 137	9期		○		○
SK136	-	陶磁器少ない 陶器青緑軸土瓶含む			
SK137	-	陶磁器無し			
SK138	9期	型紙摺絵染付の磁器が多い	○	○	○
SK139	9期	多色の銅版転写染付磁器を含む	○	○	○
SK140	9期	多色の銅版転写染付磁器を含む	○	○	○
SK141	9期	上下層で時期差か 詳細は本文参照	○		○
SK142	9期	多色の銅版転写染付磁器を含む	○	○	○
SK143	7～8期	陶磁器少ない 陶器三彩土瓶			
SK144	7～8期	松岡系陶器土瓶 ただしSK145との重複関係と整合性とれず			
SK145	9期	型紙摺絵染付の磁器1点は混入	○	△	
SK146	9期	陶磁器はやや少ない	○		○
SK147	9期	銅版転写染付皿1片あり			△
SK148	9期	銅版転写染付の磁器は細片2片 酸化コバルト染付の磁器は無い 陶器焼酎壺・萬古系陶器急須から築橋9期の古い段階か			△
SK149	9期	型紙摺絵染付の磁器丸碗含む		○	
SK150	9期	型紙摺絵染付の磁器は微量	○	△	
SK151	9期	陶磁器極めて少ない 萬古系陶器急須			
SK152	9期	硝子製品			
SK153	7期	陶器三彩土瓶 築橋7期後半頃			
SK154	-	陶磁器無し			
SK155	-	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器端反碗1片のみ			
SK156	-	陶磁器やや少ない 型紙摺絵染付の磁器蓋物や硝子があるが、陶磁器の主体は19世紀中まで		△	
SK157	9期	硝子あり			
SK158	-	陶磁器少ない			
SK159	9期	酸化コバルト染付の磁器含むが、少量	○		
SK160	-	陶磁器極めて少ない			
SK161	-	陶磁器極めて少ない 陶器土瓶に糠白軸のものがあり、8期以降か			
SK162	9期	酸化コバルト染付の磁器急須含む	○		
SK163	8期	陶磁器少 瀬戸美濃系磁器の小型の端反碗 築橋9期はじめの可能性もあり			
SK164	9期	銅版転写染付の磁器多い	○	○	○
SK165	8期	銅版転写染付の磁器欄徳利片・硝子製品各1点は混在 瀬戸美濃系磁器型成形の皿・端反碗・青緑軸土瓶			△
SK166	9期	口縁部に緑色二重彫線の入る国民食器含む	○	○	○
SK167	9期	ゴム印版磁器(統制陶器)・磁器洋食器含む	○	○	○
SK168	-	陶磁器極めて少ない			
SK169	9期	ゴム印版磁器蓋等含む 多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○
SK170	8期～9期	明確な酸化コバルト染付の磁器無 築橋9期はじめ頃			
SK171	7～8期	陶器に糠白軸土瓶含む			
SK172	9期	多色の銅版転写染付磁器あり			○
SK173	9期	硝子あり			○
SK174	9期	陶磁器少ない 代用陶器釜(施軸土器)含む			○
SK175	9期	「東洋軒製」磁器		○	○
SK176	-	陶磁器無し			
SK177	8期	磁器端反碗が多く、湯呑形碗も含む 磁器急須・陶器行平含む			
SK178	9期	ゴム印版の磁器、多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○
SK179	9期	ゴム印版の磁器・多色の銅版転写染付磁器あり 統制陶器・「東洋軒作」銘磁器含む	○	○	○
SK181	9期	代用陶器土器釜(施軸土器) SK179に時期近い	○	○	○
SK182	9期	多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○
SK183	9期	日露戦記念杯あり 磁器に染付で描かれた硬化に「明治卅年」銘 機械成形瓦 多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○
SK184	9期	酸化コバルト染付の磁器は少ない 磁器湯呑形碗が多い 築橋9期でも古い段階か	○		

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	型紙摺輪染付	銅版転写染付
SK185	9期	多色の銅版転写染付磁器あり			
SK186	9期	多色の銅版転写染付磁器あり 桐一銭銅貨(大正七年)	○		○
SK187	9期	ゴム印版の磁器含む			○
SK188	9期	多色の銅版転写染付磁器あり		○	
SK189	9期	銅版転写染付の磁器平碗が多い ゴム印版染付の磁器碗、緑色軸の単色軸碗含む スクリーン転写絵付けの磁器含む	○		○
SK190	9期	多色の銅版転写染付磁器あり			○
SK192	9期	酸化コバルト染付の磁器を含む	○		
SK193	-	陶磁器は少ない			
SK194	-	陶磁器無し			
SK195	-	陶磁器やや少ない 中国清朝磁器端反碗含む 栗橋7期以降			
SK196	9期	子ども茶碗含む	○	○	○
SK197	9期	陶磁器少ない 吉見系陶器土瓶・酸化コバルト染付の磁器含む			
SK198	9期	陶磁器少ない 型紙摺輪染付の磁器皿含む	○	○	
SK199	9期	酸化コバルト染付の磁器の燻徳利少量含む 栗橋9期でも古い段階	△		
SK200	8期	陶器に鎌白軸土瓶含むほか、青緑軸土瓶、トビガン土瓶のわずかな徳利あり。瀬戸美濃系磁器端反碗含む			
SK201	9期か	銅版転写染付の磁器皿は1点のみ	○		△
SK202	9期	ゴム印版の磁器含む	○	○	
SK203	9期	多色の銅版転写染付磁器あり			○
SK204	9期		○		
SK205	-	陶磁器少ない 銅版転写染付の磁器丸碗1点含む			○
SK206	8期か	銅版転写染付磁器数片は混在か それ以外に磁器湯呑形碗、木型打込施文の皿、京都信楽系陶器灯火具あり			△
SK207	-	肥前系磁器小広東碗・京都信楽系陶器小杉碗含む			
SK208	9期	多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○
SK209	9期	多色の銅版転写染付磁器あり			○
SK210	9期	ゴム印版の磁器平碗含む	○	○	
SK211	8期	磁器湯呑形碗多い(幅広高台含む)			
SK212	7期以降	陶器青緑軸土瓶・産地不詳陶器柿輪徳利			
SK213	-	陶磁器極めて少ない 栗橋7期後半から8期頃か			
SK214	7～8期	銅版転写染付磁器平碗と酸化クロム青緑軸磁器蓮華が各1点あるが混入 磁器湯呑形碗含む			△
SK216	9期	酸化コバルト染付は燻徳利2片のみ 栗橋9期の古い段階と思われる	△		
SK217	9期	ゴム印版磁器碗・杯複数 代用陶器			○
SK218	-	陶磁器極めて少ない			
SK219	-	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器端反の杯があり、栗橋8～9期の可能性			
SK220	-	陶磁器無し			
SK221	-	陶磁器無し			
SK222	9期か	陶磁器極めて少ない 土管あり			
SK223	9期	陶磁器少 銅版転写染付の磁器複数あり			○
SK224	9期	ゴム印版の磁器 単色軸の磁器碗あり	○	○	
SK226	8期	瀬戸美濃系磁器湯呑形碗が多い 少数栗橋9期の遺物が混在	△	△	△
SK227	9期	銅版転写染付の磁器平碗			
SK229	9期	磁器単色軸碗破片あり 多色の銅版転写染付磁器あり 桐一銭銅貨(昭和八年)	○	○	○
SK230	9期	ゴム印版の磁器・絨刺番穿・単色軸の磁器碗あり	○	○	○
SK231	9期	陶磁器極めて少ない 茶色の土絵付け・緑色の軸下彩を行う磁器燻徳利			
SK232	9期		○		○
SK235	9期	ゴム印版の磁器複数あり ただし下層は被熱した19世紀前葉の遺物多く、概ね栗橋7・8期	○	○	○
SK238	9期	ゴム印版の磁器燻徳利 多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○
SK239	9期		○	○	○
SK240	-	陶磁器無し			
SK243	-	陶磁器極めて少ない			
SK244	9期		○		
SK245	8期	やや少 磁器湯呑形碗あり			
SK246	9期	握り込み手の陶器急須 地方系系陶器鉢			
SK247	9期				
SK248	9期		○	○	○
SK249	9期	型紙摺輪染付の磁器平碗含む	○	○	○
SK250	9期	地方系系陶器急須			
SK251	9期	銅版転写染付の磁器平碗1点は混在か	○		△
SK252	9期	ゴム印版の磁器杯 多色の銅版転写染付磁器あり	○	○	○

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	型紙摺 検査付	銅版転写 保存付
SK253	9期	ゴム印版の磁器坯 多色の銅版転写染付磁器あり 「東洋軒平八」銘磁器碗	○		○
SK255	8期	木型打込施文の端反碗・書文皿			
SK257	9期	酸化コバルト染付の磁器坯あり 全体的には薬種8期の様相で、薬種9期の古い段階か	△		
SK259	-	陶磁器無し			
SK260	9期	ただし、第2次調査で追加調査した下層はより古手の遺物多い印象で、上層・下層別遺構か		○	○
SK261	-	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系陶器種茶碗含む			
SK262	6～7期か	京都信楽系陶器土板片は混入か			
SK263	8期か	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器の坯・端反碗 陶器土板底			
SK264	8期～9期	瀬戸美濃系磁器書文皿・燗徳利 陶器土板各種・トビガンナ施文の陶器行平など 陶磁器様相は薬種8期だが、鉛面子から薬種9期ははじめ頃と思われる			
SK265	8期以降	陶磁器少ない 内面上絵付けの卵殻手酒杯 内面木型打込施文の磁器坯			
SK266	7期以降	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器端反碗あり			
SK268	9期		○	○	○
SK269	-	陶磁器無し			
SK270	7期	陶器土板に反軸+イッチン描き絵付けのものあり 他に、磁器湯呑形碗・陶器鉄軸土板・京都信楽系陶器脚付灯火具・燗徳利 薬種7期後半頃と思われる			
SK271	-	陶磁器無し			
SK272	9期	瀬戸美濃系磁器に木型打込施文の端反碗・書文皿 陶磁器様相は8期だが、硝子製品あり 又久水貫1枚あり 9期ははじめ頃と推定			
SK273	-	陶磁器少ない 灰軸イッチン絵付けの陶器大型急須あり 薬種9期頃か			
SK274	9期		○	○	○
SK275	-	陶磁器無し			
SK276	-	陶磁器極めて少ない			
SK277	7期	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器端反碗・卵殻手酒杯・端反の坯			
SK278	7期以降	陶磁器極めて少ない 肥前系磁器志田家系皿			
SK276_277_278	7～8期	陶磁器やや少ない 肥前系磁器志田家系皿・松岡系陶器土板・陶器の白土染付土板			
SK279	-	陶磁器極めて少ない 地方窯系陶器破片群 薬種8期以降か			
SK280	9期	陶磁器やや少ない 酸化コバルト染付の磁器蓋物などあり	○		
SK281	9期	陶磁器少ない	○	○	
SK282	9期か				△
SK284	-	陶磁器少ない			
SK285	-	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器湯呑形碗2片			
SK286	8期	瀬戸美濃系磁器燗徳利・陶器土板各種・鉄軸行平 木型打込の磁器は無し 三河系の火鉢			
SK287	8～9期	瀬戸美濃系磁器に木型打込施文の湯呑形碗 ただし硝子製品・土管各1あり、薬種9期に降る可能性高い			
SK289	7～8期	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器端反碗・湯呑形碗		△	△
SK290	9期か	備前系陶器類似の土板片 薬種9期ははじめ頃か			
SK291	-	陶磁器無し			
SK292	-	陶磁器無し			
SK293	7期	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器端反碗・陶器青緑軸土板・松岡系陶器土板含む 土器 壺罍 薬種7期後半頃か			
SK294	7～8期	陶磁器少ない 土器培養の様相から19世紀代			
SK295	7～8期	瀬戸美濃系磁器燗徳利・陶器白軸土板（大塚相馬系か） 薬種7期後半以降か			
SK296	7期	瀬戸美濃系磁器端反碗・陶器土板蓋			
SK297	7期	妙唐草文染付の磁器御神酒徳利、広東碗、松岡系陶器土板・瓦質土器植木鉢 薬種7期後半頃か 酸化コバルト染付の磁器平碗は混在	△		
SK298	-	酸化コバルト染付の磁器燗徳利は重複遺構からの混在か 他に肥前系磁器広東碗・京都信楽系陶器透明軸端反碗	△		
SK299	9期	遺物様相にまじりなく、混在多いか		○	○
SK300	8期	瀬戸美濃系磁器端反碗多い 木型打込施文の磁器あり 大振りで染付丁寧瀬戸美濃系磁器燗徳利あり			
SK301	7期	瀬戸美濃系磁器端反碗			
SK302	7期	陶器青緑軸土板			
SK303	7期	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器の端反杯・陶器土板			
SK304	9期か	陶磁器極めて少ない 産地不詳陶器急須破片のみ			
SK305	5～6期	肥前系磁器広東碗			
SK306	7～8期	陶磁器極めて少ない 瀬戸美濃系磁器湯呑形碗・陶器白軸土板（大塚相馬系陶器か）			
SK309	8期	瀬戸美濃系磁器湯呑形碗複数あり 瀬戸美濃系磁器型成形皿・陶器土板各種			

遺構名	時期	備考	酸化コバルト染付	型紙摺輪染付	銅版転写染付
SK312	7期	瀬戸美濃系磁器碗反碗が多いが、湯呑形碗無し 陶器土瓶各種あり			
SK313	9期	陶磁器やや少 銅版転写染付の磁器長筒丸腰湯呑			○
SK314	9期	銅版転写染付の磁器は少なく、型紙摺輪染付の磁器は無い	○		△
SK316	9期	磁器に緑色の卑色輪筋の蓋あり	○		○
SK318	7～8期	陶磁器少ない 瀬戸美濃系磁器碗反碗 陶器土瓶破片複数			
SK319	7期	瀬戸美濃系磁器広東碗・柳殻手酒杯・京都信楽系陶器燗徳利			
SK320	7期	陶磁器やや少 瀬戸美濃系磁器碗反碗・陶器伏軸土瓶			
SK321	7～8期	瀬戸美濃系磁器碗反碗 陶器青緑軸土瓶・三彩土瓶			
SK322	7期	陶磁器やや少ない 瀬戸美濃系磁器碗反碗 全体的には18世紀の陶磁器主体			
SK323	7～8期	陶磁器極少ない 松岡系陶器土瓶 土器甕罍			
SK324	8～9期	瀬戸美濃系磁器碗に木型打込施文のものあり 青ヒビ軸の陶器土瓶あり 酸化コバルト染付の磁器杯は混在の可能性もある 時っても栗桶9期の古い段階	△		
SK325	-	陶磁器無し			
SK326	-	陶磁器無し			
SK331	-	陶磁器極めて少ない 火災処理土壌 栗桶7期の火災に伴うものか			
SK332	-	陶磁器極めて少ない			
SK333	9期		○		
SK334	-	陶磁器やや少ない 全体的には18世紀のもの主体			
SK335	-	肥前系磁器筒型碗・小丸碗 18世紀に遡る可能性			
SK336	9期	酸化コバルト染付の磁器平碗・丸碗・杯・土瓶	○		
SK337	7～8期	陶磁器やや少ない 陶器に糠白軸の土瓶(大塚相馬系か)あり			
SK338	-	陶磁器無し			
SK339	7期	瀬戸美濃系磁器碗反碗			
SK340	7期	陶磁器やや少ない 瀬戸美濃系磁器碗反碗・端反杯・陶器灰軸土瓶 土管1点は混在か			
SK341	9期か	陶磁器無し 石板・硝子製品から栗桶9期か			
SK342	9期	酸化コバルト染付の磁器丸碗・杯・燗徳利・土瓶	○		
SK343	7～8期	瀬戸美濃系磁器湯呑形碗・燗徳利			
SK344	-	陶磁器無し			
SK345	-	陶磁器無し			
SK346	-	陶磁器無し			
SK688	9期	手抜き成型棟瓦複数	○	○	
SK689	9期	産地不詳陶器急須・蓋・衛生陶器			
SK690	9期か	陶磁器少ない 酸化コバルト染付の磁器土瓶あり。他の陶磁器は栗桶7期頃の様相	△		
道路跡	2期以降	本文参照			

第246表 出土陶磁器組成表

産地 産別	肥前高松器											JB3 不明	JB5 不明											
	船載磁器			JB1										JB2										
	JAI	JA2	JA3	f	k	j	l	m	n	o	q			v	不明	c	k	i	j	o	q	不明	多角器	その他・不明
種類	底面粗粒瓦	底面粗粒瓦	底面粗粒瓦	手裏面粗粒	手裏面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	
種類	底面粗粒瓦	底面粗粒瓦	底面粗粒瓦	手裏面粗粒	手裏面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	
SK101				1	2	0	1	1	2	0	1	0	1	0	2							1	1	
SK102				7	18	0	2	1	4	0	1	0	1	0	1							0	1	
SK106				1	2	0	2	0	1	0	1	0	1	1	1							1	1	
SK107				0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1							0	1	
SK105	20	42	1	9	1	2	3		1	1	1	1	1	1	42	130	23	46	49	102	8	32	0	3
SK121	1	1	1	1	1	0	2		1	1	0	2	0	1	14	68	1	1	3	5		4	10	
小計	21	43	1	10	1	11	25	0	2	0	4	0	2	2	2	42	144	92	47	51	110	11	37	1

産地 産別	瀬戸美濃滑石磁器														JB-不明											
	JB5		JB6		JB7		JB8		JB9		JB10		JB11			JB12		JB13		JB18		JB21		JB00		
	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
種類	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	
SK101	0	1	3	7	2	2					1	2	0	1												
SK102				1	1						1	3	0	2												
SK106				1	1	1	1	2	8	0	1	0	6	1	5	0	1	2	2	2	2	2	3	2	2	0
SK107	0	1									0	4	1	14												
SK105	5	17	2	2							10	25	2	2												
SK121	3	3									0	2														
小計	8	22	5	9	1	3	3	11	28	2	2	8	0	1	3	11	3	20	4	35	0	1	1	1	1	1

産地 産別	瀬戸美濃滑石磁器															JC-不明									
	JC1			JC2			JC4			JC5			JC6				JC00								
	f	不明	f	不明	f	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		不明	不明	不明						
種類	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒	底面粗粒
SK101	3	9	2	4																					
SK102	0	1	1	3																					
SK106	1	5	0	1	0	1	2	2	1	1	3														
SK107	1	1																							
SK105	6	25	11	24																					
SK121	1	5	1	6																					
小計	12	46	15	38	0	1	2	2	2	0	1	0	1	1	3	0	2	1	2	1	1	1	1	1	1

瀬戸島系石階段

産地	三田系階段	産地不明階段			肥前系階段			瀬戸島系石階段																	
		JZ5	JZ1	JZ	TB1	TB5	TC1	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	TC2	
種別	三田	三田	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
特徴	三田	三田	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
小計	0	1	1	6	0	1	0	1	0	2	0	1	1	1	2	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1

産地	瀬戸島系階段	京都信楽系階段			肥前系階段			高古系階段			丹波系階段			神明石系階段			空閑石系階段			産地不明階段				
		TC10	TC11	TC12	TC13	TC14	TC15	TC16	TC17	TC18	TC19	TC20	TC21	TC22	TC23	TC24	TC25	TC26	TC27	TC28	TC29	TC30		
種別	瀬戸島系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段
特徴	瀬戸島系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段	肥前系階段
小計	2	3	0	1	0	1	0	2	0	1	1	2	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1

産地	肥前系階段	産地不明階段			土器																				
		TZ9	TZ10	TZ11	TZ12	TZ13	TZ14	TZ15	TZ16	TZ17	TZ18	TZ19	TZ20	TZ21	TZ22	TZ23	TZ24								
種別	肥前系階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段
特徴	肥前系階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段	産地不明階段
小計	1	1	0	1	0	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

南無	土器									
	IV43	DZ47	DZ48	DZ60	DZ不明	分類統計		備考		
種別	a	b	瓦質	三河	c	e	h	底面破片	破片	
和名	土器	器蓋	器蓋	器蓋	三河式 鉢口	三河式 鉢口	三河式 鉢口	底面破片	破片	
SK101	0	1	4	20				39	159	
SK102	1	3			0	1		32	80	
SK106		2	2	0	1			36	122	
SK107						1	1	1	13	71
SK105	3	4						258	636	
SK121	0	1	8	27	2	2	0	1	108	126
分計	0	2	16	51	4	4	0	2	486	1184

第246表 凡例：

- ・主要遺構から出土した陶器について、器種判別が可能な遺物についてカウントした。各欄上段に器種・細別を記す。細別左側欄に底部破片数(蓋は頂部破片数)・細別右側欄に破片数を記す。器種が判別できなかった細片等は表中の数値に含まれていないものがある。
- ・器種・細別は東京大学構内遺跡群の分類・記号(東京大学埋蔵文化財調査室『年報2』1999、『年報7』2011)を用いた。地方窯と考えられる陶器・土器は、TZ・DZとし、対応する器種番号を付した。
- ・上記の分類に無い器種の内容は以下の通りである。

肥前系磁器 J B2の「多角皿」は、平面形が多角形の皿(第288図25・第541図166・561図24等)とした。なお、酸化コバルト染付・型紙絵染付・細紋転写染付・酸化クロム青磁の製品については、JZ+器種番号に加えて「三田」と表記した。

瀬戸系瀬戸陶器 T C2「起の目高台」は、低い壁の目状高台を有す灰釉大皿ない鉢(第114図17・第499図92等)とした。笠間系子承陶器 T M29のうち、胎土色調と白化粧の有無で笠間系と判断される場合は、「笠間」を付した。産地不詳の陶器 T Z10「長頸壺」は、東日本の地方窯で生産されたと推定される、鶴首形の頸部を有す徳利とした。いわゆる「すず徳利」とその類の器種である。

土器火鉢 D Z31「石付」としたものは幅高石状の高い台を有し、江戸地域には稀(第362図182・183・第365図228等)。土器焙烙 D Z47-bは主に北武蔵地域に分布する「瓦質」の製品と、常総地域に分布し炭母が多い「土師質」の製品に分別して記載した。土器埴師 D Z48の「三河」としたものは、多量の金雲母を含む明るい橙色の色調を有すもので、三河産土器と考えられるものである。

V 自然科学分析

栗橋宿跡から検出された遺構・遺物の性格を検討するため各種の自然科学分析を実施した。

遺跡の年代決定に重要な火山灰分析について三箇所のサンプル分析を行った。栗橋宿跡では、年代決定の定点となる浅間A火山灰の検出が重視され、今回の分析でも二箇所のサンプルから浅間A火山灰が同定されたが、第50号土壌については、遺物の年代視と価値が生じている。

栗橋宿跡では各所で埋設桶が検出されており、その性格推定のために、分析を実施してきた。その結果、一般に考えられる便槽としての用途が特定された例は極めて限られ、埋設桶の多様な性格を考慮する必要がある。本調査区でも第1・3・

5号埋設桶の土壌分析を行った。第1号埋設桶は、調査所見では便槽の可能性があったが、分析結果はそれを積極的に指示するものでは無かった。

樹種同定は、近世における木製品の用材を検討する上で欠かせないが、栗橋宿跡の事例は、江戸地域などとの比較を行う上でも重要と考えられる。今回は、建物跡及び地境溝の使用木材を中心に樹種同定を行い、各々の用材が異なっている点を確認できた。なお、堆積物微細構造X線分析、砂粒組成分析・粒度分析及び第二面遺構に関する諸分析も実施しているが、次年度以降に報告を行う予定である。

1 火山灰分析

(1) 試料

調査区北西部の1地点断面(第5図 SK107周辺模式図)では、第一面検出面から深さ約90cmまでの堆積層と下層の土壌断面が確認されている。検出面直下に厚さ6cmほどの灰褐色砂質シルト層が堆積し、その下位には厚さ3cmほどの中粒～細粒砂の薄層を経て、厚さ13cmの灰褐色シルト質砂層が堆積し、さらに下位に褐色砂質シルト層が堆積する。土壌は、検出面から深度44cmほどの褐色砂質シルト層から検出されており、深さ約46cmである。土壌の側壁を構成する褐色砂質シルト層からは、土壌の上面から深さ約24cmの層位に厚さ4cmほどの粗粒砂の薄層が認められる。土

坑内は、最大径約2mmの白色軽石を主体とするテフラにより一様に埋められている。なお、この土壌は検出面及び調査区壁の法面の関係から第二面調査では検出できていない。

試料は、土壌内のテフラ堆積物の上部、中部、下部および、土壌側壁の粗粒砂薄層から各1点の計4点を採取し、順に試料番号1～4とする。

第50号土壌(2地点)は調査区南西部で検出された。南西隅の土坑底面に三角堆積をなす軽石質テフラの堆積物が確認された。軽石は最大径2mmほどの白色軽石である。堆積物の厚さは、最も厚いところで約10cmである。試料は、テフラ堆積物の中程から1点採取した。試料番号1とする。

第247表 テフラ分析結果

試料名	火山ガラス		軽石			
	量	色	量	色調・集中度	最大径	最大径
1地点:13	—	—	+++	W, g(opal), W, ng(opal)	2.0	
第50号土壌:1	—	—	+++	W, g(opal), W, ng(opal)	2.0	
4地点:12	—	—	+	G(R) + sb(opal)	1.5	
			+	W + b(fog) + hol	1.8	

1) —:含まれない、(+):きわめて微量、+:微量、+++:少量、+++ :中量、++++ :多量。
2) G: 褐色、R: 褐色、G(R): 灰褐色、W: 白色。
3) op: 良好、ng: 中等良好、sb: 中等不良、b: 不良、最大径は2mm。
4) opal: 新方解石混在含有、hol: 角閃石混在含有。

第248表 重軽鉱物分析結果

試料名	石英	珪石	重晶石	雲母	輝石	角閃石	斜方晶	他	重軽鉱物		合計							
									重量%	体積%								
1地点:13	0	199	31	0	0	0	20	0	0	250	0	160	2	176	11	250		
第50号土壌:1	0	189	39	0	0	0	22	0	0	250	0	62	6	168	12	250		
4地点:12	0	121	38	6	0	1	1	78	0	5	250	0	1	3	23	85	140	250

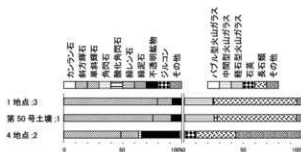
調査区西壁の南西隅付近で設定された4地点断面では、検出面から深度約80cmまでの堆積層が確認された。検出面直下の堆積層は、厚さ約17cmの暗灰色砂質シルト層であり、その下位に炭層と粗粒〜中粒砂層の薄層が堆積する。炭層と砂層は合わせて厚さ2cmほどであるが、上部が炭層、下部が砂層となっている。その下位は断面下底まで暗褐色の砂質シルト層である。この砂質シルト層中には、材片や礫などが比較的多く含まれる。試料は、炭層直下の砂の薄層と炭層上位の砂質シルト層および砂層下位の砂質シルト層からそれぞれ1点ずつ計3点を採取した。試料番号は、上位より試料番号1〜3とした。

以上うち、1地点の試料番号3、第50号土壌の試料番号1、4地点の試料番号2の計3点について、テフラの検出同定、重軽鉱物分析を実施する。試料採取位置は第6図に示す。

(2) 分析方法

テフラの検出同定 試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

重軽鉱物分析 試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に



第 603 図 重軽鉱物組成

調整)により重液分離、重鉱物と軽鉱物をそれぞれ偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラスは、便宜上軽鉱物組成に入れる。火山ガラスの形態分類は、上述したテフラの検出同定と同様である。なお、軽鉱物組成における「その他」も、変質等で同定の不可能な粒子とする。

(3) 結果

テフラの検出同定 結果を第247表に示す。1地点の試料番号3と第50号土壌の試料番号1からは多量の軽石が検出された。軽石の最大径は約2.0mm、白色を呈し、発泡が良好のものとやや良好なものも混在し、斜方輝石の斑晶を包有する。軽石以外の砂分は、新鮮な斜長石の鉱物片と斜方輝石および単斜輝石の鉱物片とで構成され、微量の岩石片を伴う。4地点の試料番号2からは、微量の軽石が認められた。軽石は、色調と発泡度および包有する斑晶鉱物の異なる二種類の軽石が混在する。うち一つは最大径約1.5mm、灰褐色を呈し、発泡はやや不良で斜方輝石の斑晶を包有し、他方は最大径約1.8mm、白色を呈し、発泡は不良、角閃石および不透明鉱物の斑晶を包有する。なお、本試料の砂分は、斜長石の鉱物片や堆積岩類や凝灰岩などの種々の岩石片から構成されるが、中には灰黒色で角礫状の新鮮な火山岩片も微量認めら

れた。

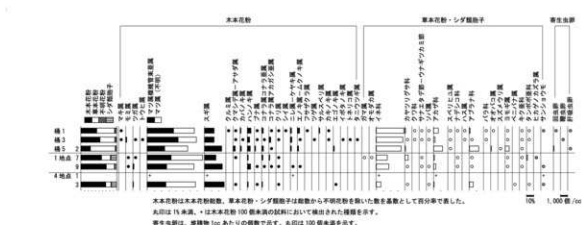
重軽鉱物組成 結果を第603図・写真図版300に示す。1地点の試料番号3と第50号土壌の試料番号1の重軽鉱物組成は、ほぼ同様である。重鉱物組成は、斜方輝石が多く、70～80%程度を占め、他に少量の単斜輝石と不透明鉱物を伴い、これら以外の重鉱物は認められない。軽鉱物組成では、長石類が70%ほどを占め、25%程度の軽石型火山ガラスを伴い、極めて微量の石英も含まれる。長石類のほとんどは新鮮な斜長石である。

4地点の試料番号2は、重鉱物組成および軽鉱物組成ともに上記の試料とは異なる。重鉱物組成は、斜方輝石が50%程度で最も多く、次いで不透明鉱物が30%程度で多く、15%程度の単斜輝石と微量の角閃石を含む。軽鉱物組成では、「その他」として風化変質粒が多く、それを除くと30%程度の長石類と10%ほどの石英および極めて微量の軽石型火山ガラスが含まれる。

以上より、1地点の試料番号3と第50号土壌の試料番号1は、多量の軽石とテフラの遊離結晶と考えられる斜長石と両輝石により構成されることから、軽石質テフラの降下堆積物であると考えられる。テフラは、両輝石からなる重鉱物組成と軽石の特徴および採取層位から、天明3年(1783年)に浅間山より噴出した浅間A軽石(As-A;新井, 1979)に同定される。1地点における土層断

面の状況からは、土壌の開口時にAs-Aの降下堆積のあったことが推定される。また第50号土壌では、遺構内に降下したAs-Aの堆積物が残存したものと考えられるが、遺物年代との乖離が大きく問題が残る(342頁参照)。

4地点の試料番号2に微量含まれる二種類の軽石のうち、灰褐色で斜方輝石の斑晶を包有する軽石は、その特徴から、天仁元年(1108年)に浅間山より噴出した浅間Bテフラ(As-B;新井, 1979)由来と考えられる。同試料の砂分中に認められた角礫状の安山岩片は、As-Bに含まれる本質物質である可能性がある。一方、白色で角閃石の斑晶を包有する軽石は、榛名火山から噴出したテフラである榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)または榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)(新井, 1979; 早田, 1989; 町田・新井, 2003)のいずれかに由来すると考えられる。Hr-FAは5世紀末から6世紀第一四半期ぐらいまで(坂口, 1993; 中村ほか, 2008)、Hr-FPは6世紀第二四半期頃(坂口, 1993)にそれぞれ噴出したとされている。いずれにしても、4地点の試料番号2を採取した砂層は、軽石を微量しか含まずに、かつ噴出年代の異なるテフラが混在していることから、テフラの降下堆積物ではなく、テフラの降下堆積後に再堆積した砂層であると考えられる。その堆積年代は、As-Bの噴出年代以降As-Aの噴出前までのある時期ということになる。



第604図 花粉化石群集・寄生虫卵

2 花粉分析・寄生虫卵分析

(1) 試料

第1・3号埋設桶の試料は、すでに採取されたサンプルを用いた。試料の室内観察では、第1号埋設桶は暗灰色を呈する砂混じり粘土質シルト、第3号埋設桶は、褐色を呈する砂質シルトからなり、灰白色のシルトブロックを含むものであった。第5号埋設桶(3地点)では、現地で直接試料採取を実施した。直径約80cmの円柱状の埋設桶で、覆土は深さ約41cm、大きく4層に分層される。最上層は厚さ約11cmの灰色シルトからなり、木材片を含む。その下は層厚約9cmの灰色粘土からなり、木材片や急須などの陶器片を含む。その下は層厚約12cmの灰色シルトからなり、木材片や陶器片などを含む。最下層は層厚約9cmの砂混じりシルトからなり、木材片や陶器片などを含む。分析試料は、最下層より試料番号2、その上の層より試料番号1を採取した。加えて、火山灰分析で試料採取した1地点および4地点の試料についても比較対象に分析した。分析内容は、第5号埋設桶の試料番号2、1地点の試料番号7・9、4地点の試料番号1・3の計5点について花粉分析、第1・3号埋設桶、第5号埋設桶の試料番号2の計3点について寄生虫卵分析を実施する。

分析方法 花粉分析は、試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。寄生虫卵分析は、試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、花粉・胞子および寄生虫卵を分離・濃集する。

処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍

第249表 花粉・寄生虫卵分析結果

種 属	埋 設 桶							4 地 点	
	埋 設 桶 1	埋 設 桶 2	埋 設 桶 3	埋 設 桶 4	埋 設 桶 5	埋 設 桶 9	埋 設 桶 1	埋 設 桶 3	
本本花粉	1	1	-	-	-	-	-	-	
ワタ科	-	-	2	1	1	-	-	-	
ツバキ	-	1	-	1	1	1	3	6	
トウモロコシ	-	1	-	-	-	-	-	-	
ツバキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	
マツ科	65	33	20	99	96	20	130	130	
スギ科	30	25	20	26	26	5	72	72	
トウモロコシ	1	-	-	-	-	-	-	-	
アサギ科	2	1	4	1	-	-	-	-	
オリーブ科	1	2	-	-	-	-	-	-	
ハンノキ科	11	7	5	2	19	-	3	3	
ブナ科	2	1	2	-	1	-	1	1	
コナラ科	5	2	3	4	1	-	3	3	
コナラ科	2	6	1	2	1	-	1	1	
トウモロコシ	1	1	-	1	1	-	1	1	
シイ科	1	-	-	-	-	-	-	-	
ヒノキ科	1	5	2	-	-	1	1	1	
スズカサギ科	7	1	2	-	1	-	-	-	
アサギ科	1	-	-	-	-	-	-	-	
ツバキ科	-	1	-	-	-	-	-	-	
オリーブ科	1	1	-	-	-	-	-	-	
オリーブ科	1	1	-	-	-	-	-	-	
オリーブ科	-	-	2	-	-	-	-	1	
イボクモ科	-	1	-	-	-	-	-	-	
トネリコ科	-	1	-	-	-	-	-	-	
オニクサ科	-	1	-	-	-	-	-	-	
草本花粉	-	-	-	1	-	-	-	-	
オオコナラ	-	-	-	1	-	-	-	-	
オオコナラ	101	142	136	69	56	2	25	25	
オオコナラ	5	1	5	19	2	-	1	1	
オオコナラ	1	1	-	-	-	-	-	-	
オオコナラ	1	1	-	2	1	-	1	1	
オオコナラ	1	1	-	-	-	-	-	-	
オオコナラ	32	9	32	6	11	2	4	4	
オオコナラ	2	1	2	-	-	-	-	-	
オオコナラ	-	-	-	1	2	-	-	-	
オオコナラ	1	1	-	-	-	-	-	-	
オオコナラ	7	3	60	1	1	-	23	23	
オオコナラ	1	1	-	-	-	-	-	-	
オオコナラ	2	-	5	-	-	-	-	-	
オオコナラ	-	-	1	-	-	-	-	-	
オオコナラ	1	1	25	1	1	-	-	-	
オオコナラ	-	-	-	-	-	-	-	2	
オオコナラ	1	2	3	1	1	-	-	-	
オオコナラ	2	1	-	6	-	-	1	1	
不明花粉	9	11	6	4	2	2	4	4	
シダ花粉	-	-	-	-	-	-	-	-	
モミヤガハコシダ	-	-	-	1	-	-	-	-	
オアシヤガハ	2	-	-	-	2	1	3	3	
オアシヤガハ	19	9	11	62	16	6	54	54	
分 子									
本本花粉	220	202	129	223	223	26	264	264	
草本花粉	251	166	216	99	76	4	57	57	
不明花粉	9	11	6	4	2	2	4	4	
シダ花粉	21	9	11	62	16	9	57	57	
合計(不明を除く)	492	390	442	386	317	39	378	378	
寄生虫卵(個/cc)									
寄生虫卵	<100	0	100	-	-	-	-	-	
寄生虫卵	0	<100	0	-	-	-	-	-	
寄生虫卵	<100	0	<100	-	-	-	-	-	
分 子									
寄生虫卵(個/個)	<100	<100	<100	-	-	-	-	-	
寄生虫卵(個/個)	2600	2600	2600	-	-	-	-	-	

1) 寄生虫卵、花粉・胞子については、10の目を四捨五入して100単位に丸めている。

2) 寄生虫卵の合計は、丸める前の数字を合計した後に、100単位に丸めている。

3) <100: 100個体未満。

の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての花粉・胞子と寄生虫卵について同定・計数する。同定に際しては、当社保有の現生標本の他、花粉化石は島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)、三好ほか(2011)等を、寄生虫卵は佐伯ほか(1998)、斉藤・田中(2007)等を参考にする。

結果は、花粉・胞子化石については同定および計数結果の一覧表として、寄生虫卵については1ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数として表示する。寄生虫卵の個数については有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸める。また、100個体未満は「<100」で表示し、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後丸める。また、花粉化石群集と寄生虫卵の分布図としても表示する。なお、図中の花粉・胞子化石は木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出した相対頻度で、寄生虫卵は1ccあたりに含まれる個数で示す。なお、図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

(3) 結果

古植生 結果を第249表、写真図版301に示す。木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するととどめておく。なお、第1・3号埋設桶は寄生虫卵分析のみ実施だが、いずれからも花粉化石が豊富に産出したことから、参考として花粉化石の産状も結果に加える。

第1・3・5号埋設桶の花粉化石群集は、木本花粉と草本花粉が同等、あるいは草本花粉がやや多い傾向にある。花粉化石の産出状況は良好であるが、保存状態は普通～やや悪い。木本花粉についてみると、マツ属が最も多く産出し、次いでスギ属が多く認められる。そのほかではハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属、エノキ

属一ムクノキ属等を伴い、ツゲ属、サルスベリ属、カキノキ属なども確認された。

草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、アカザ科、アブラナ科、ヨモギ属等を伴う。特に埋桶5でアブラナ科の多産が顕著に認められる。また、第1・3号埋設桶からは、栽培種のソバ属も確認された。

1地点の試料番号7・9、4地点の試料番号3は、前述の埋設桶の試料と異なり、いずれも木本花粉の割合が高い。花粉化石の保存状態は全体的に悪い。木本花粉ではマツ属が多産し、ついでスギ属が多く認められる。その他ではツガ属、ハンノキ属、コナラ亜属等を伴う。

草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科などを伴う。また、水湿地生草本のガマ属、オモダカ属、ハス属、水生シダ類のサンショウモ、栽培種のソバ属、ペニバナ属なども確認された。

4地点の試料番号1は、花粉化石の産出状況が悪く、保存状態も非常に悪い。僅かにマツ属、スギ属などの木本花粉、イネ科、アカザ科などの草本花粉が、散見する程度である。

以上から、周辺植生を反映する種類についてみると、木本類は埋設桶、1地点、4地点とも花粉群集組成が類似しており、いずれも針葉樹のマツ属(主として複雑管束亜属)が多産・優占する。このようなマツ属複雑管束亜属が多く産出する状況は、関東地方の近世以降の植生変化として明らかとされており、その背景として二次林の拡大とともに、有用資源として植林されたことなどが指摘されている。また、マツ属複雑管束亜属の増加にはスギ属が伴うことも指摘されており、有用材となるスギの植林の増加も推定されている(辻, 1997)。今回の分析結果では、いずれの試料も、マツ属についてスギ属が多く認められていることから、上記した二次林や植林の増加を反映している可能性がある。また、マツ属は、古くから

防風林・防砂林などとして用いられており、街道沿いなどにも植えられてきた。調査地点が街道沿いの宿場町であることを考慮すると、宿場町周辺や街道沿いの並木などの近傍に生育した樹木に由来する可能性もある。その他にも、ツゲ属やサルズベリ属、カキノキ属なども観賞用などとしてしばしば植えられる種類であることから、植栽として調査地周辺に存在していた可能性がある。

この他、ハンノキ属やコナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属などの落葉広葉樹は、河畔林や湿地林を形成する種類であることから、クルミ属、クマシデ属-アサダ属などともに利根川沿いなどに生育していた可能性がある。

一方、草本花粉では、イネ科が多産し、アカザ科やアブラナ科、ヨモギ属などが多く認められる。これらは、いずれも開けた明るい場所に生育する、いわゆる「人里植物」を多く含む分類群であり、カヤツリグサ科やサナエタデ節-ウナギツカミ節、ナデシコ科、キク亜科、タンポポ亜科など、一緒に認められる種類も同様の生育環境を示す。よって、これらの草本類が、当時の調査地内やその周囲の草地に生育していたと考えられる。また、ガマ属やオモダカ属、ハス属、サンショウモモなどの水湿地生草本・シダ類も認められることから、これらも利根川沿いなどの水湿地に生育していたと推測される。

なお、栽培種のソバ属やベニバナ属なども認められることから、本調査地点および周辺においてこれらの栽培が行われていた可能性もある。

寄生虫卵分析 寄生虫卵は、第1号埋設桶から回虫卵と肝吸虫卵が、第3号埋設桶から鞭虫卵が確認されたが、いずれも堆積物1ccあたり100個未満である。また、第5号埋設桶の試料番号2からは回虫卵が約100個/cc、肝吸虫卵が1ccあたり100個未満、検出された。

トイレ遺構などにみられる糞便堆積物には、寄

生虫卵が多産する調査事例が報告されている。当社にて分析を実施した岩手県平泉町の柳之御所のトイレ遺構からは、回虫卵、鞭虫卵、ウェステルマン肺吸虫卵、宮崎肺吸虫卵、槍形吸虫卵、日本海裂頭条虫卵など、多くの種類の寄生虫卵が検出されており、寄生虫卵の総数は最も多い遺構で約14,800個/ccを示す(バリノ・サーヴェイ株式会社, 2011)。今回、埋桶の用途推定を目的として寄生虫卵分析を実施した結果、いずれの試料からも寄生虫卵が確認されたものの含量は少なく、第1・3号埋設桶はいずれも堆積物1ccあたり100個未満、第5号埋設桶(試料番号2)で約200個/ccであった。近接する栗橋宿跡第8地点の寄生虫卵分析結果をみると、第3号埋設桶で約3,600個/cc、第7号埋設桶で4,900個/ccであり、これらの埋桶内に糞便などの排泄物が存在した可能性が指摘されている(『栗橋宿跡VI』参照)。前述の調査事例や栗橋宿跡第8地点の結果を踏まえると、今回の埋桶内に糞便などの混入は少なかった、あるいはトイレとして利用されて期間が極めて短かったなどの可能性がある。

また、第5号埋設桶からは、花ごと食べる種が含まれるアブラナ科が多産している。栗橋宿跡第8地点で寄生虫卵が多く認められた第3号埋設桶でもアブラナ科が多く確認されている。寄生虫卵の産状も、回虫卵、肝吸虫卵が多く認められる傾向が類似しており、多産するアブラナ科は糞便とともに排泄された食物残渣の可能性もある。

なお、検出された寄生虫卵についてみると、回虫や鞭虫は、排泄物と共に排出された卵が野菜等に付着し、それを食することによって体内に侵入して成虫になるという生活環を示す。肝吸虫は、モツゴ、コイ、フナなどの淡水魚の摂取により感染する(佐伯ほか, 1998など)。このことから、当時の調査地周辺で、これらの感染源となる食物が摂取されていたと考えられる。

3 樹種同定

(1) 試料

試料は、第8号建物跡に付随する基礎杭や、地境溝である第20号溝跡に伴う杭、板など5点(W1~W5)である。この5点について、樹種同定を実施する。第8号建物跡の試料採取位置は第605図に示す。

(2) 分析方法

剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の三断面の切片を製作し、ガム・クロラルール(抱水クロラルール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入してプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やRichter他(2006)を参考にする。

(3) 結果

結果を第250票・写真図版302に示す。木材は、針葉樹3分類群(マツ属複維管束亜属・スギ・ヒノキ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属(*Pinus* subgen. *Diploxylo*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急〜やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセルウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・スギ(*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部

に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-10細胞高。

以上のように、杭や板等の用材として三種類が確認された。各種類の材質等についてみると、マツ属複維管束亜属は、本州ではアカマツまたはクロマツである。木材は針葉樹としては重硬な部類に入り、強度と保存性が高い。スギとヒノキは、木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い。

遺構別にみると、第8号建物跡付随の基礎杭と考えられるW1・W2は、共に芯持丸木であり、直径はW1が12×14cm、W2が18×18cmである。いずれもマツ属複維管束亜属に同定され、強度と保存性の高い木材の利用が推定される。マツ属複維管束亜属は、江戸遺跡でも杭に多数の確認例がある

(捨杭検出状況)



第605図 第8号建物跡試料採取位置

第 250 表 樹種同定結果

試料 番号	遺構	用途	木取り	種類
W1	第 8 号建物跡付属	基礎杭	芯持丸木	マツ属複雑管束亜属
W2	第 8 号建物跡付属	基礎杭	芯持丸木	マツ属複雑管束亜属
W3	第 20 号溝跡	杭	芯持丸木	ヒノキ
W4	第 20 号溝跡	板	板目	スギ
W5	第 20 号溝跡	杭	芯持丸木	スギ

(伊東・山田, 2012)。今回の結果から、基礎杭については、江戸遺跡と同様の用材選択が推定される。

一方、第20号溝跡の杭や板は、地境溝の側板を構成している可能性がある。杭はスギとヒノキ、板はスギであった。杭は2点とも径が3.5~4.0cmの小径の芯持丸木を使っている。スギやヒノキの

伐採から加工の過程で、小枝も余すこと無く利用した状況が推定される。板は、板目板であり、杭と同じく縦長の状態で使われている。大きな節が認められることから、建築部材等に利用できないような部分を使用した可能性がある。なお、スギやヒノキの利用から、意図的に耐水性の高い木材を選択・利用した可能性がある。

VI 調査のまとめ

今回報告対象としたのは、栗橋宿跡第9地点の調査成果のうち、第一面から検出された遺構（建物跡・埋設桶・井戸跡・溝跡・道路跡・土壌）である。合ノ道より北側にあたる区画S・Tの土壌については、諸事情から次冊の報告とする。以下に第一面遺構のうち、区画U～AAの様相を中心にまとめておきたい。

(1) 絵図との照合

久喜市所蔵『栗橋宿往還絵図』（以下『絵図』）は、江戸期の19世紀前半に作成されたものと推定され、職業や名前が記されている。その作成時期は、記載された人名と他の諸史料との対比から、天保14年（1843）～弘化2年（1845）頃との指摘がある（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2021）。『絵図』と検出遺構の対比案については、既に「III 遺跡の概要」の章で触れている（28・29頁参照）が、ここであらためて調査成果との対応について検討しておこう。

第606図は、現状の屋敷境と、検出された杭列等を比較して作成した『絵図』との対比案である。左側には『絵図』の記載、右側には『埼玉縣営業便覧』の記載を示した。

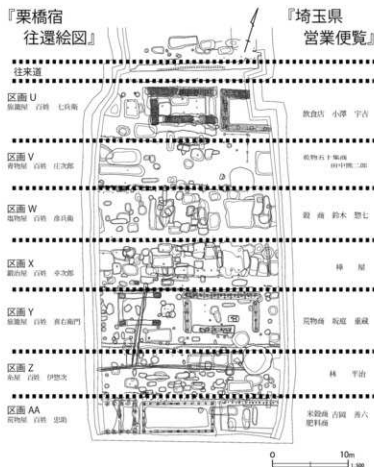
(2) 区画U（第7区画）の様相

『絵図』の「旅籠屋 百姓 七兵衛」と推測される。敷地内に連なるように第6・8号建物跡が検出されており、いずれも樽地業建物である。また、区画の西側からは複数の火災処理に関わる土壌（以後、火災処理土壌と呼称）が検出された。

調査時の観察によれば、第8号建物跡の一部を、火災処理土壌である第105号土壌が掘り込んでおり、建物跡の廃絶後に火災処理が行われている。しかし、2棟の建物跡が被熱を受けた痕跡は認められなかった。敷地内にはこの時期の火災で焼け落ちた瓦を廃棄した土壌（第106・107号土壌）もあるが、その瓦が2棟の建物に葺かれていた証拠は無い。このように建物の廃絶と火災の因果関係は不明である。

建物の構築時期の絞り込みは難しいが、後述する火災の年代観から、天保期（1830～43）の後半までには廃絶していたものと思われる。

本区画および周辺からは、居住者の「旅籠屋七兵衛」を示す文字史料が複数得られている。第



第606図 調査区と絵図の対比案

250表にその内容をまとめた。第226号土壌の墨書資料および、第121号土壌出土の瓦に「角屋七兵衛」とあることから、『絵図』にみられる「旅籠屋 百姓 七兵衛」が「角屋」の屋号を名乗っていたことが分かる。木製品の焼印にみられるのは四角枠内に「角七」とあるもので、これを各種資料にみられる「(カドに)七」の店印とを対比すれば、いずれも角屋七兵衛を示すものであることに異論はなからう。

それらの出土位置には偏りがみられ、区画Uより2区画南側の区画W(第5区画)では、第226号土壌から集中して出土した。時期は栗橋8期(19世紀中葉頃)である。第226号土壌の陶磁器には、後述する火災処理土壌の遺物と同種のものを含む。理由は定かではないが、ここに区画Uの「角屋」七兵衛のものが廃棄された可能性が高い。

当然ながら、区画Uからの「角屋」関連遺物の出土も多く、第117・112号土壌にまともまっている。時期は栗橋9期(19世紀後葉)の比較的古い段階である。ちなみに、「角屋」の屋号は、往来道が日光道中と交わる角に敷地が所在するためと思われる。

(3) 区画V(第6区画)の様相

『絵図』の「青物屋 百姓 庄次郎」に該当する区画である。遺構分布はやや散漫である。東部に捨杭のみ検出された第9号建物跡が所在する。土壌では、第101・102号土壌が火災処理土壌で、区画Uの火災処理土壌と同時期の遺構である。

区画の南東部に第2号井戸跡が検出されている。廃絶時期はかなり降ると考えられる。構築時期は明確ではないものの、古く見ても19世紀後半以降に構築されたものであろう。区画Sの第4号井戸跡・区画Yの第1号井戸跡も同時期の井戸と考えられる。これらの3基はいずれも敷地奥側の南側に寄って検出されている点が共通しており、この時期の井戸の配置に一定の規則性を認める。

なお、栗橋宿跡では、井戸跡の分布は上町側の

第250表 「角屋七兵衛」関連文字資料

種別	区画	遺構	手法	文字
陶器香炉	区画X	SK141	墨書	(カドに)七 かどや
漆桶	区画W	SK184	墨書	(カドに)七
磁器皿	区画W	SK226	墨書	(カドに)七
陶器鍋入れ	区画W	SK226	墨書	(カドに)七 (+亀の絵か)
漆桶蓋	区画W	SK226	金彩給付け	(カドに)七
木製品板	区画W	SK226	墨書	角屋七兵衛
木製品桶	区画W	SK260	焼印	(カドに)七
磁器鉢	区画Y	SK251	釘書き	(カドに)七
瓦	区画U	SK121	釘書き	角屋/七兵衛
磁器皿	区画U	SK110	釘書き	(カドに)七
磁器皿	区画U	SK110	釘書き	(カドに)七
木製品箱枕	区画U	SK110	焼印	角七
陶器燗徳利	区画U	SK112	墨書	(カドに)七
木製品樽	区画U	SK112	焼印	(カドに)七
木製品木札	区画U	SK112	焼印	角七

町屋に集中しており、しかも、そのエリアでは同じ敷地内に新旧の井戸を造り替えるケースが目立つ。一方で中町・下町のエリアでは、第8地点の第二面で8基が検出されている例を除けば、井戸の数はとても少ない。良質な水脈の位置との関連も考えられるが、井戸の構築・維持が必要とされた「場の性格」についても考慮される。また、井戸が少ないとすれば、別の手段で水を確保したと思われるが、どのような方法であったのかは、今後の課題である。

(4) 区画W(第5区画)の様相

『絵図』の「塩物屋 百姓 彦兵衛」、『営業便覧』の「教商 鈴木惣七」に該当する区画である。区画中央部に土壌が集中するが、建物跡は検出されなかった。

本区画中央の第226号土壌からは、前述のように「区画U」の「角屋七兵衛」関連遺物が多く出土している。加えて、第183号土壌をはじめとして、「稲荷屋」関連の資料が多く出土している。これは、栗橋船渡町に所在した稲荷楼に関連する資料とみて間違いのないだろう。稲荷楼については第II章の「2 歴史的環境」の中でも触れたが、

明治期には近隣に名の知れた料理屋であった。このように区画Wでは、旅籠屋の角屋・料理屋の稲荷屋の関連資料が目立つ（第251表）。あるいは、『絵図』にみえる塩物屋の性格と関連するものかもしれない。

(5) 区画X（第4区画）の様相

『絵図』の「鍛冶屋 百姓 幸次郎」にあたる区画である。本文中でも触れてきたように、多量の鍛冶関連遺物の存在から、鍛冶屋の敷地とみて間違いない。鍛冶関連の遺構・遺物については後述するとして、区画内の遺構配置や文字資料について確認しておく。

本区画では中央部に土台基礎の建物と思われる第7号建物跡が位置し、その範囲と重複して整地層が検出された。整地層と建物跡の関係については第四章「1 建物跡」を参照されたいが、大引きを渡して床を張る構造と推測されるので、整地層は建物以前の構築物と考えられる。

整地層の外周部には複数の土壌が掘り込まれており、大部分は鍛冶関連の廃棄土壌と考えられる。従って整地層が、鍛冶行為との関連で形成されたものと考えたいが、鍛冶炉等の検出は無く具体的な用途は想定し難い。

この区画では、南側の区画から竹樋で水を引いた形跡がある。区画Z・Yを暗渠で通って、本区画の第120号土壌に導水したと考えられる。この

第251表「稲荷屋」関連文字資料

種別	区画	遺構	手法	文字
磁器環	区画AA	SK65	上絵付け	栗橋 / 鯉こく / 稲荷屋
磁器環	区画X	SK142	上絵付け	島中領 / 豊作 / いなりや
磁器環	区画W	SK183	上絵付け	栗橋 / 鯉こく / 稲荷屋
磁器環	区画W	SK183	上絵付け	栗橋 / 鯉こく / 稲荷屋
磁器環	区画W	SK183	上絵付け	栗橋 / 鯉こく / 稲荷屋
磁器徳利	区画W	SK183	墨書	いなりや
磁器環	区画W	SK260	上絵付け	栗橋 / 鯉こく / 稲荷屋
陶器徳利	区画W	SK252	釘書き	いなりや

ような大規模な導水施設も他の区画には見られず、鍛冶行為と関連する可能性が高い。

ただし後述するように、豊島区黒鴨遺跡などの調査成果では、鍛冶行為は街道に面する「オモテ側」で行われていた。本調査地点で対象となった「ウラ側」での鍛冶行為がどの程度行われていたのかは、慎重に考える必要がある。

文字資料で「鍛冶屋」を示すものは少なく、第145号土壌から「くり かじや」等と焼き継ぎ印のある磁器皿が出土した程度である。

(6) 区画Y（第3区画）の様相

『絵図』の「旅籠屋 百姓 喜右衛門」にあたる。敷地内に第4・5号建物跡が検出されており、オモテ側の第5号建物跡が栗橋7期の後半、ウラ側の第4号建物跡が栗橋8期の構築と考えられる。いずれも布掘り状の基礎を有す構造で、土蔵のような堅固な上屋建物が想定される。

本区画の屋号、「紀州屋」の文字資料は第252表にまとめた。区画Yからも墨書木札が出土しているが、全体としては南側の区画Zに集中する。本文中でも触れたが、遺物分布状況や竹樋の経路から、区画Z・Yの間に強い関連性が推測される。

文字資料で注目されるのは、磁器の爛徳利底部に「紀州屋」「き志うや」「紀印」等の墨書のあるものが多い点である。酒の小売りに関わる墨書の可能性があり、類例の検討が必要であろう。

(7) 区画Z（第2区画）の様相

『絵図』では「糸屋 百姓 伊惣次」にあたる。土壌が比較的多く検出されたが、建物跡は認められなかった。前述のように区画Yに関わる「紀州屋」の墨書資料が多く出土している。

本区画では、敷地を東西に貫く第1号竹樋が検出されている。第2号竹樋との継手の孔を観察した結果、改修が行われ、導水方向が変更されていることが確認された。栗橋宿跡における竹樋の検出は稀であるが、本跡の場合、敷地境をまたいで設置されている点が注目される。設置時期がはっ

第252表 紀州屋間連文字資料

種別	区画	遺構	手法	文字
磁器襷徳利	区画 Z-AA	SD15	墨書	紀州屋
磁器襷徳利	区画 Z-AA	SD15	墨書	記印
磁器襷徳利	区画 Z	SK21	墨書	き志うや
磁器襷徳利	区画 Z	SK40	墨書	き志 [うや]
磁器襷徳利	区画 Z	SK40	墨書	記 []
磁器襷徳利	区画 Z	SK40	墨書	記呂屋
磁器襷徳利	区画 Z	SK44	墨書	三合 / 紀州屋
木札	区画 Z	SK44	墨書	栗橋□□□ [] 菊田 [] [] 同中町 紀州屋 []
磁器襷徳利	区画 Z	SK99	墨書	紀州屋
磁器襷徳利	区画 Z	SK99	墨書	紀州屋
磁器襷徳利	区画 Z	SK99	墨書	記印
木札	区画 Z	SK99	墨書	[] [] 武 [] 紀州 [] (○)に千 []
陶器植木鉢	区画 X	SK140	墨書	□□ / 栗橋宿 / (ヤマ)に 喜 / 紀州屋
木札	区画 X	SK159	墨書	第八区 第拾二区 / 栗橋 宿 / 紀州屋殿行 [] / #第拾月廿二日 []
土器坩が	区画 Y	SK183	墨書	記呂や□
磁器襷徳利	区画 Z	SK192	墨書	記志□や
木札	区画 Y	SK309	墨書	栗橋宿 釜利 紀州屋喜右衛門様行 出

きりしないが、他の遺構との重複関係から明治中・後期の構築とみられる。第1・2号竹樋の導水先は鍛冶屋の区画Xであり、その設置・改修には、区画Z～Xの三区画に及ぶ、一体化した施工が必要である。

(8) 区画AA (第1区画) の様相

『絵図』では「荒物屋 百姓 忠助」にあたる。土蔵と思われる布捆状基礎の建物跡3棟が検出された。栗橋9期の構築である。区画U・Yと比較して、土蔵建物の建築が後出する点に注意される。第2号建物跡は、出土した漆喰から、瓦葺き・黒壁の土蔵建物だったと推測される。

(9) 建物跡について

ここでは、区画U (第7区画) から検出された建物跡の構築年代について、あらためて検討しておきたい。第6号建物跡については、栗橋6～7期段階に改修が加えられている可能性が高い。基

礎内から出土した陶磁器は18世紀代に遡るものが主体なので、栗橋5期以前の構築と推定される。一方、第8号建物跡は出土した陶磁器の様相から栗橋6期頃の構築と推定した。

ここで注意しておきたいのは、第6号建物跡の改修に用いられた樽と、第8号建物跡に用いられた樽に、同一の焼印「大和屋 改詰」が確認される点である(本文117頁参照)。このことから、第6号建物跡の改修と、第8号建物跡の構築が接近した時期(あるいは同時)に行われた可能性がある。おそらく、栗橋6期～7期の早い段階で、両建物の改築・構築が行われたものであろう。それは、後に検討する火災に先行する時期で、遅くとも天保年間頃を下限とする時期である。

さて、2棟の建物跡は、栗橋宿における建物跡としてはかなり古い時期のものである。樽地業建物は、上屋の重量がある場合に採用される傾向が強く、土蔵の基礎と考えるのが妥当であろう。

栗橋宿跡では、布掘り状の掘方内に捨杭・捨土台を伴う建物跡が複数検出されており、それらの多くも土蔵建物の基礎と考えられる。18世紀第II四半期以降(栗橋7～9期)に帰属する建物が主体である。

布掘り基礎の建物跡は、宿場北側の本陣跡南側から、第6地点の町屋エリアに多い。それに対して第9地点周辺では疎らである。『栗橋町史民俗編III』(久喜市教育委員会2011)には、「昭和初期の上町では、本通りに面した家は全て瓦葺きだが、中町、新町藁屋根の家々が目立った」という趣旨の記述がある。街道に面したオモテ側の様子であろうが、近代以降のウラ空間についても同様であったらう。

このように、土蔵は宿の北側(上町側)から普及したようにみえる。実際、19世紀後半以降の上町で土蔵建物が目立つ状況は、栗橋宿本陣跡や栗橋宿跡第6地点の調査成果から裏付けられる。では、第9地点の樽地業建物が、宿場内でも古期

の土蔵建物であることは、どう解釈するべきだろうか。

あらためて、第9地点の土蔵と考えられる建物跡をみてみると、区画AA・Y・Uで検出されている。このうち、区画AAの3棟は栗橋9期に時期が降り、栗橋8期以前の土蔵は、旅籠屋の区画U・Yに2棟ずつ存在する。第9地点に限って言えば、19世紀中頃までに土蔵建物を構えたのは「旅籠屋」の区画であった。

ここで、『栗橋宿本陣跡I』で報告した「旅籠屋 友八」の区画にも注目してみたい。上町でもやや南側の「区画G」にあたり、栗橋6期に遡る2棟の建物が検出された。これも、土蔵建物としては古い事例である。

どうやら旅籠屋は、宿場の中でも比較的早い段階から土蔵建物を構える傾向にあるようだ。有力な旅籠屋であれば、上町に限らず、中町でも土蔵を構築し得た。宿場が単純に上町側から発展したと考えるには注意が必要であり、「場の性格」を読み込んだ考察が求められる。

(10) 火災による被熱資料

では、旅籠屋の土蔵には何を収めていたのだろうか。遺跡の調査からその答えは導き出し難いが、第9地点で検出された火災関連土蔵の様相は、それを考える一助となり得るだろう。

第9地点では、区画U・Vから数基の火災処理土蔵が検出された。区画Vの第102号土蔵から、焼土・炭が付着した天保通寶が出土している。また、区画Uの第105号土蔵から、江戸絵付けを伴う磁器の卵殻手酒杯が被熱して出土している。これらの遺物から、火災の時期は栗橋7期、1830～40年代と推定する。火災処理土蔵の一つ、区画Uの第121号土蔵からは、「角屋七兵衛」と線刻された瓦が出土した。この火災で「旅籠屋七兵衛」の建物が被災した可能性は高く、第105・121号土蔵から出土した多様な陶磁器類は、その所有物だったと推測したい。

第105・121号土蔵から出土した陶磁器をみてみると、中国産磁器の十錦手と呼ばれる大小の皿が多量に出土しており、驚かされる。地方の遺跡から、十錦手の皿が複数出土するのは稀である。栗橋宿跡では、本陣の備品を廃棄したと考えられる火災処理土蔵から、大小二枚の皿が出土した例があるに過ぎない（『栗橋宿本陣跡II』）。さらには、明末～清初期のスワウの大皿も出土しており、径38cmを超える大型のものである。伝世品が所持されていたものと考えられ、この頃の旅籠屋では古陶磁の皿や、舶載磁器の組み物が「特別な器」として所持されていたようだ。加えて、端反碗（蓋付き碗）や、各種皿類（手塩・中皿・輪皿・焼物皿）・猪口・向付と思われる湯呑形碗の組み物を備える様相は、本膳料理に対応し得る。大皿や、変わった意匠の鉢は組物にならず単独で出土している。これらは「特別な器」に準ずるものだったのだろう。江戸後期の旅籠屋の中には、舶載磁器をはじめとした器を備える場合があったようで、旅籠屋の中に「格の差」が生まれていた可能性を指摘したい。

(11) 道路遺構と下層の遺物包含層

本調査区では「往来道」「合ノ道」と呼ばれた道路跡を調査した。道の由来については第三章、遺構・遺物の詳細については第四章を参照していただきたいが、ここでは基本構造や年代観について再度確認する。

道路は幅一間程とみられ、路面は硬化面が認められるのみであった。硬化面の上に砂層が堆積する例が多く、洪水等で浸水した後に、かさ上げと新路面の造成が行われていることを示唆する。

路面には南北に側溝が伴うようだが、どの段階から側溝が伴うのかなど、基本的な変遷は捉えられなかった。ちなみに第二面の調査では道路に沿った溝跡等は検出されておらず、側溝が伴うのは、比較的遅い段階だった可能性がある。

路面の年代については、上層の五枚の路面を栗

第253表 道路跡出土陶磁器の層別別様相

層別	輪1cm以下破片		輪1～2.5cm破片		輪2.5cm以上破片		層別
	磁器	陶器	磁器	陶器	磁器	陶器	
5層	-	2	-	1	1	-	整地面①
6・7層	11	6	-	20	6	3	整地面②
8～10層	15	22	-	15	23	5	整地面③
11・12層	6	7	-	15	9	8	整地面④
13・14層	5	9	-	17	23	6	整地面⑤
14～19層	6	13	-	8	8	-	整地面⑥
19層	42	165	3	58	162	9	整地面⑦
19～22層	1	3	-	4	2	3	整地面⑦
23・24層	5	26	-	3	16	2	整地面⑦
25層	9	22	1	10	29	2	整地面⑦
26層	70	128	16	85	196	78	整地面⑦
27層	31	71	10	34	135	23	整地面⑦

橋4期以降に比定した。つまり「往來道」の成立は、18世紀中頃とみられる。さらに下層の二枚の面は、路面とは考え難いが、栗橋2期後半から3期（18世紀初頭～前半）の陶磁器を含むものである。

各面の帰属時期を明らかにするため、調査では陶磁器をすべて回収した。第253表はその内容だが、道路として成立する以前の整地層内に、細かな陶磁器片が多数含まれていたことが窺われる。ただし、道路の面積の割りには少ない量である。敷き詰めたような状態では無いが、18世紀前半～中頃の整地土に、破碎された陶磁器を意図的に混ぜた可能性は充分にある。こういった包含層の形成は、17世紀までは遡らず、栗橋宿跡の他の調査地点と同様の結果であった。とは言え、他の調査区では遺構検出が少ない、18世紀前葉（栗橋2期後半～3期）の整地層が存在することは注目される。第8地点で検出された当該期の遺構群とともに、中町エリアの形成が、18世紀前葉に遡ることを証明している。

(12) 鍛冶関連遺物

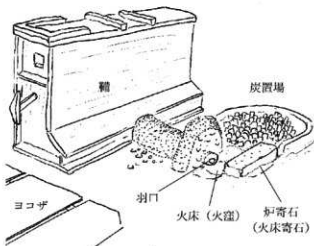
栗橋宿跡第9地点では、多量の鉄滓・輪の羽口が出土しており、その内容は、本文中第239・240表に示した。ここでは、それをもとに鉄滓と輪羽口の分布図（第608図）を示す。これらの遺物が、区画X（第4区画）に集中している事が明確に説

み取れる。区画Xは、『絵図』の「鍛冶屋 百姓 幸次郎」の敷地にあたる場所である。明治35年刊の『営業便覧』では、この区画は「棒屋」として記録されている（田口・高柳1902）。棒屋とは農具の柄を製作したり、修理する店である。このことから、農具などを製作する職人の家であったとみられる。

鍛冶関連遺物の出土する遺構は、19世紀前葉には出現し、19世紀中頃から増加する。遺構の年代や、鍛冶関連遺物とともに鉄滓の付着した煉瓦（機械成形）が出土していることから推察すると、明治20年代以降も鍛冶屋として営業していたとみられる。

出土した羽口のうち特徴的なものは、未使用の羽口（第588図40）、体部と平行に割られた面が研磨された羽口（第596図169・170）などである。また、羽口を固定するための粘土が付いたままの羽口（第588図39）が出土しており、使用時の状況が推測できる。

羽口・碗形滓が特に集中し出土する場所は、第145号土壌を中心とした、区画Xの東側である。この場所は、日光道中よりもかなり奥まった部分にあたる。鍛冶作業で出た廃棄物の捨て場とみられる遺構が、このような町屋のウラ空間から多く



第607図 鍛冶炉周辺の想定図（魚水環 画）

検出されているのに対し、鍛冶炉などの遺構は認められない。このことから、町屋のウラは廃棄物の捨て場の空間であったとみられる。豊島区の巢鴨遺跡では、街道に近い部分より鍛冶炉跡が複数検出されている（成田・笹川2011）。鍛冶行為を行った空間は、区画Xの鍛冶屋も同様、未調査である表通り側（日光道中側）にあったと思われる。

栗橋宿内で鍛冶関連遺物が集中して出土している地点は、当地点の他に第4地点・第8地点である。第4地点では、第3号性格不明遺構より、羽口や鉄滓が出土している（『栗橋宿跡Ⅱ』）。しかし栗橋宿の中心部からは離れているうえ、出土量も3地点中最も少ない。共存する遺物から近代以降の鍛冶行為の跡とみられる。

一方、第8地点では、第9地点、第4地点とは異なる大口径の羽口が多く出土している。第9地点の羽口よりも古い18世紀初頭のものともみられて

いる（『栗橋宿跡Ⅵ』）。これらは第9地点道路跡（26層）より出土した羽口（第599図212）と形状が類似しており、時期も近いものとみられる。

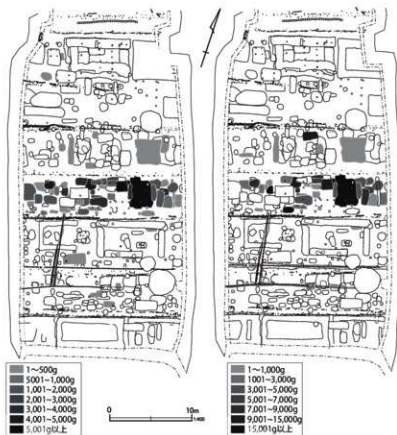
第145号土壌・第322号土壌より羽口や椀型滓など鍛冶関連遺物とともに被熱し滓化した石材と、被熱する前と思しき石材が出土している（第323図7、第592図98・99、第599図205）。これらの石材は、炉寄石（ほどよせいし）と考えられる。炉寄石とは、火床を挟んで輪の反対側に設置される石のことで、輪から送られる風を受ける機能を果たしていた（第607図）。

1784年成立の文献『鉄山必用記事』の挿絵には、火久保（火床）を挟んで輪の反対側に「埋石」とする設備が見えることから、構造としては近世にもあったものであろう。民俗資料としては、長野県信濃町の野鍛冶の家（信濃町指定有形文化財中村家住宅）で使用されていたものなどが知られて

いる（信濃町教育委員会2015）。

石材の材質は凝灰岩である。栗橋宿周辺の凝灰岩産地としては、群馬県太田市藪塚町（旧藪塚本町）より近代に採石されていた「藪塚石」が知られている。「大谷石より柔らかく、水には弱い、火に強い」（藪塚本町誌専門委員会1995）といわれ、かまどや都電の敷石、建築用材の土台石等に使用されたようである。耐火性があるため鍛冶道具としても使用された可能性も十分に考えられる。

これらの鍛冶関連遺物は、当地点において長期間継続し鍛冶行為が行われ、鍛冶が宿場町において普遍的な生産活動であったことを示している。



第608図 鉄滓（右）と輪の羽口（左）の重量別分布図

参考・引用文献

- 下原重伸 1784「鉄山必用記事」(三枝博音編 1944『日本科学古典全書』第10巻所収)
- 田口浪三・高柳鶴太郎 1902『埼玉県営業便覧』全国営業便覧発行所
- 埼玉県酒造組合 1921『埼玉県酒造組合誌』
- 佐藤虎雄 1925『日本酒銘大鑑』三交堂出版部
- 蕨塚本町誌専門委員会 1995『蕨塚本町誌 下巻』
- 日本民具学会編 1997『日本民具辞典』ぎょうせい
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999『東京大学構内遺跡調査研究年報』2
- 長崎県埋蔵文化財調査協議会 2000『瀬古窯跡』
- 日野市遺跡調査会 2003『南広間地遺跡』
- 茨城県陶芸美術館 2010『THE KASAMA ルーツと展開(ルーツ編)』
- 南相馬市博物館 2010『企画展 相馬駒焼展』
- 久喜市教育委員会 2011『栗橋町史民俗Ⅲ』
- 辻本武 2011「吹田操車場跡地で出土した汽車土瓶と刻印棟瓦」『大阪文化財研究 第39号』公益財団法人大阪府文化財センター
- 成田涼子・笹川朋孝 2011「泉鴨遺跡の鍛冶関連遺構と遺物」『関西近世考古学研究』19 関西近世考古学研究会
- 能芝勉 2011「京都伏見・深草産の土師製製品について」『江戸時代の名産品と商標』吉川弘文館
- 久喜市教育委員会 2014『久喜市栗橋町史 第二巻 通史編 下』久喜市教育委員会
- 日本貿易陶磁研究会 2013『(第34回貿易陶磁研究会研究集会)近世都市江戸の貿易陶磁』発表要旨
- 鈴木裕子 2014「江戸出土の備前産の小壺・広口壺・煎餅皿等」『東京考古』No.32 東京考古談話会
- 田中実徳 2014「向島百花園の誕生」『隅田川と本所・向島一開発と観光』東京都江戸東京博物館調査報告書28集
- 久喜市教育委員会 2015『久喜市栗橋町史 第一巻 通史編 上』久喜市教育委員会
- 久喜市教育委員会 2015『図説 利根川と生きる栗橋のあゆみ』久喜市教育委員会
- 信濃町教育委員会 2015『信州打刃物の里に残る野鍛冶の家と道具』
- 埼玉県酒造組合 2016『埼玉県酒造組合史』
- 白井裕一郎 2016「今戸焼」『東京浅草中央ロータリークラブ週報1454回例会』
- 金子智 2018「江戸・東京の瓦にみる幕末・明治」『江戸遺跡研究会第31回大会 遺物にみる幕末・明治』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『栗橋番土屋敷跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第436集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『栗橋宿跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第448集
- 野坂知広 2019「江戸遺跡出土の大堀相馬焼(子察)」『いわき地方史研究』第56号 いわき地方史研究会
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019『栗橋宿本陣跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第451集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019『栗橋宿跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第452集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019『栗橋宿跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第456集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019『栗橋宿跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第458集
- 野田市郷土博物館 2020『醬油のしるし』
- 東京都埋蔵文化財センター 2020『四谷一丁目遺跡』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2020『栗橋宿跡Ⅴ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第458集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2020『栗橋宿跡本陣跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第460集
- 野坂知広 2020「考古学から見た相馬駒焼」『いわき地方史研究』第57号 いわき地方史研究会
- 岩波雛子「銘を持つ紅猪口について」『考古学ジャーナル』No.754 ニュー・サイエンス社
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2021『北2丁目陣屋跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第468集
- 村山卓 2021「栗橋宿の「浅紅」と浅草紅粉屋謙蔵」『東京考古』No.39
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2022『栗橋宿跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第473集

報告書抄録

ふりがな	くりはししゅくあと							
書名	栗橋宿跡Ⅶ							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第474集							
編著者名	村山 卓・高橋一生・高橋社人							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL. 0493-39-3955							
発行年月日	西暦 2022 (令和4)年3月22日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
栗橋宿跡 (第9地点)	埼玉県久喜市 栗橋中央二丁目 3491-2他	112321	011	36° 08' 23"	139° 42' 13"	20171001～ 20180331 20180401～ 2019331	2,168.40	堤防強化 記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
栗橋宿跡 (第9地点)	宿場跡	江戸時代	建物跡 埋設桶 井戸跡 溝跡 道路跡 土壌 性格不明遺構 ピット	10棟 26基 4基 18条 1条 311基 1基 27基	陶磁器 土製玩具 土製人形 瓦 木製品 金属製品 石製品 硝子製品(筭) 骨製品	近世町屋跡の調査 本書には第9地点の調査のうち 第一面の成果を収録。		
要 約								
<p>栗橋宿跡は利根川右岸に立地する日光道中7番目の宿場「栗橋宿」の町屋跡である。栗橋宿跡第9地点の発掘調査で検出された遺構は19世紀前葉以降を中心とする第一面、18世紀後葉～19世紀前葉の遺構を中心とする第二面に分けられる。本書ではこのうち第一面の調査成果を収録した。</p> <p>調査の結果、第一面では町屋の裏空間に立ち並ぶ土蔵跡と考えられる建物跡とそれらに平行する敷地境と考えられる溝跡が検出された。調査区を東西に横断する「合ノ道」と言われた往来道も調査し、18世紀中頃以降続く路面の変遷を捉えることが出来た。</p> <p>建物では、土蔵建物とみられる堅固な基礎構造を有す建物跡が多く検出されている。なかでも、一つの区画から樽地業建物跡が2棟検出されたのは注目される。この区画は久喜市所蔵『栗橋宿往還絵図』と対照すると「旅籠屋 七兵衛」の区画であり、建物跡もこれに関連する施設と考えられる。また、この区画では建物跡に近接した土壌から、火災処理に伴う被熱した陶磁器が出土した。陶磁器類には中国産の磁器類が多く含まれており、特に「十錦手」といわれる清朝磁器がまとも出土した事例は、地方の近世遺跡にあつては稀有な事例である。同じ土壌からは「七兵衛」の釘書きがある瓦片も出土しており、これらの出土遺物も旅籠屋で保管されていた道具類や、建造物の部材と考えられる。</p> <p>鍛冶関連遺物が多量に出土した区画は、同じく『絵図』にみえる「鍛冶屋」の区画にあたる。多量の鍛冶・轆の羽口に加えて、鍛冶炉に据えられた炉寄石・使用された砥石など、近世鍛冶に関わる一括資料が得られた。『絵図』との対比が可能なこれらの遺構・遺物は、近世宿場町の実態を示す貴重な資料と位置付けられる。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第474集

栗橋宿跡 VII

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第2分冊)

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社